

令和7年度郡山市障がい者（児）実態調査

－調査結果報告書－

令和8年3月

郡 山 市

目次

I 調査概要	5
1 調査の目的	5
2 調査期間	5
3 調査対象	5
4 調査方法	5
5 配付数および有効回収数（率）	5
6 調査結果の見方	5
II 調査結果からみた現状と課題	6
1 障がい者（児）当事者調査	6
2 障がい福祉サービス事業所調査	12
III 調査結果【障がい者（児）当事者調査】	14
1 基本事項	14
（1）回答者	14
（2）年齢	15
（3）性別	16
（4）居住地域	16
（5）同居人	17
（6）日常生活の状況	18
（7）介助してくれる方について	25
（8）介助してくれる家族について	27
2 あなたの障がいの状況について	30
（1）障がいの種類	30
（2）身体障害者手帳を持っているか	30
（3）手帳に記載されている障がいについて	31
（4）療育手帳を持っているか	31
（5）精神保健福祉手帳を持っているか	32
（6）高次脳機能障がいの関連障がい	33
3 医療について	34
（1）現在の通院状況	34
（2）医療的ケアを受けているか	36
4 住まいや暮らしについて	37
（1）現在どのように暮らしているか	37
（2）今後3年以内にどのように暮らしたいか	43
（3）地域で希望する暮らしを送るためにあればよいと思う支援	49
5 外出や日中活動について	52
（1）1週間の外出頻度	52
（2）外出する際の主な同伴者	54

(3) 外出する目的	56
(4) 外出する際に最もよく利用する交通手段	58
(5) 外出する時に困ったり、不便を感じたりすること	60
(6) 平日の日中の過ごし方	62
6 就労について	64
(1) 勤務形態	64
(2) 現在の仕事で困っていること	65
(3) 今後、収入を得る仕事をしたいか	66
(4) 必要だと思う障がい者の就労支援	67
7 教育について	68
(1) 保育所・幼稚園・学校で必要だと思う支援	68
8 相談・情報について	69
(1) 悩みや困ったときなどの相談先	69
(2) 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先	71
9 障がい福祉サービス等の利用について	72
(1) 障がい支援区分の認定を受けているか	72
(2) 利用している、今後利用したい障がい福祉サービス	73
(3) 利用している、今後利用したい障がい児支援サービス	82
(4) サービスの利用計画作成にあたって、相談支援事業所を利用しているか	87
10 地域生活支援事業について	89
(1) 地域生活支援事業サービスの利用状況	89
(2) 利用しているサービス内容の満足度	91
(3) 利用しているサービスに満足していない理由	92
(4) 要介護・要支援認定を受けているか	93
(5) 介護保険によるサービスの利用状況	94
(6) 利用している介護サービス	95
11 権利擁護について	97
(1) 民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となったことの認知度	97
(2) 障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）経験の有無	98
(3) 差別や嫌な思いをした場所	99
(4) どのようなことで嫌な思いをしたか	100
(5) 障がいのある方への偏見や差別を解消するため、取り組んでほしいこと	101
(6) 虐待を受けたときに、相談する機関があることの認知度	102
(7) 「成年後見制度」の認知度	103
12 緊急時等について	104
(1) 災害時に一人で避難できるか	104
(2) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度	105
(3) 災害時に近所に助けてくれる人はいるか	106
(4) 災害時に困ること	107

(5) 緊急な助けが必要になったと考えた時、不安に感じる事	108
13 障がい福祉施策について	109
(1) 必要だと思う障がい福祉の取り組み	109
(2) 自由意見	111
IV 調査結果【障がい福祉サービス事業所調査】	116
1 事業所の運営状況について	116
(1) 事業所の運営主体	116
(2) 事業所の所在地	117
(3) 現在の事業所の年間収支状況	118
(4) 事業支出における人件費の割合	118
(5) 雇用形態別の職員数	119
(6) 経験年数別の職員数	120
(7) 職員の過不足状況	120
(8) 不足している職員の職種	121
(9) 職員定着のために行っている取組	122
(10) サービスの状況	123
(11) 今後3年間のサービス提供予定	131
(12) 市内に不足していると感じているサービス	133
2 事業展開における現状と課題について	134
(1) サービスの質の向上のために行っている、実施したい取組	134
(2) 事業を展開する上での問題点・課題点	135
3 地域生活支援への取組について	136
(1) 「地域生活支援拠点事業」に関する理解度	136
(2) 「医療的ケア児・者」への対応状況	136
(3) 対応している医療的ケア	137
(4) 実施にあたっての課題	137
(5) 障がい者が地域で安心して暮らすために必要なこと	138
4 その他	139
(1) 障がい福祉サービス等報酬改定による経営状況	139
(2) 経営状況に影響があった点	139
(3) 民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となったことの認知度	140
(4) 自由意見	141
V 資料編	144
(1) 郡山市 障がい者（児）当事者用調査票	144
(2) 郡山市 障がい福祉サービス事業所用調査票	156

I 調査概要

1 調査の目的

市では「第7期郡山市障がい者福祉プラン」を策定するにあたり、今後の地域における障がい者等に必要なニーズの把握・分析し、計画策定の基礎資料とするため以下の調査を実施した。

2 調査期間

令和8年1月23日～令和8年2月13日

3 調査対象

障がい者（児）当事者：障がい者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳）、指定難病医療費受給者証、障がい児通所支援の受給者証をお持ちの方の中から無作為に抽出

障がい福祉サービス事業所：市内の障がい福祉サービス事業所

4 調査方法

郵送配付・郵送回収方式

5 配付数および有効回収数（率）

調査種	配付数	有効回答数	有効回答率
障がい者（児）当事者	4,000 通	2,078 通	52.0%
障がい福祉サービス事業所	236 通	173 通	73.3%

6 調査結果の見方

- ① グラフの「n（number of cases）」はアンケートの有効回収数を示している。
- ② 割合はすべて百分率（％）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100.0%にならない場合もある。
- ③ 複数回答の場合、回答の合計割合が100.0%を超える場合がある。
- ④ 設問文・選択肢の文章を、意味が変わらない程度に簡略化している場合がある。
- ⑤ 調査結果において表記されている「< >」は、類似した複数の選択肢を合算した場合に使用している。
- ⑥ 調査数（n）が少数の場合、統計上の回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析を省略している場合がある。

Ⅱ 調査結果からみた現状と課題

1 障がい者（児）当事者調査

（１）基本事項について

- 日常生活の状況についてみると、「⑥家の中の家事（掃除、洗濯、料理等）」、「⑨医療機関への通院」、「⑪買い物やお金の管理」において、「《介助が必要》」が約５割と、他の項目に比べ高くなっている。
- 介助してくれる方についてみると、「父母」が 44.4%と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」が 25.2%、「ホームヘルパーや施設の職員」が 20.3%となっている。
- 介助してくれる家族についてみると、年齢では「65 歳以上」が 34.4%と最も高く、次いで「40 歳代」が 20.4%、「50 歳代」が 15.8%となっている。性別では「女性」が 68.5%と約７割を占めている。健康状態については、「健康である」が 73.9%となっている一方、「健康でない」も 17.4%みられる。

▶課題の考察

家事や通院、買い物や金銭管理などの生活管理に関する行為において《介助が必要である》の割合が比較的高く、日常生活を送る上で支援を必要とする状況がみられたことから、生活管理に関する支援の充実が必要と考えられる。

また、介助の担い手は父母や配偶者など家族が中心となっており、特に女性や 65 歳以上の割合が高いことから、介助者自身の高齢化や健康状態の悪化、生活負担の増大が懸念される。こうしたことから、介助する家族の状況に配慮するとともに、家族介護に過度な負担が集中しないよう、サービスの活用も含めた支援体制の確保が求められる。

（２）障がいの状況について

- 障がいの種類についてみると、「身体障がい」が 46.6%と最も高く、次いで「難病（特定疾患）」が 20.8%、「知的障がい」が 19.2%となっている。

▶課題の考察

身体障がいの割合が最も高く、今後は高齢化の進展に伴い、身体機能の低下等により身体障がい者の増加も見込まれる。また、難病（特定疾患）の割合も２割を超えており、単なる医療費助成の拡充にと留まらず、QOL（生活の質）向上、就労支援、社会的な理解促進など、包括的な支援体制が必要と考えられる。

（３）医療について

- 医療的ケアを受けているかについてみると、「服薬管理」が 22.4%と最も高く、次いで「カテーテル留置・ストーマ（人工肛門・人口ぼうこう）」が 4.0%、「透析」が 3.9%となっている。

▶課題の考察

医療的ケアについては、「服薬管理」が最も高く、カテーテル留置や透析等、継続的な医療的管理を必要とする人もみられることから、一定の医療的支援ニーズが存在していることがうかがえる。

また、服薬管理の割合が高いことは、高齢化の進展や難病患者の在宅移行等に伴い、日常的な生活管理や継続的な健康管理に関する支援の重要性が高まっていることが考えられ、保健・医療・福祉・教育等の各分野の連携による支援体制の確保が求められる。

(4) 住まいや暮らしについて

○現在の暮らしと今後3年以内の希望についてみると、一緒に暮らしている人・暮らしたい人ともに「配偶者またはパートナー（や子ども）と一緒に暮らしている（暮らしたい）」が最も高く、次いで「父母、祖父母、兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしている（暮らしたい）」となっており、家族と暮らす割合が高くなっている。また、「一人で暮らしている（暮らしたい）」も一定程度みられる。なお、現在と希望に大きな差はみられなかった。

○地域で希望する暮らしを送るためにあればよいと思う支援では「経済的な負担の軽減」が53.7%と最も高く、次いで「身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる場所があること」が33.7%、「緊急・災害時に相談できるサービス」が25.9%となっている。障がい種別にみると、すべての障がい種で「経済的な負担の軽減」が約5～7割と高くなっているが、発達障がいでは「身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる場所があること」「地域住民や学校などの理解」、強度行動障がいでは「訪問による障がい福祉サービスの充実（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護等）」「グループホームの充実」が他の障がい種に比べ高くなっている。

▶課題の考察

家族と同居し、住み慣れた地域での生活継続を望む声が多いことから、在宅生活を支える支援体制の確保が求められる。

特に、全障がい種共通の課題である「経済的負担の軽減」を図りつつ、発達障がいにおける「地域の理解や相談場所」、強度行動障がいにおける「訪問サービスや住まいの充実」など、個々の障がい特性に応じたきめ細かな支援を両立させていくことが求められる。

(5) 外出や日中活動について

○外出する時に困ったり、不便を感じたりすることについてみると、「公共交通機関（電車やバス、タクシー）が少ない、又は交通の便が悪い」が25.8%と最も高く、次いで「外出にお金がかかる」が20.6%、「発作や突然の体調の変化が心配」が15.8%となっている。障がい種別にみると、精神障がいでは「外出にお金がかかる」、強度行動障がいでは「発作や突然の体調の変化が心配」「外出先でのコミュニケーションが困難」「周囲の人の目が気になる」「外出したいときに付き添ってくれる人がいない」などの割合が他の障がい種に比べ高くなっている。

▶課題の考察

外出時の不便を解消し、地域生活を支えるためには、ハード・ソフト両面からの支援が不可欠である。全障がい種共通の課題である「交通の利便性向上」や「経済的負担の軽減」を基盤としつつ、精神障がいにおける「金銭的支援」、強度行動障がいにおける「移動支援の担い手確保」や「周囲の理解促進」など、特性に応じたきめ細かな施策を並行して推進していくことが求められる。

(6) 就労について

- 勤務形態についてみると、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が34.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が33.2%、「自営業、農林水産業など」が13.4%となっている。
- 現在の仕事で困っていることについては、「自分のスキル、能力が不足していると感じる」が16.4%と最も高く、次いで「障がいの状態や体調の変化によって働くことが難しい」が15.4%、「給与や待遇に不満がある」が11.8%となっている。障がい種別にみると、精神障がいでは「障がいの状態や体調の変化によって働くことが難しい」の割合が他の障がい種に比べ高くなっている。
- 必要だと思う障がい者の就労支援については、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が41.4%と最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数など柔軟な勤務体制の配慮」が37.2%、「通勤手段の確保」が34.3%となっている。障がい種別にみると、知的障がいでは「通勤手段の確保」、発達障がいでは「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」「短時間勤務や勤務日数など柔軟な勤務体制の配慮」「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（定着支援）」などが、強度行動障がいでは「職場で介助や援助等が受けられること」が他の障がい種に比べ高くなっている。

▶課題の考察

現在の仕事ではスキルや能力面に加え、障がいの状態や体調の変化に関する困りごとみられ、特に精神障がいではその傾向が高くなっていることから、就労の継続に向けた支援の充実が求められる。就労にあたっては、職場における障がいへの理解や柔軟な勤務体制、通勤手段の確保など、働き続けるための環境整備に対するニーズが高くなっている。加えて、知的障がいにおける「通勤支援」、発達障がいにおける「職場の理解と連携」、強度行動障がいにおける「介助体制の確保」など、種別ごとのニーズに即した支援を展開し、誰もが安心して働き続けられる基盤づくりが求められる。

(7) 教育について

- 保育所・幼稚園・学校で必要だと思う支援について、「障がい特性などに対応する教師の理解や配慮」が55.8%と最も高く、次いで「児童・生徒の理解や配慮」が40.4%、「送迎など、通園・通学のサポート」が32.3%となっている。障がい種別にみると、発達障がいでは「障がいの特性などに対応する教師の理解や配慮」「児童・生徒の理解や配慮」「障がいのある児童が利用できる放課後児童クラブなどの整備」等が他の障がい種に比べ高くなっている。

▶課題の考察

保育所・幼稚園・学校においては、教師や児童・生徒の障がいへの理解や配慮に関するニーズが高く、通園・通学や学校生活を支える環境整備が求められる。

また、発達障がいでは求められる支援の割合が他の障がい種に比べ高い項目がみられることから、障がい特性に応じた支援の充実が必要と考えられる。

(8) 相談・情報について

○悩みや困ったときなどの相談先について、「家族や親せき」が70.3%と最も高く、次いで「友人や知人」が24.8%、「医師や看護師、病院のソーシャルワーカー」が21.1%となっている。

○障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先について、「インターネット（パソコン、スマートフォン、タブレット）」が29.4%と最も高く、次いで「市の刊行物（広報こおりやまなど）」が29.1%、「病院」が27.9%となっている。

▶課題の考察

悩みや困ったときの相談先は家族や親せきが中心となっており、身近な人への依存が大きい状況がうかがえることから、家族以外にも相談しやすい体制の充実が求められる。

また、情報入手先としてインターネットや市の刊行物、病院が挙げられていることから、多様な媒体を活用した情報発信の強化とともに、専門機関が連携して必要な支援へ確実につなげる仕組みづくりが必要である。

(9) 障がい福祉サービス等の利用について

○利用している、今後利用したい障がい福祉サービスについて、『16 相談支援』では「将来的に利用したい」が19.2%と他の項目に比べ高くなっている。

○利用している、今後利用したい障がい児支援サービスについて、『4 障害児相談支援』では「将来的に利用したい」が15.3%と他の項目に比べ高くなっている。

○サービスの利用計画作成にあたって、相談支援事業所を利用しているかについて、「相談支援事業所を利用している」が61.4%と最も高く、次いで「早く福祉サービスを利用したいためセルフプランでサービスを利用している」が6.1%、「相談支援事業所が見つからないためセルフプランでサービスを利用している」が4.4%となっている。

▶課題の考察

障がい福祉サービス、障がい児支援サービスともに相談支援において「将来的に利用したい」の割合が比較的高く、今後の利用意向として相談支援に対するニーズが高いことがうかがえる。

また、サービス利用計画の作成にあたっては相談支援事業所の利用が中心となっている一方、相談支援事業所が見つからないことや早期利用を理由にセルフプランを利用している回答もみられることから、相談支援を必要とする人が円滑にサービス利用につながる体制の確保が求められる。

(10) 地域生活支援事業について

- 地域生活支援事業のサービスを受けているかについて、「日中一時支援事業」が4.7%と最も高く、次いで「日常生活用具給付事業」が4.5%、「地域活動支援センターの利用」が3.1%となっている。一方、「受けていない」は63.3%と6割以上となっており、「制度を知らない」は12.5%となっている。
- 利用しているサービスの内容についての満足度は、「満足している」が45.5%と最も高く、次いで「普通」が41.8%、「不満がある、満足していない」が11.8%となっている。利用しているサービスに満足していない理由については、「支給量が少ない（利用時間が短い）」が36.4%と最も高く、次いで「利用できる事業が少なく利用できない」が30.3%、「申請の手続きが面倒」が15.2%となっている。

▶課題の考察

地域生活支援事業については「受けていない」人が6割以上を占め、「制度を知らない」人も1割を超えていることから、制度の周知や利用につなげるための支援が求められる。

また、利用しているサービスについては一定の満足度がみられる一方、「支給量が少ない」や「利用できる事業が少ない」といった不満もみられることから、利用者の状況に応じたサービス量の確保や提供体制の充実が必要と考えられる。

(11) 権利擁護について

- 民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となったことの認知度について、「知っている」が12.8%であるのに対し、「知らない（この調査で初めて知った）」は81.9%と8割以上を占めている。
- 虐待を受けたときに、相談する機関があることの認知度について、「知らない（この調査で初めて知った）」が61.0%と最も高く、次いで「知っているが、相談したことがない」が28.6%、「知っている、または相談したことがある」が2.4%となっている。
- 「成年後見制度」の認知度について、「名前も内容も知らない（この調査で初めて知った）」が31.9%と最も高く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が30.6%、「名前も内容も知っている」が29.4%となっている。
- 障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことの有無について、「ある」が39.2%、「ない」が55.7%となっている。
- 障がいのある方への偏見や差別を解消するため、取り組んでほしいことについて、「地域の学校において障がい児と障がいのない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」が39.0%と最も高く、次いで「障がいについての理解を深めるため、パンフレット等で周知啓発をする」が29.5%、「障がいについての理解を深めるための研修会や講演会、イベントなどを行う」が27.0%となっている。

▶課題の考察

民間事業者による合理的配慮や虐待相談機関、成年後見制度については認知度が低く、必要な情報が十分に行き届いていない状況がうかがえることから、制度や相談窓口に関する周知啓発の充実が求められる。

また、障がいがあることで差別や嫌な思いをしたという回答も一定程度みられ、特に知的障がい、発達障がい、強度行動障がいとその割合が高くなっていることから、障がいへの理解促進や差別解消に向けた取組を強化していく必要がある。

(12) 緊急時等について

- 災害時に一人で避難できるかについて、「避難場所を知っており、一人で避難できる」が35.2%と最も高く、次いで「避難場所を知らず、避難できない」が22.5%、「避難場所は知っているが、一人で避難できない」が21.8%となっている。障がい種別にみると、強度行動障がいでは「避難場所を知らず、避難できない」が51.5%と5割以上を占めている。
- 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度について、「制度を知らない（この調査で初めて知った）」が60.3%と最も高く、次いで「制度を知っているが、登録していない」が26.8%、「制度を知っており、登録している」が7.0%となっている。
- 災害時に近所に助けてくれる人の有無について、「いる」は27.0%、「いない」は39.7%となっている。「わからない」は29.0%と約3割となっている。
- 災害時に困ることについて、「薬や医療用品（オムツなど）が手に入らない」が49.8%と最も高く、次いで「不安や緊張で眠れなくなる」が32.8%、「急激な生活環境の変化に対応できず、避難所での集団生活ができない」が30.9%となっている。

▶課題の考察

避難場所を知らない・一人で避難できない人が一定程度みられることに加え、「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度や登録率も低いことから、制度の周知と避難支援体制の確保が求められる。また、災害時に近所に助けてくれる人が「いない」「わからない」人の割合も高く、地域における見守りや助け合いの体制づくりが課題となっている。

加えて、薬や医療用品の確保、不安や緊張、避難所での集団生活への対応などに関する困りごとみられることから、障がい特性や医療的ニーズに応じた支援体制の整備が必要と考えられる。

(13) 障がい福祉施策について

- 必要だと思う障がい福祉の取り組みについて、「相談窓口や情報提供の充実」が35.1%と最も高く、次いで「医療費の助成制度」が34.8%、「ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実」が23.9%となっている。障がい種別にみると、発達障がいでは「働く場の確保や雇用環境の整備」、強度行動障がいでは「ホームヘルプサービスなど居宅サービスの充実」、高次脳機能障がいでは「相談窓口や情報提供の充実」が他の障がい種に比べ高くなっている。

▶課題の考察

相談窓口や情報提供の充実、医療費助成、ライフステージに応じた切れ目のない支援体制に対するニーズが高いことから、必要な支援につながりやすい体制の確保が求められる。

また、発達障がいにおける「就労支援」、強度行動障がいにおける「居宅サービスの拡充」、高次脳機能障がいにおける「相談・情報提供」など、障がい種別ごとの優先課題に即したきめ細かな取り組みが必要である。

2 障がい福祉サービス事業所調査

(1) 事業所の運営状況について

- 事業所の運営主体について、「営利法人（株式会社、有限会社、合同会社等）」が 38.2%と最も高く、次いで「NPO 法人」が 27.7%、「社会福祉法人・社団法人・財団法人」が 29.5%となっている。
- 現在の事業所の年間収支状況について、「おおむね均衡である」が 40.5%と最も高く、次いで「赤字である」が 30.6%、「黒字である」が 24.3%となっている。
- 職員の過不足状況について、「不足している」は 54.3%と5割以上となっている。
- 市内に不足していると感じているサービスについて、「計画相談支援」が 41.0%と最も高く、次いで「短期入所（ショートステイ）」が 32.4%、「共同生活援助（グループホーム）」が 23.7%となっている。

▶課題の考察

年間収支では「おおむね均衡」が最も高いものの、「赤字である」も3割みられ、安定的な事業運営に課題を抱える事業所が一定程度存在していることがうかがえる。

また、職員については《不足している》が5割を超えており、人材確保が課題となっている。あわせて、市内では「計画相談支援」「短期入所」「共同生活援助（グループホーム）」の不足感が高くなっていることから、人材確保とあわせて必要なサービス基盤の整備を進めていく必要がある。

(2) 事業展開における現状と課題について

- サービスの質の向上のために行っている、実施したい取組について、(1) 現在提供しているサービスの質の向上のために行っている取組では「自主的に事業所内・法人内部で研修や勉強会の開催している」が 84.4%、(2) サービス向上のために今後実施したい取組では「自主的な事務所内・法人内部で研修や勉強会の開催」が 45.1%と最も高くなっている。
- 事業を展開するうえでの問題点・課題点について、「職員の確保が難しい」が 64.7%と最も高く、次いで「報酬が低く、採算が合わない」が 46.2%、「利用者を安定して確保することが難しい」が 40.5%となっている。

▶課題の考察

サービスの質の向上に向けては、事業所内での研修や勉強会が中心となって取り組まれており、今後も人材育成を通じた質の確保・向上が重要と考えられる。

一方、事業運営にあたっては職員確保の難しさや採算面、利用者確保に関する課題が挙げられていることから、安定的な事業運営を支える体制づくりが求められる。

(3) 地域生活支援への取組について

- 「地域生活支援拠点事業」に関する理解度について、「理解している」が 45.1%と最も高くなっており、次いで「「地域生活支援拠点」という言葉を聞いたことがある」が 42.2%、「知らない」が 8.1%となっている。

- 「医療的ケア児・者」への対応状況について、「現在是对应しておらず、今後是对应する予定はない」が78.0%と最も高く、次いで「対応している」が11.6%、「現在是对应していないが、今後対応を検討している」が9.8%となっている。対応実施にあたっての課題については、「看護師の確保」、「緊急時の対応」がともに55.0%と最も高く、次いで「医療事故等のリスク」が40.0%、「設備改修」が35.0%となっている。
- 障がい者が地域で安心して暮らすために必要なことについて、「本人を理解し、継続的に関わる支援者（寄り添う人）の確保」が65.9%と最も高く、次いで「地域住民や学校などの理解」が63.0%、「身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる体制の整備」が60.1%となっている。

▶課題の考察

「地域生活支援拠点事業」については一定の理解がみられる一方、医療的ケア児・者への対応は限られており、看護師の確保や緊急時対応などに課題がみられることから、受け入れ体制の整備が求められる。

また、障がい者が地域で安心して暮らすためには、継続的に関わる支援者の確保や地域住民の理解、身近に相談できる体制の整備に対するニーズが高いことから、地域全体で支える仕組みづくりを進めていく必要がある。

（４）その他

- 障がい福祉サービス等報酬改定による経営状況について、「改善した」は17.4%、「悪化した」は19.6%、「ほとんど変わらない」は46.2%と4割以上となっている。
- 経営状況に影響があった点について、「事業所全体の収支」が70.3%と最も高く、次いで「職員の賃金・処遇」が43.8%、「職員の採用・定着」が21.9%となっている。
- 民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となったことの認知度について、「知っている」が79.8%、「知らない（この調査で初めて知った）」が18.5%となっている。

▶課題の考察

障がい福祉サービス等報酬改定による経営状況については、「ほとんど変わらない」が4割以上を占める一方、悪化したとする事業所も一定程度みられ、事業所全体の収支や職員の賃金・処遇、採用・定着に影響が及んでいることから、安定的な事業運営に向けた対応が求められる。

また、民間事業者による合理的配慮の法的義務化については一定の認知がみられるものの、引き続き制度の理解促進と適切な対応の推進が必要と考えられる。

Ⅲ 調査結果【障がい者（児）当事者調査】

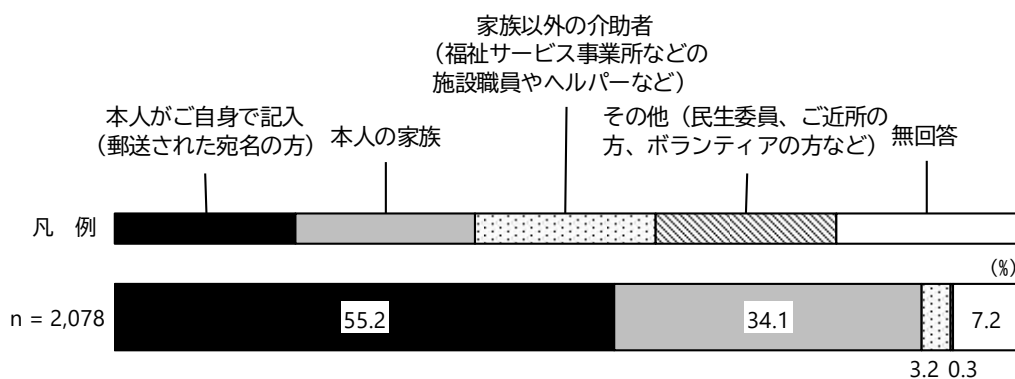
1 基本事項

（１）回答者

- ▶ 回答者について、「本人がご自身で記入（郵送された宛名の方）」が 55.2%と最も高く、次いで「本人の家族」（34.1%）、「家族以外の介助者（福祉サービス事業所などの施設職員やヘルパーなど）」（3.2%）となっている。

問１ お答えいただくのは、どなたですか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

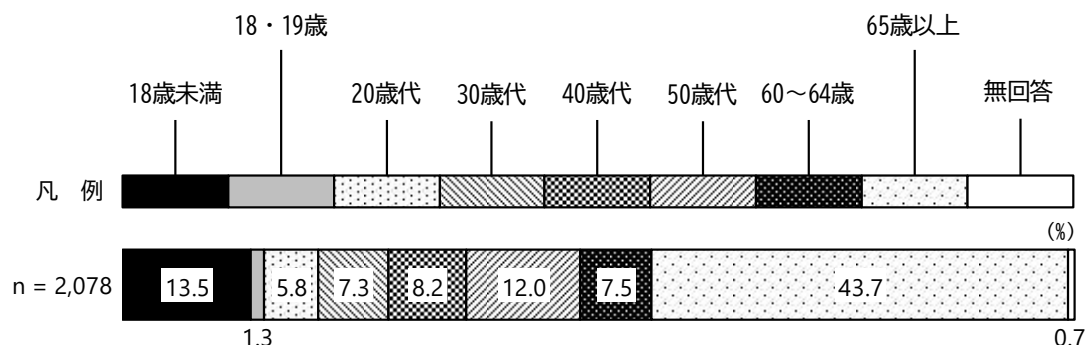
※18 歳未満の方については、保護者宛に送付しています。保護者の方が記入する場合は「本人の家族」を選んでください。



（２）年齢

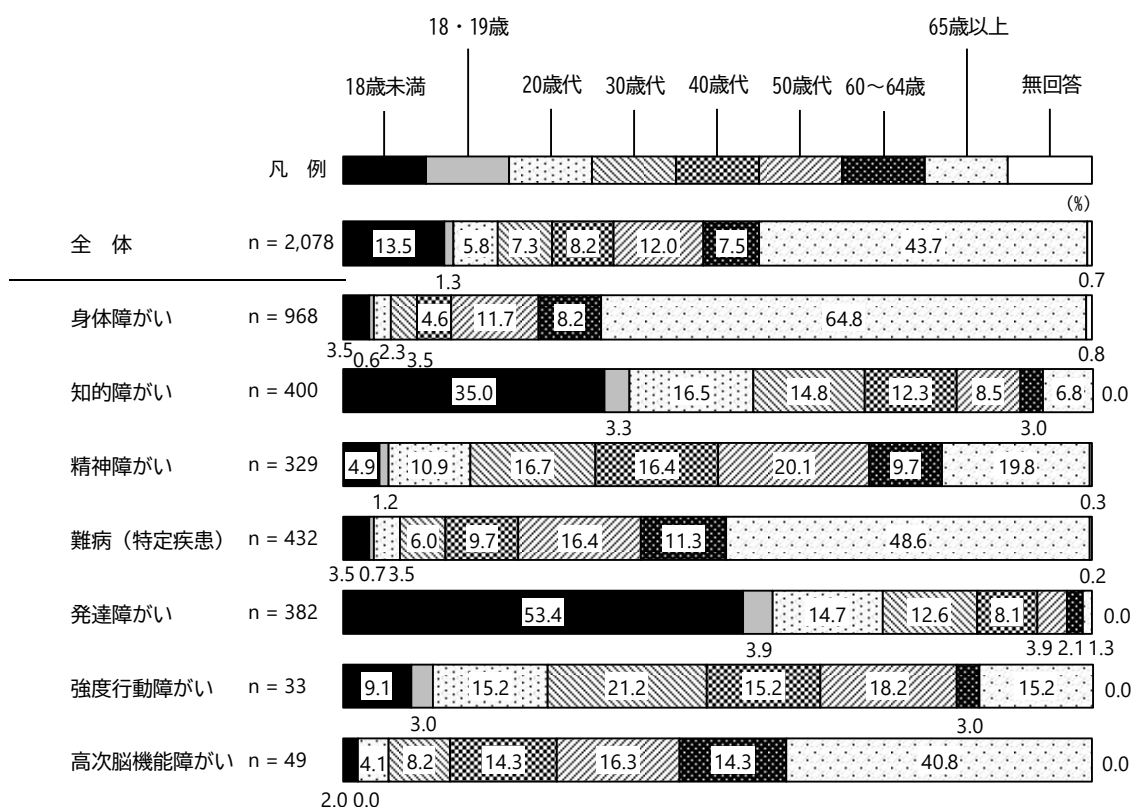
- ▶ 年齢について、「65 歳以上」が 43.7%と最も高く、次いで「18 歳未満」（13.5%）、「50 歳代」（12.0%）となっている。

問２ あなたの年齢をお答えください。（令和８年１月１日現在）



【障がい種別／年齢】

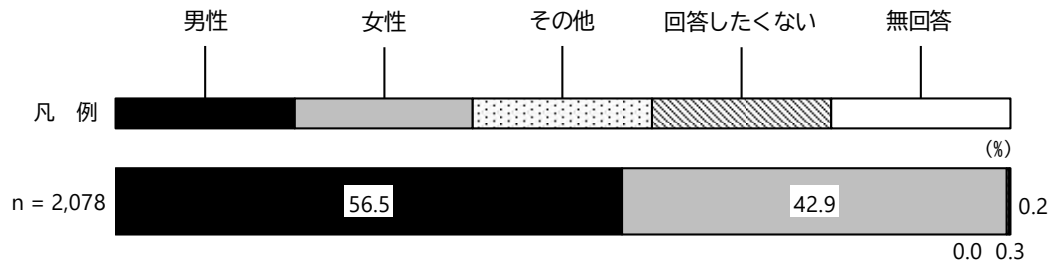
- ▶ 障がい種別でみると、身体障がいでは「65 歳以上」が 64.8%、発達障がいでは「18 歳未満」が 53.4%と他の障がい種に比べ高くなっている。



（３）性別

- ▶ 性別について、「男性」が 56.5%、「女性」が 42.9%となっている。

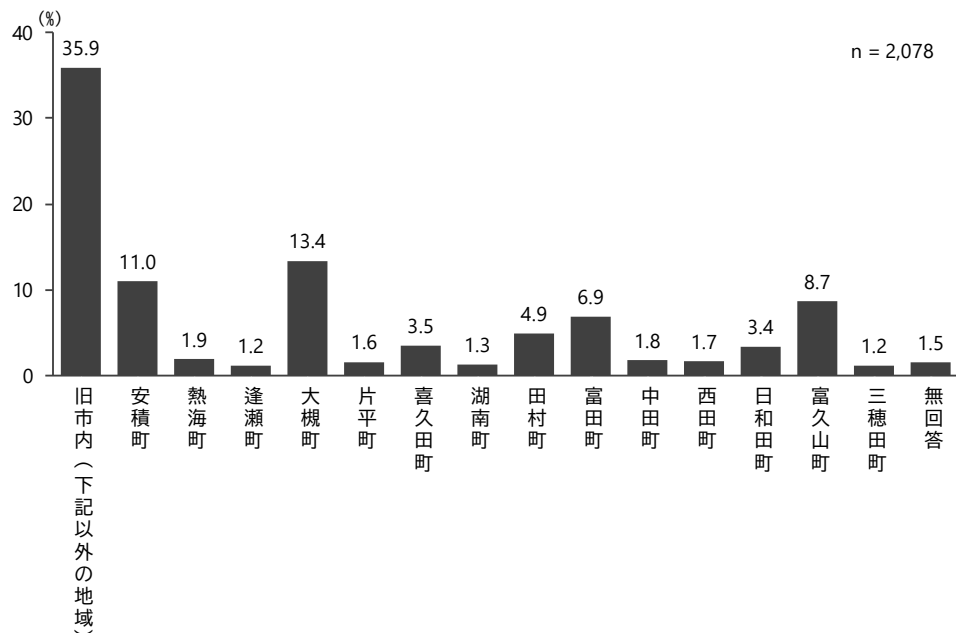
問３ あなたの性別をお答えください。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



（４）居住地域

- ▶ 居住地域について、「旧市内（下記以外の地域）」が 35.9%と最も高く、次いで「大槻町」（13.4%）、「安積町」（11.0%）となっている。

問４ あなたがお住まいの地域はどこですか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



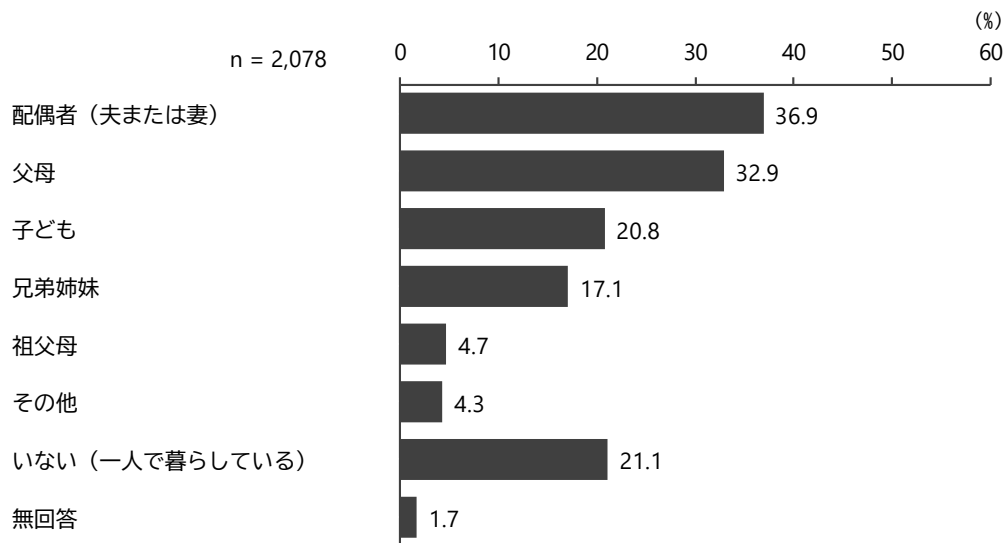
（５）同居人

- ▶ 同居人について、「配偶者（夫または妻）」が36.9%と最も高く、次いで「父母」（32.9%）、「子ども」（20.8%）となっている。一方、「いない（一人で暮らしている）」は21.1%となっている。

問５ あなたと一緒に暮らしている人は、どなたですか。

（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

※グループホーム、福祉施設に入居されている方は「７ いない」としてください。

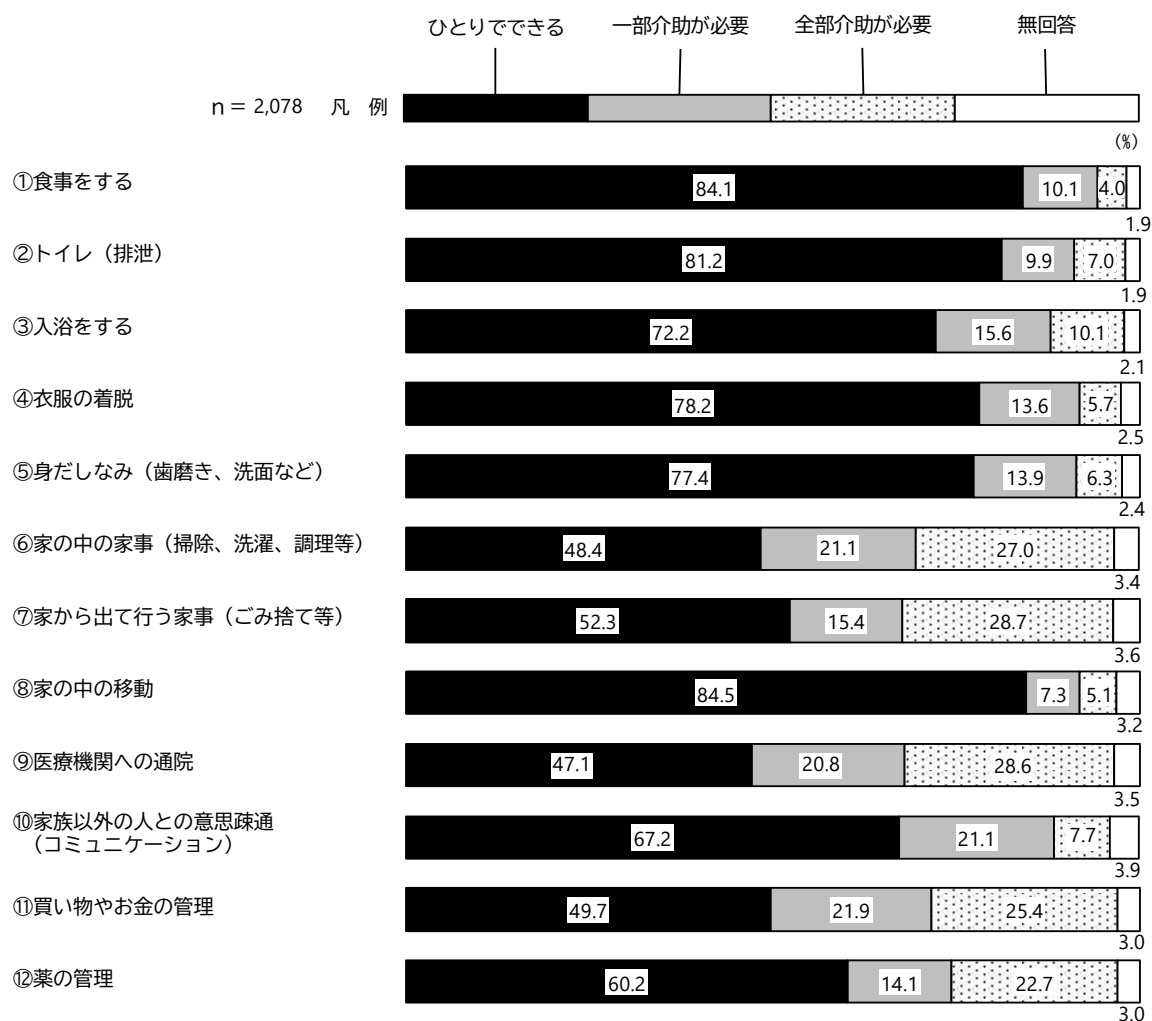


（６）日常生活の状況

- ▶ 日常生活の状況について、『⑥家の中の家事（掃除、洗濯、料理等）』、『⑨医療機関への通院』、『⑪買い物やお金の管理』では「一部介助が必要」と「全部介助が必要」を合わせた《介助が必要》が約５割と他の項目に比べ高くなっている。

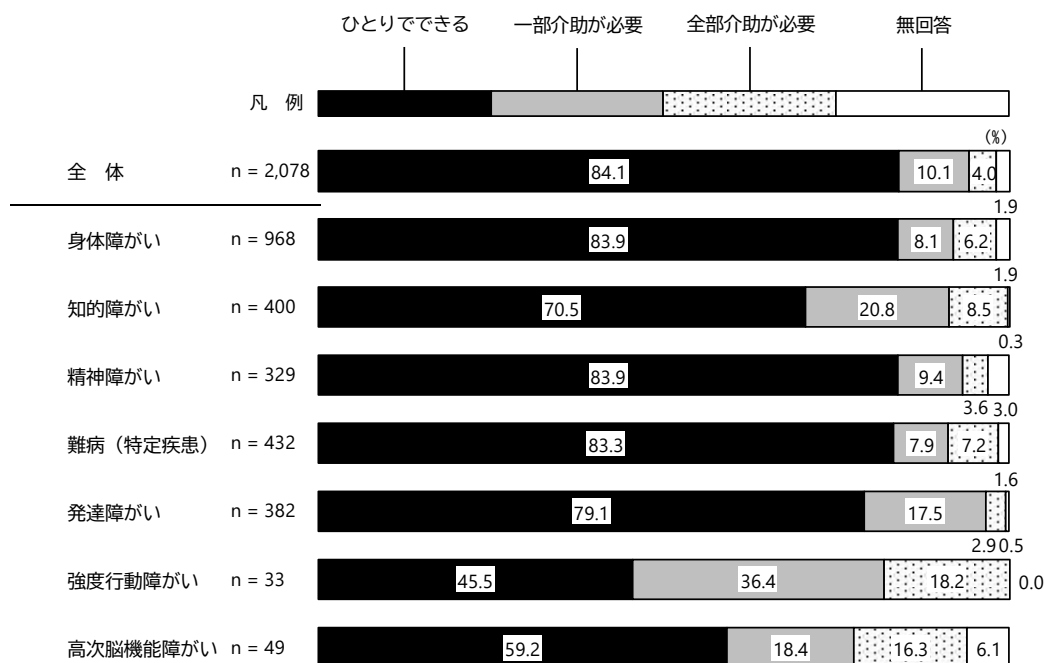
問６ 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

（①から⑫のそれぞれの項目について、１、２、３のうちひとつに○をつけてください。）



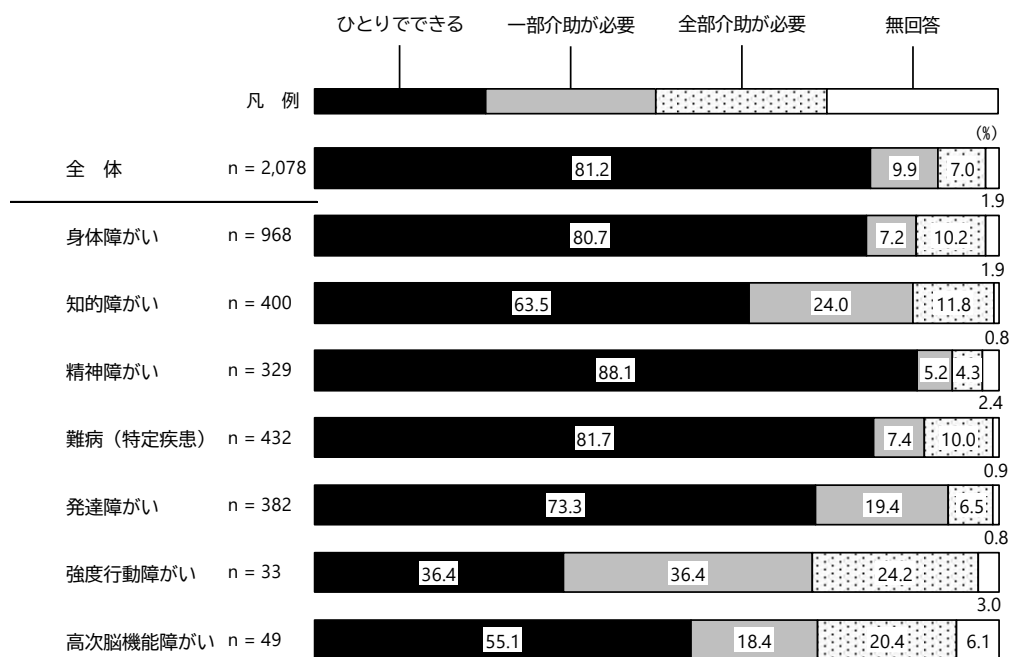
【①食事をする：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは、《介助が必要》が 54.6%と他の障がい種に比べ高くなっている。



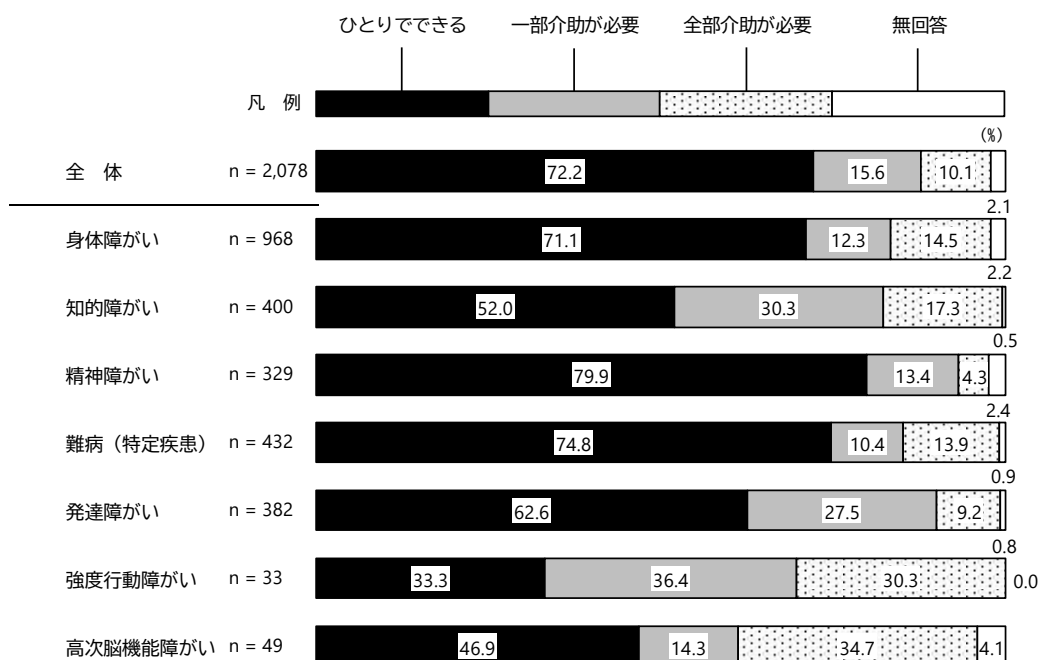
【②トイレ（排泄）：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは《介助が必要》が 60.6%と他の障がい種に比べ高くなっている。



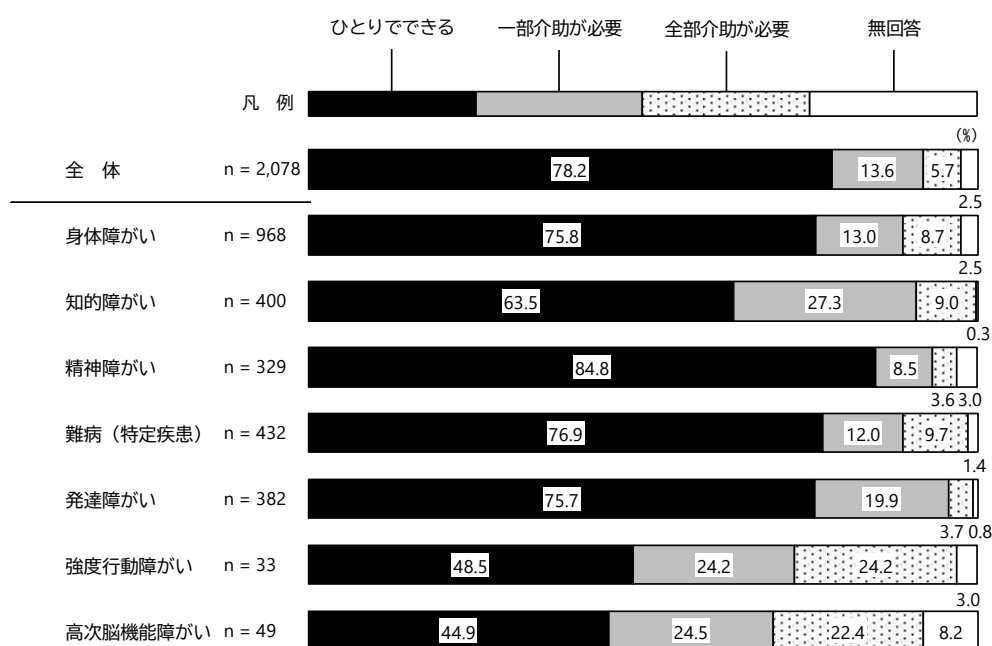
【③入浴をする：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《介助が必要》が約 5 ～ 7 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



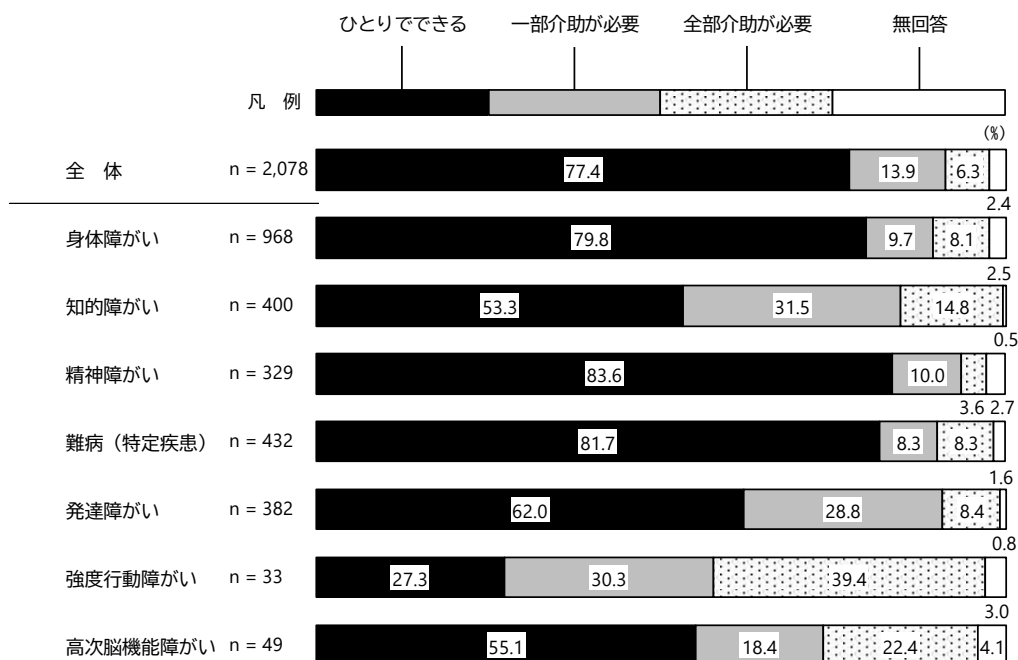
【④衣服の着脱：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《介助が必要》が約 5 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



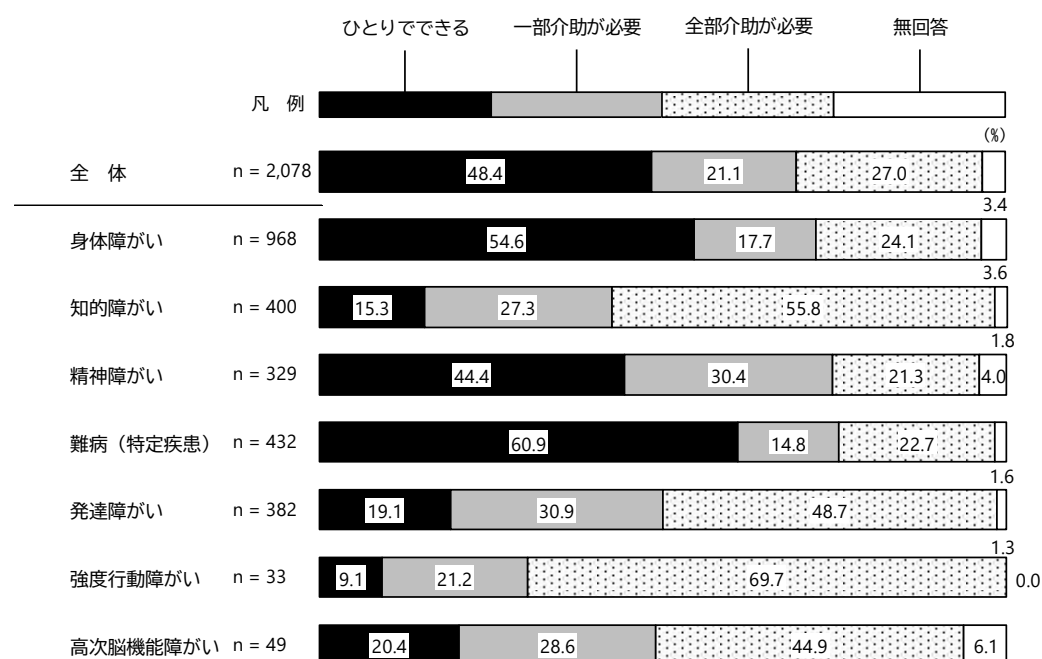
【⑤身だしなみ（歯磨き、洗顔など）：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは《介助が必要》が69.7%と他の障がい種に比べ高くなっている。



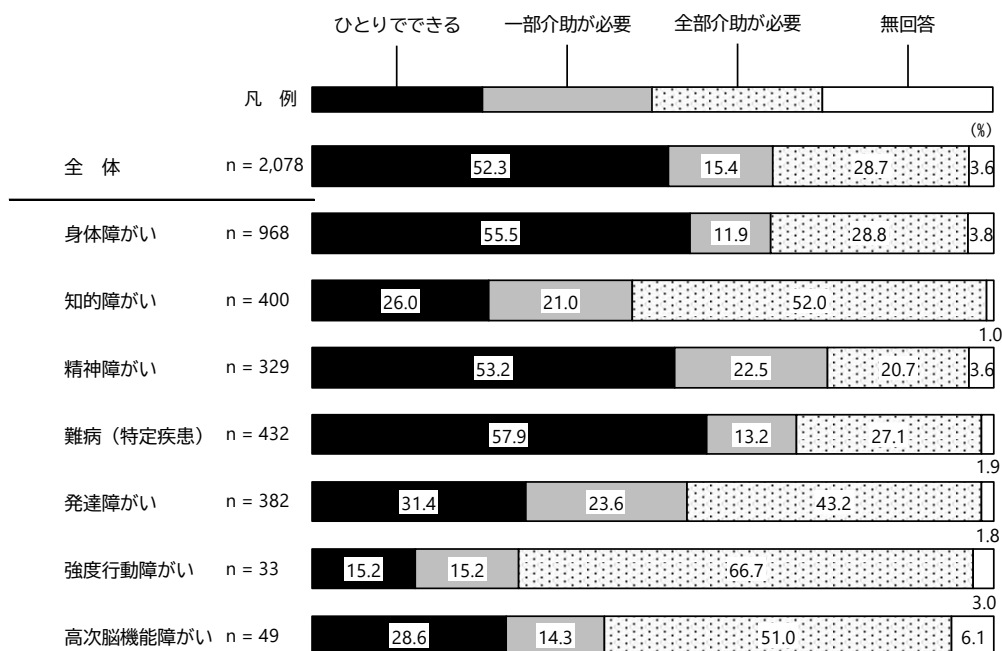
【⑥家の中の家事（掃除、洗濯、調理等）：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《介助が必要》が約7～9割と他の障がい種に比べ高くなっている。



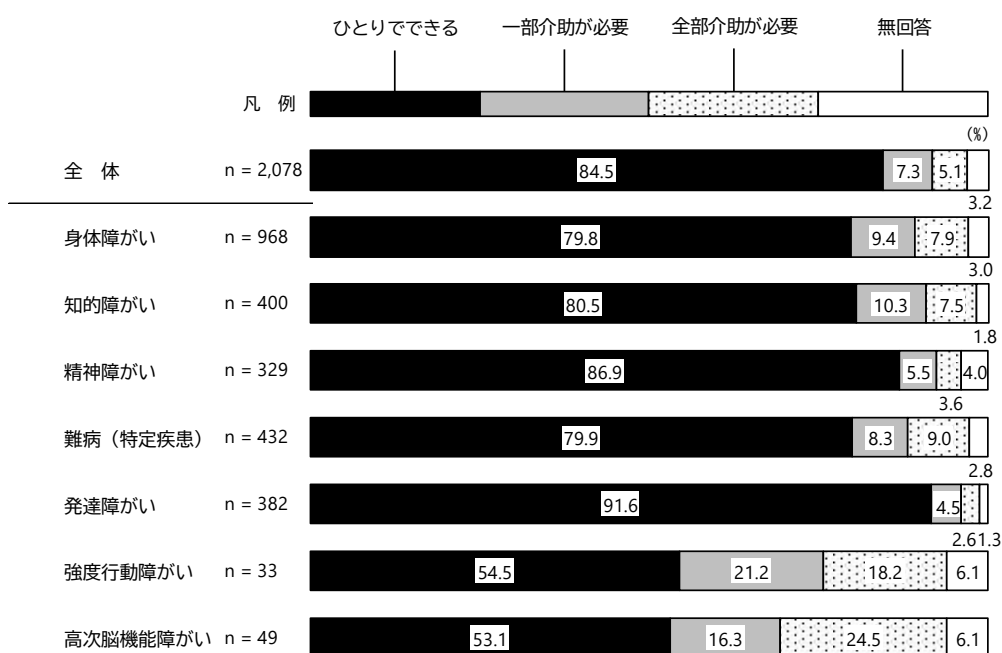
【⑦家から出て行う家事（ごみ捨て等）：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《介助が必要》が約 6 ～ 8 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



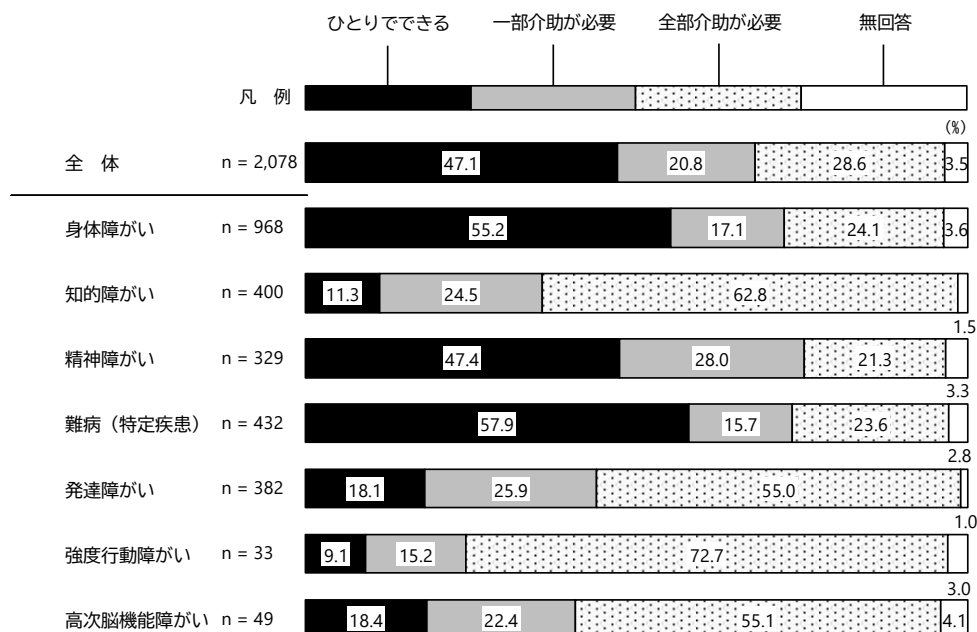
【⑧家の中の移動：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《介助が必要》が約 4 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



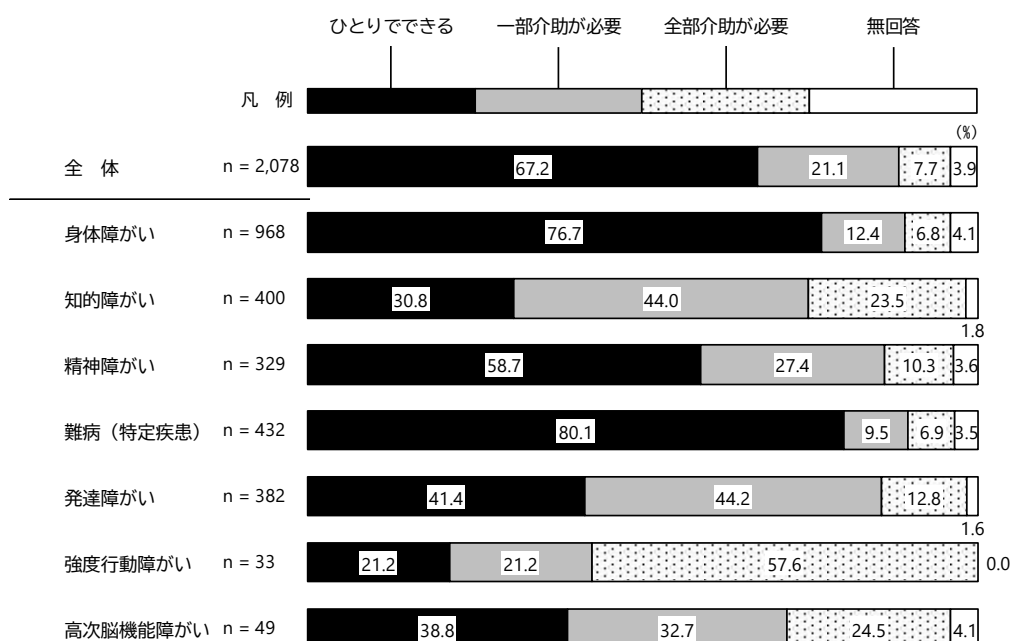
【⑨医療機関への通院：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《介助が必要》が約 7 ～ 9 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



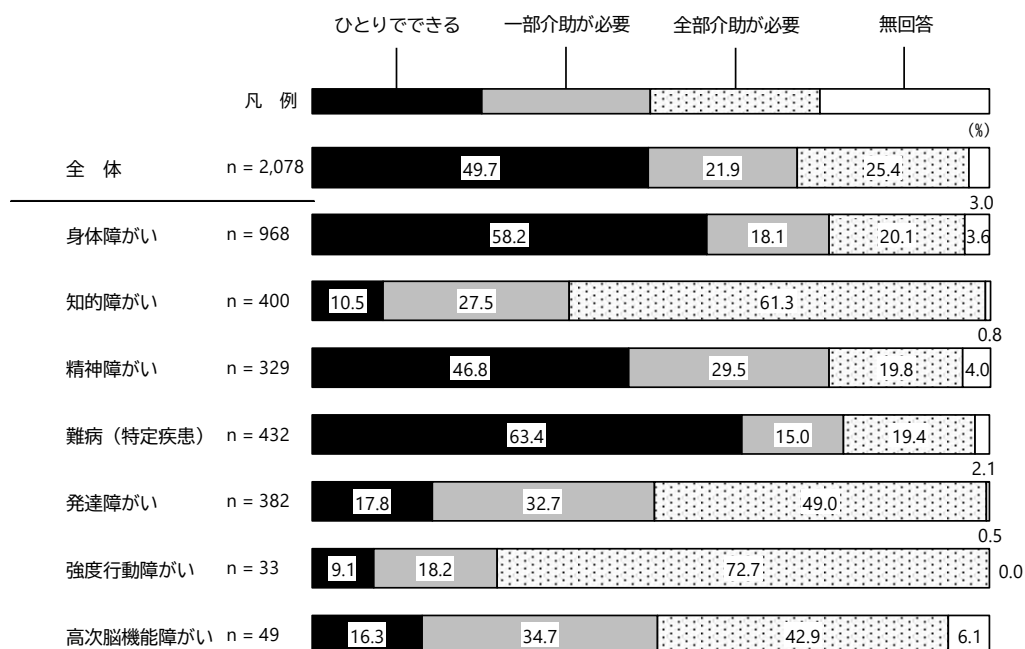
【⑩家族以外の人との意思疎通（コミュニケーション）：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《介助が必要》が約 6 ～ 8 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



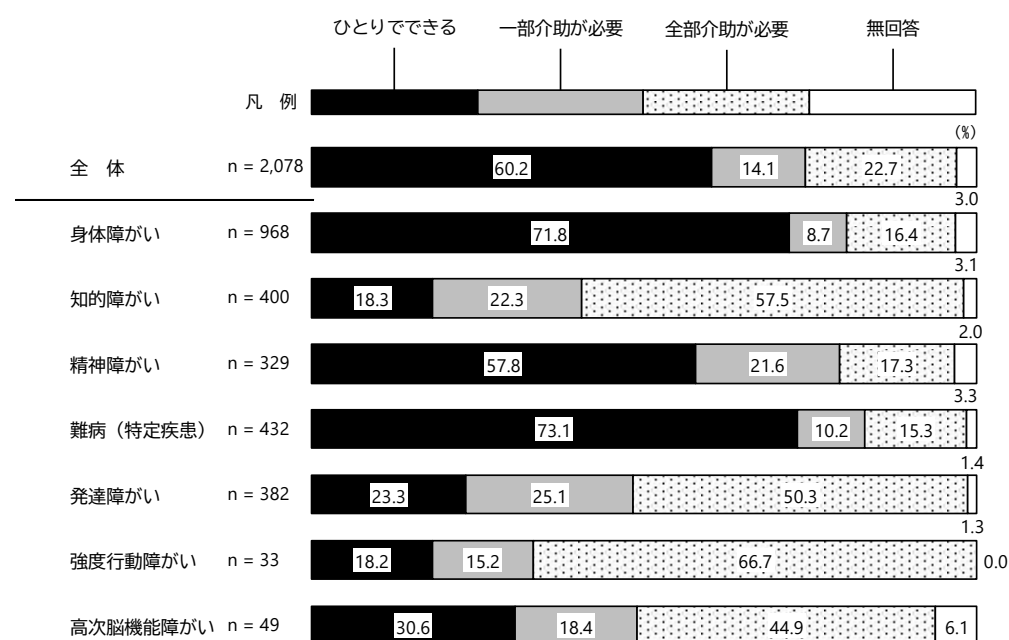
【⑪買い物やお金の管理：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《介助が必要》が約 8 ～ 9 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



【⑫薬の管理：障がい種別／日常生活の状況】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《介助が必要》が約 6 ～ 8 割と他の障がい種に比べ高くなっている。

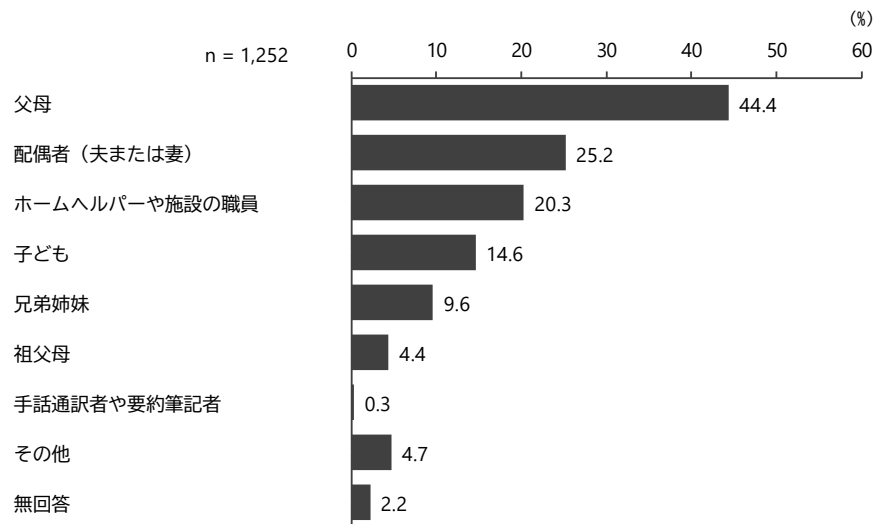


（７）介助してくれる方について

- ▶ 介助してくれる方について、「父母」が44.4%と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」（25.2%）、「ホームヘルパーや施設の職員」（20.3%）となっている。

【問6の①から⑫でひとつでも「2 一部介助が必要」又は「3 全部介助が必要」を選んだ方にお聞きします。】

問7 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／介助してくれる方について】

- ▶ 障がい種別にみると、難病（特定疾患）では「配偶者（夫または妻）」が49.0%、知的障がい、発達障がい、強度行動障がいでは「父母」が約8～9割と他の障がい種に比べ高くなっている。

		n	父母	配偶者（夫または妻）	ホームヘルパーや施設の職員	子ども	兄弟姉妹	祖父母	手話通訳者や要約筆記者	その他	無回答
全 体		1,252	44.4	25.2	20.3	14.6	9.6	4.4	0.3	4.7	2.2
障がい種別	身体障がい	505	21.2	37.4	23.8	24.8	8.3	1.4	0.6	6.3	1.2
	知的障がい	373	76.1	1.9	22.0	0.8	12.9	8.3	0.0	3.5	3.8
	精神障がい	226	46.9	16.4	30.1	5.8	12.8	1.3	0.9	6.2	2.2
	難病（特定疾患）	208	20.7	49.0	23.1	23.6	6.7	2.4	0.0	5.3	0.5
	発達障がい	343	89.2	5.0	7.3	1.2	12.0	10.5	0.0	2.9	0.9
	強度行動障がい	30	76.7	3.3	33.3	3.3	3.3	3.3	0.0	0.0	3.3
	高次脳機能障がい	42	33.3	31.0	26.2	23.8	11.9	2.4	0.0	9.5	2.4

【年齢別／介助してくれる方について】

- ▶ 年齢別にみると、18歳未満～30歳代では「父母」が8割以上、65歳以上では「配偶者」が48.2%と他の年齢に比べ高くなっている。

(%)

		n	父 母	配 偶 者 （ 夫 ま た は 妻 ）	ホ ー ム ヘルパー や 施設 の 職 員	子 ど も	兄 弟 姉 妹	祖 父 母	手 話 通 訳 者 や 要 約 筆 記 者	そ の 他	無 回 答
全 体		1,252	44.4	25.2	20.3	14.6	9.6	4.4	0.3	4.7	2.2
年 齢 別	18歳未満	278	96.8	2.2	3.2	0.4	12.6	16.2	0.0	1.4	0.4
	18・19歳	23	82.6	4.3	13.0	0.0	8.7	17.4	0.0	4.3	0.0
	20歳代	90	88.9	1.1	13.3	0.0	11.1	3.3	0.0	1.1	5.6
	30歳代	99	82.8	9.1	17.2	2.0	14.1	2.0	0.0	2.0	1.0
	40歳代	107	57.0	20.6	21.5	5.6	13.1	0.0	0.0	4.7	3.7
	50歳代	104	33.7	24.0	28.8	7.7	11.5	0.0	0.0	9.6	2.9
	60～64歳	74	8.1	31.1	39.2	9.5	10.8	0.0	1.4	9.5	1.4
	65歳以上	471	0.4	48.2	27.2	33.5	5.3	0.2	0.6	6.2	2.8

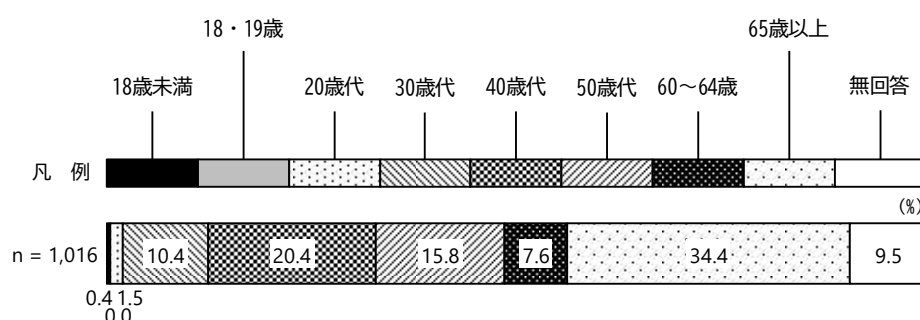
（８）介助してくれる家族について

- ▶ 介助してくれる家族について、①年齢（令和８年１月１日現在）では「65 歳以上」が 34.4%と最も高く、次いで「40 歳代」（20.4%）、「50 歳代」（15.8%）となっている。
- ②性別では「女性」が 68.5%、「男性」が 21.7%となっている。
- ③健康状態では「とても健康である」と「まあ健康である」を合わせた《健康である》は 73.9%、「健康でない」と「あまり健康ではない」を合わせた《健康でない》は 17.4%となっている。

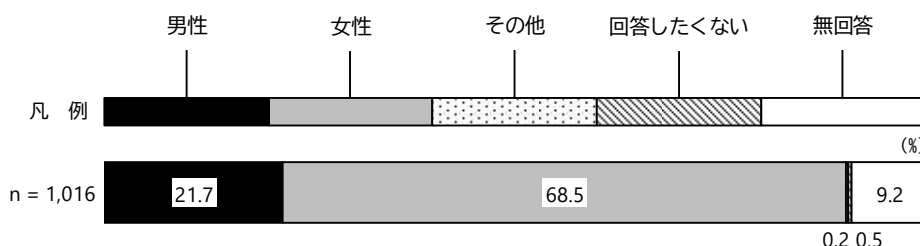
【問６でひとつでも「２」又は「３」を選んだ方と問７で１～５を選んだ方にお聞きします。】

問８ あなたを介助してくれる家族の中で、特に中心となっている方の年齢、性別、健康状態をお答えください。

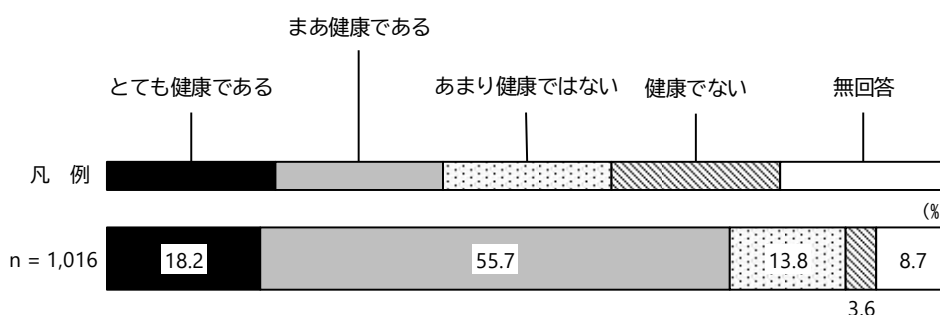
①年齢（令和８年１月１日現在）



②性別（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

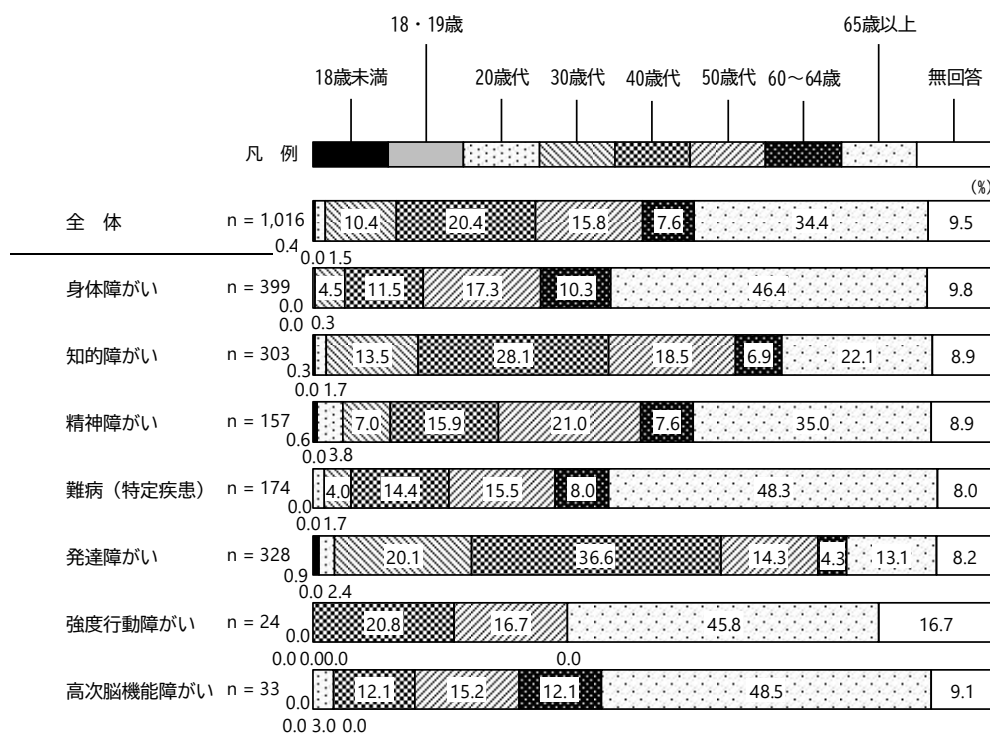


③健康状態（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



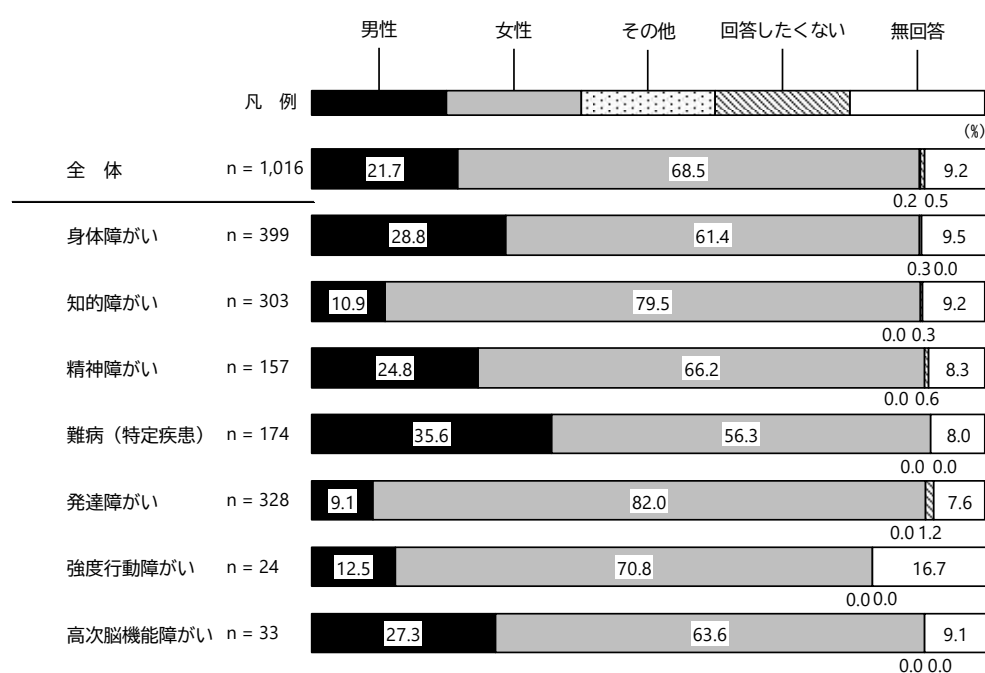
【①年齢（令和8年1月1日現在）：障がい種別／介助してくれる家族について】

- ▶ 障がい種別にみると、発達障がいでは「40 歳代」が 36.6%、身体障がい、難病（特定疾患）、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは「65 歳以上」が約 5 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



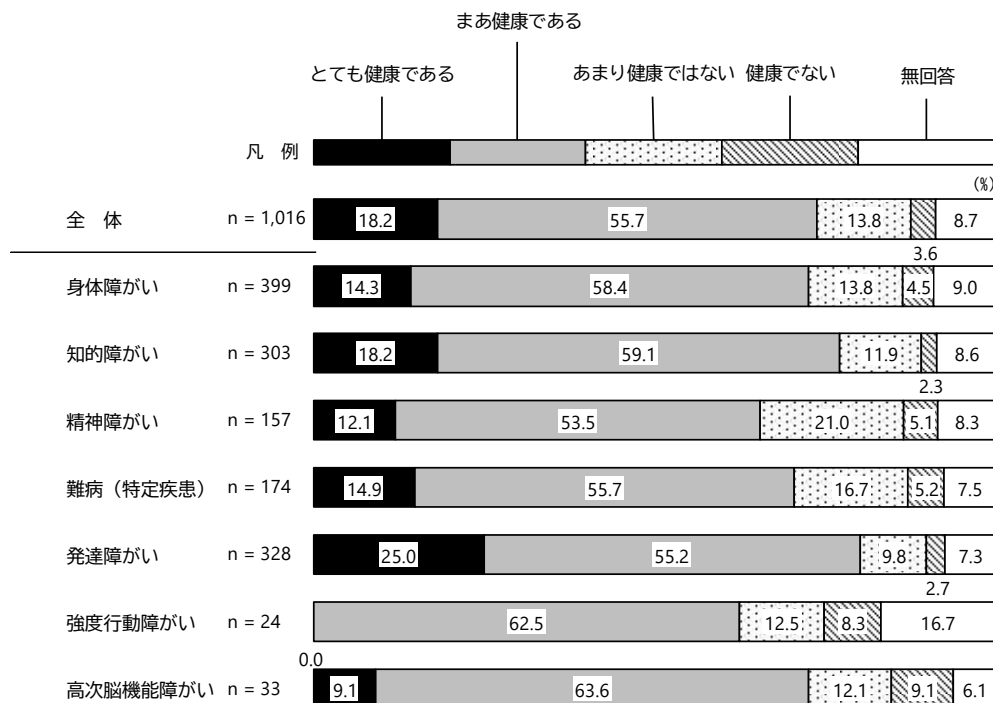
【②性別：障がい種別／介助してくれる家族について】

- ▶ 障がい種別にみると、すべての障がい種で「女性」が約 6 ～ 8 割と高くなっている。



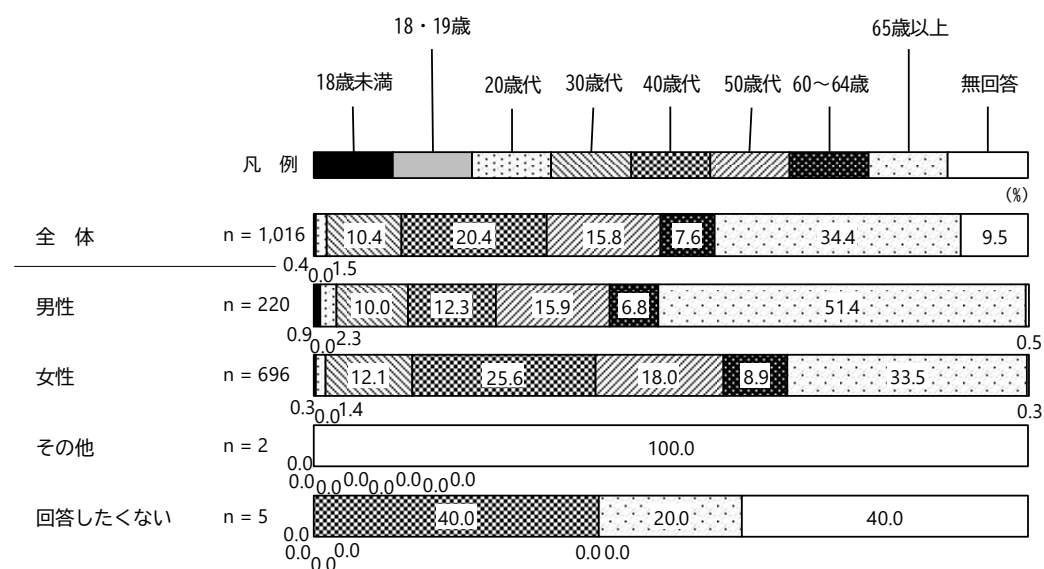
【③健康状態：障がい種別／介助してくれる家族について】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がい、難病（特定疾患）、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは《健康でない》が約 2 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



【性別：年齢別／介助してくれる家族について】

- ▶ 性別に年齢をみると、「65 歳以上」が男性では 51.4%、女性では 33.5%と最も高くなっている。



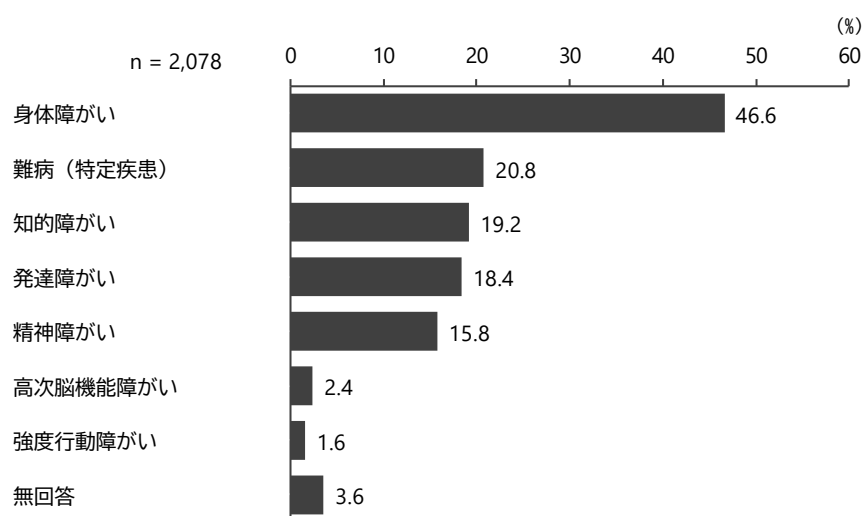
2 あなたの障がいの状況について

（１）障がいの種類

- ▶ 障がいの種類について、「身体障がい」が 46.6%と最も高く、次いで「難病（特定疾患）」（20.8%）、「知的障がい」（19.2%）となっている。

問9 あなたの障がいの種類を教えてください。

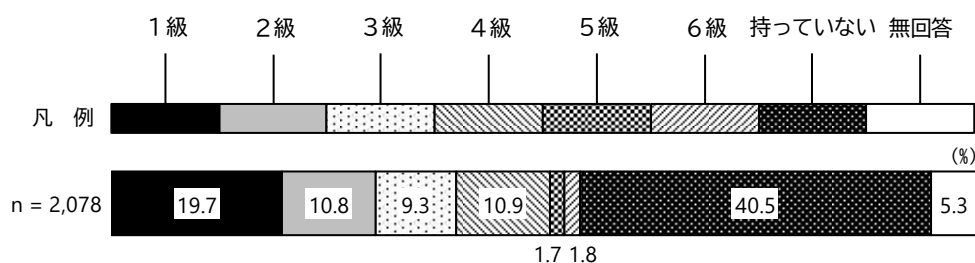
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



（２）身体障害者手帳を持っているか

- ▶ 身体障害者手帳を持っているかについて、「１級」が 19.7%と最も高く、次いで「４級」（10.9%）、「２級」（10.8%）となっている。一方、「持っていない」は 40.5%と４割以上となっている。

問10 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

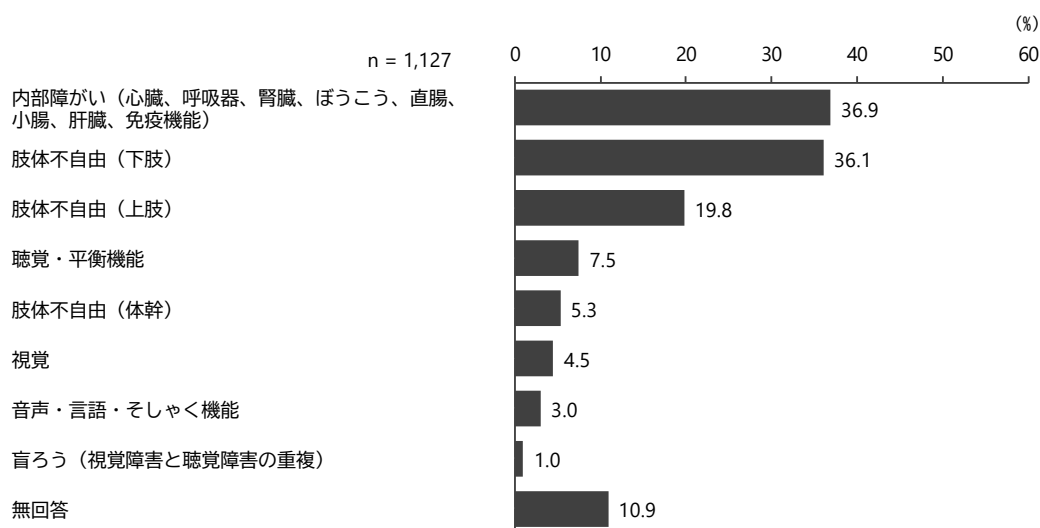


（３）手帳に記載されている障がいについて

- ▶ 手帳に記載されている障がいについて、「内部障がい（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓、免疫機能）」が 36.9%と最も高く、次いで「肢体不自由（下肢）」（36.1%）、「肢体不自由（上肢）」（19.8%）となっている。

【問 10 ですべて 1 ～ 6 を選んだ方にお聞きます。】

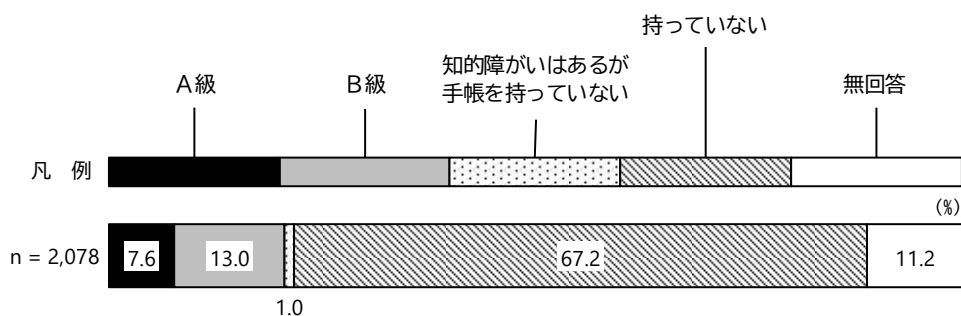
問 11 身体障害者手帳をお持ちの場合、手帳に記載されている障がいをお答えください。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



（４）療育手帳を持っているか

- ▶ 療育手帳を持っているかについて、「B 級」が 13.0%、次いで「A 級」が 7.6%となっている。一方、「持っていない」が 67.2%と約 7 割となっている。

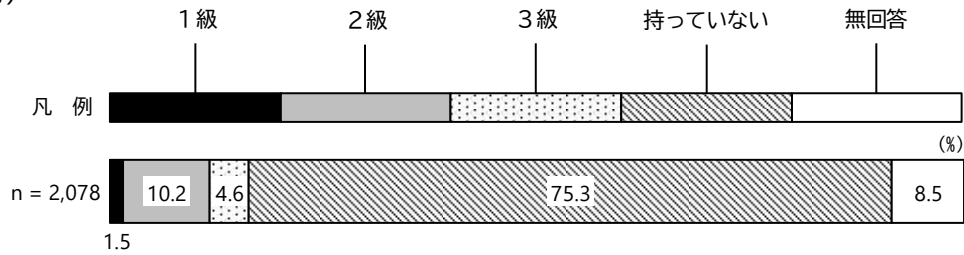
問 12 あなたは療育手帳をお持ちですか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



（５）精神保健福祉手帳を持っているか

- ▶ 精神保健福祉手帳を持っているかについて、「２級」が 10.2%と最も高く、次いで「３級」（4.6%）、「１級」（1.5%）となっている。一方、「持っていない」は 75.3%と 7 割以上となっている。

問 13 あなたは精神保健福祉手帳をお持ちですか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

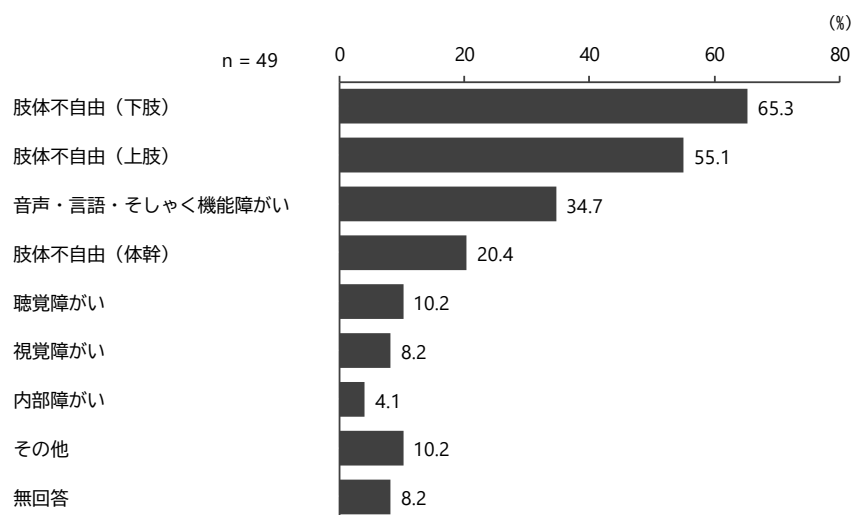


（６）高次脳機能障がいの関連障がい

- ▶ 高次脳機能障がいの関連障がいについて、「肢体不自由（下肢）」が65.3%と最も高く、次いで「肢体不自由（上肢）」（55.1%）、「音声・言語・そしゃく機能障がい」（34.7%）となっている。

【問9で「7 高次脳機能障がい」を選んだ方にお聞きします。】

問14 その関連障がいをお答えください。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【年齢別／高次脳機能障がいの関連障がい】

- ▶ 年齢別にみると、65歳以上では「肢体不自由（下肢）」、「肢体不自由（上肢）」が約8割と他の年齢に比べ高くなっている。

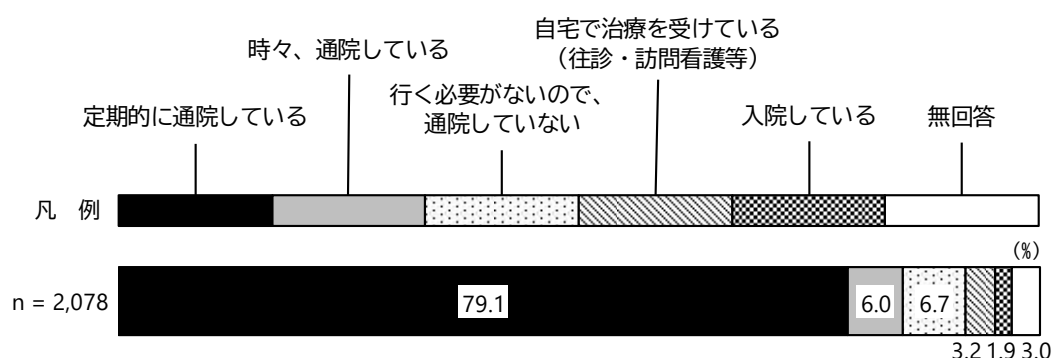
		n	肢体不自由（下肢）	肢体不自由（上肢）	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由（体幹）	聴覚障がい	視覚障がい	内部障がい	その他	無回答
全 体		49	65.3	55.1	34.7	20.4	10.2	8.2	4.1	10.2	8.2
年 齢 別	18歳未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18・19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	30歳代	4	100.0	100.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	7	42.9	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6
	50歳代	8	62.5	62.5	37.5	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5
	60～64歳	7	57.1	14.3	57.1	14.3	42.9	28.6	0.0	14.3	0.0
	65歳以上	20	80.0	75.0	40.0	30.0	5.0	5.0	10.0	0.0	5.0

3 医療について

（１）現在の通院状況

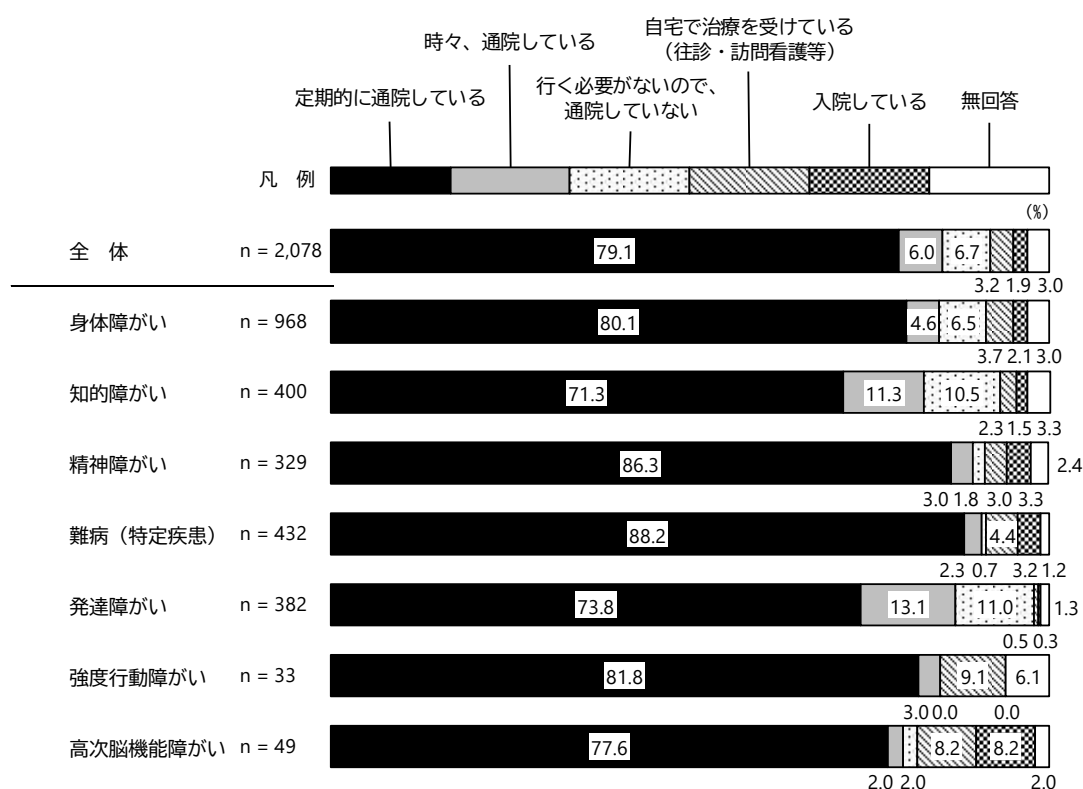
- ▶ 現在の通院状況について、「定期的に通院している」が79.1%と最も高く、次いで「行く必要がないので、通院していない」（6.7%）、「時々通院している」（6.0%）となっている。

問 15 あなたは現在、通院していますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



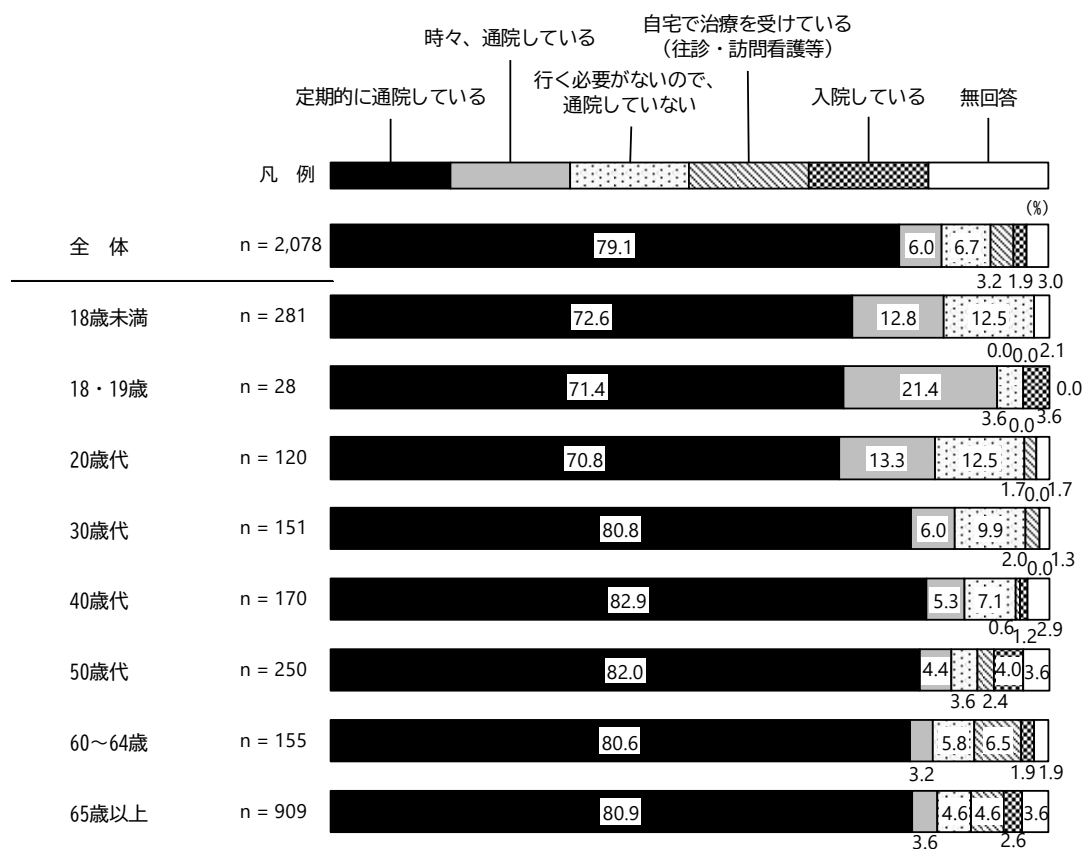
【障がい種別／現在の通院状況】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がい、難病（特定疾患）で「定期的に通院している」が約9割と他の障がい種に比べ高くなっている。



【年齢別／現在の通院状況】

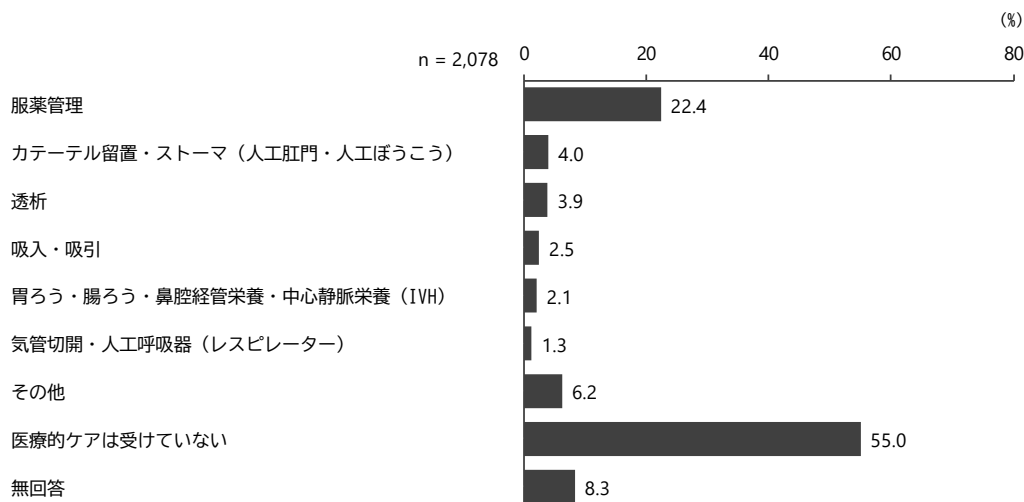
▶ 年齢別にみると、すべての年齢で概ね同様の傾向となっている。



（２）医療的ケアを受けているか

- ▶ 医療的ケアを受けているかについて、「服薬管理」が 22.4%と最も高く、次いで「カテーテル留置・ストーマ（人工肛門・人工ぼうこう）」（4.0%）、「透析」（3.9%）となっている。一方、「医療的ケアは受けていない」は 55.0%と５割以上となっている。

問 16 あなたは現在、医療的ケアを受けていますか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）（受けていない場合は８に○をつけてください）



【障がい種別／医療的ケアを受けているか】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「服薬管理」が 45.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、知的障がい、発達障がいでは「医療的ケアは受けていない」が約 7 割と他の障がい種に比べ高くなっている。

		n	服薬管理	カテーテル留置・ストーマ（人工肛門・人工ぼうこう）	透析	吸入・吸引	胃ろう・腸ろう・鼻腔経管栄養・中心静脈栄養（IVH）	気管切開・人工呼吸器（レスピレーター）	その他	医療的ケアは受けていない	無回答
全 体		2,078	22.4	4.0	3.9	2.5	2.1	1.3	6.2	55.0	8.3
障がい種別	身体障がい	968	22.2	7.9	6.8	4.2	3.5	2.5	8.2	47.4	7.5
	知的障がい	400	20.5	0.5	0.0	2.8	3.0	2.0	3.8	67.0	6.8
	精神障がい	329	30.4	1.2	0.0	0.9	0.9	0.0	5.5	55.6	7.3
	難病（特定疾患）	432	30.3	2.8	2.8	4.2	5.1	2.5	6.7	50.9	4.2
	発達障がい	382	17.3	0.3	0.0	2.1	1.3	1.0	4.2	73.3	5.2
	強度行動障がい	33	45.5	0.0	0.0	3.0	6.1	3.0	3.0	42.4	3.0
	高次脳機能障がい	49	32.7	0.0	0.0	6.1	10.2	2.0	14.3	40.8	8.2

4 住まいや暮らしについて

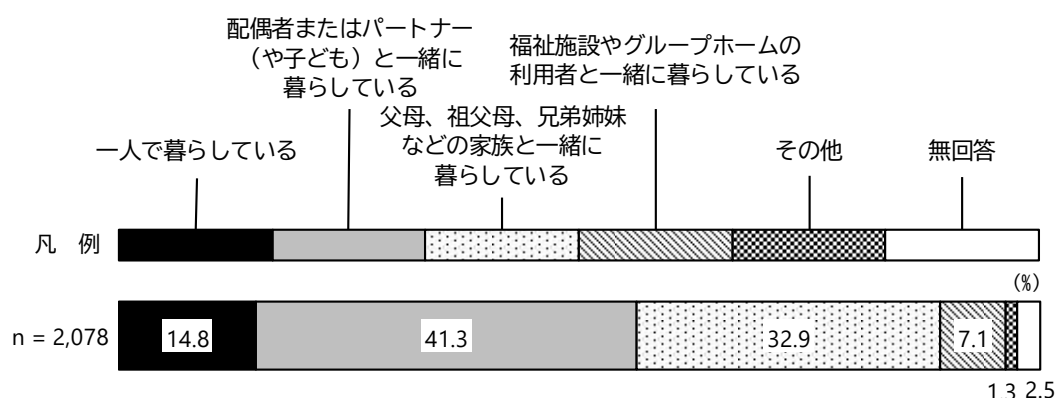
（１）現在どのように暮らしているか

- ▶ 現在どのように暮らしているかについて、（１）現在一緒に暮らしている人の有無では「配偶者またはパートナー（や子ども）と一緒に暮らしている」が41.3%と最も高く、次いで「父母、祖父母、兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしている」（32.9%）、「一人で暮らしている」（14.8%）となっている。
- （２）現在暮らしている場所では「一般の住宅」が80.0%と最も高く、次いで「グループホーム」（3.0%）、「福祉施設（高齢者施設）」（2.7%）となっている。

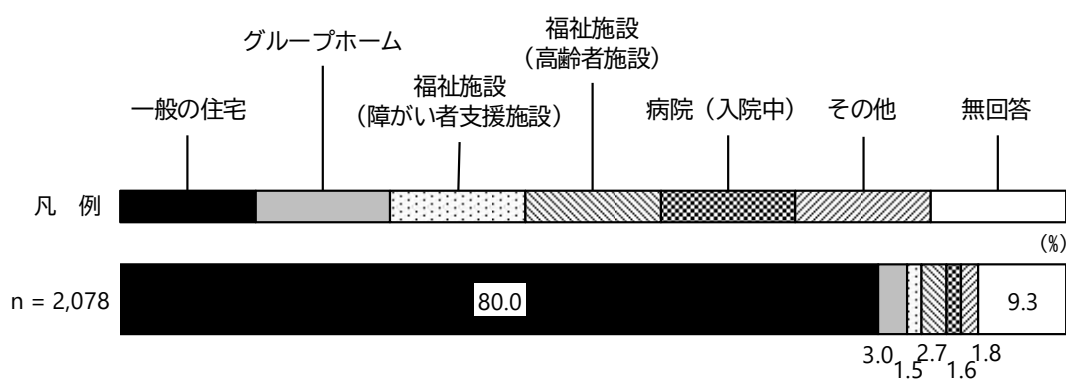
問 17 あなたは現在どのように暮らしていますか。

（（１）と（２）のそれぞれについて、あてはまるもののひとつに○をつけてください。）

（１）現在一緒に暮らしている人の有無

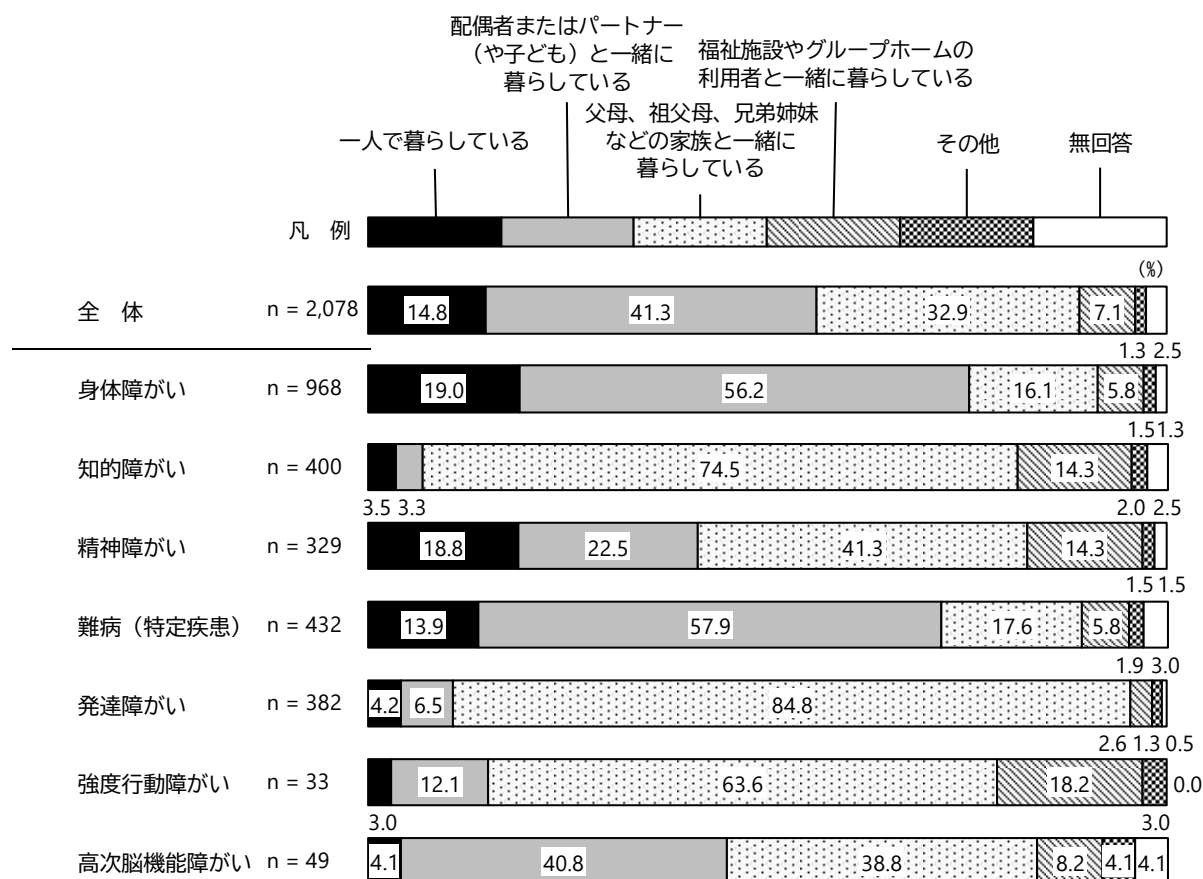


（２）現在暮らしている場所



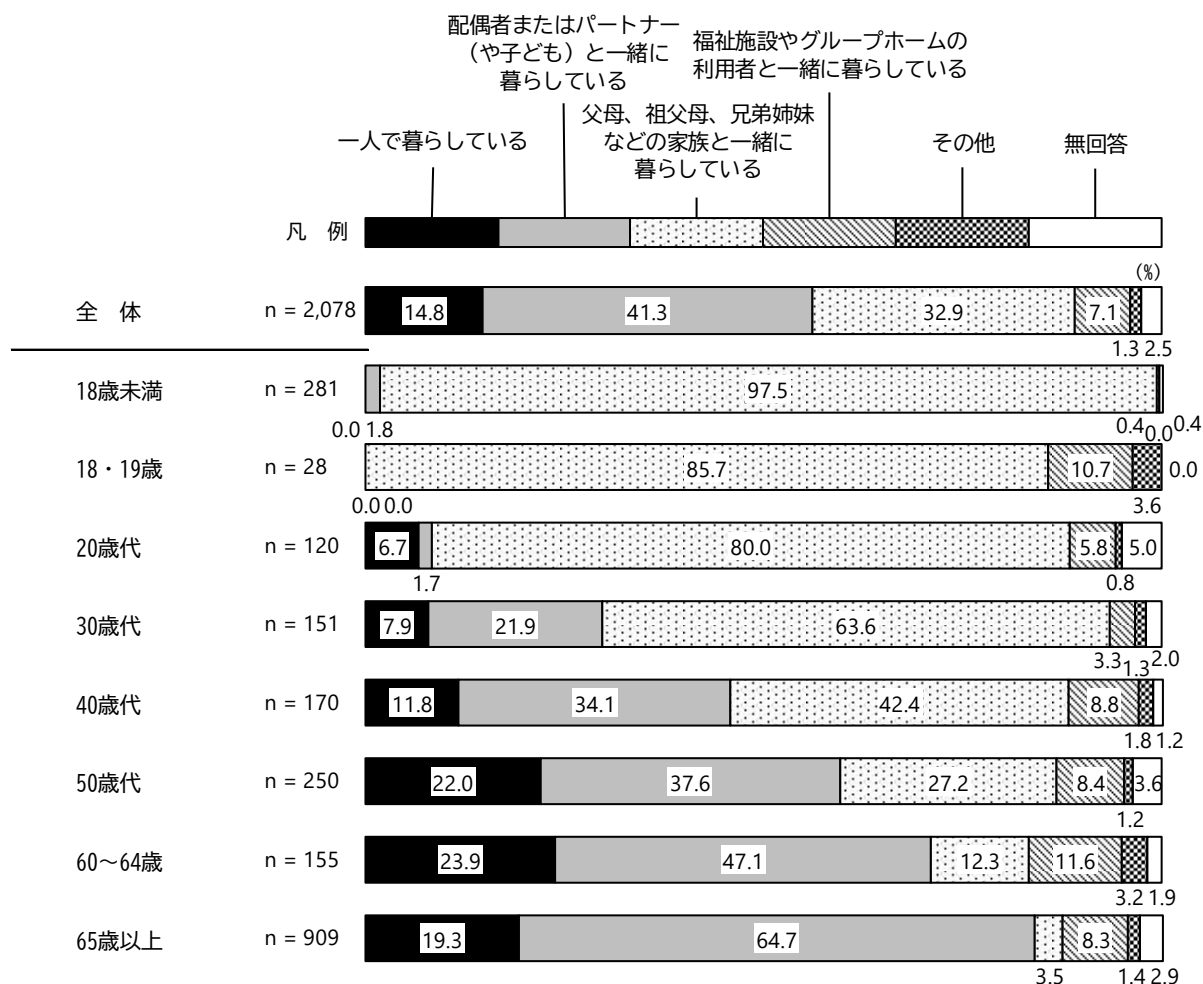
【（１）現在一緒に暮らしている人の有無：障がい種別／現在どのように暮らしているか】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がい、難病（特定疾患）では「配偶者またはパートナー（や子ども）と一緒に暮らしている」が約６割、知的障がい、発達障がい、強度行動障がいでは「父母、祖父母、兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしている」が約６～８割と他の障がい種に比べ高くなっている。



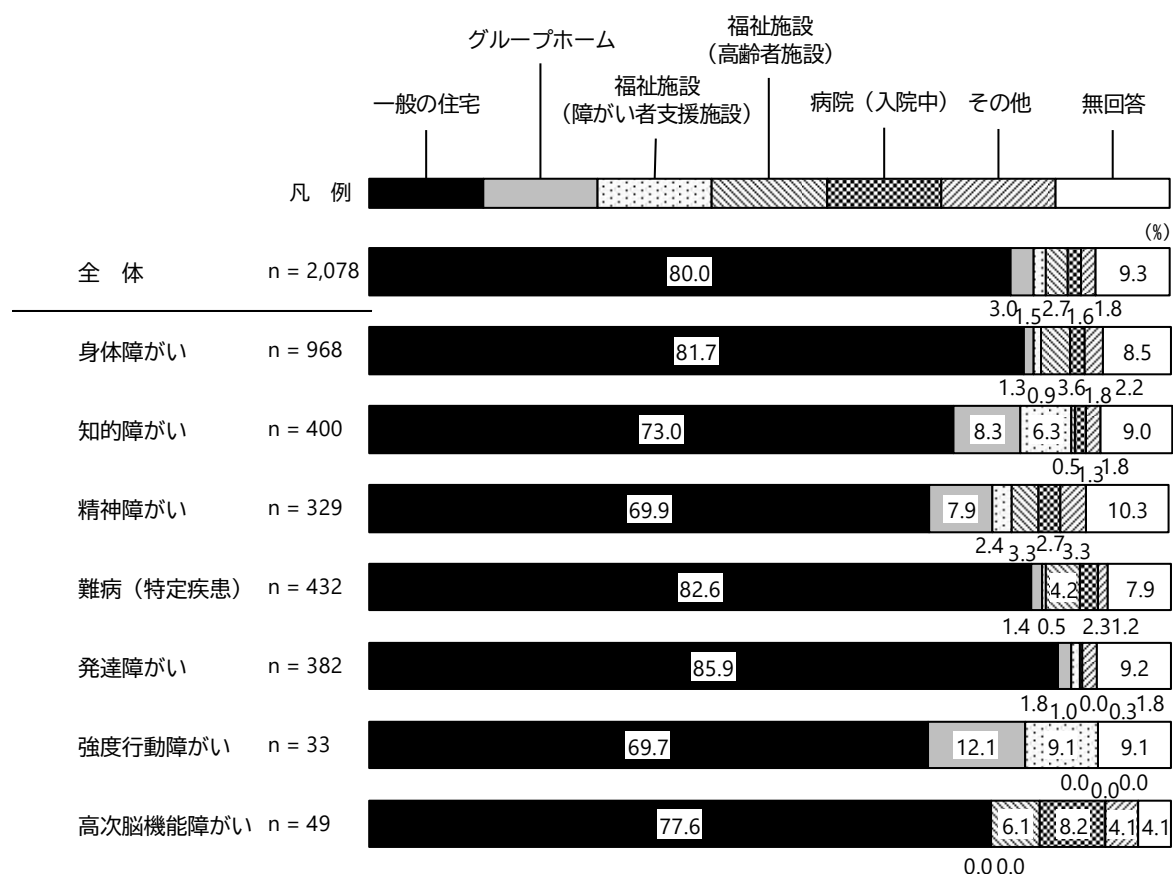
【（１）現在一緒に暮らしている人の有無：年齢別／現在どのように暮らしているか】

- ▶ 年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって「父母、祖父母、兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしている」の割合が高く、年齢が高くなるにしたがって「一人で暮らしている」、「配偶者またはパートナー（や子ども）と一緒に暮らしている」の割合が高い傾向となっている。



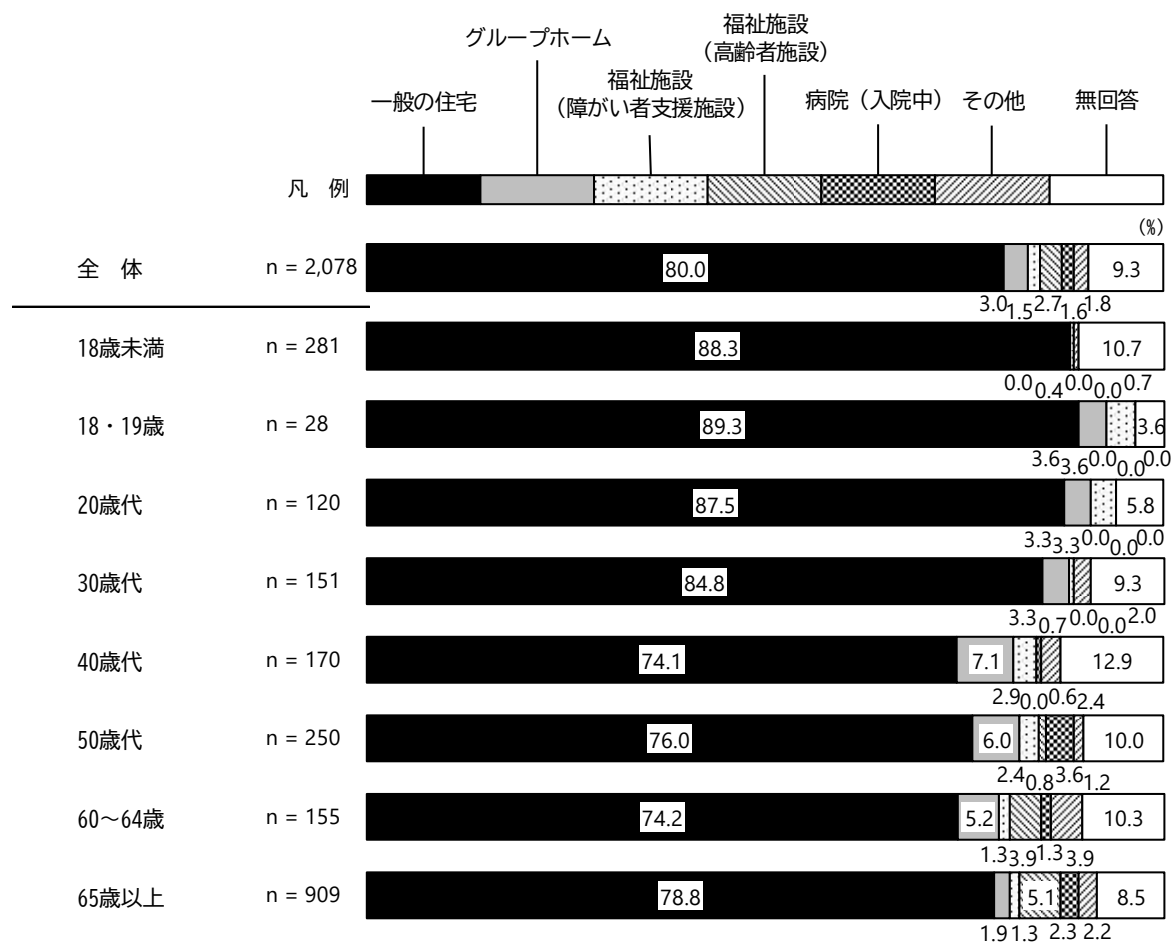
【（２）現在暮らしている場所：障がい種別／現在どのように暮らしているか】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がい、難病（特定疾患）、発達障がいでは「一般の住宅」が８割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。



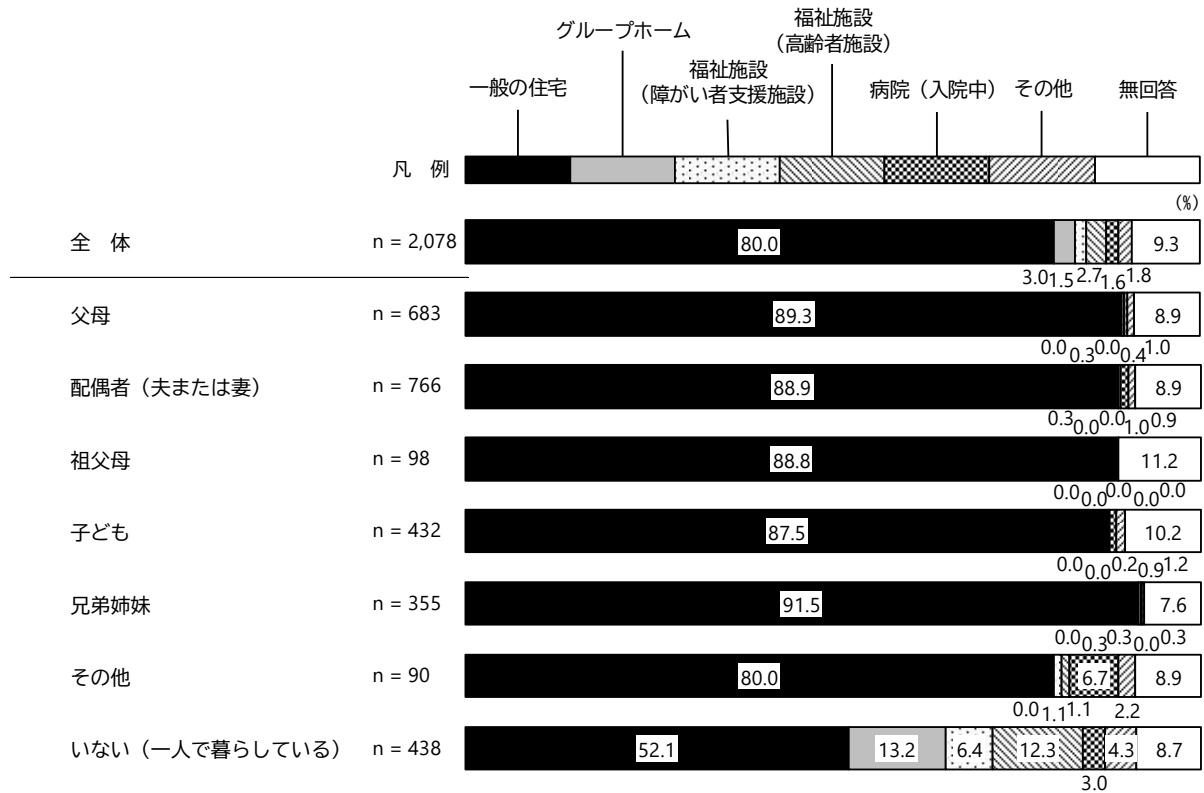
【（２）現在暮らしている場所：年齢別／現在どのように暮らしているか】

▶ 年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって「一般の住宅」の割合が高い傾向となっている。



【（２）現在暮らしている場所：同居家族別／現在どのように暮らしているか】

- ▶ 同居家族別にみると、いずれの同居家族でも同様の傾向になっている。一方、いない（一人で暮らしている）では「グループホーム」、「福祉施設（高齢者施設）」が１割以上と他の同居家族に比べ高くなっている。



（２）今後３年以内にどのように暮らしたいか

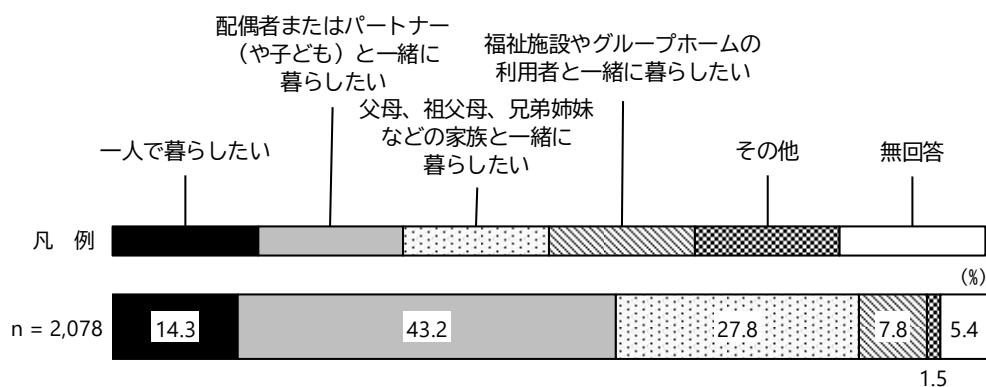
▶ 今後３年以内にどのように暮らしたいかについて、（１）一緒に暮らしたい人の有無では「配偶者またはパートナー（や子ども）と一緒に暮らしたい」が43.2%と最も高く、次いで「父母、祖父母、兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしたい」（27.8%）、「一人で暮らしたい」（14.3%）となっている。

（２）暮らしたい場所では「一般の住宅」が79.7%と最も高く、次いで「グループホーム」、「福祉施設（高齢者施設）」（ともに3.2%）、「福祉施設（障がい者支援施設）」（2.9%）となっている。

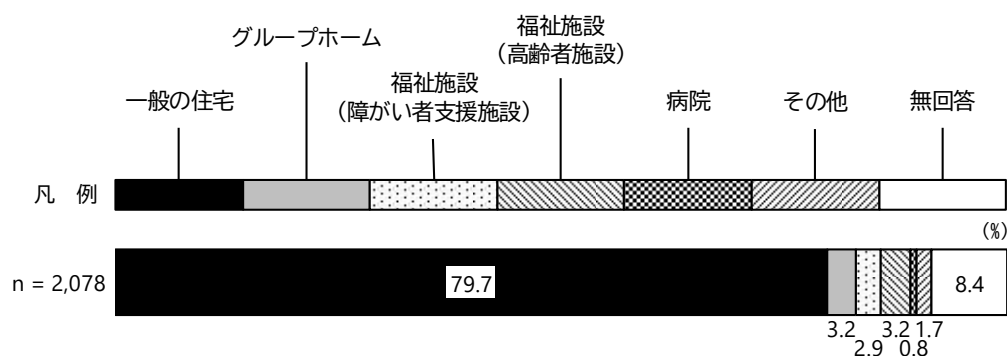
問 18 あなたは今後３年以内にどのような暮らしをしたいと思いますか。

（（１）と（２）のそれぞれについて、あてはまるものひとつに○をつけてください。）

（１）一緒に暮らしたい人の有無

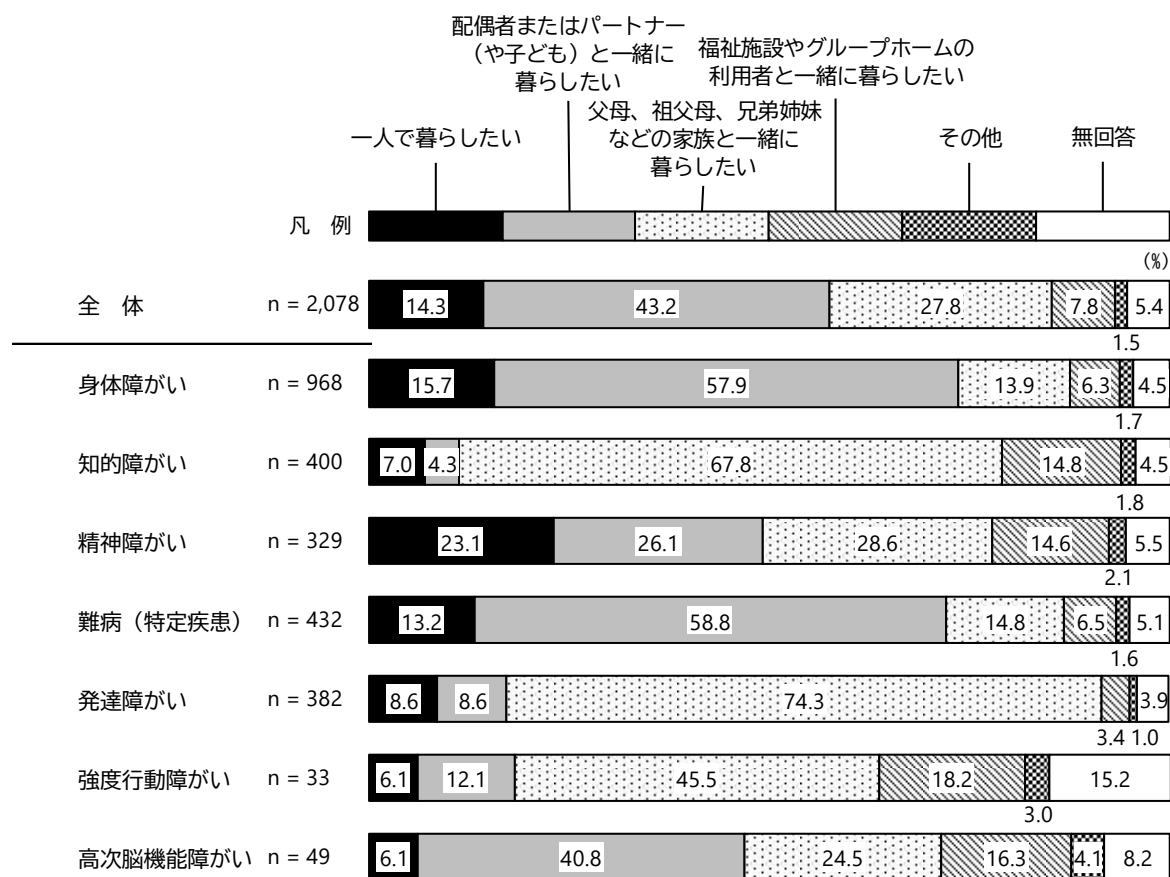


（２）暮らしたい場所



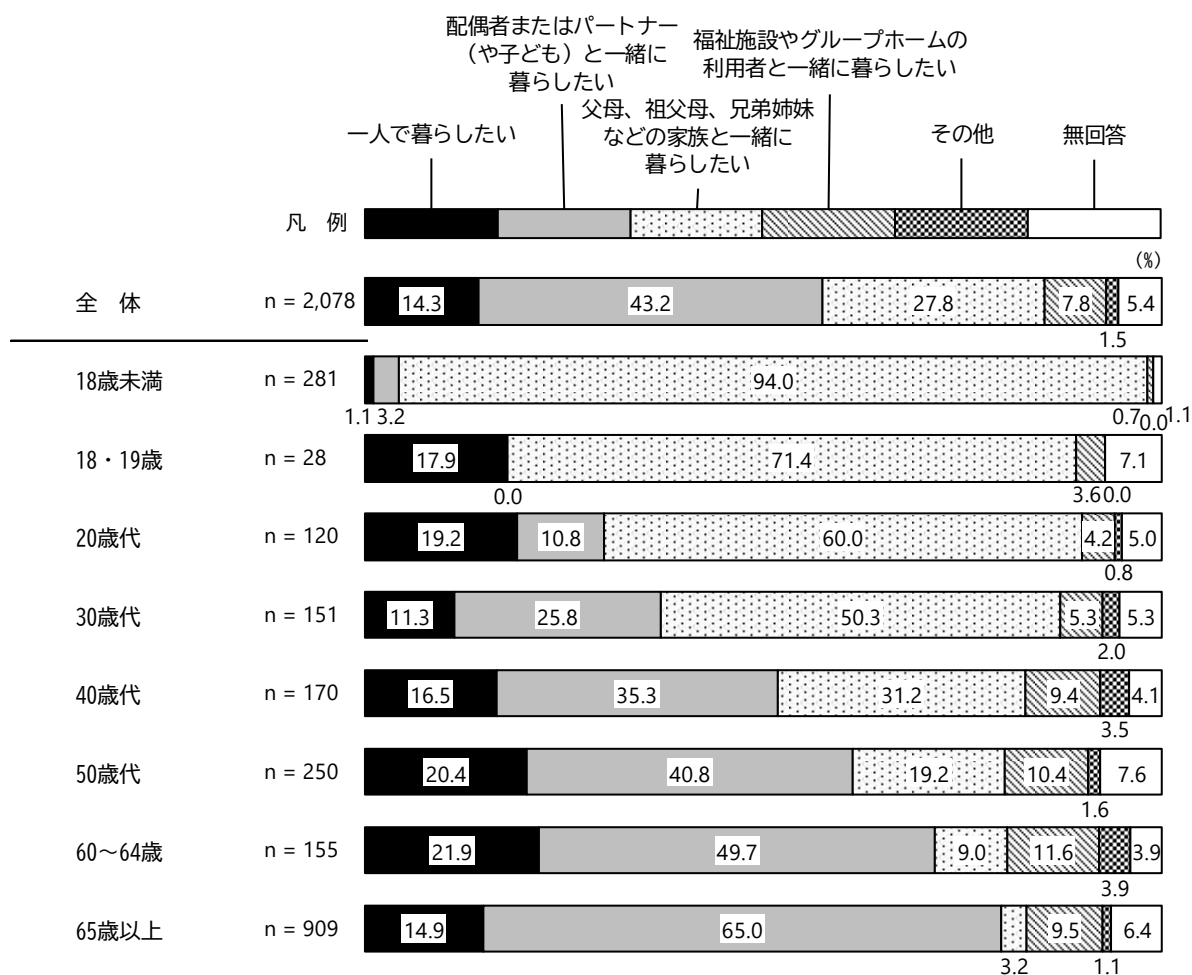
【（１）一緒に暮らしたい人の有無：障がい種別／今後３年以内にどのように暮らしたいか】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がい、難病（特定疾患）では「配偶者またはパートナー（や子ども）と一緒に暮らしたい」が約６割、知的障がい、発達障がいでは「父母、祖父母、兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしたい」が約７割と他の障がい種に比べ高くなっている。



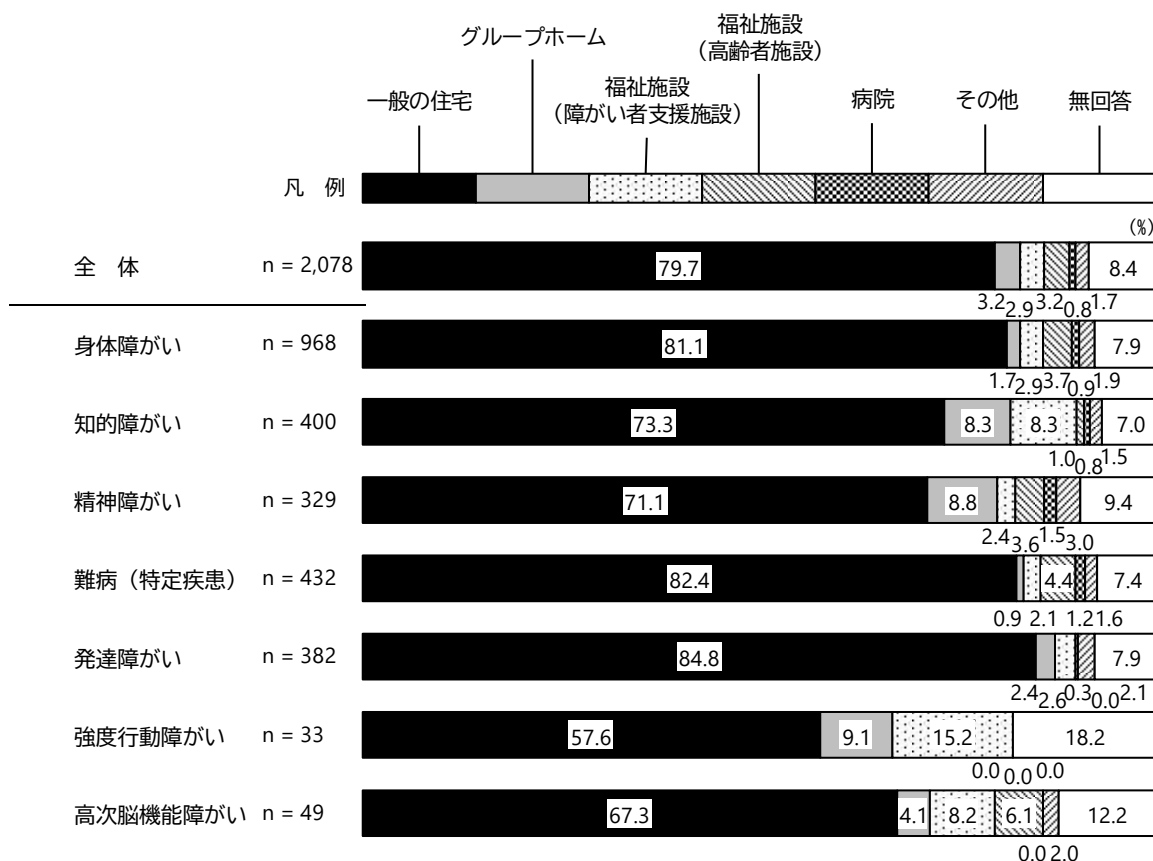
【（１）一緒に暮らしたい人の有無：年齢別／今後３年以内にどのように暮らしたいか】

- ▶ 年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって「父母、祖父母、兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしたい」の割合が高く、年齢が高くなるにしたがって「配偶者またはパートナー（や子ども）と一緒に暮らしたい」の割合が高くなっている。



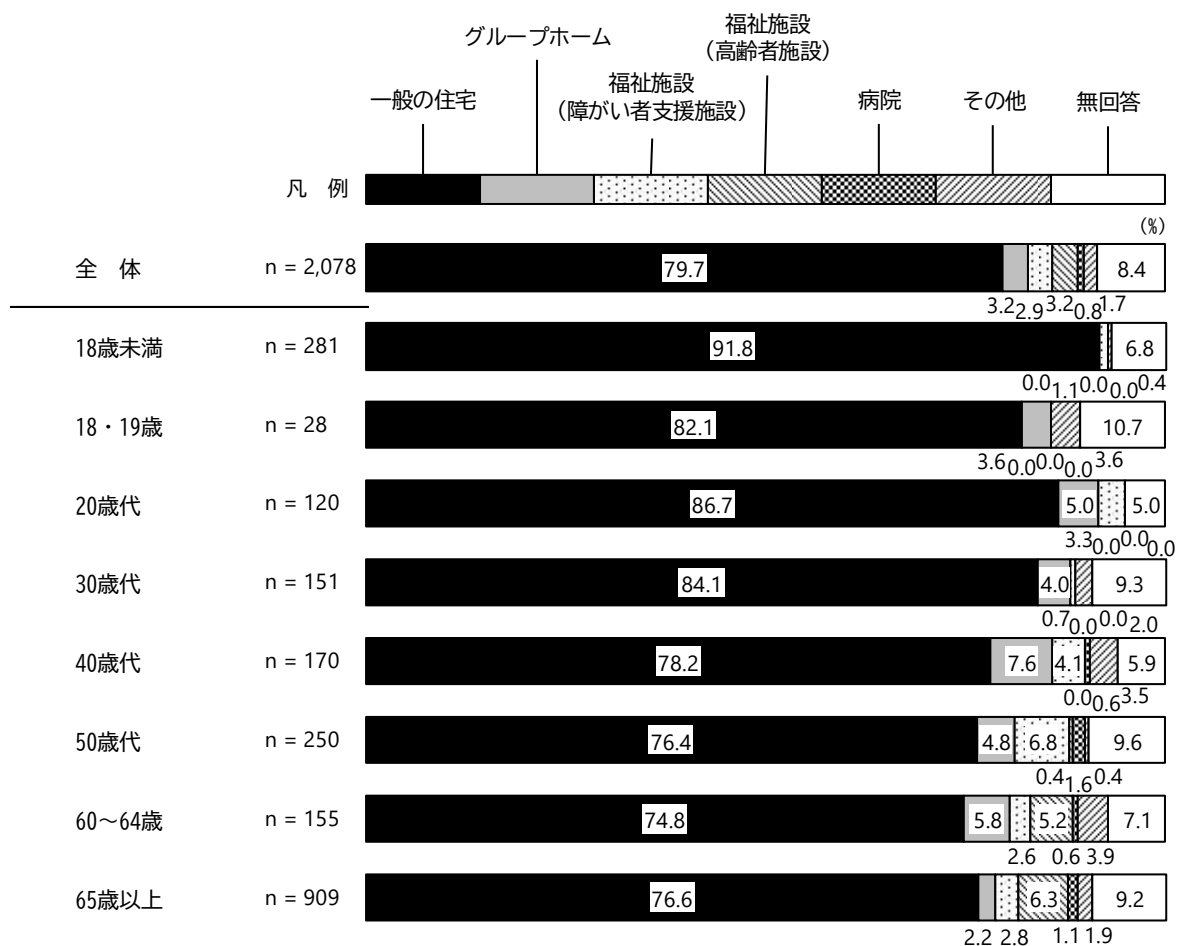
【(2) 暮らしたい場所：障がい種別／今後3年以内にどのように暮らしたいか】

- ▶ 障がい種別にみると、すべての障がい種で「一般の住宅」が最も高くなっているが、強度行動障がいでは「福祉施設（障がい者支援施設）」が15.2%と他の障がい種に比べ高くなっている。



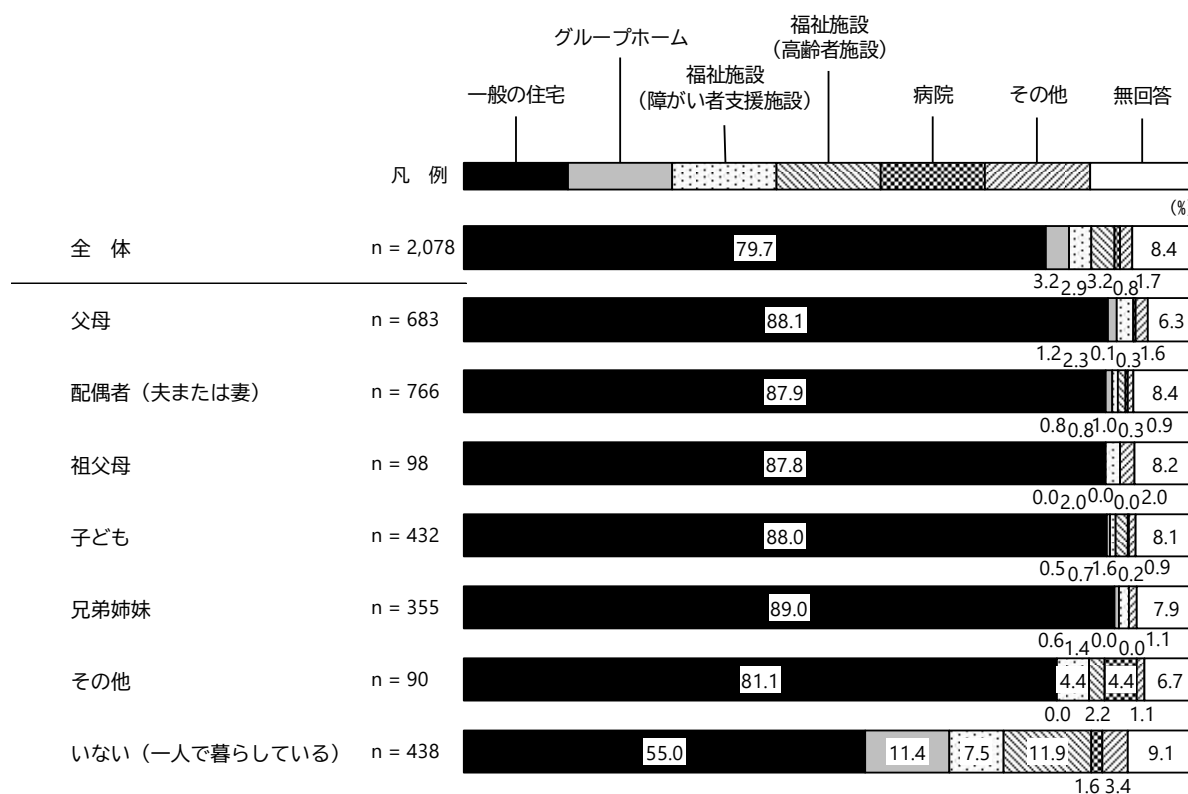
【（２）暮らしたい場所：年齢別／今後３年以内にどのように暮らしたいか】

▶ 年齢別にみると、すべての年齢で概ね同様の傾向となっている。



【(2) 暮らしたい場所：同居家族別／今後3年以内にどのように暮らしたいか】

- ▶ 同居家族別にみると、概ね同様の傾向となっているが、いない（一人で暮らしている）では「グループホーム」、「福祉施設（高齢者施設）」が1割以上と他の同居家族に比べ高くなっている。

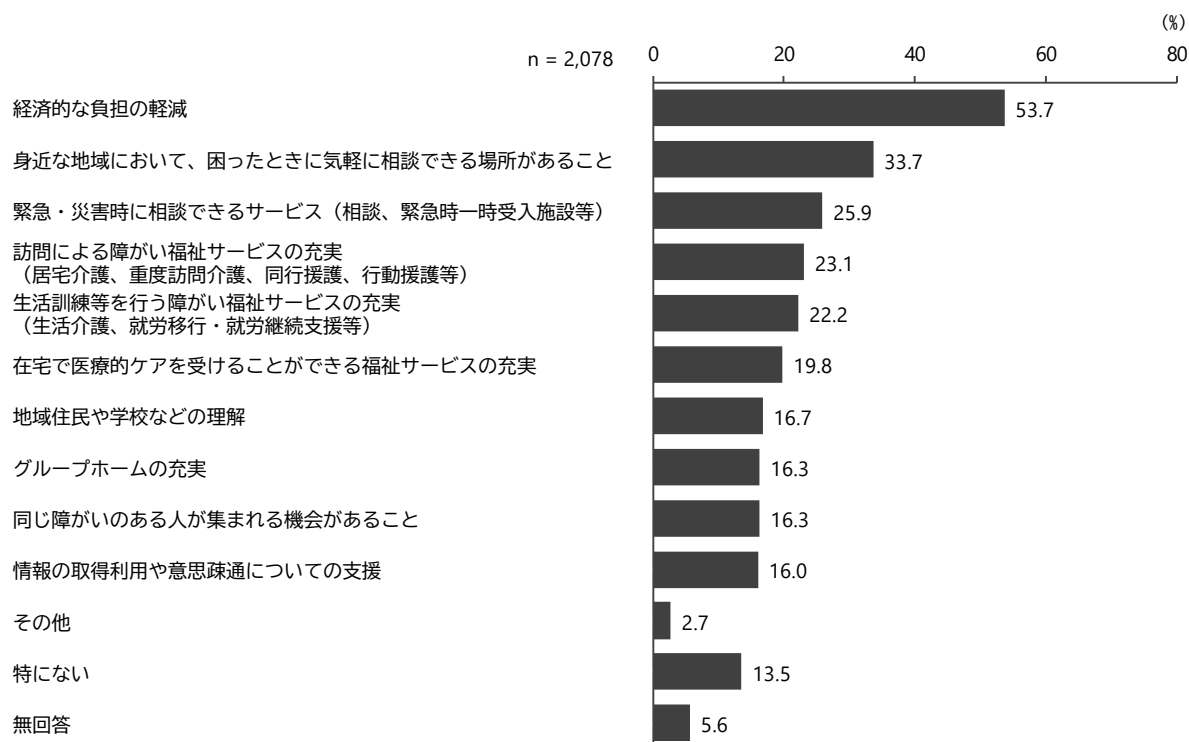


（３）地域で希望する暮らしを送るためにあればよいと思う支援

- ▶ 地域で希望する暮らしを送るためにあればよいと思う支援について、「経済的な負担の軽減」が 53.7% と最も高く、次いで「身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる場所があること」（33.7%）、「緊急・災害時に相談できるサービス（相談、緊急時一時受入施設等）」（25.9%）となっている。

問 19 地域で希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。

（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／地域で希望する暮らしをするためにあればよいと思う支援】

- ▶ 障がい種別にみると、すべての障がい種で「経済的な負担の軽減」が約 5 ～ 7 割と高くなっている。発達障がいでは「身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる場所があること」が 54.5%、「地域住民や学校などの理解」が 47.4%、強度行動障がいでは「訪問による障がい福祉サービスの充実（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護等）」が 57.6%、「グループホームの充実」が 39.4%と他の障がい種に比べ高くなっている。

		n	経済的な負担の軽減	身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる場所があること	緊急・災害時に相談できるサービス（相談、緊急一時受入施設等）	訪問による障がい福祉サービスの充実（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護等）	生活訓練等を行う障がい福祉サービスの充実（生活介護、就労移行・就労継続支援等）	在宅で医療的ケアを受けることができる福祉サービスの充実	地域住民や学校などの理解	グループホームの充実	同じ障がいのある人が集まれる機会があること	情報の取得利用や意思疎通についての支援	その他	特にな	無回答
全 体		2,078	53.7	33.7	25.9	23.1	22.2	19.8	16.7	16.3	16.3	16.0	2.7	13.5	5.6
障がい種別	身体障がい	968	52.7	26.2	25.9	26.7	14.8	25.6	7.2	10.6	11.1	12.1	2.2	16.1	6.8
	知的障がい	400	60.0	44.3	34.3	27.3	43.8	14.0	32.0	34.0	24.3	26.5	5.3	6.5	2.3
	精神障がい	329	62.3	44.7	28.9	23.1	28.0	14.3	19.1	19.1	21.3	18.8	4.9	6.7	3.6
	難病（特定疾患）	432	58.3	31.9	28.5	28.0	17.4	28.7	10.2	16.0	15.0	13.9	2.5	12.7	5.1
	発達障がい	382	62.6	54.5	33.2	22.5	46.3	11.0	47.4	27.5	30.9	30.4	3.9	5.8	1.8
	強度行動障がい	33	54.5	39.4	42.4	57.6	42.4	18.2	24.2	39.4	21.2	27.3	9.1	6.1	3.0
	高次脳機能障がい	49	67.3	49.0	36.7	38.8	38.8	24.5	16.3	10.2	22.4	22.4	4.1	2.0	6.1

【年齢別／地域で希望する暮らしをするためにあればよいと思う支援】

- ▶ 年齢別にみると、すべての年齢で「経済的な負担の軽減」が約 4 ～ 6 割と高くなっている。18 歳未満では「身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる場所があること」が 55.5%、「地域住民や学校などの理解」が 64.1%、「情報の取得利用や意思疎通についての支援」が 32.4%、18・19 歳では「生活訓練等を行う障がい福祉サービスの充実（生活介護、就労移行、就労継続支援等）」が 53.6%と他の年齢に比べ高くなっている。

		n	経済的な負担の軽減	身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる場所があること	緊急・災害時に相談できるサービス（相談、緊急一時受入施設等）	訪問による障がい福祉サービスの充実（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護等）	生活訓練等を行う障がい福祉サービスの充実（生活介護、就労移行・就労継続支援等）	在宅で医療的ケアを受けることができる福祉サービスの充実	地域住民や学校などの理解	グループホームの充実	同じ障がいのある人が集まれる機会があること	情報の取得利用や意思疎通についての支援	その他	特にな	無回答
全 体		2,078	53.7	33.7	25.9	23.1	22.2	19.8	16.7	16.3	16.3	16.0	2.7	13.5	5.6
年齢別	18歳未満	281	62.3	55.5	29.2	20.3	45.6	10.3	64.1	21.4	32.4	32.4	3.2	4.3	0.4
	18・19歳	28	60.7	32.1	21.4	21.4	53.6	3.6	10.7	25.0	7.1	14.3	3.6	10.7	0.0
	20歳代	120	64.2	39.2	38.3	24.2	42.5	12.5	23.3	23.3	21.7	25.0	6.7	12.5	1.7
	30歳代	151	64.2	41.7	36.4	27.8	31.8	17.9	25.2	29.1	23.8	23.2	4.6	6.0	3.3
	40歳代	170	60.0	39.4	28.8	20.0	25.3	11.8	15.3	20.6	22.9	17.1	1.8	10.0	4.7
	50歳代	250	63.6	35.2	28.0	24.0	19.2	20.4	12.8	21.6	15.6	16.0	5.2	14.0	3.2
	60～64歳	155	51.6	31.0	22.6	23.9	17.4	22.6	5.2	14.2	14.8	14.2	1.3	16.1	5.2
	65歳以上	909	44.2	24.2	21.5	23.4	10.9	25.6	3.3	9.7	8.9	8.7	1.5	17.8	9.1

【同居家族別／地域で希望する暮らしをするためにあればよいと思う支援】

▶ 同居家族別にみると、すべての同居家族で「経済的な負担の軽減」が約 5 ～ 6 割と高くなっている。

(%)															
		n	経済的な負担の軽減	身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる場所があること	緊急・災害時に相談できるサービス（相談、緊急時一時受入施設等）	訪問による障がい福祉サービスの充実（居宅介護、重度訪問介護、同行支援、行動援護等）	生活訓練等を行う障がい福祉サービス・就労継続支援等（就労移行・就労移行支援等）	在宅で医療的ケアを受けることができる福祉サービスの充実	地域住民や学校などの理解	グループホームの充実	同じ障がいのある人が集まれる機会があること	情報の取得・利用や意思疎通についての支援	その他	特にな	無回答
全 体		2,078	53.7	33.7	25.9	23.1	22.2	19.8	16.7	16.3	16.3	16.0	2.7	13.5	5.6
同居家族別	父母	683	59.6	46.7	31.8	23.4	37.0	14.5	36.5	24.2	25.0	25.3	3.5	7.6	2.6
	配偶者（夫または妻）	766	49.9	26.1	21.3	22.5	12.5	24.2	6.5	8.4	12.1	9.5	1.6	17.1	6.5
	祖父母	98	59.2	49.0	29.6	23.5	42.9	7.1	42.9	22.4	25.5	28.6	2.0	8.2	1.0
	子ども	432	55.8	26.9	24.5	20.6	15.3	24.5	8.3	9.7	13.2	13.2	1.2	16.2	5.8
	兄弟姉妹	355	60.0	49.9	32.4	22.8	40.6	14.1	40.0	23.7	24.8	27.9	3.4	7.9	0.6
	その他	90	63.3	31.1	36.7	28.9	18.9	30.0	7.8	12.2	23.3	16.7	3.3	13.3	3.3
	いない（一人で暮らしている）	438	50.9	29.7	24.4	25.8	17.8	19.2	8.9	20.3	10.7	13.7	3.9	14.8	6.8

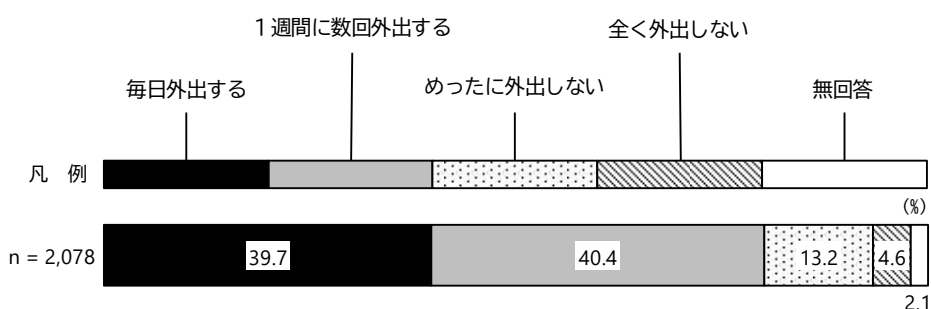
5 外出や日中活動について

（１）１週間の外出頻度

- ▶ １週間の外出頻度について、「毎日外出する」と「１週間に数回外出する」を合わせた《外出する》は80.1%と8割以上を占めており、「全く外出しない」と「めったに外出しない」を合わせた《外出しない》は17.8%となっている。

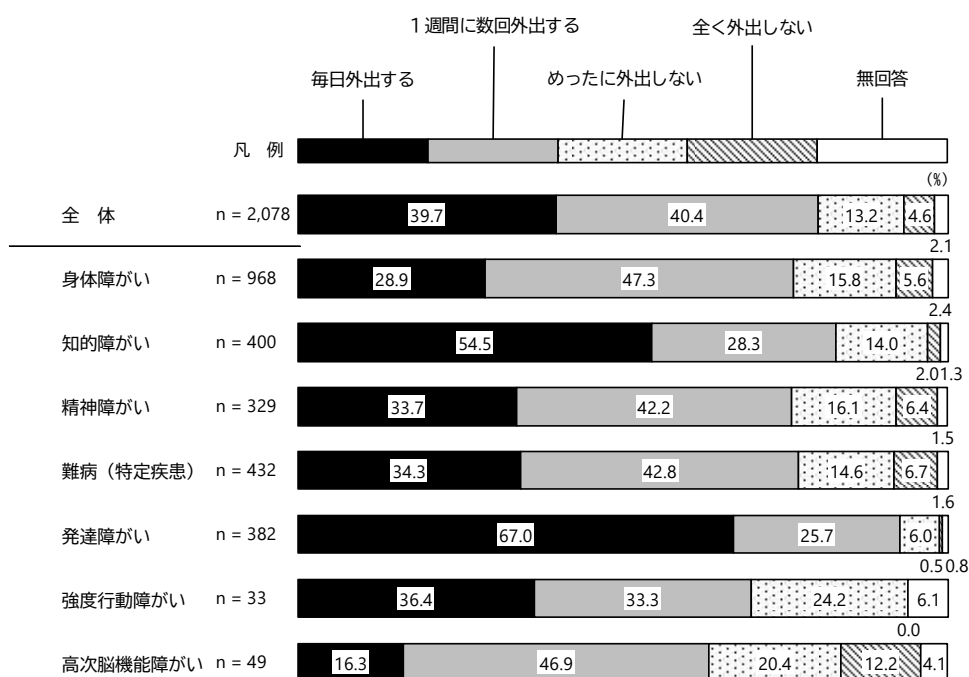
問 20 あなたは、１週間にどの程度外出しますか。

（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



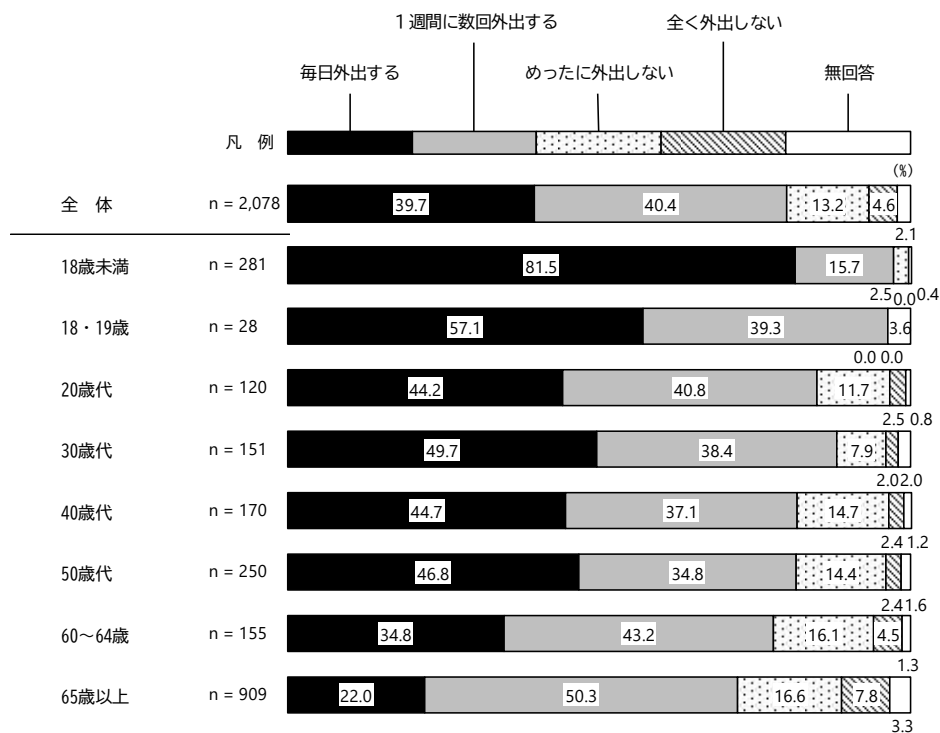
【障がい種別／１週間の外出頻度】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がい、知的障がい、発達障がいでは《外出する》が約8～9割と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、高次脳機能障がいでは《外出しない》が32.6%と他の障がい種に比べ高くなっている。



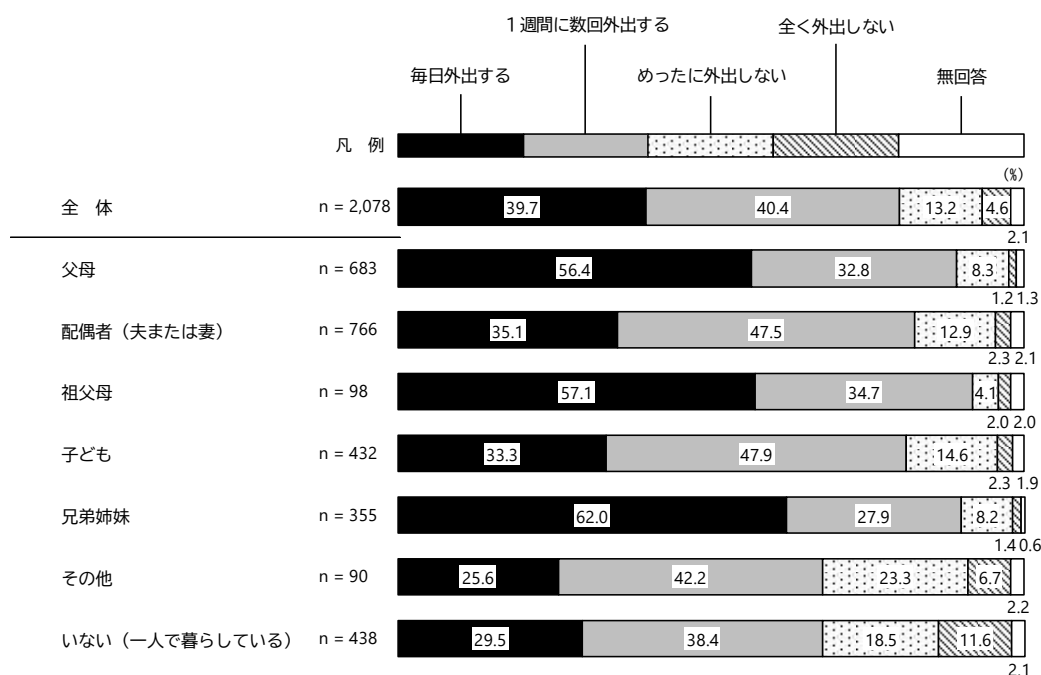
【年齢別／1週間の外出頻度】

- ▶ 年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって《外出する》の割合が高い傾向となっている。また、65歳以上では《外出しない》が24.4%と他の年齢に比べ高くなっている。



【同居家族別／1週間の外出頻度】

- ▶ 同居家族別にみると、父母、祖父母、兄弟姉妹では《外出する》が約9割と他の同居家族に比べ高くなっている。一方、いない（一人暮らし）では《外出しない》が30.1%と他の同居家族に比べ高くなっている。

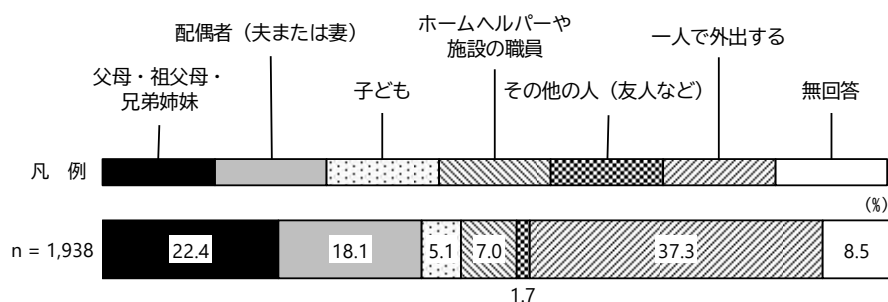


（２）外出する際の主な同伴者

- ▶ 外出する際の主な同伴者について、「父母・祖父母・兄弟姉妹」が 22.4%と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」（18.1%）、「ホームヘルパーや施設の職員」（7.0%）となっている。一方、「一人で外出する」は 37.3%と約 4 割となっている。

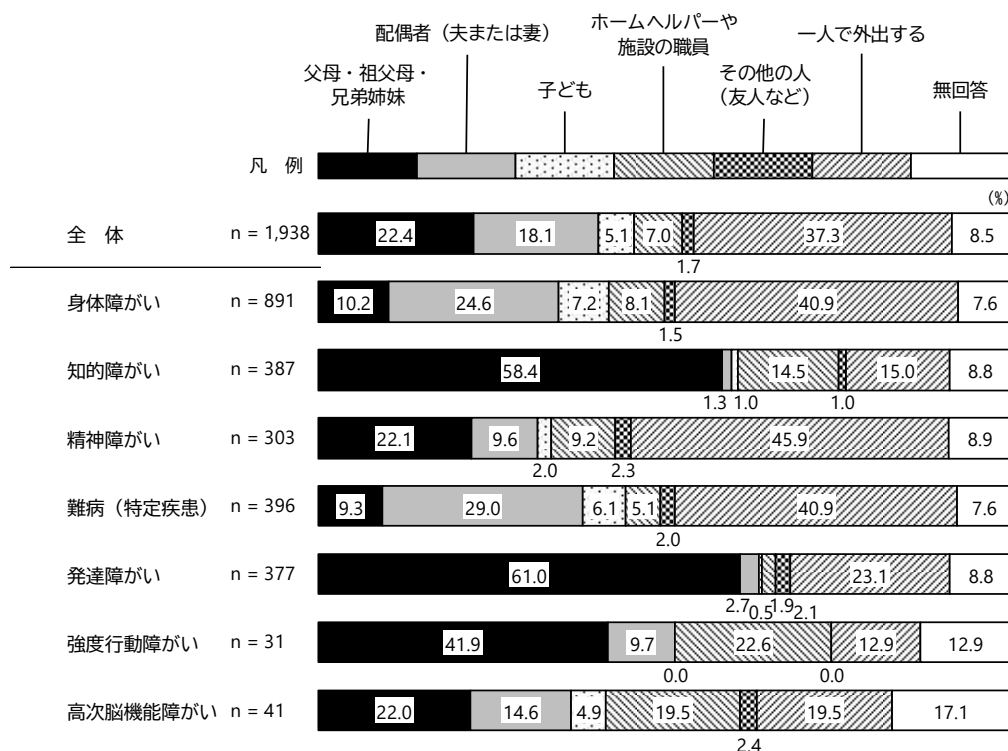
【問 20 で「１、２、３」を選んだ方にお聞きします。】

問 21 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。
（あてはまるもののひとつに○をつけてください。）



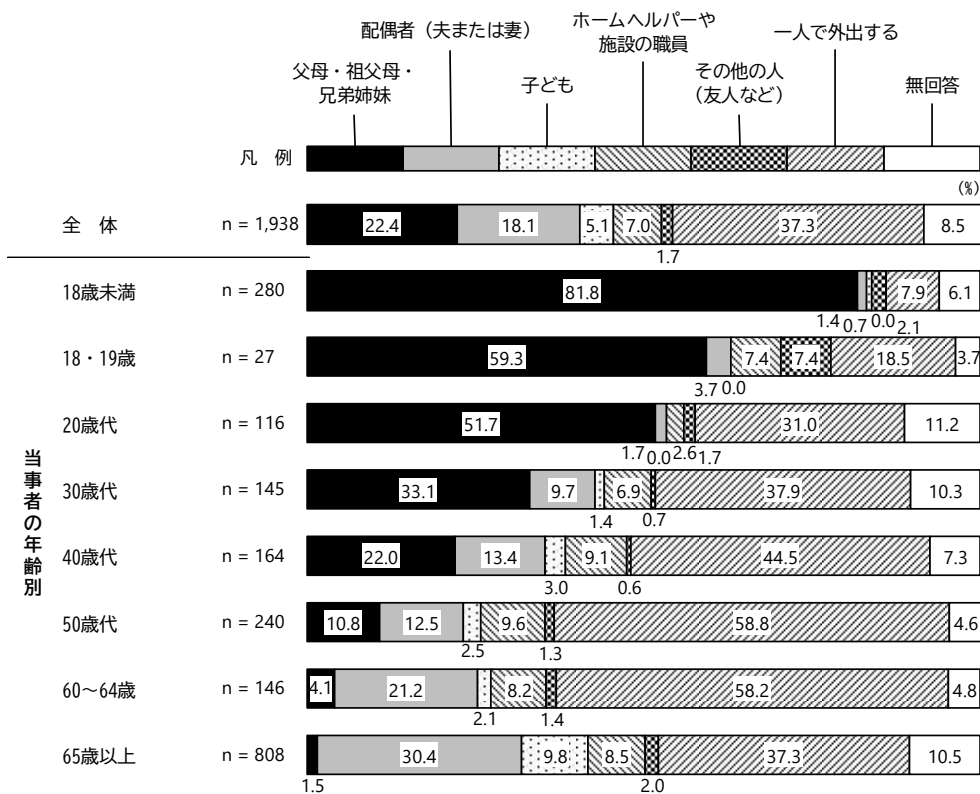
【障がい種別／外出する際の主な同伴者】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいでは「父母・祖父母・兄弟姉妹」が約 6 割と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、身体障がい、精神障がい、難病（特定疾患）では「一人で外出する」が約 4 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



【当事者の年齢別／外出する際の主な同伴者】

- ▶ 当事者の年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が高くなっている。また、65歳以上以外では、年齢が高くなるにしたがって「一人で外出する」の割合が高くなっている。

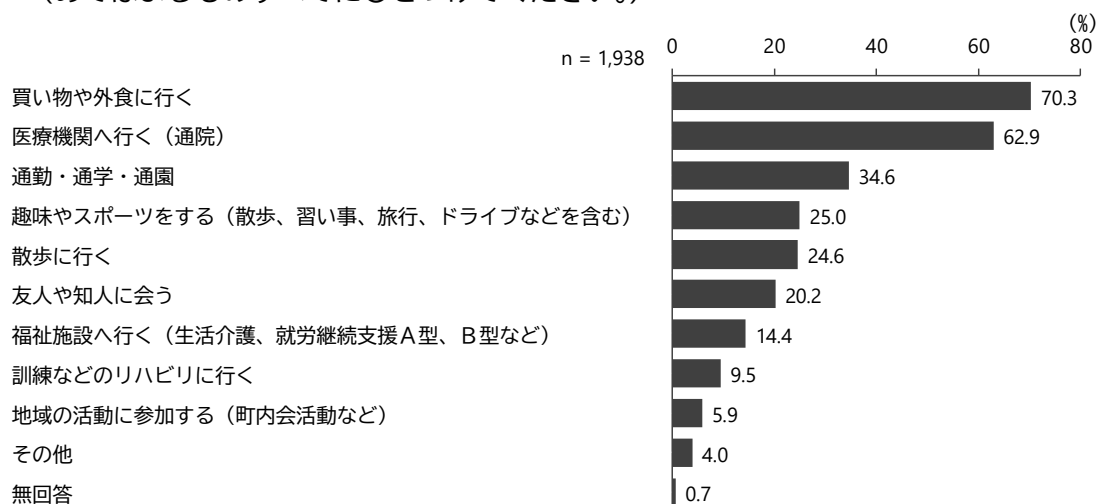


（３）外出する目的

- ▶ 外出する目的について、「買い物や外食に行く」が70.3%と最も高く、次いで「医療機関へ行く（通院）」（62.9%）、「通勤・通学・通園」（34.6%）となっている。

【問20で「1、2、3」を選んだ方にお聞きします。】

問22 あなたは、どのような目的で外出しますか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／外出する目的】

- ▶ 障がい種別にみると、すべての障がい種で「買い物や外食に行く」、「医療機関へ行く（通院）」が約5～7割と高くなっている。また、発達障がいでは「通勤・通学・通園」が67.4%、強度行動障がいでは「福祉施設へ行く（生活介護、就労継続支援A型、B型など）」が45.2%と他の障がい種に比べ高くなっている。

		n	買い物や外食に行く	医療機関へ行く（通院）	通勤・通学・通園	趣味やスポーツをする（散歩、習い事、旅行、ドライブなどを含む）	散歩に行く	友人や知人に会う	福祉施設へ行く（生活介護、就労継続支援A型、B型など）	訓練などのリハビリに行く	地域の活動に参加する（町内会活動など）	その他	無回答
全 体		1,938	70.3	62.9	34.6	25.0	24.6	20.2	14.4	9.5	5.9	4.0	0.7
障がい種別	身体障がい	891	69.0	69.8	22.7	24.7	23.3	22.3	9.8	13.4	7.5	3.9	0.6
	知的障がい	387	63.3	50.6	48.1	26.4	27.6	10.9	35.4	5.7	2.1	4.1	0.0
	精神障がい	303	74.6	71.6	25.7	23.8	26.7	21.1	21.1	5.6	3.3	5.3	0.3
	難病（特定疾患）	396	73.2	71.0	33.3	21.2	22.5	22.7	7.6	10.4	6.8	3.3	0.3
	発達障がい	377	71.1	48.5	67.4	28.9	22.3	17.0	27.1	8.2	4.2	5.3	0.3
	強度行動障がい	31	51.6	54.8	22.6	32.3	29.0	6.5	45.2	6.5	3.2	12.9	0.0
	高次脳機能障がい	41	46.3	65.9	19.5	14.6	22.0	17.1	26.8	24.4	4.9	2.4	0.0

【年齢別／外出する目的】

- ▶ 年齢別にみると、18歳未満では「通勤・通学・通園」が96.8%、18・19歳では「買い物や外出に行く」が88.9%、20～30歳代では「福祉施設へ行く（生活介護、就労継続支援A型、B型など）」が約4割と他の年齢に比べ高くなっている。また、年齢が高くなるにしたがって「医療機関に行く（通院）」の割合が高い傾向となっている。

		(%)										
	n	買い物や外出に行く	医療機関へ行く（通院）	通勤・通学・通園	趣味やスポーツをする（散歩、含む）	散歩に行く	友人や知人に会う	福祉施設へ行く（生活介護、就労継続支援A型、B型など）	訓練などのリハビリに行く	地域の活動に参加する（町内会活動など）	その他	無回答
全 体	1,938	70.3	62.9	34.6	25.0	24.6	20.2	14.4	9.5	5.9	4.0	0.7
年 齢 別	18歳未満	280	66.1	42.1	96.8	28.6	24.3	14.3	13.9	13.2	3.9	0.0
	18・19歳	27	88.9	33.3	74.1	37.0	11.1	29.6	18.5	11.1	0.0	3.7
	20歳代	116	69.8	50.9	39.7	27.6	17.2	25.9	38.8	4.3	0.9	1.7
	30歳代	145	75.2	58.6	33.1	33.8	25.5	20.0	37.2	2.8	4.8	0.0
	40歳代	164	72.6	64.6	35.4	23.8	23.8	17.1	20.7	1.8	4.3	0.0
	50歳代	240	73.3	65.8	44.6	21.7	24.6	18.3	13.3	5.0	4.6	0.4
	60～64歳	146	75.3	63.7	32.9	28.8	24.7	31.5	9.6	5.5	6.2	0.7
	65歳以上	808	68.1	72.3	8.7	22.0	26.4	20.4	7.1	13.7	8.5	1.2

【同居家族別／外出する目的】

- ▶ 同居家族別にみると、すべての同居家族で「買い物や外出に行く」、「医療機関へ行く（通院）」が約5～7割と高くなっている。また、父母、祖父母、兄弟姉妹では「通勤・通学・通園」が6割以上と他の同居家族に比べ高くなっている。

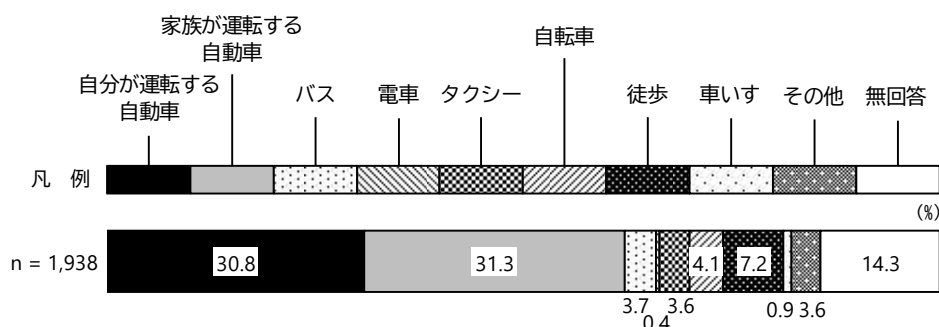
		(%)										
	n	買い物や外出に行く	医療機関へ行く（通院）	通勤・通学・通園	趣味やスポーツをする（散歩、含む）	散歩に行く	友人や知人に会う	福祉施設へ行く（生活介護、就労継続支援A型、B型など）	訓練などのリハビリに行く	地域の活動に参加する（町内会活動など）	その他	無回答
全 体	1,938	70.3	62.9	34.6	25.0	24.6	20.2	14.4	9.5	5.9	4.0	0.7
同 居 家 族 別	父母	666	69.4	52.1	60.1	26.6	21.8	16.4	23.7	8.3	4.1	0.3
	配偶者（夫または妻）	732	73.6	69.8	26.9	26.1	24.6	22.7	5.5	10.4	7.8	0.4
	祖父母	94	74.5	52.1	68.1	29.8	22.3	23.4	22.3	7.4	4.3	0.0
	子ども	414	71.3	68.4	25.8	21.0	22.2	22.9	7.0	12.8	6.0	0.5
	兄弟姉妹	348	68.4	51.4	67.2	27.6	21.6	15.5	19.8	8.0	4.3	0.0
	その他	82	61.0	70.7	15.9	23.2	28.0	25.6	12.2	12.2	7.3	0.0
	いない（一人で暮らしている）	378	69.8	66.4	15.3	22.2	31.0	22.0	16.1	8.5	6.3	1.3

（４）外出する際に最もよく利用する交通手段

- ▶ 外出する際に最もよく利用する交通手段について、「家族が運転する自動車」が 31.3%と最も高く、次いで「自分が運転する自動車」（30.8%）、「徒歩」（7.2%）となっている。

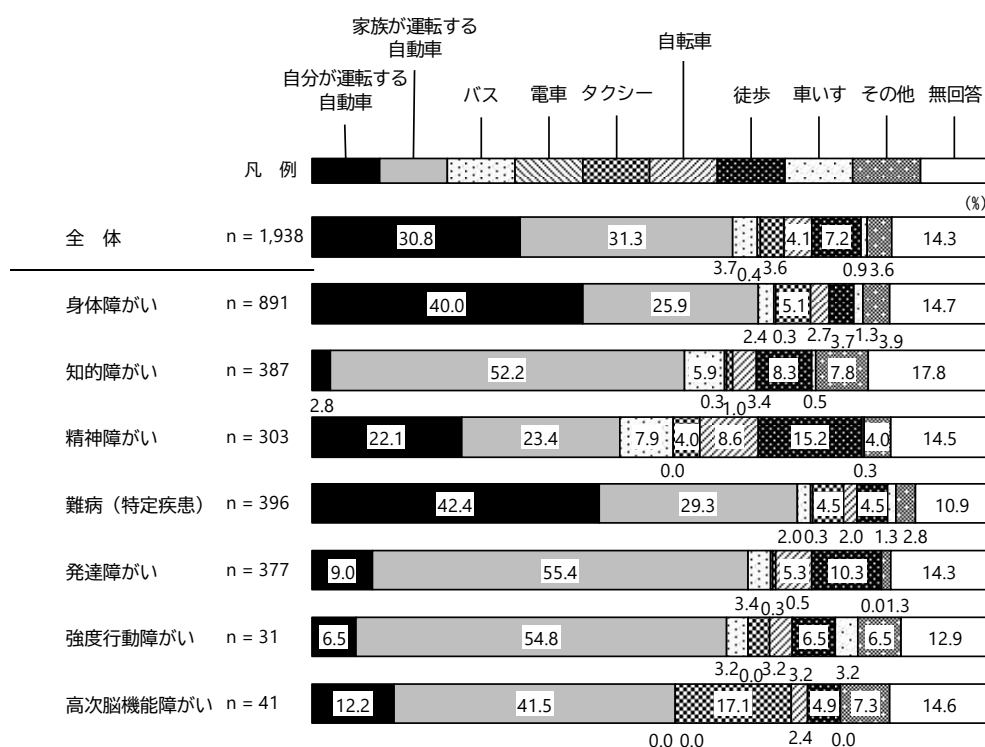
【問 20 で「１、２、３」を選んだ方にお聞きます。】

問 23 あなたが外出する際に最もよく利用する交通手段をお答えください。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



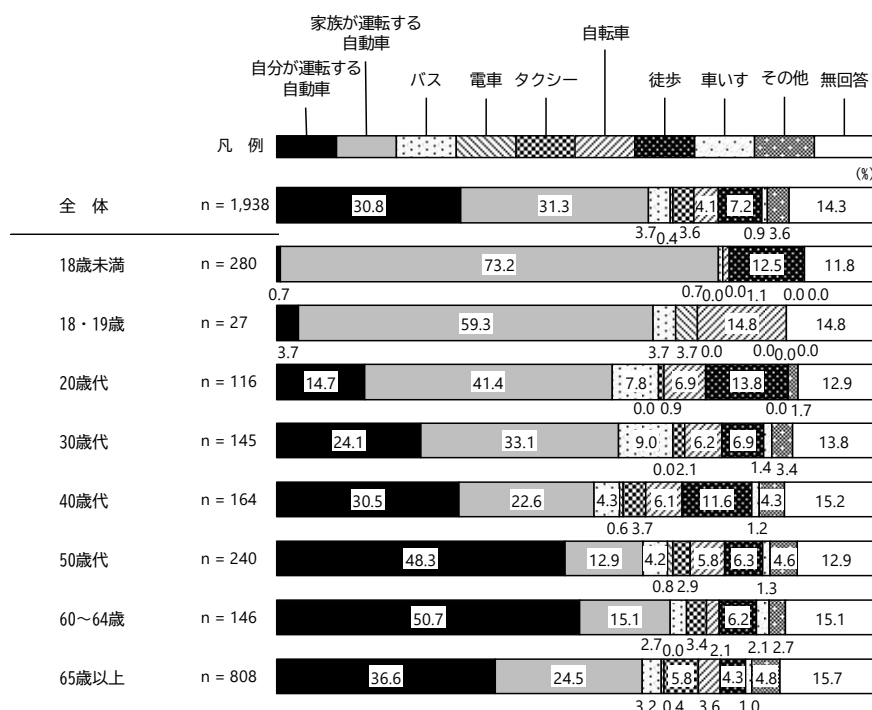
【障がい種別／外出する際に最もよく利用する交通手段】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がい、難病（特定疾患）では「自分が運転する自動車」が約４割、知的障がい、発達障がい、強度行動障がいでは「家族が運転する自動車」が５割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。



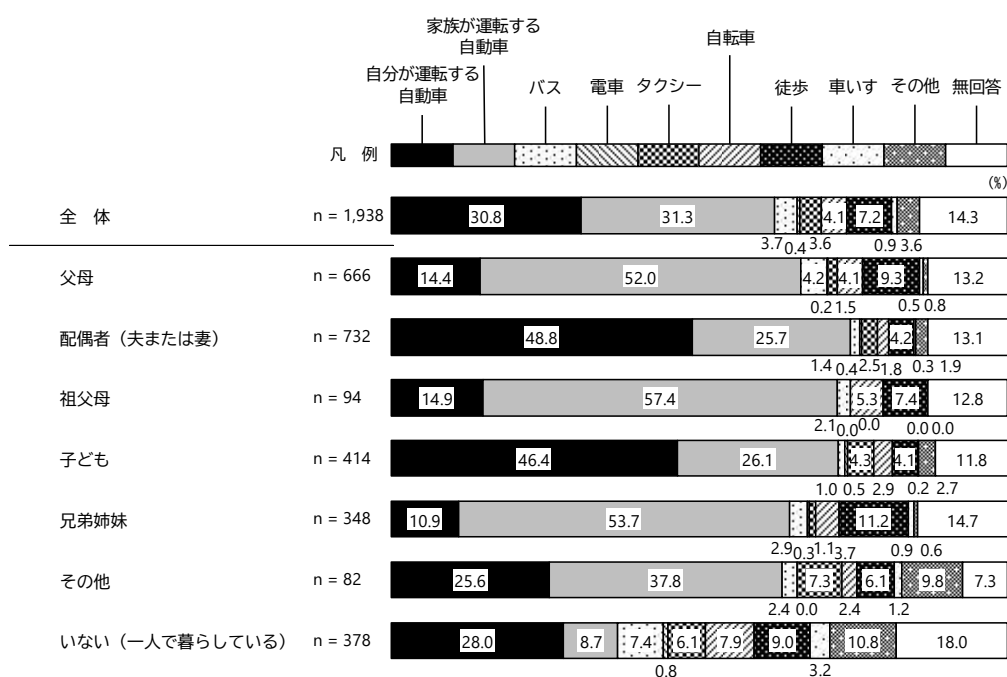
【年齢別／外出する際に最もよく利用する交通手段】

- ▶ 年齢別にみると、65 歳以外では年齢が高くなるにしたがって「自分が運転する自動車」の割合が高くなっており、年齢が低くなるにしたがって「家族が運転する自動車」の割合が高くなっている。



【同居家族別／外出する際に最もよく利用する交通手段】

- ▶ 同居家族別にみると、配偶者（夫または妻）、子どもでは「自分が運転する自動車」が約 5 割、父母、祖父母、兄弟姉妹では「家族運転する自動車」が 5 割以上と他の同居家族に比べ高くなっている。



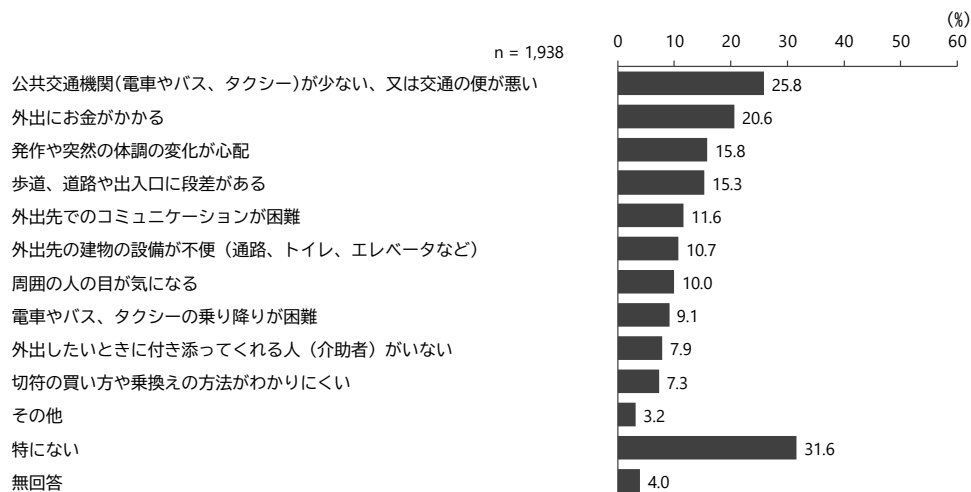
（５）外出する時に困ったり、不便を感じたりすること

- ▶ 外出する時に困ったり、不便を感じたりすることについて、「公共交通機関（電車やバス、タクシー）が少ない、又は交通の便が悪い」が25.8%と最も高く、次いで「外出にお金がかかる」（20.6%）、「発作や突然の体調の変化が心配」（15.8%）となっている。一方、「特にない」は31.6%と3割以上となっている。

【問20で「1、2、3」を選んだ方にお聞きします。】

問24 外出する時に困ったり、不便を感じたりすることは何ですか。

（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／外出する時に困ったり、不便を感じたりすること】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がいでは「外出にお金がかかる」が37.3%、強度行動障がいでは「発作や突然の体調の変化が心配」が35.5%、「外出先でのコミュニケーションが困難」が61.3%、「周囲の人の目が気になる」が38.7%、「外出したいときに付き添ってくれる人（介助者）がいない」が35.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。

	n	公共交通機関(電車やバス、タクシー)が少ない、又は交通の便が悪い	外出にお金がかかる	発作や突然の体調の変化が心配	歩道、道路や出入口に段差がある	外出先でのコミュニケーションが困難	外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベータなど)	周囲の人の目が気になる	電車やバス、タクシーの乗り降りが困難	外出したいときに付き添ってくれる人(介助者)がいない	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	その他	特にない	無回答
全 体	1,938	25.8	20.6	15.8	15.3	11.6	10.7	10.0	9.1	7.9	7.3	3.2	31.6	4.0
障がい種別														
身体障がい	891	26.3	18.5	15.3	23.8	4.8	13.9	4.8	13.6	6.2	5.4	3.1	31.2	4.4
知的障がい	387	28.9	22.2	16.5	11.9	31.5	14.2	19.6	10.6	16.0	12.9	4.4	22.2	2.1
精神障がい	303	33.3	37.3	28.7	9.9	19.1	9.6	22.4	6.6	12.2	10.9	4.3	18.8	2.6
難病(特定疾患)	396	24.2	15.9	20.2	21.5	3.5	16.9	5.8	10.4	9.3	6.1	3.3	33.3	3.8
発達障がい	377	27.1	24.7	16.7	8.0	29.7	10.1	20.4	5.0	10.6	12.5	5.0	29.2	1.6
強度行動障がい	31	22.6	19.4	35.5	29.0	61.3	29.0	38.7	19.4	35.5	9.7	9.7	0.0	3.2
高次脳機能障がい	41	29.3	24.4	22.0	26.8	14.6	22.0	9.8	17.1	4.9	9.8	4.9	7.3	7.3

【年齢別／外出する時に困ったり、不便を感じたりすること】

- ▶ 年齢別にみると、20 歳代では「公共交通機関（電車やバス、タクシー）が少ない、又は交通の便が悪い」が 39.7%、「外出先でのコミュニケーションが困難」が 35.3%と他の年齢に比べ高くなっている。

		n	公共交通機関（電車やバス、タクシー）が少ない、又は交通の便が悪い	外出にお金がかかる	発作や突然の体調の変化が心配	歩道、道路や出入口に段差がある	外出先でのコミュニケーションが困難	外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）	周囲の人の目が気になる	電車やバス、タクシーの乗り降りが困難	外出したいときに付き添ってくれる人（介助者）がいない	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	その他	特にない	無回答
全 体		1,938	25.8	20.6	15.8	15.3	11.6	10.7	10.0	9.1	7.9	7.3	3.2	31.6	4.0
年 齢 別	18歳未満	280	18.2	14.6	11.1	7.1	22.1	11.1	17.5	7.1	8.2	11.1	4.3	37.1	1.4
	18・19歳	27	22.2	18.5	25.9	11.1	18.5	3.7	18.5	11.1	11.1	3.7	0.0	25.9	3.7
	20歳代	116	39.7	27.6	17.2	11.2	35.3	13.8	19.0	4.3	12.9	12.9	6.0	17.2	0.0
	30歳代	145	28.3	25.5	24.1	15.2	24.1	14.5	21.4	6.9	13.1	9.7	2.1	24.1	4.1
	40歳代	164	25.0	25.0	14.6	17.7	12.8	12.8	18.3	10.4	9.8	8.5	4.9	28.0	2.4
	50歳代	240	30.0	26.7	17.1	14.2	10.8	13.3	11.3	8.3	7.9	6.3	4.6	32.9	1.3
	60～64歳	146	30.8	21.2	17.1	19.2	5.5	9.6	6.8	6.2	6.8	4.8	2.7	36.3	3.4
	65歳以上	808	24.0	18.1	15.1	18.3	3.0	8.8	2.4	11.3	5.7	5.4	2.1	32.8	6.7

【同居家族別／外出する時に困ったり、不便を感じたりすること】

- ▶ 同居家族別にみると、概ね同様の傾向となっているが、いない（一人暮らし）では「外出にお金がかかる」が 30.4%と他の同居家族に比べ高くなっている。

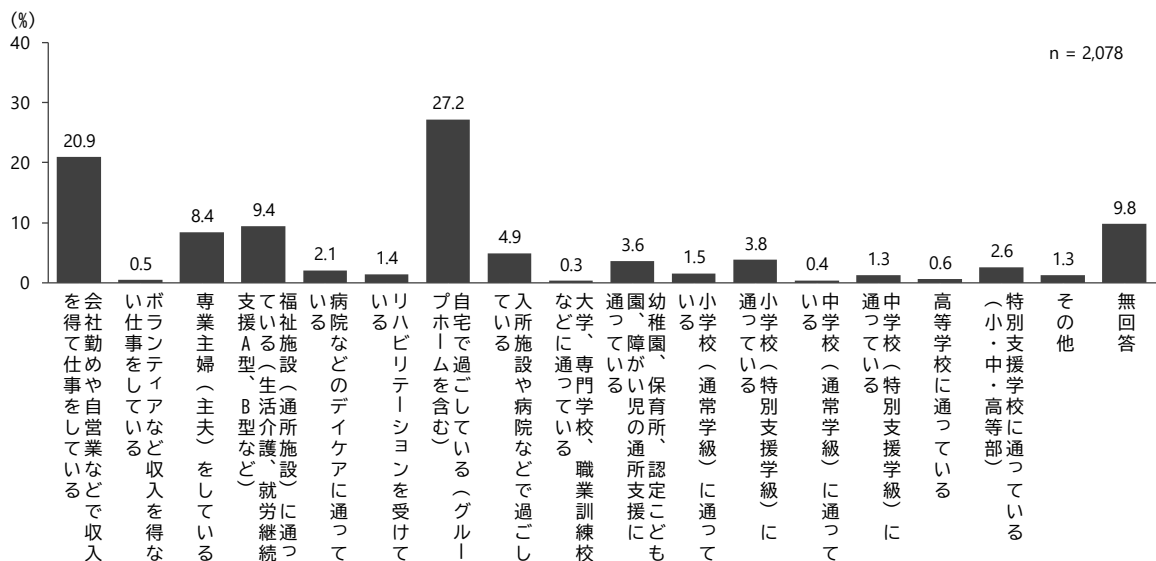
		n	公共交通機関（電車やバス、タクシー）が少ない、又は交通の便が悪い	外出にお金がかかる	発作や突然の体調の変化が心配	歩道、道路や出入口に段差がある	外出先でのコミュニケーションが困難	外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）	周囲の人の目が気になる	電車やバス、タクシーの乗り降りが困難	外出したいときに付き添ってくれる人（介助者）がいない	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	その他	特にない	無回答
全 体		1,938	25.8	20.6	15.8	15.3	11.6	10.7	10.0	9.1	7.9	7.3	3.2	31.6	4.0
同 居 家 族 別	父母	666	26.1	20.4	14.9	12.5	23.0	12.6	18.0	7.5	9.6	10.2	3.9	30.0	2.3
	配偶者（夫または妻）	732	24.3	14.2	14.6	15.8	3.4	10.0	5.5	7.8	3.8	4.5	2.2	37.4	4.9
	祖父母	94	28.7	11.7	10.6	9.6	19.1	8.5	14.9	4.3	11.7	9.6	3.2	36.2	2.1
	子ども	414	22.5	15.7	15.9	18.6	4.1	9.4	5.8	9.9	5.3	5.3	2.2	35.3	4.6
	兄弟姉妹	348	26.4	20.1	14.7	9.8	21.6	13.2	16.1	6.3	8.9	10.1	4.3	30.7	2.6
	その他	82	25.6	22.0	18.3	24.4	7.3	15.9	7.3	14.6	6.1	8.5	2.4	34.1	4.9
	いない（一人で暮らしている）	378	29.6	30.4	18.8	16.4	9.8	10.6	6.9	12.4	13.0	6.1	4.8	25.7	4.2

（６）平日の日中の過ごし方

- ▶ 平日の日中の過ごし方について、「自宅で過ごしている（グループホームを含む）」が 27.2%と最も高く、次いで「会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている」（20.9%）、「福祉施設（通所施設）に通っている（生活介護、就労継続支援 A 型、B 型など）」（9.4%）となっている。

問 25 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。

（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／平日の日中の過ごし方】

- ▶ 障がい種別にみると、難病（特定疾患）では「会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている」が 30.3%、発達障がいでは「幼稚園、保育所、認定こども園、障がい児の通所支援（児童発達支援事業所など）に通っている」が 15.4%、強度行動障がいでは「福祉施設（通所施設）に通っている（生活介護、就労継続支援 A 型、B 型など）」が 33.3%他の障がい種に比べ高くなっている。

	n	会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている	ボランティアなど収入を得ない仕事をしている	専業主婦（主夫）をしている	福祉施設（通所施設）に通っている（生活介護、就労継続支援 A 型、B 型など）	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている（グループホームを含む）	入所施設や病院などで過ごしている	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	幼稚園、保育所、認定こども園、障がい児の通所支援（児童発達支援事業所など）に通っている	小学校（通常学級）に通っている	小学校（特別支援学級）に通っている	中学校（通常学級）に通っている	中学校（特別支援学級）に通っている	高等学校に通っている	特別支援学校に通っている（小・中・高等部）	その他	無回答
全 体	2,078	20.9	0.5	8.4	9.4	2.1	1.4	27.2	4.9	0.3	3.6	1.5	3.8	0.4	1.3	0.6	2.6	1.3	9.8
障がい種別																			
身体障がい	968	21.1	0.7	10.7	5.1	2.4	2.8	35.2	5.3	0.2	0.7	0.3	0.3	0.0	0.4	0.2	1.8	1.3	11.5
知的障がい	400	10.0	0.0	1.3	26.8	0.3	0.3	11.3	7.0	0.5	6.5	2.3	9.0	1.0	5.0	0.5	12.0	0.8	5.8
精神障がい	329	20.4	0.0	6.4	15.8	4.3	0.3	29.8	7.3	0.0	0.3	0.3	1.5	0.3	0.3	0.3	0.9	2.1	9.7
難病（特定疾患）	432	30.3	0.7	12.5	4.6	1.6	0.7	30.8	5.8	0.9	0.9	0.0	0.5	0.2	0.5	0.2	1.4	0.5	7.9
発達障がい	382	12.6	0.0	1.8	15.7	0.8	0.0	8.4	0.5	0.5	15.4	5.8	16.2	1.6	5.0	2.1	6.3	0.5	6.8
強度行動障がい	33	6.1	0.0	0.0	33.3	3.0	0.0	27.3	9.1	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	12.1
高次脳機能障がい	49	12.2	2.0	4.1	14.3	6.1	2.0	26.5	10.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	20.4

【年齢別／平日の日中の過ごし方】

- ▶ 年齢別にみると、50 歳代では「会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている」が 44.8%と他の年齢に比べ高くなっている。また、年齢が高くなるにしたがって「自宅で過ごしている（グループホームを含む）」の割合が高い傾向となっている。

		n																			無回答		(%)
		専業主婦（主夫）をしている																			その他		
		ボランティアなど収入を得ない仕事をしている																			特別支援学校に通っている（小・中・高等部）		
		会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている																			高等学校に通っている		
		中学校（特別支援学級）に通っている																			中学校（通常学級）に通っている		
		小学校（特別支援学級）に通っている																			小学校（通常学級）に通っている		
		幼稚園、保育所、認定こども園、障がい児の通所支援（児童発達支援事業所など）に通っている																			大学、専門学校、職業訓練校などに通っている		
		入所施設や病院などで過ごしている																			自宅で過ごしている（グループホームを含む）		
		リハビリテーションを受けている																			病院などのデイケアに通っている		
		福祉施設（通所施設）に通っている（生活介護、就労継続支援A型、B型など）																			福祉施設（通所施設）に通っている（生活介護、就労継続支援A型、B型など）		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		
		専業主婦（主夫）をしている																			専業主婦（主夫）をしている		

【同居家族別／平日の日中の過ごし方】

- ▶ 同居家族別にみると、概ね同様の傾向となっている。

		n	得て仕事をしている	ボランティアなど収入を得ない仕事をしている	専業主婦（主夫）をしている	福祉施設（通所施設）に通っている（生活介護、就労継続支援A型、B型など）	福祉施設（通所施設）に通っている（生活介護、就労継続支援A型、B型など）	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている（グループホームを含む）	入所施設や病院などで過ごしている	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	幼稚園、保育所、認定こども園、障がい児の通所支援（児童発達支援事業所など）に通っている	小学校（通常学級）に通っている	小学校（特別支援学級）に通っている	中学校（通常学級）に通っている	中学校（特別支援学級）に通っている	高等学校に通っている	特別支援学校に通っている（小・中・高等部）	その他	無回答
全 体		2,078	20.9	0.5	8.4	9.4	2.1	1.4	27.2	4.9	0.3	3.6	1.5	3.8	0.4	1.3	0.6	2.6	1.3	9.8	
同居家族別	父母	683	17.4	0.0	2.3	16.3	0.4	0.3	17.1	0.4	0.7	10.5	4.5	10.8	1.2	3.8	1.6	7.5	0.9	4.1	
	配偶者（夫または妻）	766	30.3	1.2	17.9	2.9	2.1	2.3	28.5	1.7	0.0	0.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	11.5	
	祖父母	98	15.3	1.0	3.1	10.2	1.0	1.0	9.2	0.0	0.0	14.3	2.0	12.2	1.0	7.1	7.1	10.2	0.0	5.1	
	子ども	432	28.2	0.9	16.9	3.9	3.5	2.3	31.9	1.2	0.0	0.9	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	9.3	
	兄弟姉妹	355	14.4	0.0	0.0	13.0	0.6	0.3	14.9	0.3	0.3	10.1	7.0	15.8	2.3	5.6	1.7	9.9	0.3	3.7	
	その他	90	17.8	1.1	8.9	8.9	5.6	4.4	33.3	4.4	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	4.4	5.6
	いない（一人で暮らしている）	438	15.8	0.0	3.4	11.4	3.2	1.1	33.1	17.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	2.1	11.4

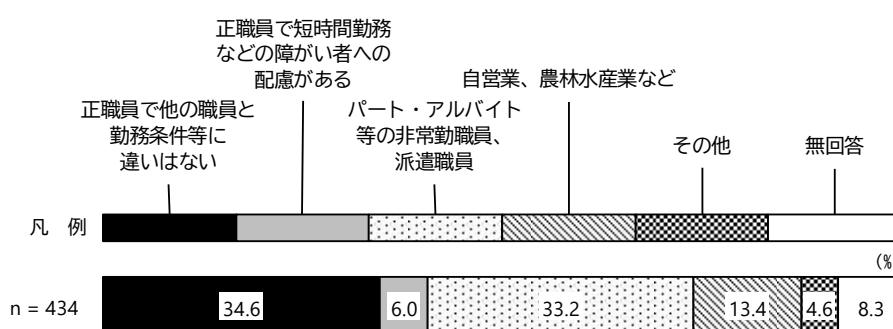
6 就労について

（１）勤務形態

- ▶ 勤務形態について、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が 34.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」（33.2%）、「自営業、農林水産業など」（13.4%）となっている。

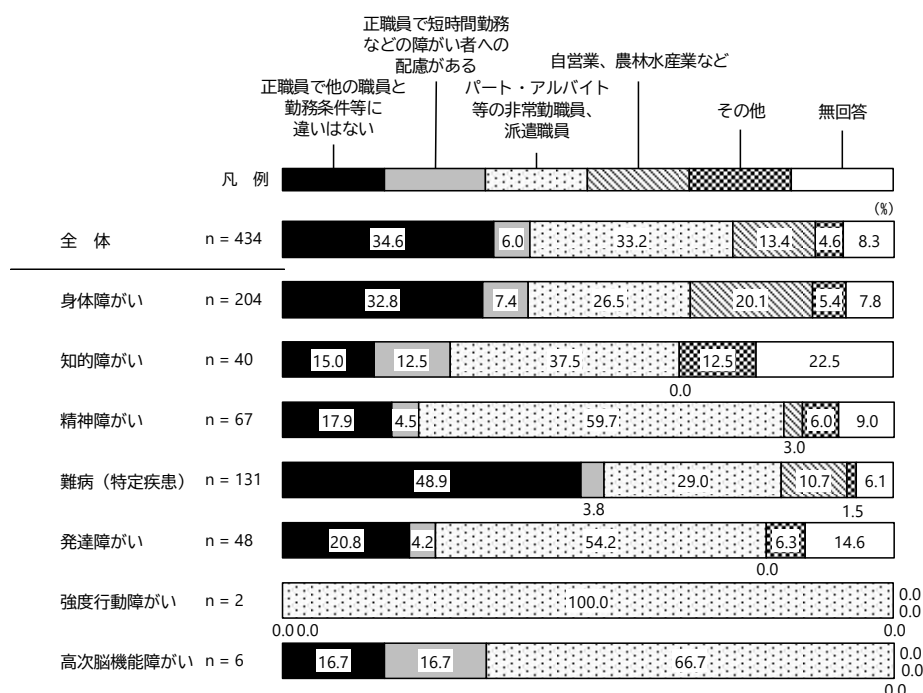
【現在収入を得て仕事をしている方にお聞きします。】

問 26 どのような勤務形態で働いていますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／就労形態】

- ▶ 障がい種別にみると、難病（特定疾患）では「正職員で他の職員と勤務条件に違いはない」が 48.9%と他の障がい種に比べて高くなっている。

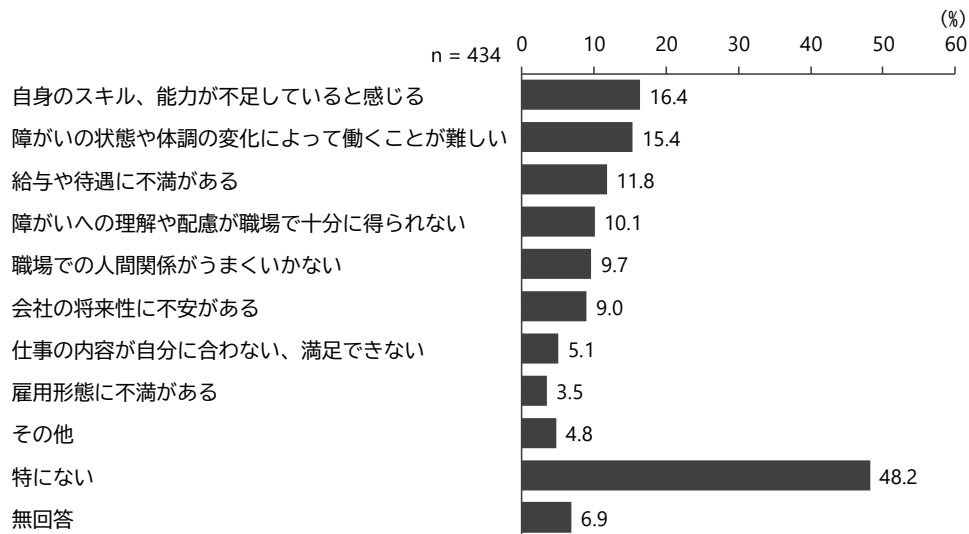


（２）現在の仕事で困っていること

- ▶ 現在の仕事で困っていることについて、「自分のスキル、能力が不足していると感じる」が 16.4%と最も高く、次いで「障がいの状態や体調の変化によって働くことが難しい」（15.4%）、「給与や待遇に不満がある」（11.8%）となっている。一方、「特にない」は 48.2%と約 5 割となっている。

【現在収入を得て仕事をしている方にお聞きします。】

問 27 現在の仕事で困っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／現在の仕事で困っていること】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がいでは「障がいの状態や体調の変化によって働くことが難しい」が 32.8%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、身体障がい、難病（特定疾患）では「特にない」が約 5 割と他の障がい種に比べ高くなっている。

		n	自身のスキル、能力が不足していると感じる	障がいの状態や体調の変化によって働くことが難しい	給与や待遇に不満がある	障がいへの理解や配慮が職場で十分に得られない	職場での人間関係がうまくいかない	会社の将来性に不安がある	仕事の内容が自分に合わない、満足できない	雇用形態に不満がある	その他	特にない	無回答
全 体		434	16.4	15.4	11.8	10.1	9.7	9.0	5.1	3.5	4.8	48.2	6.9
障がい種別	身体障がい	204	10.3	11.3	8.3	8.3	4.9	8.3	2.5	2.0	2.0	55.9	9.8
	知的障がい	40	30.0	17.5	17.5	25.0	22.5	12.5	10.0	7.5	7.5	32.5	10.0
	精神障がい	67	37.3	32.8	14.9	16.4	25.4	14.9	11.9	4.5	9.0	23.9	7.5
	難病（特定疾患）	131	13.0	19.8	9.9	6.1	5.3	5.3	3.8	3.8	8.4	48.9	0.8
	発達障がい	48	37.5	14.6	22.9	20.8	22.9	10.4	2.1	6.3	4.2	33.3	4.2
	強度行動障がい	2	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障がい	6	33.3	33.3	16.7	50.0	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	0.0

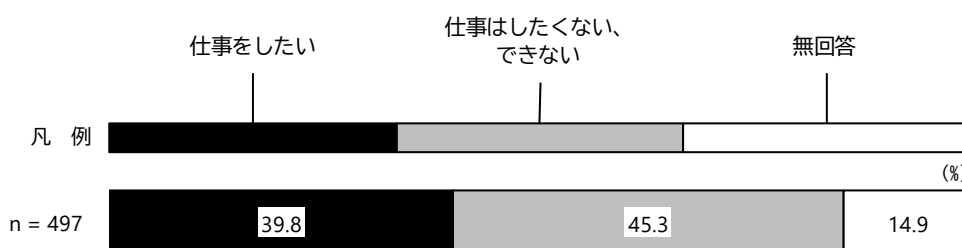
（３）今後、収入を得る仕事をしたいか

- ▶ 今後、収入を得る仕事をしたいかについて、「仕事はしたくない、できない」は 45.3%、「仕事をしたい」は 39.8%となっている。

【現在収入を得る仕事をしていない 18 歳から 64 歳の方にお聞きします。】

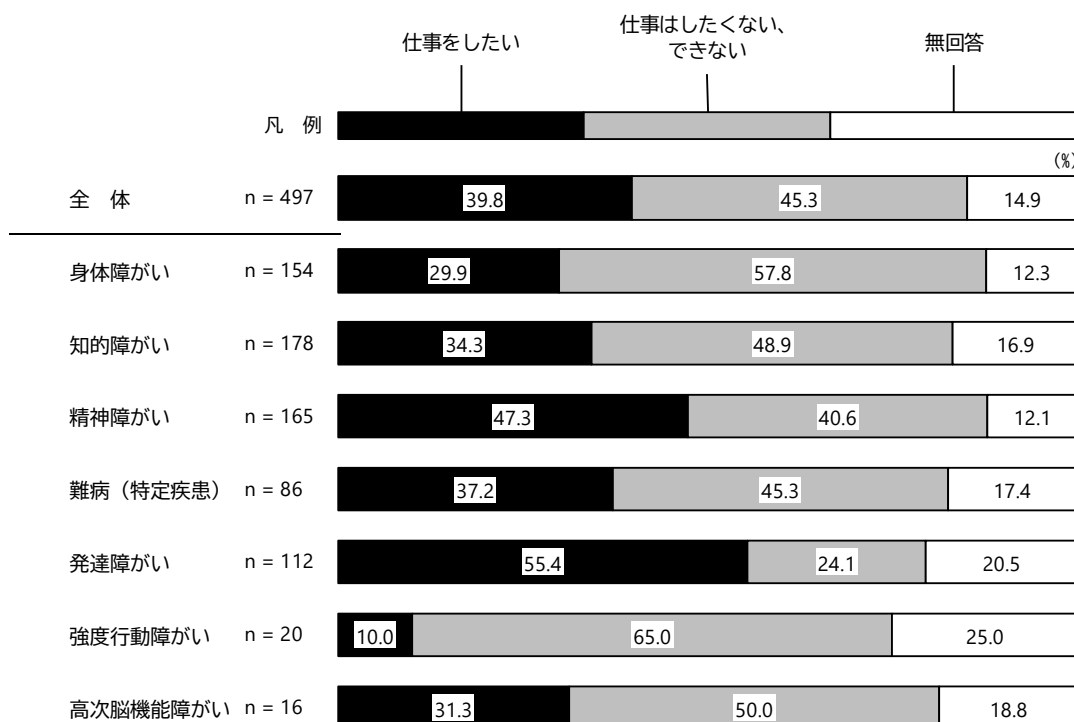
問 28 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。

（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／今後、収入を得る仕事をしたいか】

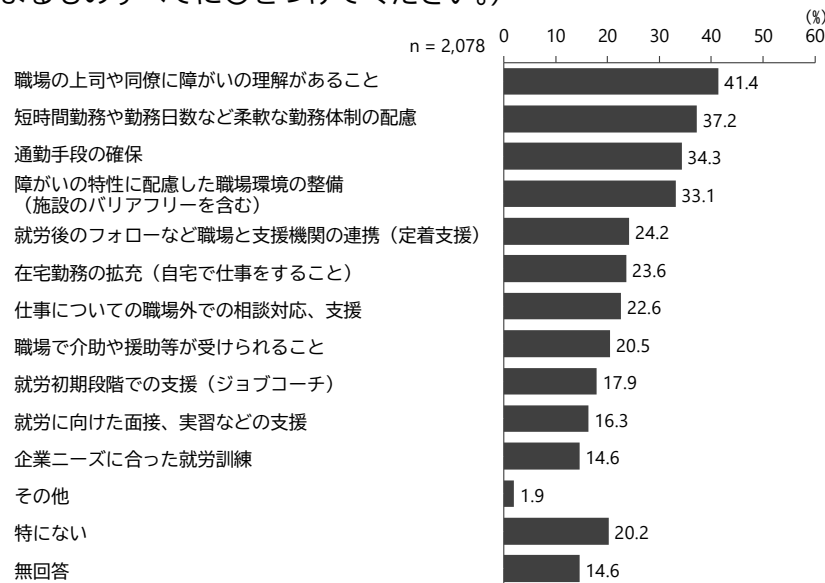
- ▶ 障がい種別にみると、発達障がいでは「仕事をしたい」が 55.4%と他の年代に比べ高くなっている。一方、強度行動障がいでは「仕事はしたくない、できない」が 65.0%と 6 割以上となっている。



（４）必要だと思う障がい者の就労支援

- ▶ 必要だと思う障がい者の就労支援について、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 41.4% と最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数など柔軟な勤務体制の配慮」（37.2%）、「通勤手段の確保」（34.3%）となっている。一方、「特にない」は 20.2%と 2 割以上となっている。

問 29 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／必要だと思う障がい者の就労支援】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がいでは「通勤手段の確保」が 54.5%、発達障がいでは「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 68.3%、「短時間勤務や勤務日数など柔軟な勤務体制の配慮」が 54.5%、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（定着支援）」が 51.8%、「仕事についての職場外での相談対応、支援」が 49.5%、「就労初期段階での支援（ジョブコーチ）」が 42.1%、「企業ニーズに合った就労訓練」が 32.5%、強度行動障がいでは「職場で介助や援助等が受けられること」が 42.4%と他の障がい種に比べ高くなっている。

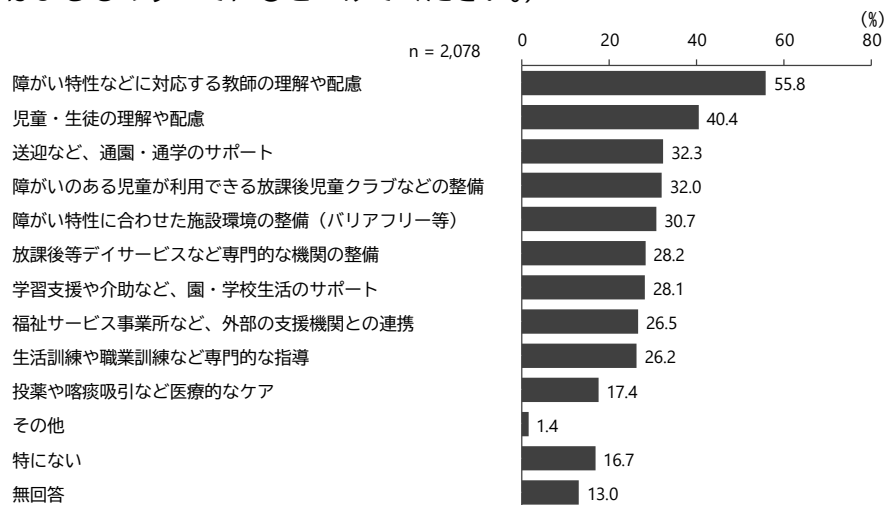
															(%)		
		n	解があること	職場の上司や同僚に障がいの理解があること	短時間勤務や勤務日数など柔軟な勤務体制の配慮	通勤手段の確保	障がいの特性に配慮した職場環境の整備（施設のパリアフリーを含む）	就労後のフォロー（定着支援）	在宅勤務の拡充（自宅です仕事をする）	仕事についての職場外での相談対応、支援	職場で介助や援助等が受けられること	就労初期段階での支援（ジョブコーチ）	就労に向けた面接、実習などの支援	企業ニーズに合った就労訓練	その他	特にない	無回答
全 体		2,078	41.4	37.2	34.3	33.1	24.2	23.6	22.6	20.5	17.9	16.3	14.6	1.9	20.2	14.6	
障がいの種類別	身体障がい	968	31.9	30.3	30.3	30.1	16.2	22.9	14.2	16.5	11.2	10.1	10.8	1.0	25.2	18.6	
	知的障がい	400	55.5	45.8	54.5	42.8	41.3	19.8	34.8	37.3	31.3	29.3	23.8	2.5	12.5	9.3	
	精神障がい	329	50.2	47.7	39.5	35.3	31.0	28.3	32.2	22.5	24.0	22.2	16.1	5.5	13.7	9.4	
	難病（特定疾患）	432	42.8	40.5	35.0	38.2	24.8	28.0	22.7	22.9	17.1	15.5	16.4	2.1	17.1	15.0	
	発達障がい	382	68.3	54.5	48.2	50.0	51.8	30.4	49.5	35.3	42.1	40.3	32.5	3.1	7.9	7.1	
	強度行動障がい	33	48.5	42.4	39.4	48.5	30.3	24.2	33.3	42.4	30.3	24.2	24.2	3.0	9.1	30.3	
	高次脳機能障がい	49	36.7	26.5	42.9	34.7	22.4	18.4	22.4	24.5	18.4	12.2	14.3	0.0	16.3	20.4	

7 教育について

（１）保育所・幼稚園・学校で必要だと思う支援

- ▶ 保育所・幼稚園・学校で必要だと思う支援について、「障がい特性などに対応する教師の理解や配慮」が55.8%と最も高く、次いで「児童・生徒の理解や配慮」（40.4%）、「送迎など、通園・通学のサポート」（32.3%）となっている。

問 30 あなたは、保育所・幼稚園・学校でどのような支援が必要だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／保育所・幼稚園・学校で、必要だと思う支援】

- ▶ 障がい種別にみると、発達障がいでは「障がいの特性などに対応する教師の理解や配慮」が85.1%、「児童・生徒の理解や配慮」が65.2%、「障がいのある児童が利用できる放課後児童クラブなどの整備」が50.5%、「放課後等デイサービスなど専門的な機関の整備」が52.9%、「福祉サービス事業所など、外部の支援機関との連携」が45.0%、「生活訓練や職業訓練など専門的な指導」が46.1%と他の障がい種に比べ高くなっている。

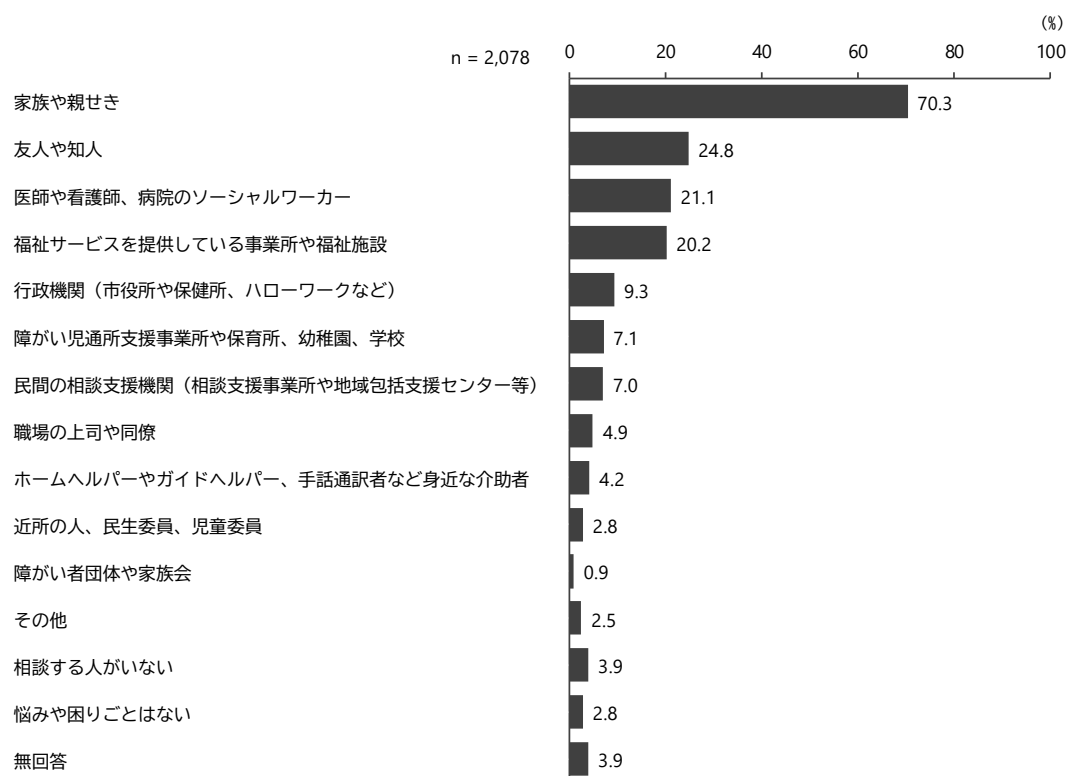
		n	の障がい特性などに対応する教師の理解や配慮	児童・生徒の理解や配慮	送迎など、通園・通学のサポート	障がいのある児童が利用できる放課後児童クラブなどの整備	障がい特性に合わせた施設環境の整備（バリアフリー等）	放課後等デイサービスなど専門的な機関の整備	学習支援や介助など、園・学校生活のサポート	福祉サービス事業所など、外部の支援機関との連携	生活訓練や職業訓練など専門的な指導	ア投薬や喀痰吸引など医療的なケア	その他	特にない	無回答
全 体		2,078	55.8	40.4	32.3	32.0	30.7	28.2	28.1	26.5	26.2	17.4	1.4	16.7	13.0
障がい種別	身体障がい	968	48.1	32.4	30.4	27.5	31.6	21.9	20.6	21.9	20.9	18.0	0.9	19.6	16.0
	知的障がい	400	72.3	50.0	45.8	43.5	33.5	43.3	38.3	39.5	37.3	19.0	2.8	8.8	6.3
	精神障がい	329	60.8	39.8	28.3	30.1	33.4	26.4	28.3	28.6	30.4	20.1	2.7	18.8	10.0
	難病（特定疾患）	432	55.8	43.3	37.7	36.3	37.0	30.1	28.9	28.9	27.8	24.3	1.4	15.0	13.9
	発達障がい	382	85.1	65.2	41.9	50.5	38.2	52.9	53.1	45.0	46.1	22.0	3.4	3.4	3.4
	強度行動障がい	33	60.6	57.6	48.5	45.5	48.5	45.5	45.5	39.4	33.3	30.3	9.1	3.0	27.3
	高次脳機能障がい	49	63.3	44.9	44.9	42.9	46.9	26.5	38.8	32.7	34.7	26.5	0.0	8.2	14.3

8 相談・情報について

（１）悩みや困ったときなどの相談先

- ▶ 悩みや困ったときなどの相談先について、「家族や親せき」が 70.3%と最も高く、次いで「友人や知人」（24.8%）、「医師や看護師、病院のソーシャルワーカー」（21.1%）となっている。

問 31 あなたは、普段、悩みや困ったときなど、どこ（誰）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／悩みや困ったときなどの相談先】

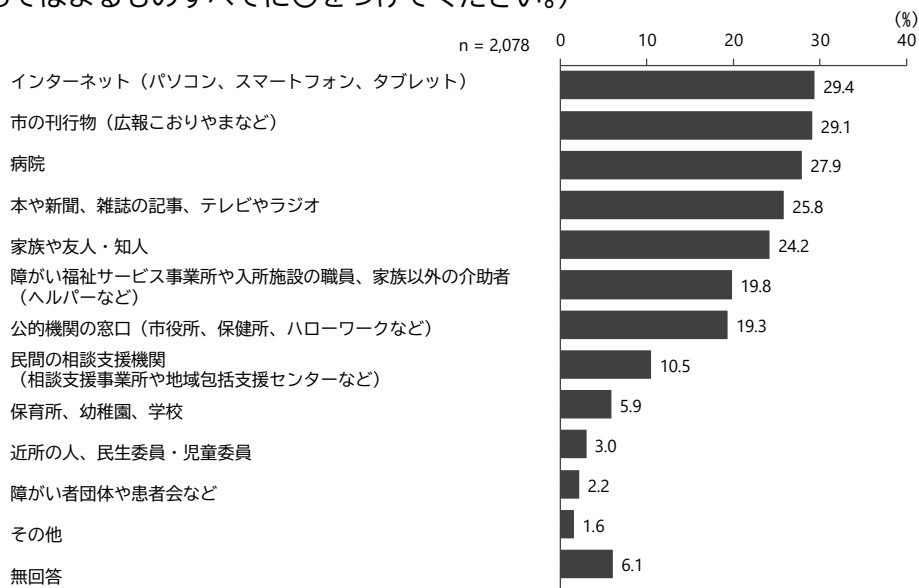
- ▶ 障がい種別にみると、発達障がいでは「家族や親せき」が81.4%、「障がい児通所支援事業所や保育所、幼稚園、学校」が29.1%、強度行動障がいでは「福祉サービスを提供している事業所や福祉施設」が48.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。

		(%)														
	n	家族や親せき	友人や知人	医師や看護師、病院のソーシャルワーカー	福祉サービスを提供している事業所や福祉施設	行政機関（市役所や保健所、ハローワークなど）	障がい児通所支援事業所や保育所、幼稚園、学校	民間の相談支援機関（相談支援事業所や地域包括支援センター等）	職場の上司や同僚	ホームヘルパーやガイドヘルパー、手話通訳者など身近な介助者	近所の人、民生委員、児童委員	障がい者団体や家族会	その他	相談する人がいない	悩みや困りごとはない	無回答
全 体	2,078	70.3	24.8	21.1	20.2	9.3	7.1	7.0	4.9	4.2	2.8	0.9	2.5	3.9	2.8	3.9
障がい種別	身体障がい	968	70.0	25.9	17.9	11.3	2.1	7.1	3.7	5.3	3.2	1.0	1.5	3.8	3.4	3.8
	知的障がい	400	71.8	18.5	18.8	9.8	17.5	12.8	5.0	3.0	1.5	1.5	1.8	2.8	1.3	2.5
	精神障がい	329	60.2	26.7	39.8	11.6	0.6	6.7	5.5	6.7	1.5	0.6	3.3	6.7	2.1	2.7
	難病（特定疾患）	432	72.5	28.9	24.1	15.0	9.3	2.1	5.8	6.0	4.6	2.8	1.2	1.9	4.9	3.2
	発達障がい	382	81.4	23.3	25.9	30.4	7.9	29.1	9.9	6.5	2.6	1.6	4.5	2.9	0.8	1.8
	強度行動障がい	33	60.6	15.2	24.2	48.5	12.1	0.0	9.1	3.0	6.1	6.1	3.0	12.1	0.0	12.1
	高次脳機能障がい	49	67.3	16.3	26.5	12.2	0.0	12.2	4.1	12.2	0.0	4.1	6.1	2.0	2.0	6.1

（２）障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先

- ▶ 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先について、「インターネット（パソコン、スマートフォン、タブレット）」が29.4%と最も高く、次いで「市の刊行物（広報こおりやまなど）」（29.1%）、「病院」（27.9%）となっている。

問 32 あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がいでは「市の刊行物（広報こおりやまなど）」が36.1%、精神障がいでは「病院」が42.2%、発達障がいでは「インターネット（パソコン、スマートフォン、タブレット）」が45.5%、「保育所、幼稚園、学校」が24.1%と他の障がい種に比べ高くなっている。

		n	インターネット（パソコン、スマートフォン、タブレット）	市の刊行物（広報こおりやまなど）	病院	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオ	家族や友人・知人	障がい福祉サービス事業所や入所施設の職員、家族以外の介助者（ヘルパーなど）	公的機関の窓口（市役所、保健所、ハローワークなど）	民間の相談支援機関（相談支援事業所や地域包括支援センターなど）	保育所、幼稚園、学校	近所の人、民生委員・児童委員	障がい者団体や患者会など	その他	無回答
全 体		2,078	29.4	29.1	27.9	25.8	24.2	19.8	19.3	10.5	5.9	3.0	2.2	1.6	6.1
障がい種別	身体障がい	968	22.8	36.1	25.6	28.4	23.0	17.3	20.5	9.9	1.2	4.0	2.1	1.1	6.2
	知的障がい	400	28.3	19.0	19.3	16.8	32.5	40.5	20.3	20.3	14.5	2.0	4.3	2.3	5.3
	精神障がい	329	34.3	21.0	42.2	26.1	21.0	23.7	20.7	10.3	2.1	0.9	1.5	2.4	5.5
	難病（特定疾患）	432	33.8	31.0	33.1	30.3	23.6	14.4	21.1	7.4	1.9	3.0	2.3	1.4	4.9
	発達障がい	382	45.5	15.2	27.7	17.0	33.0	31.4	20.4	17.8	24.1	1.3	3.7	0.5	5.2
	強度行動障がい	33	21.2	24.2	24.2	30.3	27.3	36.4	21.2	15.2	9.1	0.0	6.1	0.0	9.1
	高次脳機能障がい	49	22.4	24.5	30.6	28.6	34.7	26.5	12.2	22.4	0.0	2.0	6.1	0.0	6.1

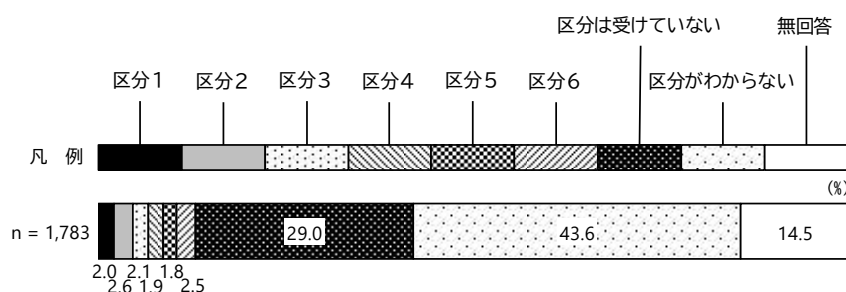
9 障がい福祉サービス等の利用について

（１）障がい支援区分の認定を受けているか

- ▶ 障がい支援区分の認定を受けているかについて、「区分 2」が 2.6%と最も高く、次いで「区分 6」（2.5%）、「区分 1」（2.0%）となっている。一方、「区分は受けていない」は 29.0%、「区分がわからない」は 43.6%と 4 割以上となっている。

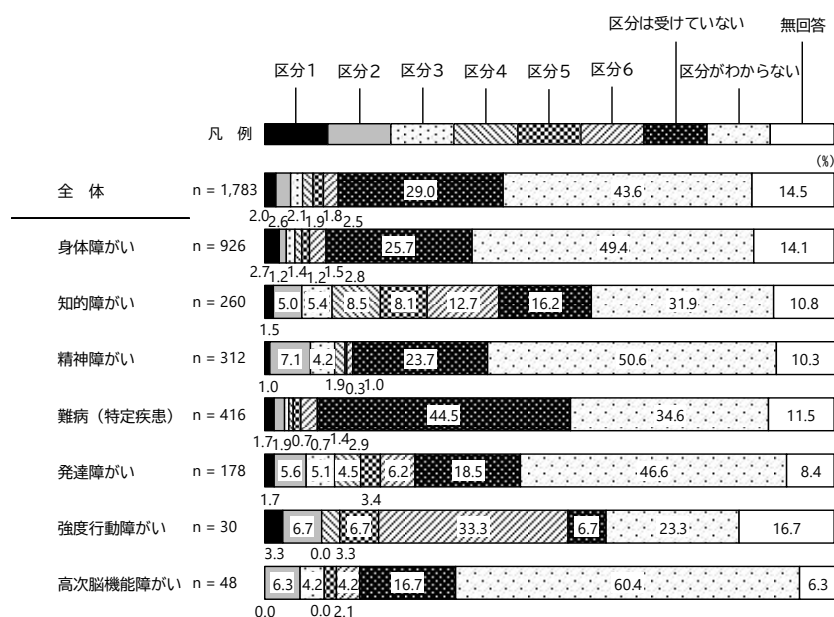
【18 歳以上の方にお聞きします。】

問 33 あなたは、障がい支援区分の認定を受けていますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／障がい支援区分の認定を受けているか】

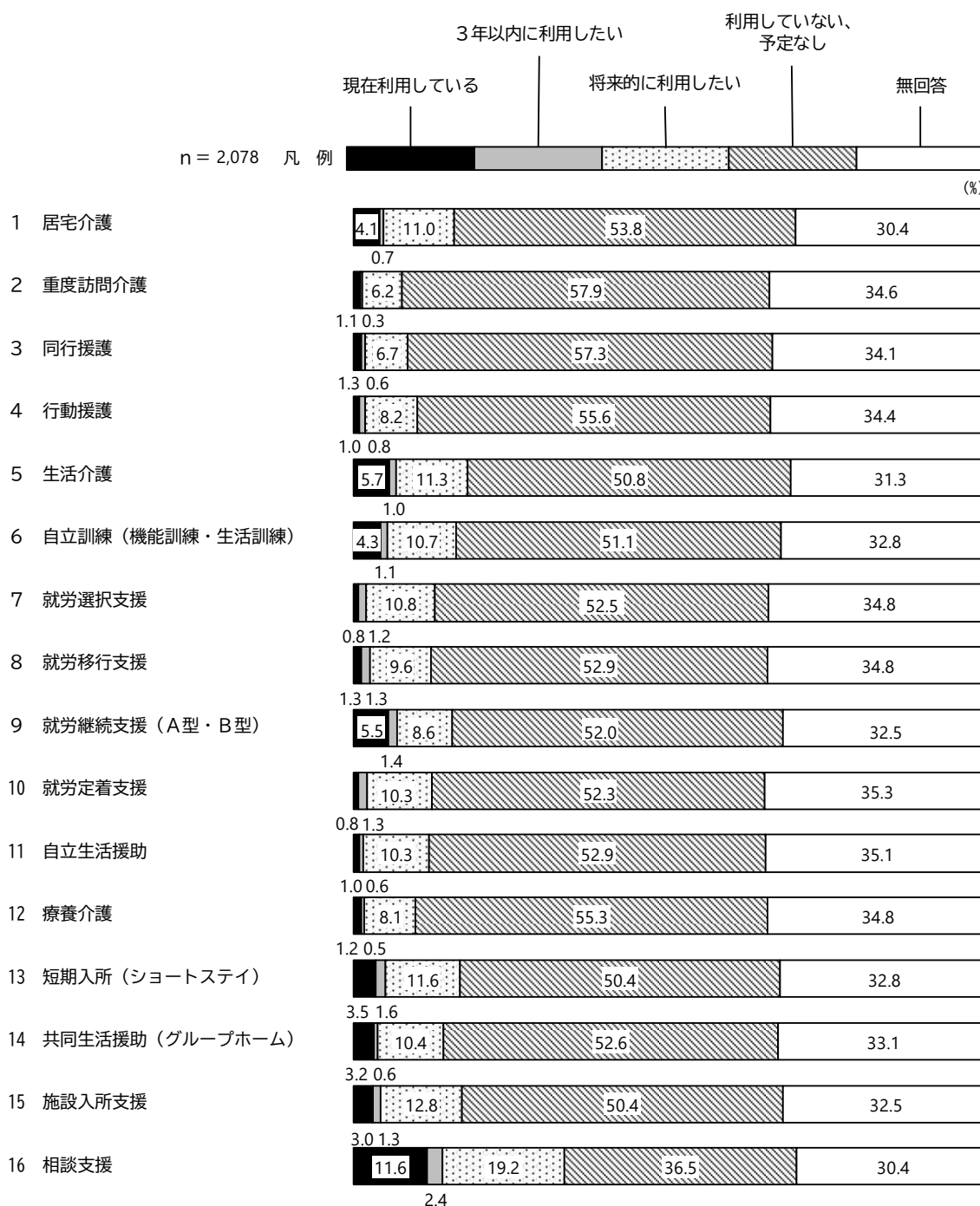
- ▶ 障がい種別にみると、知的障がいでは「区分 6」が 12.7%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、難病（特定疾患）では「区分は受けていない」が 44.5%、高次脳機能障がいでは「区分がわからない」が 60.4%と他の障がい種に比べ高くなっている。



（２）利用している、今後利用したい障がい福祉サービス

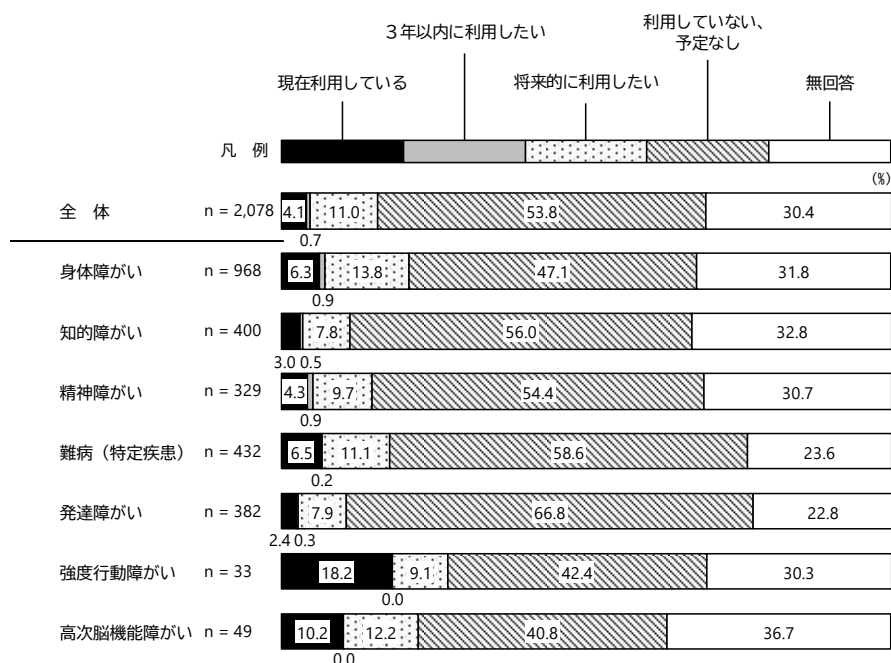
- ▶ 利用している、今後利用したい障がい福祉サービスについて、『16 相談支援』では「将来的に利用したい」が 19.2%と他の項目に比べ高くなっている。

問 34 あなたは、次の障がい福祉サービスを利用していますか。また、今後利用したいですか。1～16 のサービスそれぞれについて、あてはまるものひとつに○をつけてください。



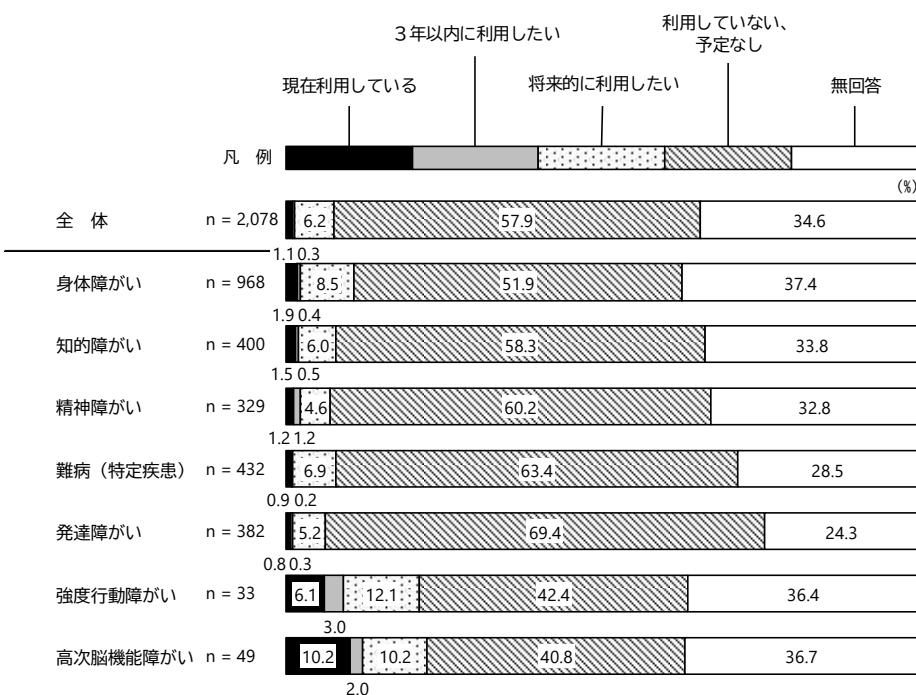
【1 居宅介護：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「現在利用している」が18.2%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が66.8%と他の障がい種に比べ高くなっている。



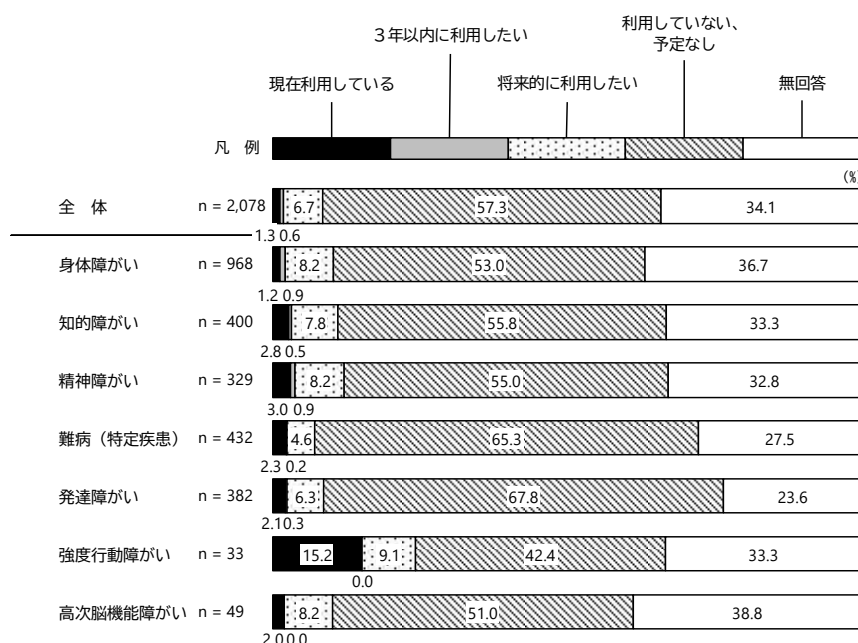
【2 重度訪問介護：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がい、高次脳機能障がいでは「将来的に利用したい」が1割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が69.4%と他の障がい種に比べ高くなっている。



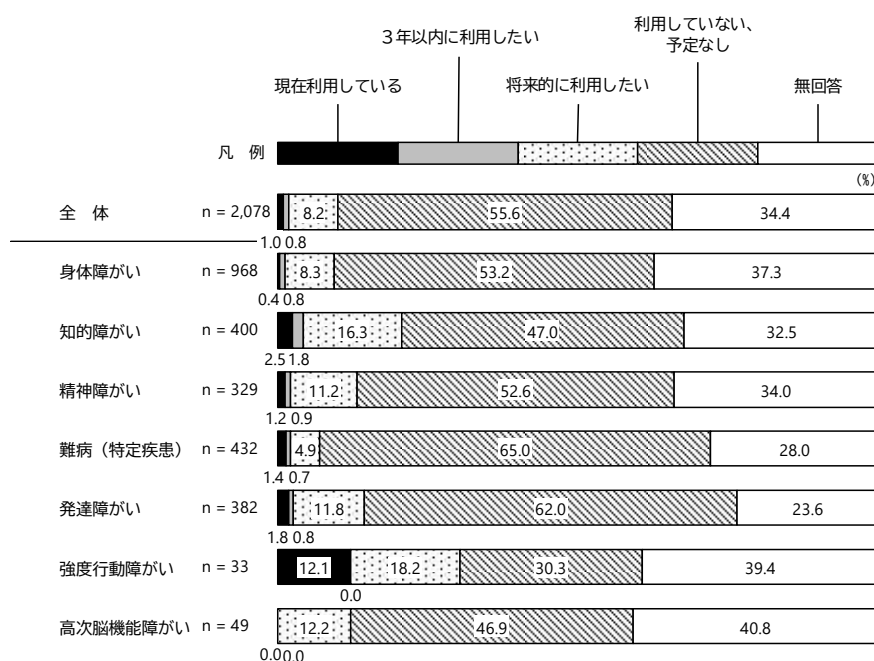
【3 同行援護：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「現在利用している」が15.2%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が67.8%と他の障がい種に比べ高くなっている。



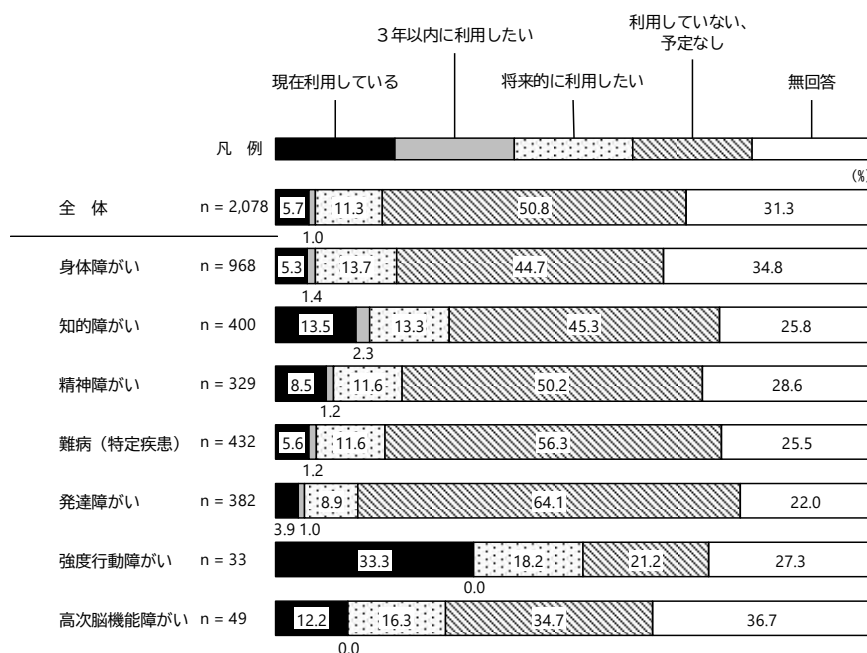
【4 行動援護：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「現在利用している」が12.1%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、難病（特定疾患）、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が6割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。



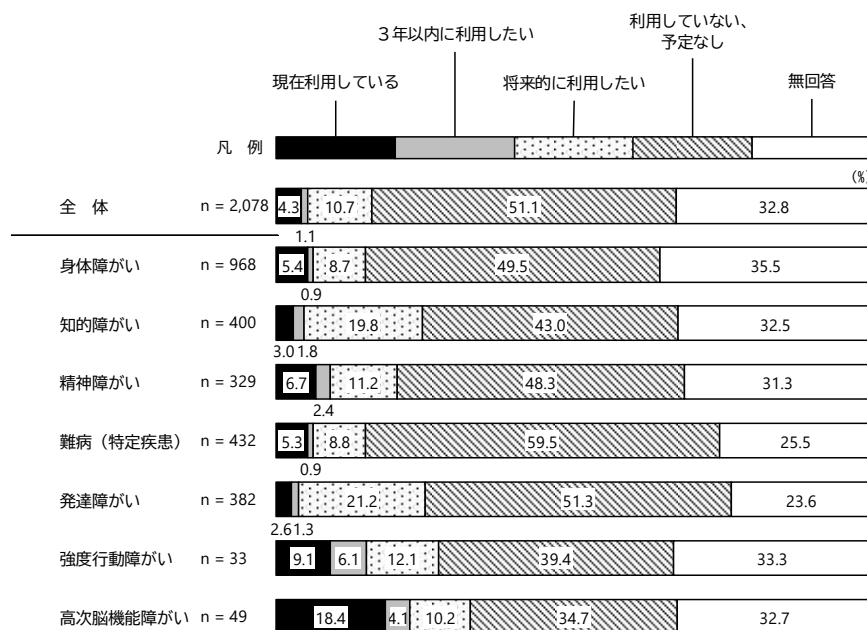
【5 生活介護：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「現在利用している」が33.3%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、難病（特定疾患）、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が約6割と他の障がい種に比べ高くなっている。



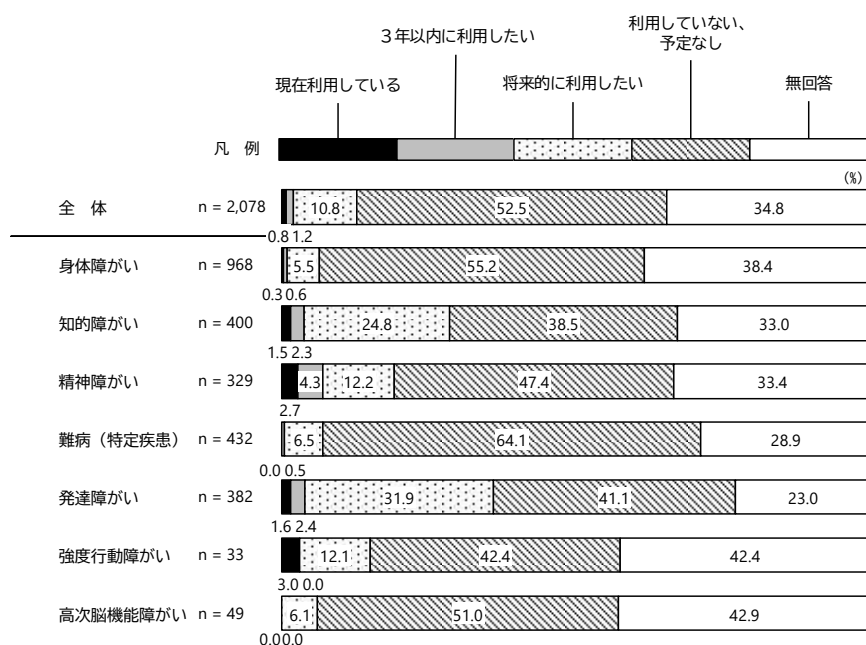
【6 自立訓練（機能訓練・生活訓練）：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「現在利用している」が18.4%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、難病（特定疾患）では「利用していない、予定なし」が59.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。



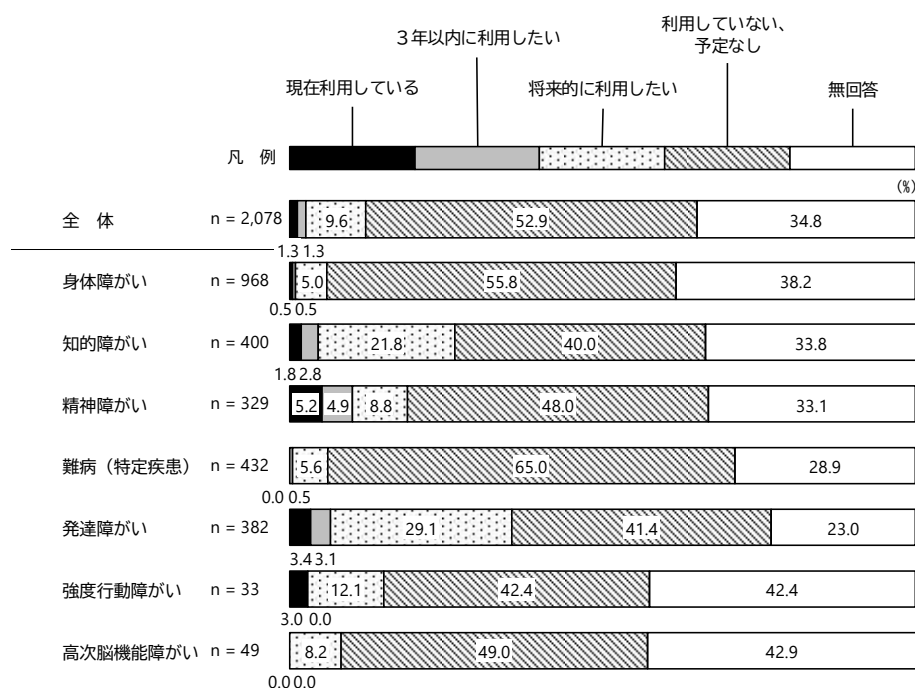
【7 就労選択支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、発達障がいでは「将来的に利用したい」が31.9%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、身体障がい、難病（特定疾患）では「利用していない、予定なし」が約6割と他の障がい種に比べ高くなっている。



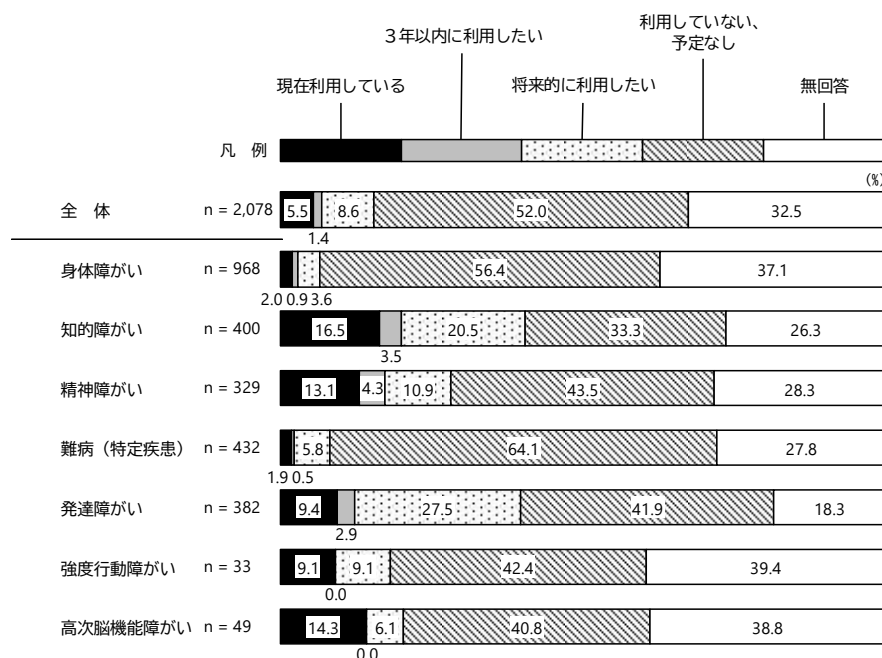
【8 就労移行支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、発達障がいでは「将来的に利用したい」が29.1%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、難病（特定疾患）では「利用していない、予定なし」が65.0%と他の障がい種に比べ高くなっている。



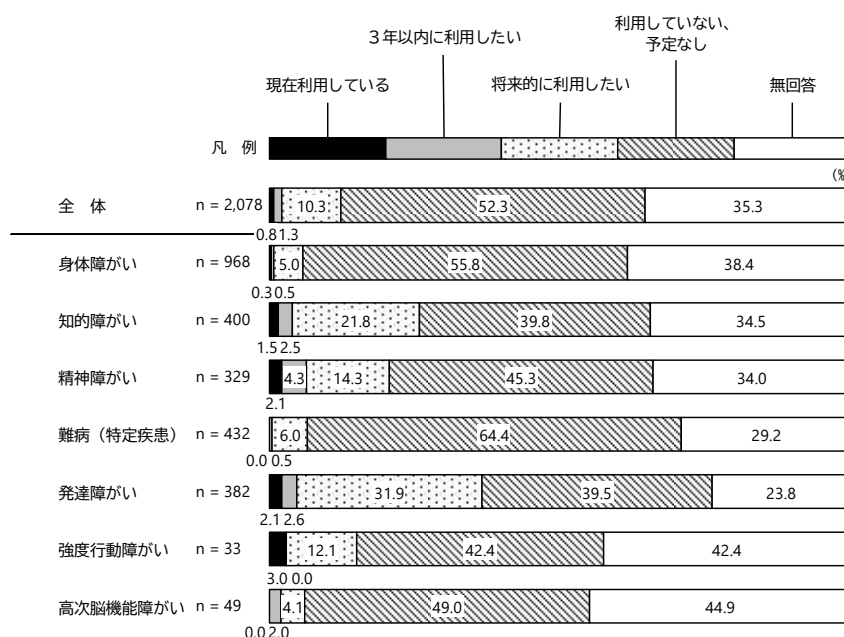
【9 就労継続支援（A型・B型）：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、発達障がいでは「将来的に利用したい」が27.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、身体障がい、難病（特定疾患）では「利用していない、予定なし」が約6割と他の障がい種に比べ高くなっている。



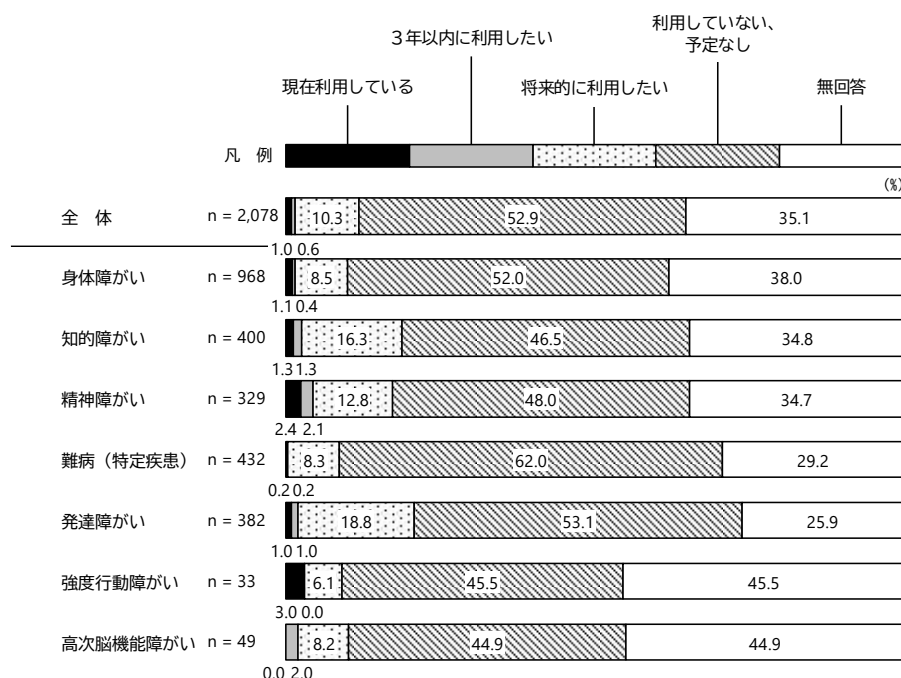
【10 就労定着支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、発達障がいでは「将来的に利用したい」が31.9%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、身体障がい、難病（特定疾患）では「利用していない、予定なし」が約6割と他の障がい種に比べ高くなっている。



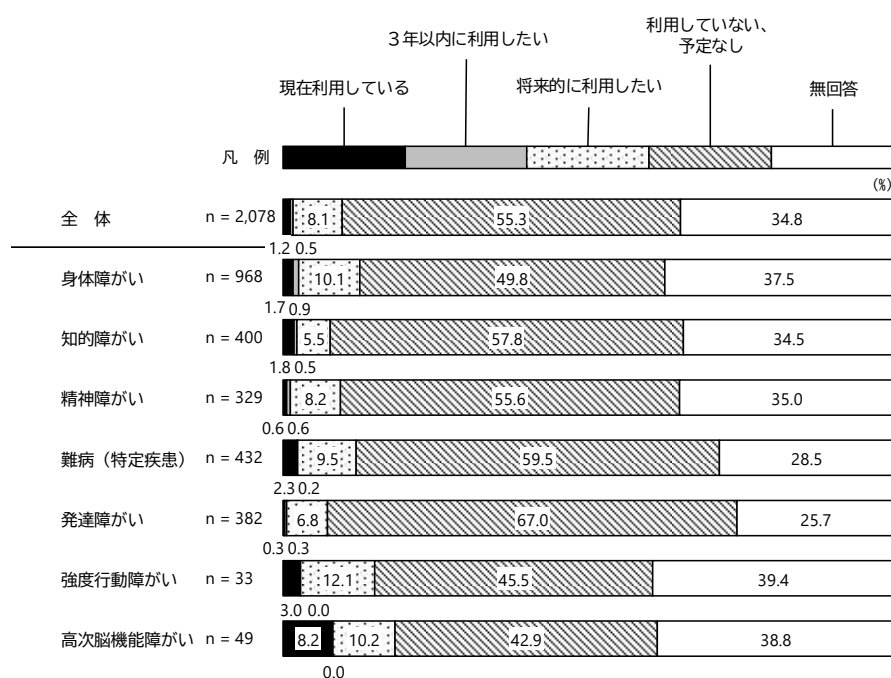
【11 自立生活援助：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- 障がい種別にみると、難病（特定疾患）では「利用していない、予定なし」が62.0%と他の障がい種に比べ高くなっている。



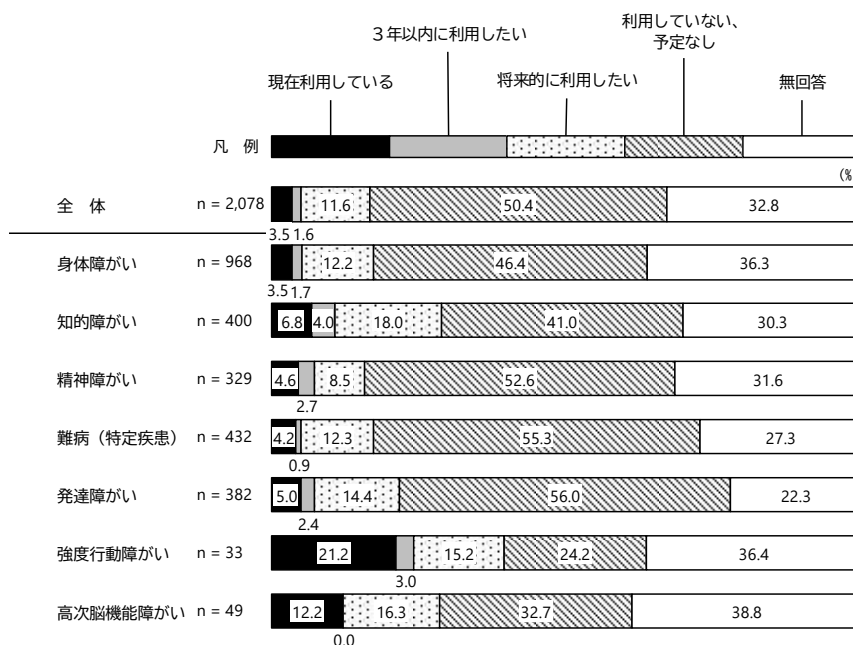
【12 療養介護：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- 障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「現在利用している」が8.2%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が67.0%と他の障がい種に比べ高くなっている。



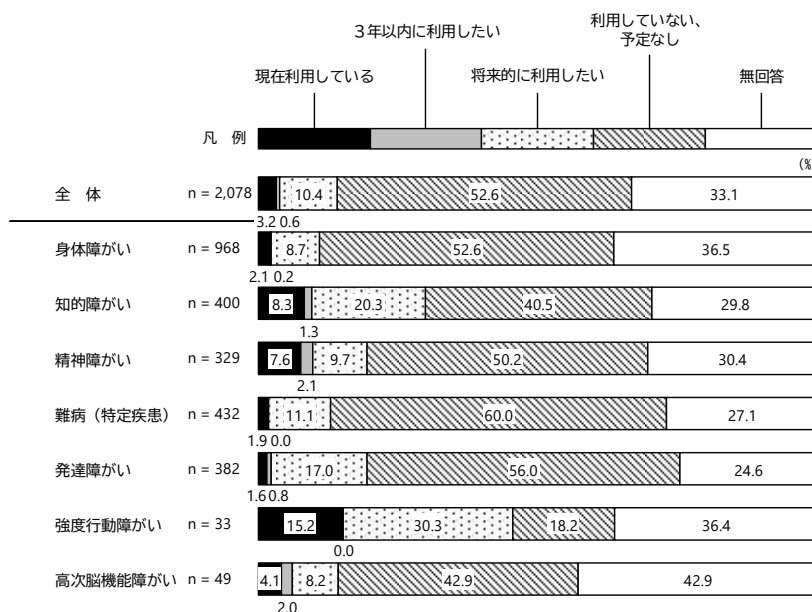
【13 短期入所（ショートステイ）：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「現在利用している」が21.2%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、難病（特定疾患）、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が約6割と他の障がい種に比べ高くなっている。



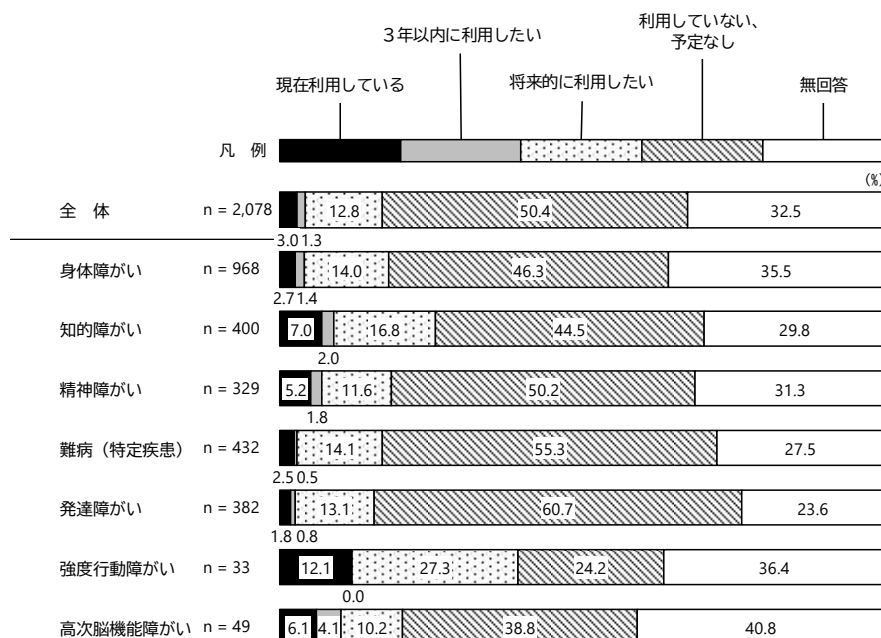
【14 共同生活援助（グループホーム）：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「現在利用している」が15.2%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、難病（特定疾患）、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が約6割と他の障がい種に比べ高くなっている。



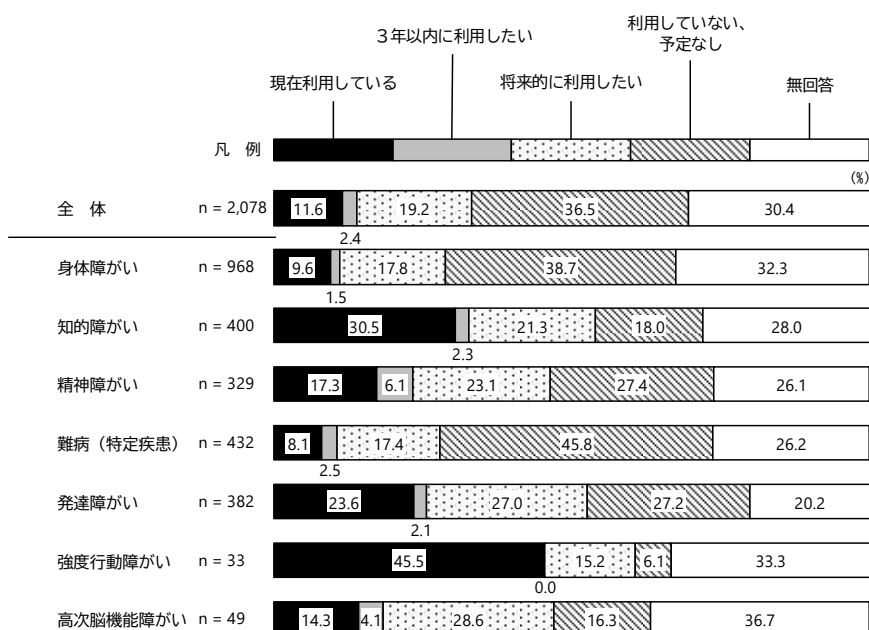
【15 施設入所支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「現在利用している」が12.1%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、難病（特定疾患）、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が約6割と他の障がい種に比べ高くなっている。



【16 相談支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい福祉サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「現在利用している」が45.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、難病（特定疾患）では「利用していない、予定なし」が45.8%と他の障がい種に比べ高くなっている。

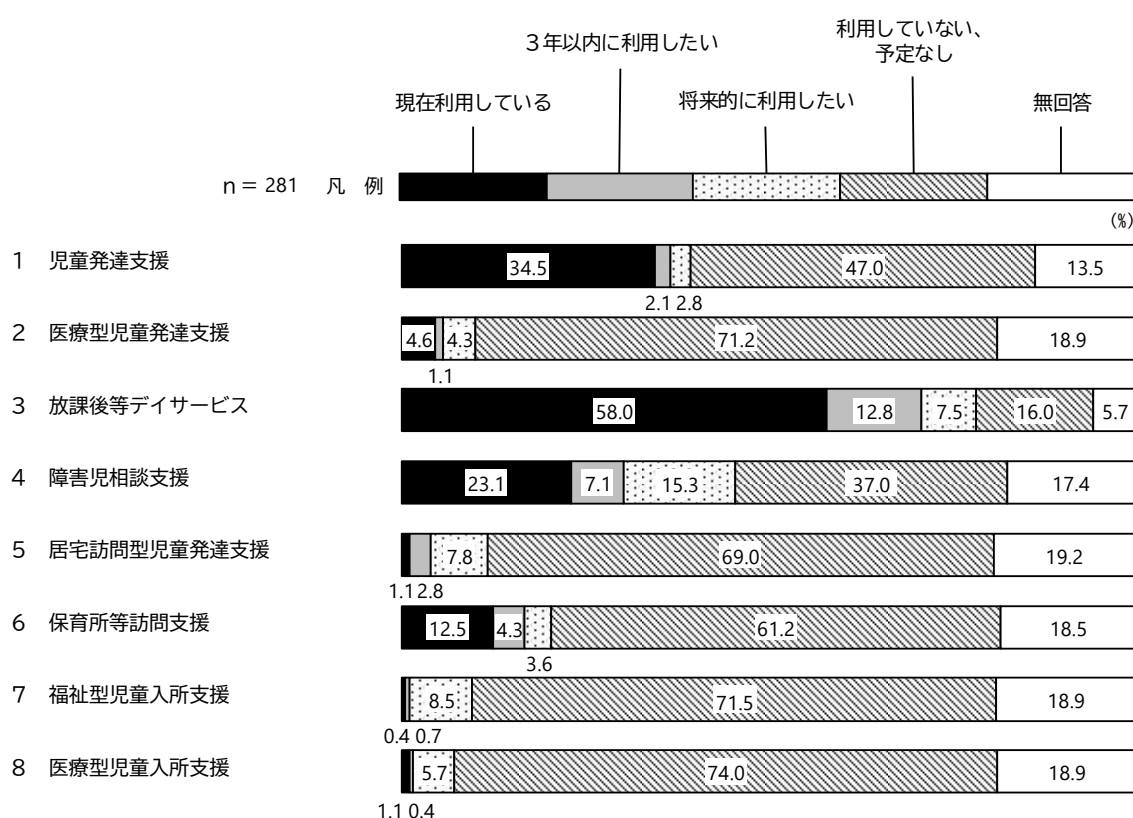


（３）利用している、今後利用したい障がい児支援サービス

- ▶ 利用している、今後利用したい障がい児支援サービスについて、『３ 放課後等デイサービス』では「現在利用している」が 58.0%、『４ 障害児相談支援』では「将来的に利用したい」が 15.3%と他の項目に比べ高くなっている。一方、『２ 医療型児童発達支援』、『５ 居宅訪問型児童発達支援』、『７ 福祉型児童入所支援』、『８ 医療型児童入所支援』では「利用していない、予定なし」が約 7 割と他の項目に比べ高くなっている。

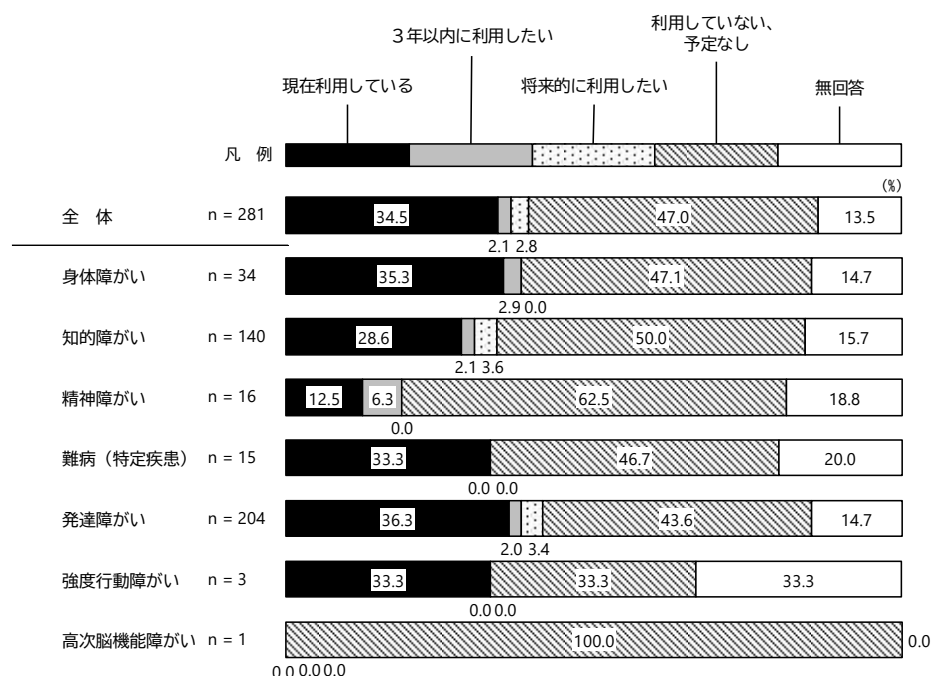
【18 歳未満の方にお聞きします。】

問 35 あなたは、次の障がい児支援サービスを利用していますか。また、今後利用したいですか。
1～8のサービスそれぞれについて、あてはまるものひとつに○をつけてください。



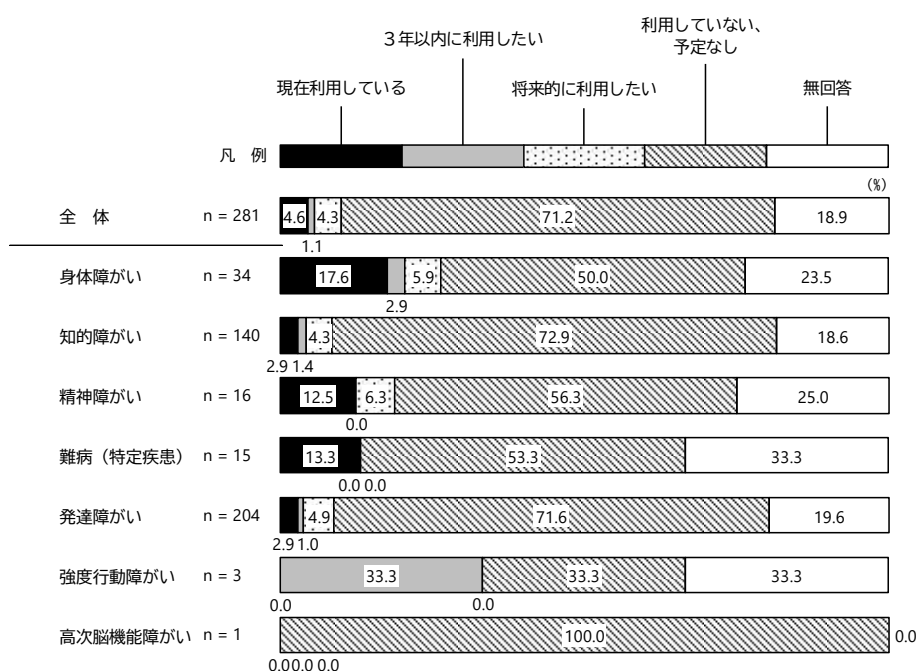
【1 児童発達支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい児支援サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がい、発達障がいでは「現在利用している」が約4割と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、精神障がいでは「利用していない、予定なし」が62.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。



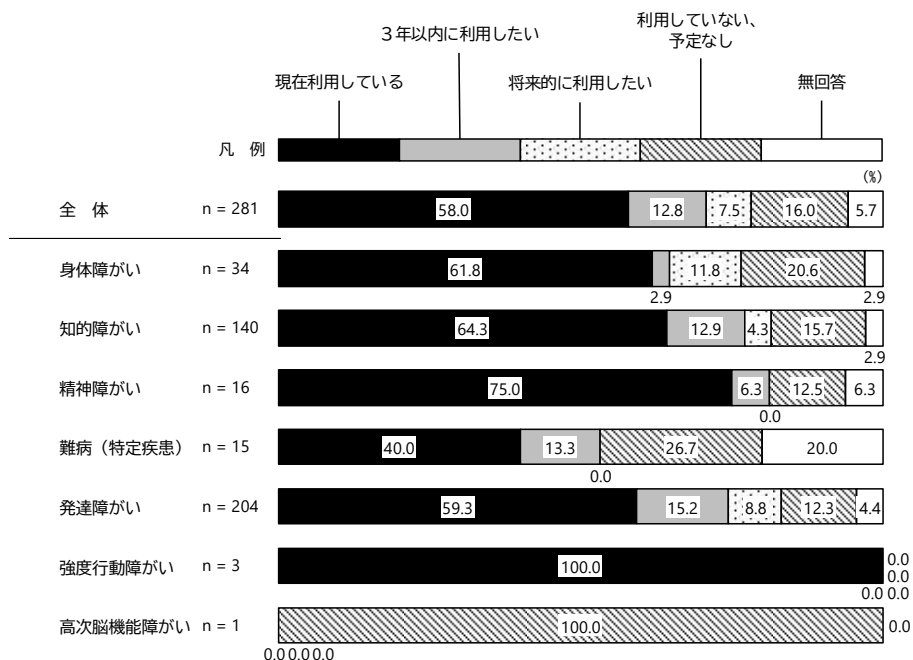
【2 医療型児童発達支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい児支援サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がい、精神障がい、難病（特定疾患）では「現在利用している」が1割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、知的障がい、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が7割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。



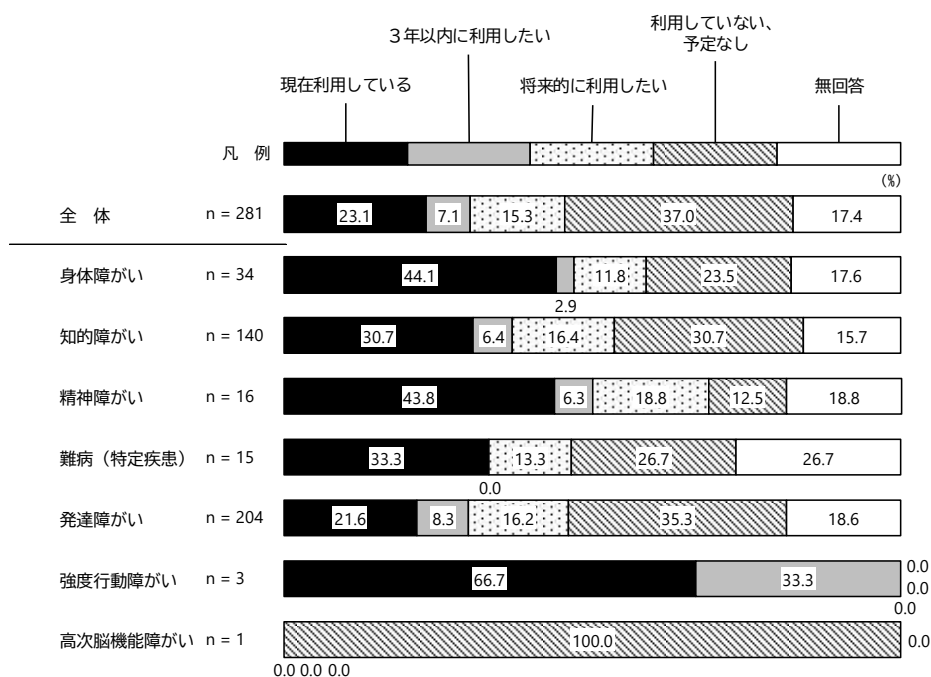
【3 放課後等デイサービス：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい児支援サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がいでは「現在利用している」が75.0%と他の障がい種に比べ高くなっている。



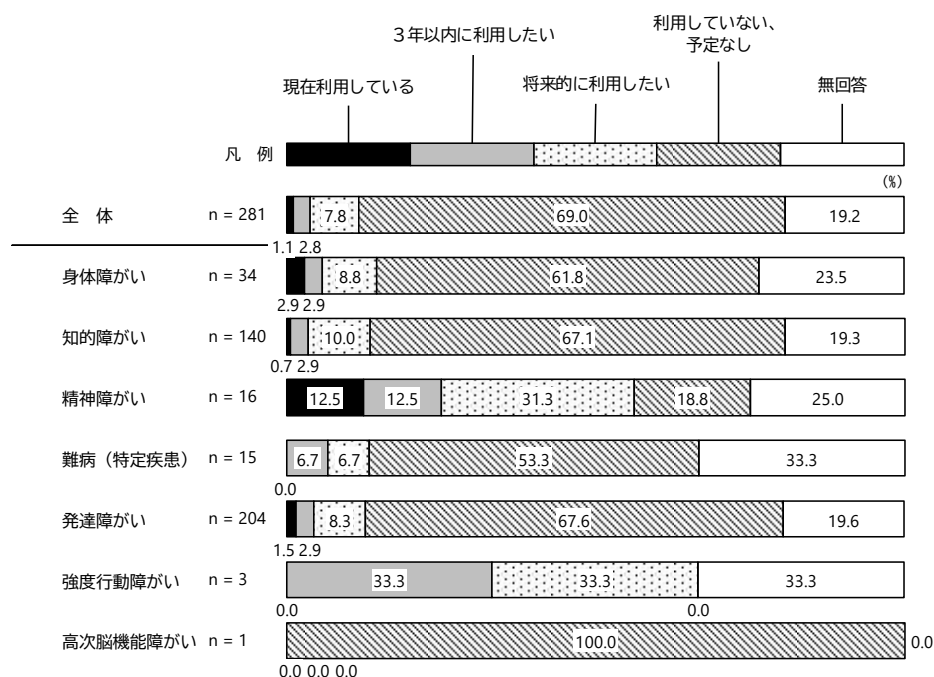
【4 障害児相談支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい児支援サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がい、精神障がいでは「現在利用している」が4割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が35.3%と他の障がい種に比べ高くなっている。



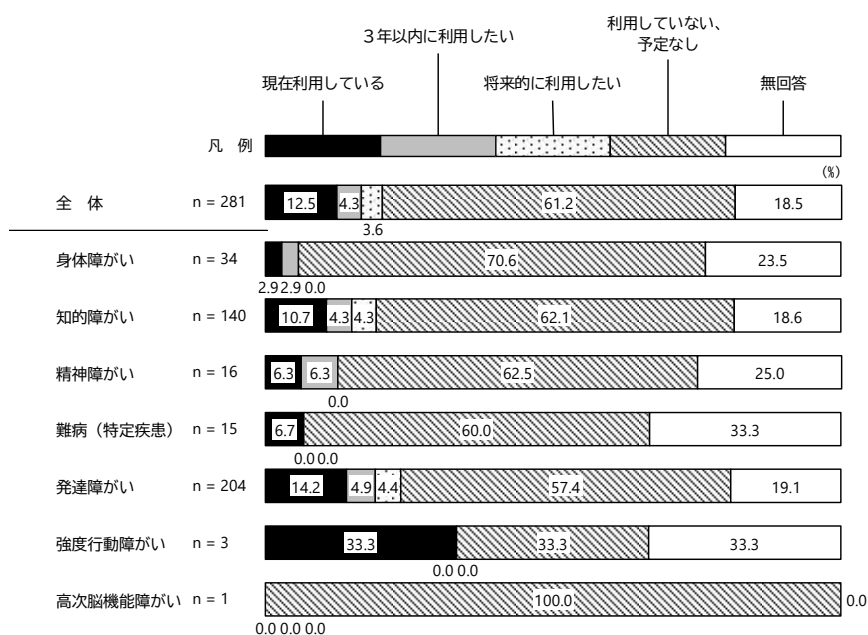
【5 居宅訪問型児童発達支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい児支援サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がいでは「現在利用している」が12.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、知的障がい、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が約7割と他の障がい種に比べ高くなっている。



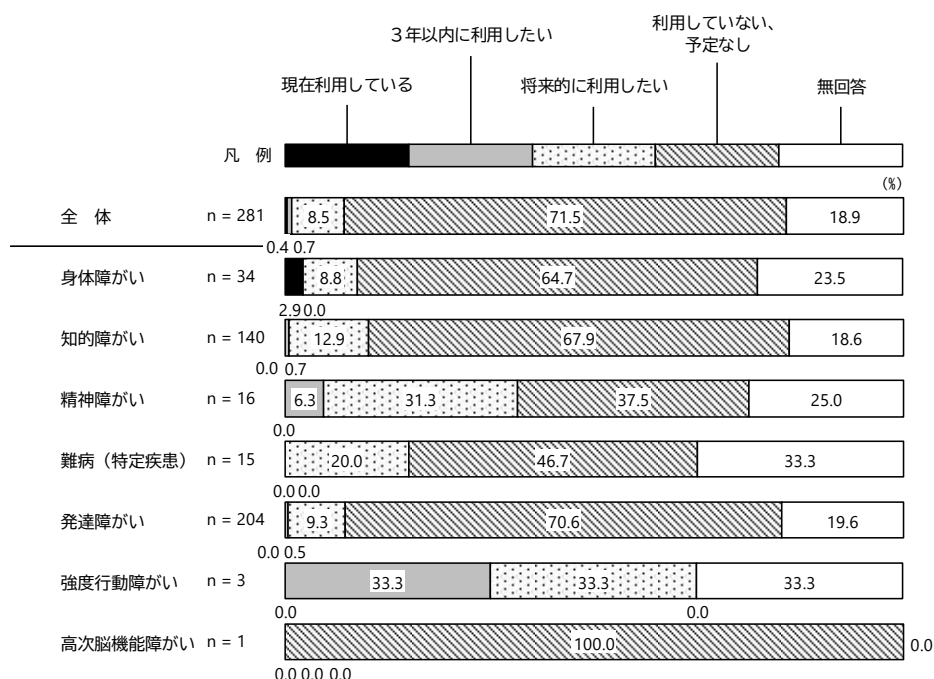
【6 保育所等訪問支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい児支援サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいでは「現在利用している」が1割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、身体障がいでは「利用していない、予定なし」が70.6%と他の障がい種に比べ高くなっている。



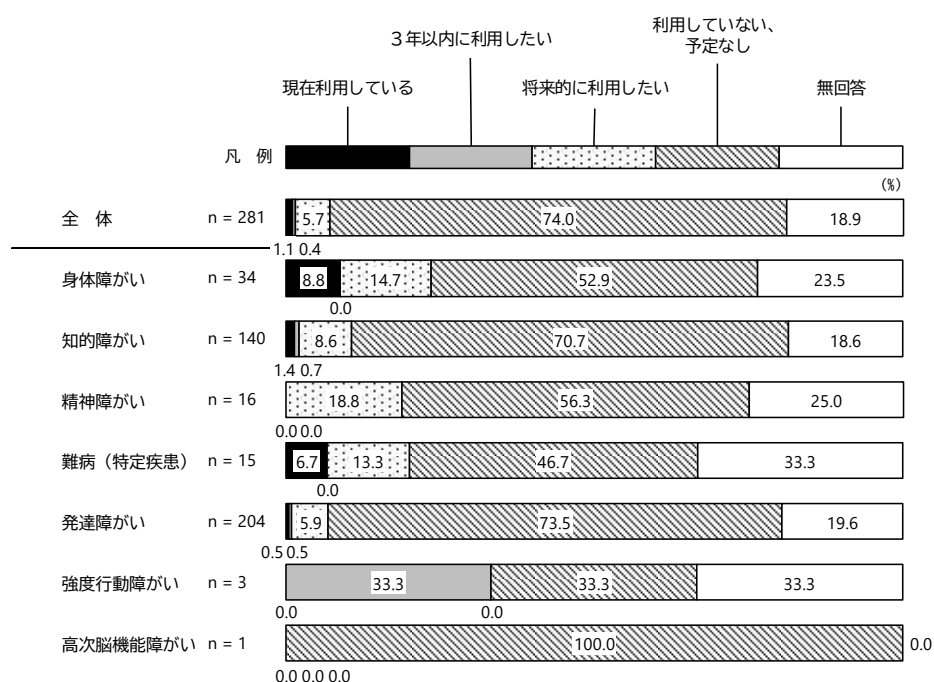
【7 福祉型児童入所支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい児支援サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がいでは「将来的に利用したい」が31.3%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が70.6%と他の障がい種に比べ高くなっている。



【8 医療型児童入所支援：障がい種別／利用している、今後利用したい障がい児支援サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がいでは「将来的に利用したい」が18.8%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、知的障がい、発達障がいでは「利用していない、予定なし」が7割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。

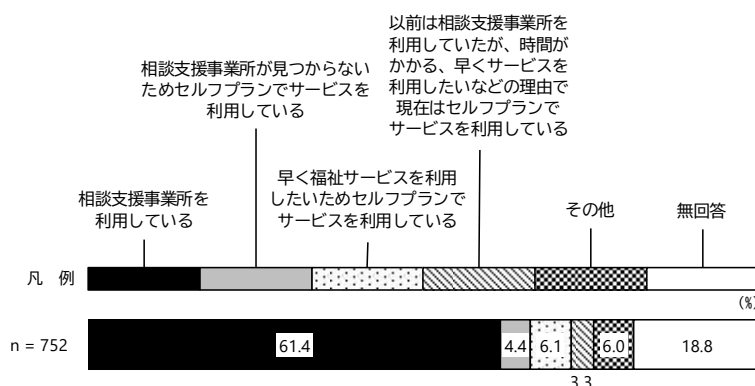


（４）サービスの利用計画作成にあたって、相談支援事業所を利用しているか

- ▶ サービスの利用計画作成にあたって、相談支援事業所を利用しているかについて、「相談支援事業所を利用している」が61.4%と最も高く、次いで「早く福祉サービスを利用したいためセルフプランでサービスを利用している」（6.1%）、「相談支援事業所が見つからないためセルフプランでサービスを利用している」（4.4%）となっている。

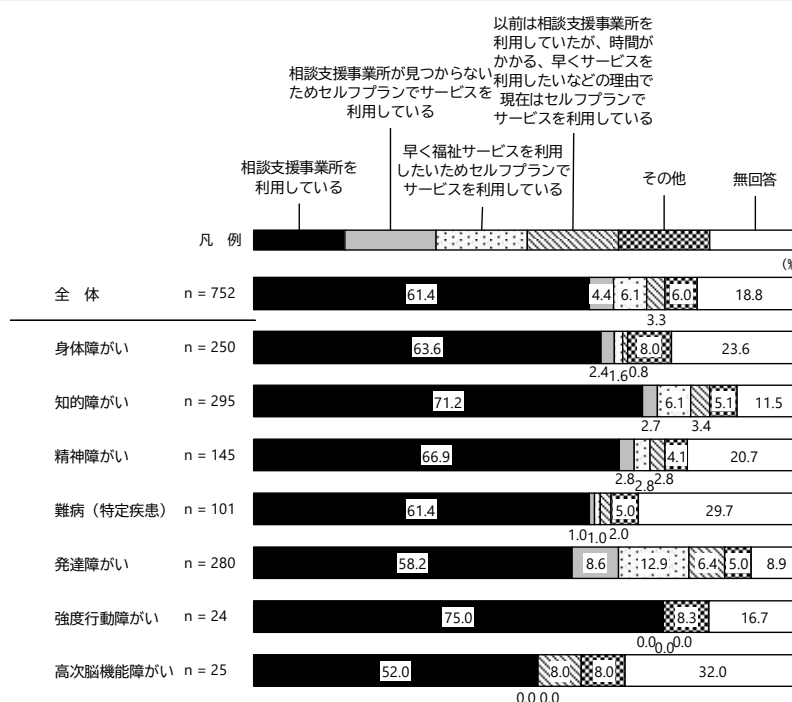
【問 34・35 で障がい福祉サービスをひとつでも利用していると答えた方にお聞きます。】

問 36 あなたは、サービスの利用計画作成にあたって、相談支援事業所を利用していますか。
（あてはまるもののうち、もっとも近いものひとつに○をつけてください。）



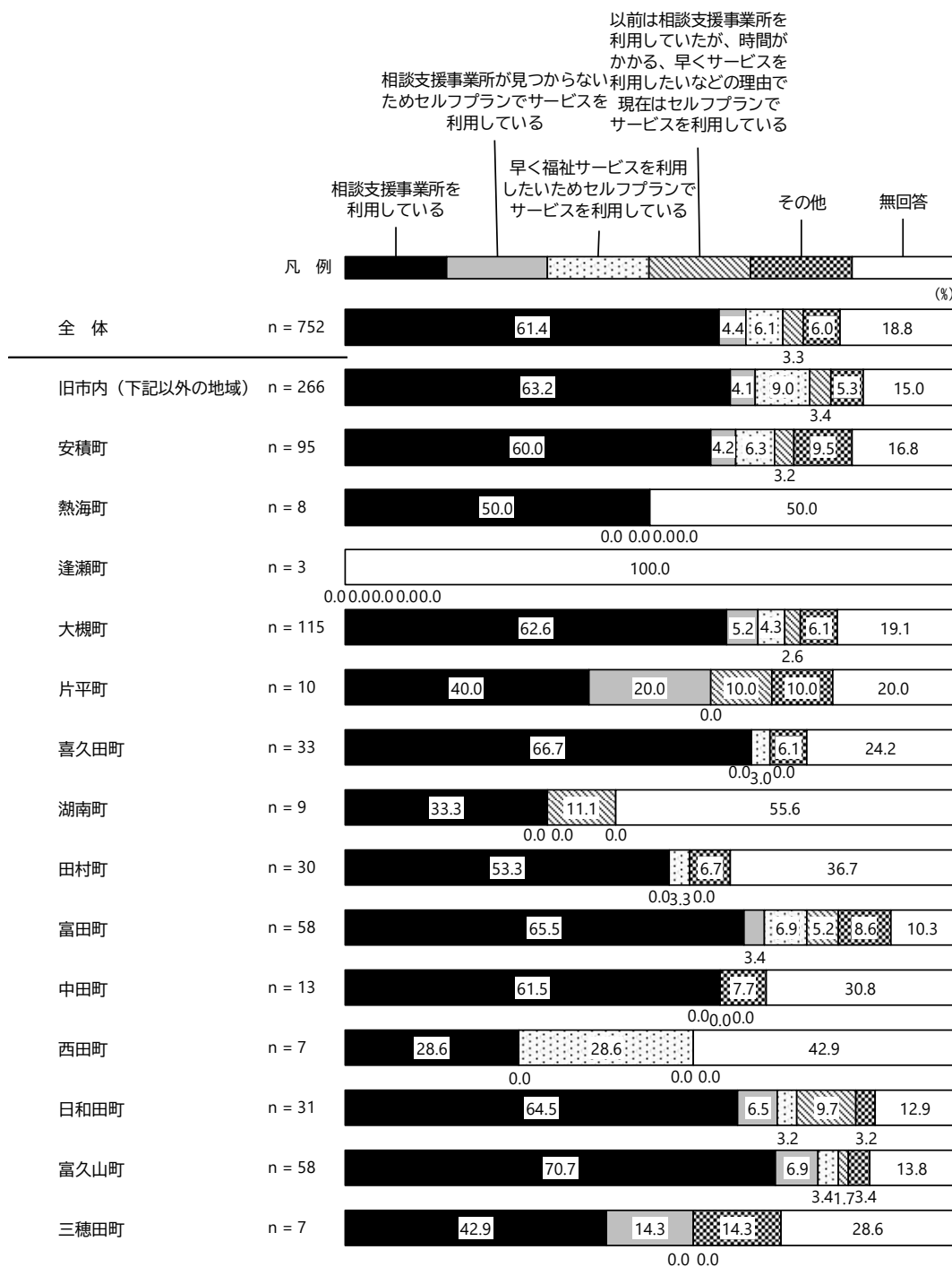
【障がい種別／サービスの利用計画作成にあたって、相談支援事業所を利用しているか】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「相談支援事業所を利用している」が75.0%、発達障害では「早く福祉サービスを利用したいためセルフプランでサービスを利用している」が12.9%と他の障がい種に比べ高くなっている。



【居住地域別／サービスの利用計画作成にあたって、相談支援事業所を利用しているか】

- ▶ 居住地域別にみると、富久山町では「相談支援事業所を利用している」が70.7%、片平町では「相談支援事業所が見つからないためセルフプランでサービスを利用している」が20.0%と他の居住地域に比べ高くなっている。

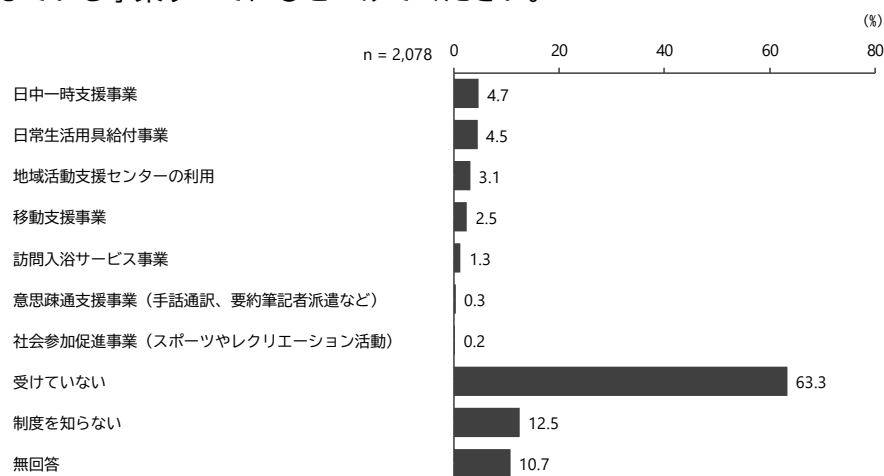


10 地域生活支援事業について

（１）地域生活支援事業サービスの利用状況

- ▶ 地域生活支援事業サービスの利用状況について、「日中一時支援事業」が4.7%と最も高く、次いで「日常生活用具給付事業」（4.5%）、「地域活動支援センターの利用」（3.1%）となっている。一方、「受けていない」は63.3%と6割以上となっており、「制度を知らない」は12.5%となっている。

問 37 現在、地域生活支援事業のサービスを受けていますか。
現在利用している事業すべてに○をつけてください。



【障がい種別／地域生活支援事業サービスの利用状況】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「日中一時支援事業」が36.4%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、強度行動障がい以外の障がい種では「受けていない」が5～6割となっている。

		n	日中一時支援事業	日常生活用具給付事業	地域活動支援センターの利用	移動支援事業	訪問入浴サービス事業	意思疎通支援事業（手話通訳、要約筆記者派遣など）	社会参加促進事業（スポーツやレクリエーション活動）	受けていない	制度を知らない	無回答
全 体		2,078	4.7	4.5	3.1	2.5	1.3	0.3	0.2	63.3	12.5	10.7
障がい種別	身体障がい	968	4.0	8.1	3.5	1.8	2.3	0.6	0.2	62.1	9.3	11.8
	知的障がい	400	14.8	3.3	2.0	8.3	1.3	0.0	0.5	53.8	16.8	7.0
	精神障がい	329	2.7	3.0	5.5	2.1	0.6	0.0	0.3	63.5	17.0	7.9
	難病（特定疾患）	432	3.7	7.2	3.0	1.9	2.3	0.0	0.2	68.5	10.0	8.6
	発達障がい	382	10.7	1.3	1.3	4.7	0.0	0.0	0.3	59.7	20.7	4.5
	強度行動障がい	33	36.4	6.1	3.0	12.1	6.1	0.0	0.0	30.3	12.1	12.1
	高次脳機能障がい	49	0.0	2.0	2.0	2.0	6.1	0.0	0.0	51.0	18.4	18.4

【居住地域別／地域生活支援事業サービスの利用状況】

- ▶ 居住地域別にみると、湖南町では「日常生活用具給付事業」が15.4%と他の居住地域に比べ高くなっている。一方、中田町以外の居住地域では「受けていない」が5～8割となっている。

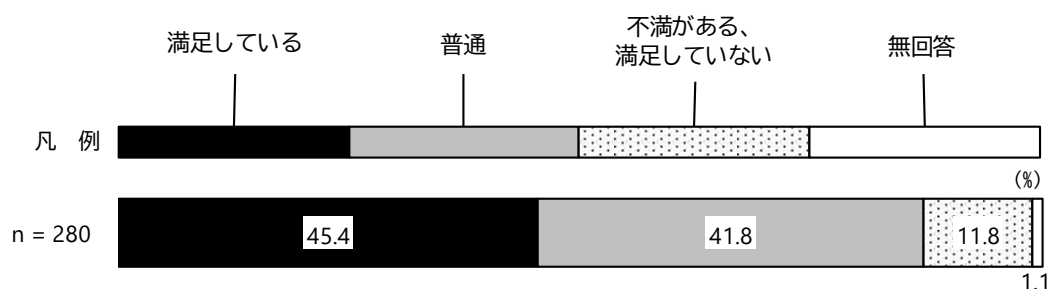
												(%)
		n	日中一時支援事業	日常生活用具給付事業	地域活動支援センターの利用	移動支援事業	訪問入浴サービス事業	意思疎通支援事業（手話通訳、要約筆記者派遣など）	社会参加促進事業（スポーツやレクリエーション活動）	受けていない	制度を知らない	無回答
全 体		2,078	4.7	4.5	3.1	2.5	1.3	0.3	0.2	63.3	12.5	10.7
居住地域別	旧市内（下記以外の地域）	747	5.0	4.3	2.8	2.7	1.1	0.3	0.3	65.7	12.4	8.4
	安積町	228	3.9	2.6	3.5	2.2	0.9	0.0	0.4	62.3	12.7	13.6
	熱海町	39	2.6	7.7	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	61.5	12.8	10.3
	逢瀬町	25	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	68.0	4.0	24.0
	大槻町	279	4.7	5.0	5.7	1.8	2.9	0.4	0.4	57.3	12.2	12.9
	片平町	34	2.9	2.9	2.9	5.9	0.0	0.0	0.0	64.7	11.8	11.8
	喜久田町	73	5.5	6.8	2.7	2.7	2.7	0.0	0.0	64.4	9.6	9.6
	湖南町	26	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	53.8	7.7	23.1
	田村町	102	4.9	5.9	4.9	1.0	2.9	0.0	0.0	65.7	10.8	9.8
	富田町	144	5.6	5.6	2.1	4.2	1.4	0.0	0.7	62.5	16.0	8.3
	中田町	38	2.6	7.9	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	42.1	26.3	18.4
	西田町	35	5.7	2.9	0.0	5.7	0.0	0.0	0.0	77.1	2.9	8.6
	日和田町	70	4.3	4.3	1.4	0.0	1.4	0.0	0.0	67.1	12.9	8.6
	富久山町	181	6.1	2.8	1.7	4.4	0.0	1.7	0.0	64.6	13.8	8.8
	三穂田町	25	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	4.0	12.0

（２）利用しているサービス内容の満足度

- ▶ 利用しているサービス内容の満足度について、「満足している」が45.4%と最も高く、次いで「普通」（41.8%）、「不満がある、満足していない」（11.8%）となっている。

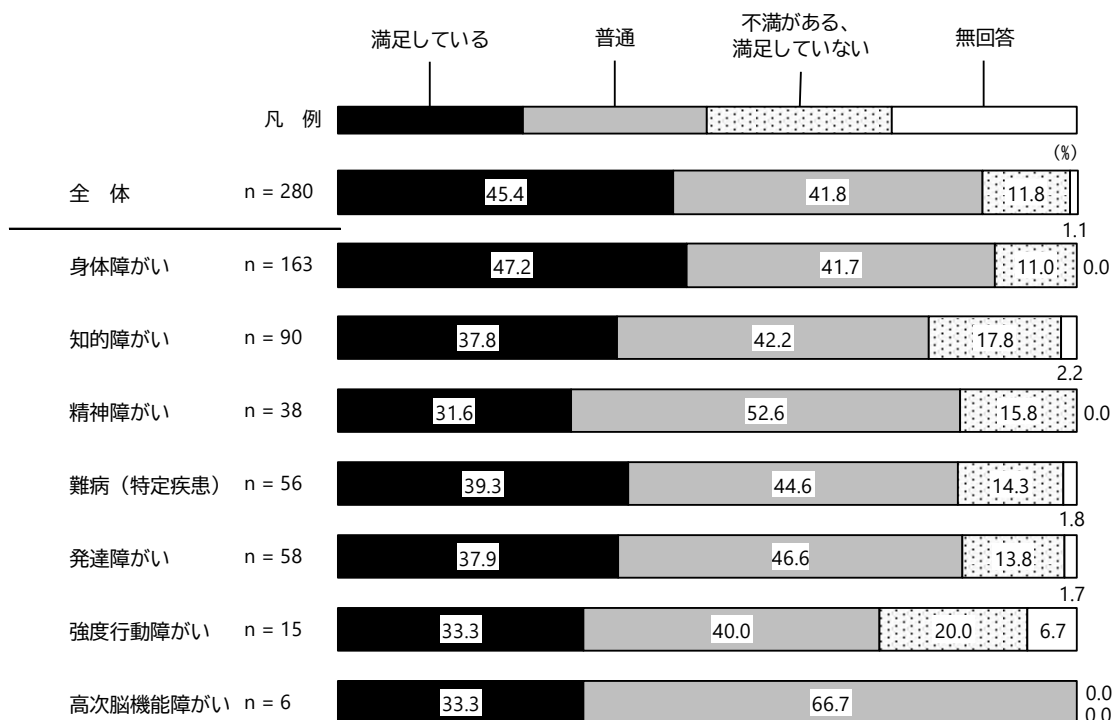
【問 37 で「１～７」を選んだ方にお聞きします。】

問 38 利用しているサービスの内容に満足していますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／利用しているサービス内容の満足度】

- ▶ 障がい種別にみると、身体障がいでは「満足している」が47.2%と他の障がい種に比べて高くなっている。

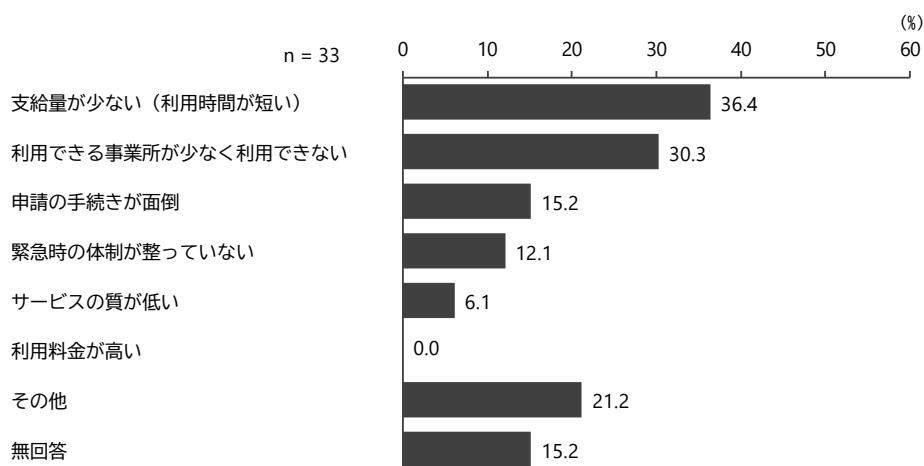


（３）利用しているサービスに満足していない理由

- ▶ 利用しているサービスに満足していない理由について、「支給量が少ない（利用時間が短い）」が36.4%と最も高く、次いで「利用できる事業所が少なく利用できない」（30.3%）、「申請の手続きが面倒」（15.2%）となっている。

【問 38 で「３ 不満がある、満足していない」を選んだ方にお聞きします。】

問 39 満足していない理由は何ですか。（あてはまるもの2つまで○をつけてください。）



【障がい種別／利用しているサービスに満足していない理由】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がいでは「緊急時の体制が整っていない」が18.8%、発達障がいでは「利用できる事業所が少なく利用できない」が62.5%、「サービスの質が低い」が12.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。

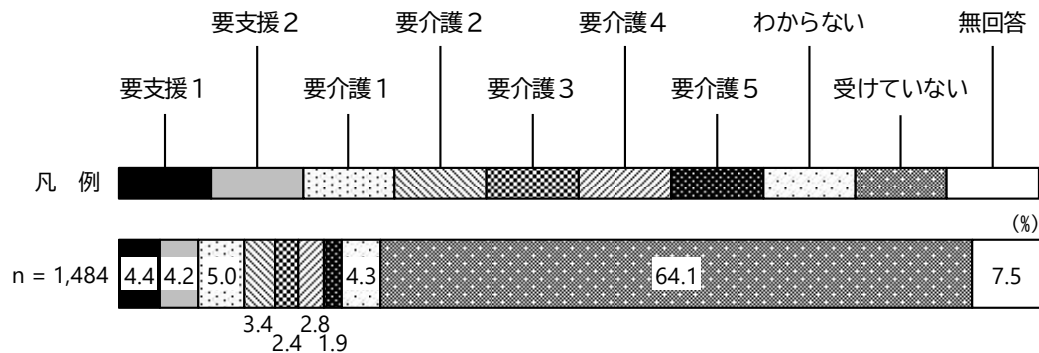
		n	い 支給 量が 少ない （利用 時間が 短い）	で 利用 できる 事業所 が少なく 利用 できない	申 請の 手続き が面倒	緊 急時の 体制が 整って いない	サ ービス の質が 低い	利 用料金 が高い	そ の他	無 回答
全 体		33	36.4	30.3	15.2	12.1	6.1	0.0	21.2	15.2
障 が い 種 別	身体障がい	18	44.4	27.8	27.8	11.1	0.0	0.0	22.2	11.1
	知的障がい	16	31.3	50.0	6.3	18.8	6.3	0.0	18.8	12.5
	精神障がい	6	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	難病（特定疾患）	8	62.5	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5
	発達障がい	8	12.5	62.5	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	12.5
	強度行動障がい	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	高次脳機能障がい	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（４）要介護・要支援認定を受けているか

- ▶ 要介護・要支援認定を受けているかについて、「要介護 1」が 5.0%と最も高く、次いで「要支援 1」（4.4%）、「要支援 2」（4.2%）となっている。一方、「受けていない」は 64.1%と 6 割以上となっている。

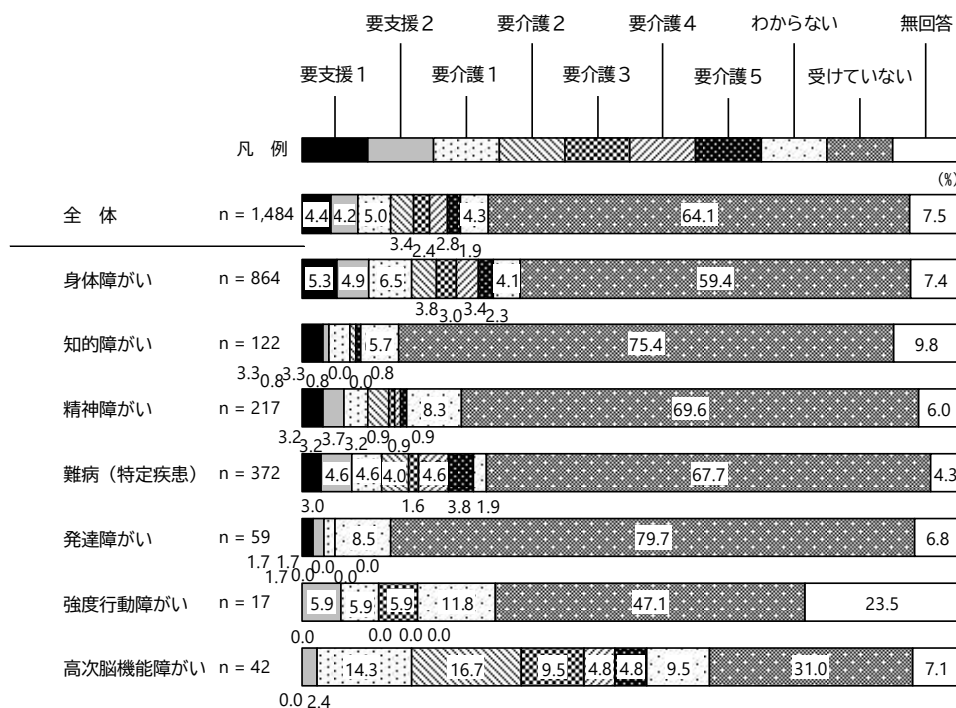
【40 歳以上の方にお聞きします。】

問 40 あなたは、要介護・要支援の認定を受けていますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／要介護・要支援認定を受けているか】

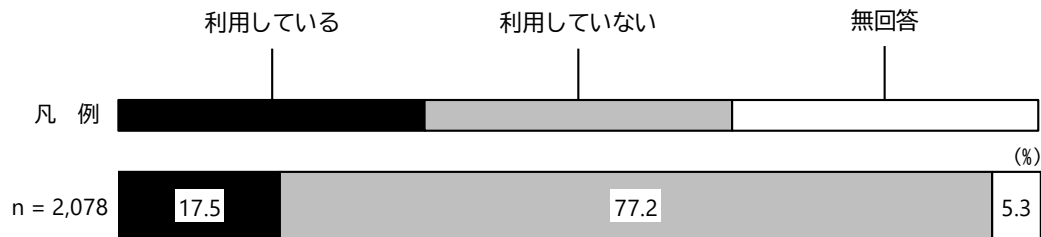
- ▶ 障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「要介護 1」が 14.3%、「要介護 2」が 16.7%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、知的障がい、発達障がいでは「受けていない」が約 8 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



（５）介護保険によるサービスの利用状況

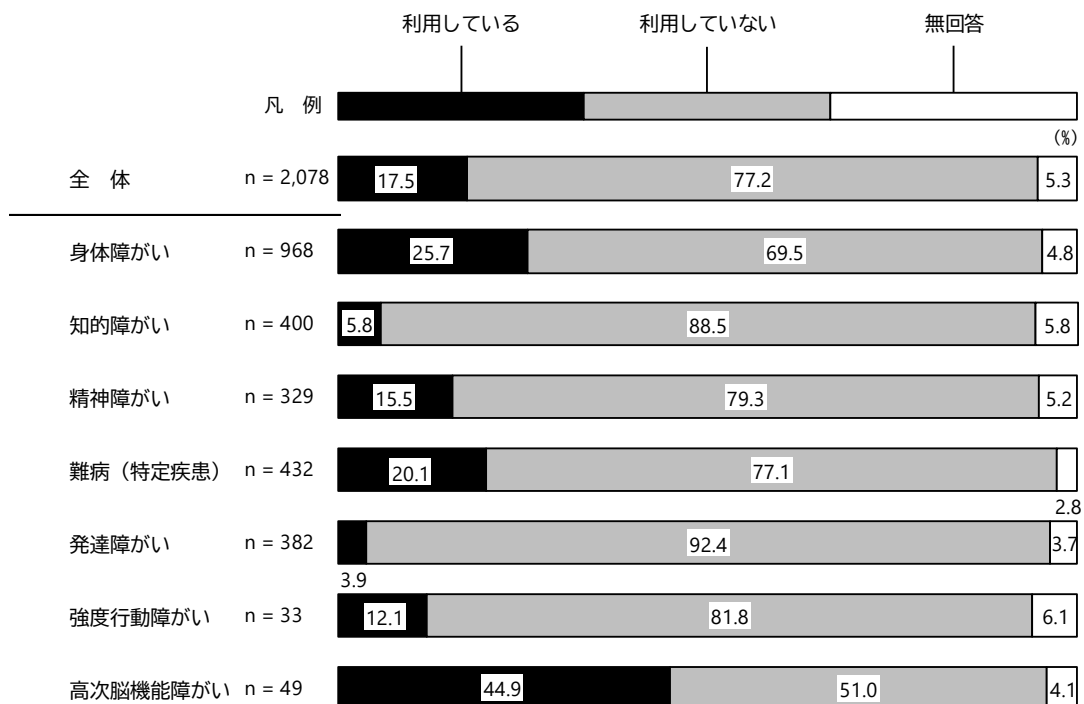
- ▶ 介護保険によるサービスの利用状況について、「利用している」は 17.5%、「利用していない」は 77.2%と約 8 割を占めている。

問 41 あなたは、介護保険によるサービスを利用していますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／介護保険によるサービスの利用状況】

- ▶ 障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「利用している」が 44.9%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、発達障がいでは「利用していない」が 92.4%と 9 割以上を占めている。



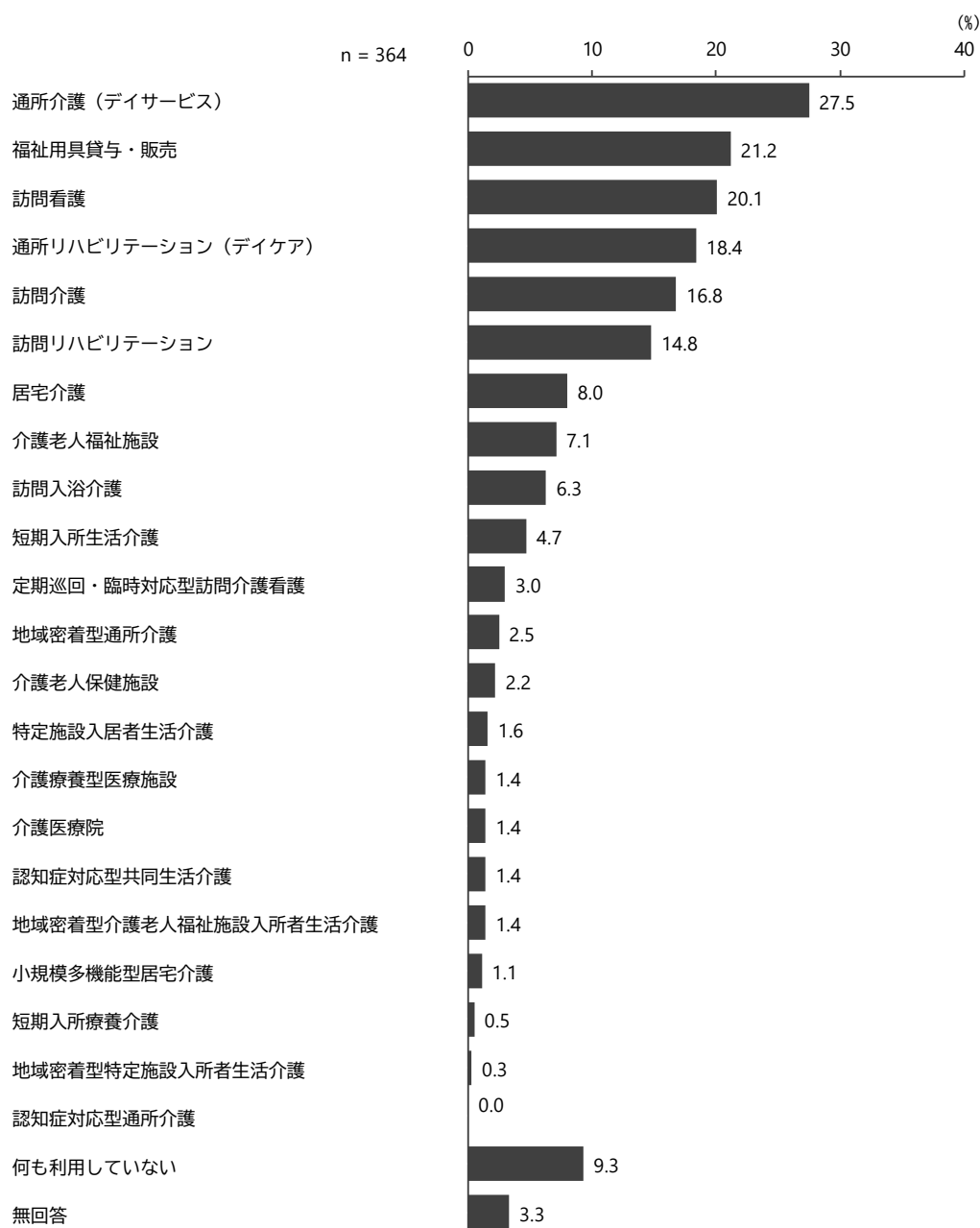
（６）利用している介護サービス

- ▶ 利用している介護サービスについて、「通所介護（デイサービス）」が 27.5%と最も高く、次いで「福祉用具貸与・販売」（21.2%）、「訪問看護」（20.1%）となっている。一方、「何も利用していない」は 9.3%と約 1 割となっている。

【問 41 で「１ 利用している」を選んだ方にお聞きします。】

問 42 利用している介護サービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

※利用していない場合は「23 何も利用していない」を選んでください。



【障がい種別／利用している介護サービス】

- ▶ 障がい種別にみると、難病（特定疾患）では「訪問リハビリテーション」が 23.0%、高次脳機能障がいでは「福祉用具貸与・販売」が 36.4%と他の障がい種に比べ高くなっている。

															(%)
		n	通所介護（デイサービス）	福祉用具貸与・販売	訪問看護	通所リハビリテーション（デイケア）	訪問介護	訪問リハビリテーション	居宅介護	介護老人福祉施設	訪問入浴介護	短期入所生活介護	定期巡回・臨時対応型訪問介護	地域密着型通所介護	
全 体		364	27.5	21.2	20.1	18.4	16.8	14.8	8.0	7.1	6.3	4.7	3.0	2.5	
障がい種別	身体障がい	249	28.9	23.7	18.5	22.1	16.9	15.7	7.6	6.8	6.4	4.4	3.6	2.0	
	知的障がい	23	21.7	8.7	21.7	13.0	13.0	8.7	8.7	8.7	4.3	4.3	0.0	0.0	
	精神障がい	51	21.6	15.7	35.3	11.8	23.5	2.0	7.8	5.9	3.9	3.9	5.9	3.9	
	難病（特定疾患）	87	25.3	27.6	21.8	20.7	13.8	23.0	11.5	11.5	8.0	6.9	2.3	4.6	
	発達障がい	15	13.3	6.7	26.7	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	
	強度行動障がい	4	25.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	
	高次脳機能障がい	22	31.8	36.4	18.2	18.2	27.3	18.2	13.6	13.6	9.1	13.6	4.5	0.0	

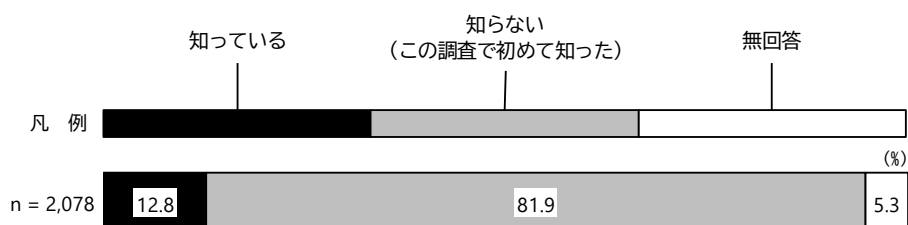
														(%)
		n	介護老人保健施設	特定施設入居者生活介護	介護療養型医療施設	介護医療院	認知症対応型共同生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	小規模多機能型居宅介護	短期入所療養介護	地域密着型特定施設入所者生活介護	認知症対応型通所介護	何も利用していない	無回答
全 体		364	2.2	1.6	1.4	1.4	1.4	1.4	1.1	0.5	0.3	0.0	9.3	3.3
障がい種別	身体障がい	249	2.4	0.8	1.6	1.2	1.2	1.6	0.8	0.4	0.4	0.0	7.6	2.8
	知的障がい	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0	0.0	17.4	13.0
	精神障がい	51	2.0	2.0	0.0	2.0	3.9	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	5.9	0.0
	難病（特定疾患）	87	1.1	2.3	1.1	3.4	0.0	1.1	1.1	1.1	0.0	0.0	3.4	2.3
	発達障がい	15	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	33.3	13.3
	強度行動障がい	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障がい	22	4.5	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	9.1	0.0

11 権利擁護について

（１）民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となったことの認知度

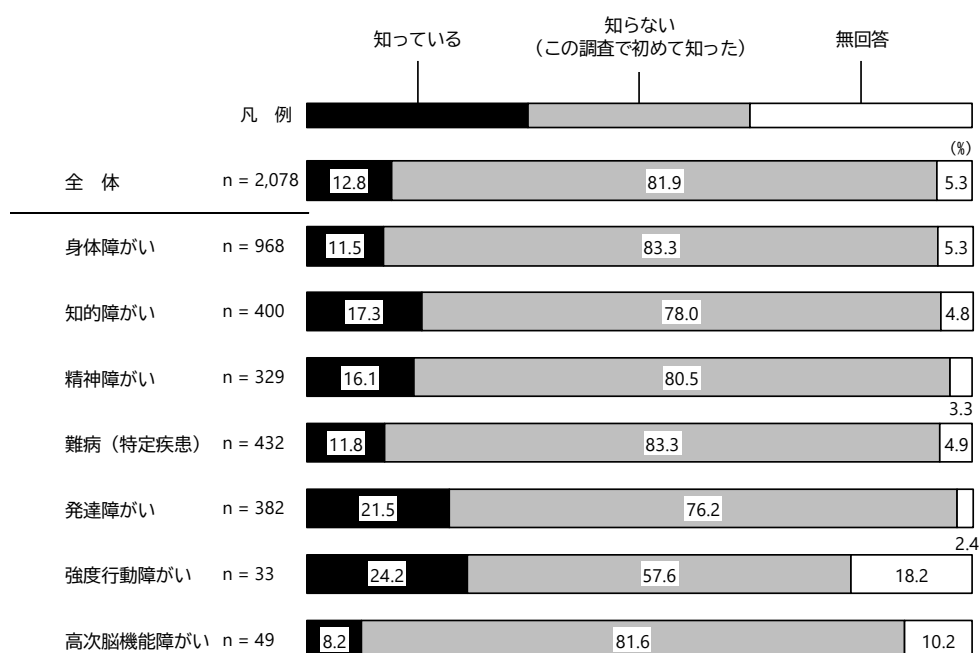
- ▶ 民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となったことの認知度について、「知っている」が12.8%、「知らない（この調査で初めて知った）」は81.9%と8割以上を占めている。

問 43 障害者差別解消法の改正によって、令和6年4月1日から、民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となりました。このことを知っていますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となったことの認知度】

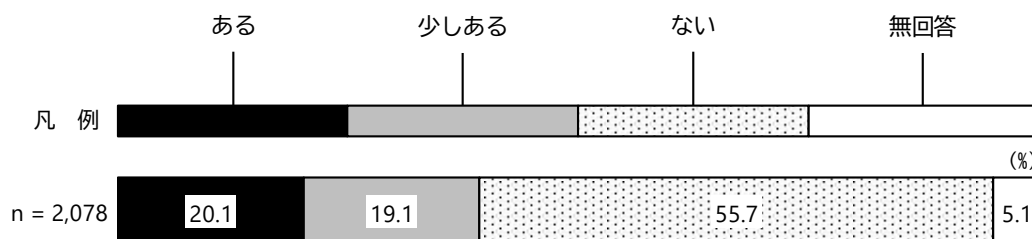
- ▶ 障がい種別にみると、発達障がい、強度行動障がいでは「知っている」が2割以上と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、強度行動障がい以外の障がい種では「知らない（この調査で初めて知った）」が約8割を占めている。



（２）障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）経験の有無

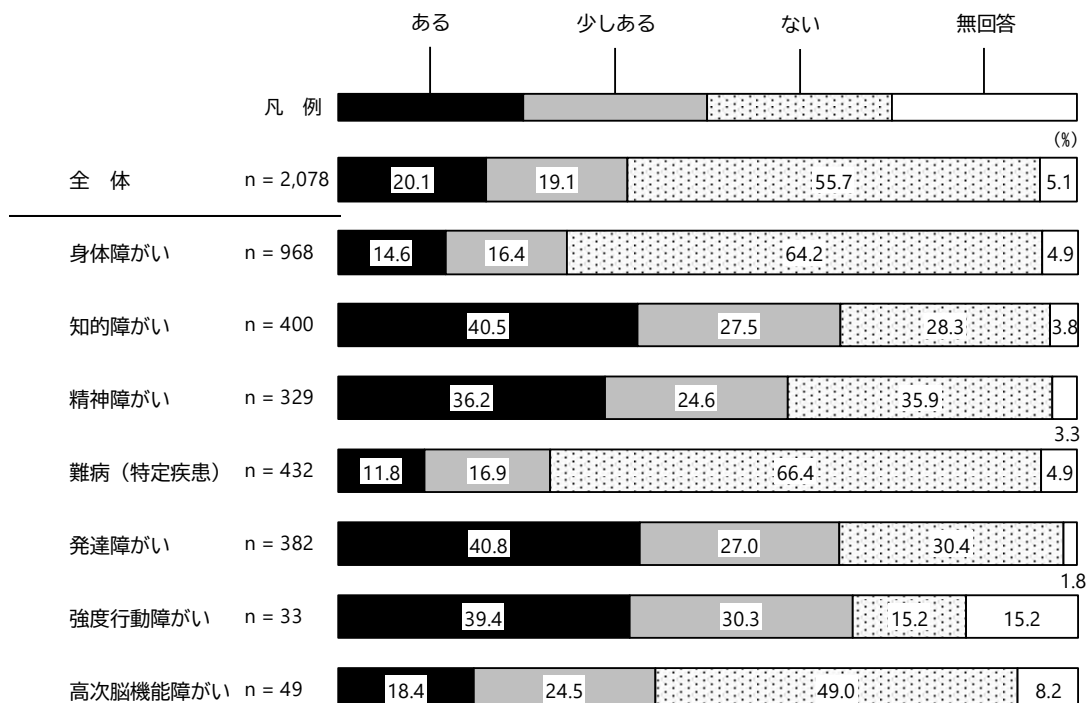
- ▶ 障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）経験の有無について、「ある」と「少しある」を合わせた《ある》が 39.2%、「ない」が 55.7%となっている。

問 44 あなたは、いままで障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）経験の有無】

- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、強度行動障がいでは《ある》が約 7 割と他の障がい種に比べ高くなっている。



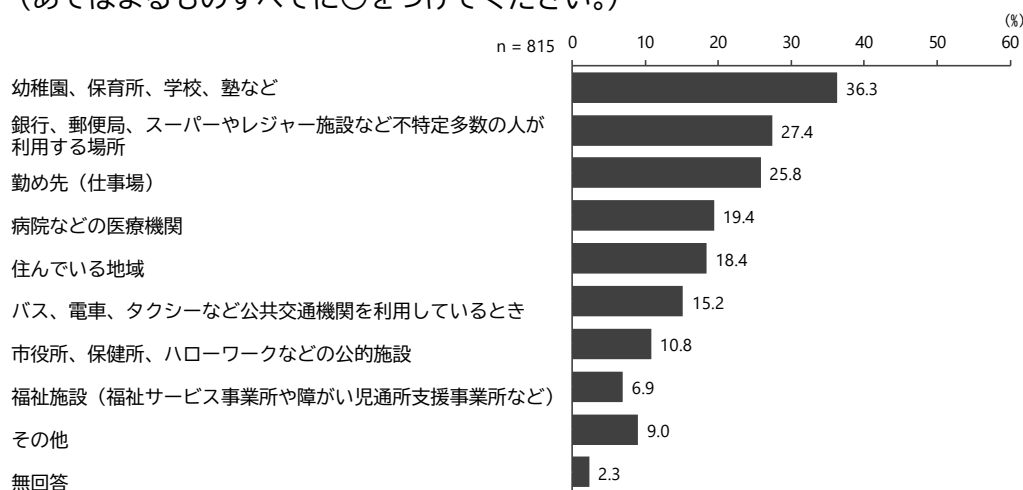
（３）差別や嫌な思いをした場所

- ▶ 差別や嫌な思いをした場所について、「幼稚園、保育所、学校、塾など」が 36.3%と最も高く、次いで「銀行、郵便局、スーパーやレジャー施設など不特定多数の人が利用する場所」（27.4%）、「勤め先（仕事場）」（25.8%）となっている。

【問 44 で「１ ある」又は「２ 少しある」を選んだ方にお聞きます。】

問 45 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。

（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／差別や嫌な思いをした場所】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がいでは「勤め先（仕事場）」が 38.0%、発達障がいでは「幼稚園、保育所、学校、塾など」が 65.3%、強度行動障がいでは「銀行、郵便局、スーパーやレジャー施設など不特定多数の人が利用する場所」が 65.2%、「住んでいる地域」が 34.8%、「バス、電車、タクシーなど公共交通機関を利用しているとき」が 30.4%、高次脳機能障がいでは「病院などの医療機関」が 38.1%と他の障がい種に比べ高くなっている。

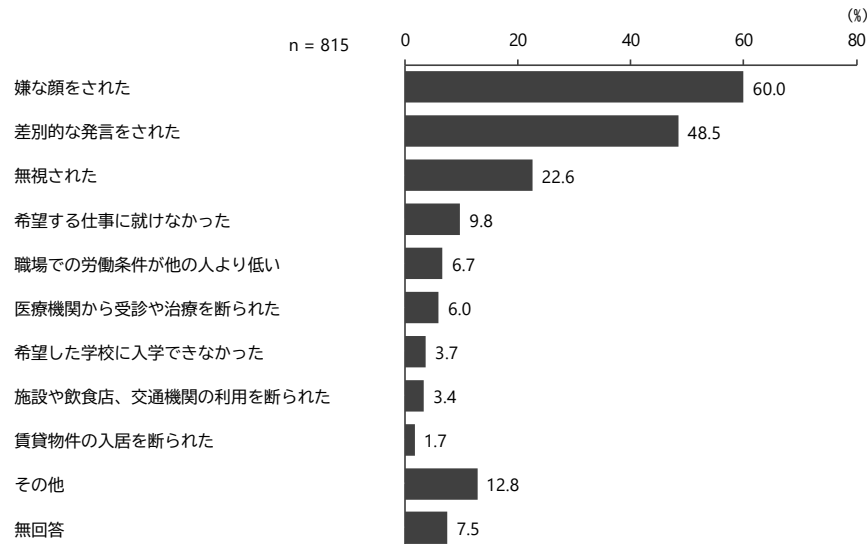
		n	幼稚園、保育所、学校、塾など	銀行、郵便局、スーパーやレジャー施設など不特定多数の人が利用する場所	勤め先（仕事場）	病院などの医療機関	住んでいる地域	バス、電車、タクシーなど公共交通機関を利用しているとき	市役所、保健所、ハローワークなどの公的施設	福祉施設（福祉サービス事業所や障がい児通所支援事業所など）	その他	無回答
全 体		815	36.3	27.4	25.8	19.4	18.4	15.2	10.8	6.9	9.0	2.3
障がい種別	身体障がい	300	19.7	35.0	27.0	20.0	19.7	18.7	11.0	5.7	8.3	3.7
	知的障がい	272	57.4	35.7	12.5	23.9	23.5	16.9	10.3	10.7	5.5	2.2
	精神障がい	200	26.5	19.5	38.0	24.5	21.0	15.5	14.5	12.0	12.5	3.0
	難病（特定疾患）	124	17.7	35.5	30.6	26.6	16.9	19.4	12.9	6.5	8.9	2.4
	発達障がい	259	65.3	29.0	15.8	17.0	16.6	14.7	10.8	9.3	6.2	0.4
	強度行動障がい	23	56.5	65.2	0.0	30.4	34.8	30.4	8.7	13.0	4.3	0.0
	高次脳機能障がい	21	9.5	28.6	23.8	38.1	4.8	19.0	14.3	4.8	4.8	14.3

（４）どのようなことで嫌な思いをしたか

- ▶ どのようなことで嫌な思いをしたかについて、「嫌な顔をされた」が 60.0%と最も高く、次いで「差別的な発言をされた」（48.5%）、「無視された」（22.6%）となっている。

【問 44 で「１ ある」又は「２ 少しある」を選んだ方にお聞きます。】

問 46 どのようなことで嫌な思いをしましたか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／どのようなことで嫌な思いをしたか】

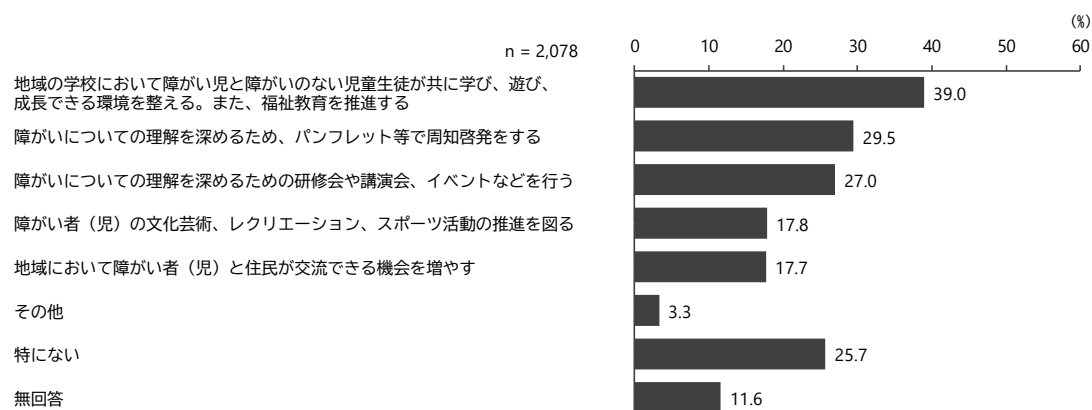
- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「嫌な顔をされた」が 82.6%、「医療機関から受診や治療を断られた」が 21.7%と他の障がい種に比べ高くなっている。

		n	嫌な顔をされた	差別的な発言をされた	無視された	希望する仕事に就けなかった	職場での労働条件が他の人より低い	医療機関から受診や治療を断られた	希望した学校に入学できなかった	施設や飲食店、交通機関の利用を断られた	賃貸物件の入居を断られた	その他	無回答
全 体		815	60.0	48.5	22.6	9.8	6.7	6.0	3.7	3.4	1.7	12.8	7.5
障がい種別	身体障がい	300	52.3	40.7	15.3	9.7	7.0	5.0	1.7	5.3	1.3	14.0	11.7
	知的障がい	272	65.8	54.8	26.8	6.3	4.8	9.6	8.1	5.5	2.2	11.0	5.9
	精神障がい	200	63.5	52.0	32.5	15.5	9.5	5.0	3.5	3.5	3.0	12.5	7.0
	難病（特定疾患）	124	64.5	41.9	17.7	12.9	8.1	7.3	2.4	7.3	1.6	20.2	5.6
	発達障がい	259	69.5	60.6	27.0	6.9	5.0	7.7	5.8	3.9	1.5	12.4	3.9
	強度行動障がい	23	82.6	56.5	30.4	4.3	0.0	21.7	13.0	13.0	0.0	17.4	4.3
	高次脳機能障がい	21	61.9	28.6	33.3	14.3	4.8	4.8	4.8	9.5	0.0	14.3	19.0

(5) 障がいのある方への偏見や差別を解消するため、取り組んでほしいこと

- ▶ 障がいのある方への偏見や差別を解消するため、取り組んでほしいことについて、「地域の学校において障がい児と障がいのない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」が39.0%と最も高く、次いで「障がいについての理解を深めるため、パンフレット等で周知啓発をする」(29.5%)、「障がいについての理解を深めるための研修会や講演会、イベントなどを行う」(27.0%)となっている。

問 47 障がいのある方への偏見や差別を解消するため、取り組んでほしいことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)



【障がい種別／障がいのある方への偏見や差別を解消するため、取り組んでほしいこと】

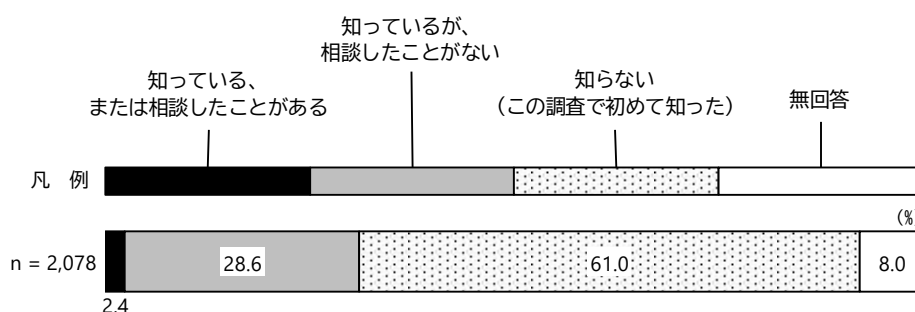
- ▶ 障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、強度行動障がいでは「地域の学校において障がい児と障がいのない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」が約6割と他の障がい種に比べ高くなっている。

											(%)	
		n	る び、 障がい の学校 におい て児童 生徒が 共に学 ぶ環境 を整え る。ま た福祉 教育を 推進す	発を する	障がい について の理解 を深め るため 、パンフ レット 等で周 知啓	障がい について の理解 を深め るため 、研修会 や講演 会、イベ ンなどを 行う	障がい について の理解 を深め るため 、研修会 や講演 会、イベ ンなどを 行う	障がい者（児）の文化芸術、レ クリエーション、スポーツ活動 の推進を図る	住民が交流できる機会を増やす 地域において障がい者（児）と 住民が交流できる機会を増やす	その他	特にな い	無回 答
全 体		2,078	39.0	29.5	27.0	17.8	17.7	3.3	25.7	11.6		
障 が い 種 別	身体障がい	968	32.5	28.8	23.7	16.0	16.4	2.8	30.8	12.7		
	知的障がい	400	56.3	27.8	29.5	21.3	20.0	4.3	16.0	9.3		
	精神障がい	329	38.0	31.3	33.7	16.7	19.1	6.4	22.2	10.6		
	難病（特定疾患）	432	36.3	36.1	32.6	20.6	21.3	4.6	24.1	9.5		
	発達障がい	382	63.9	35.6	38.0	23.6	20.9	6.8	11.8	4.5		
	強度行動障がい	33	60.6	33.3	33.3	24.2	27.3	9.1	3.0	15.2		
	高次脳機能障がい	49	32.7	30.6	16.3	10.2	16.3	4.1	22.4	18.4		

（６）虐待を受けたときに、相談する機関があることの認知度

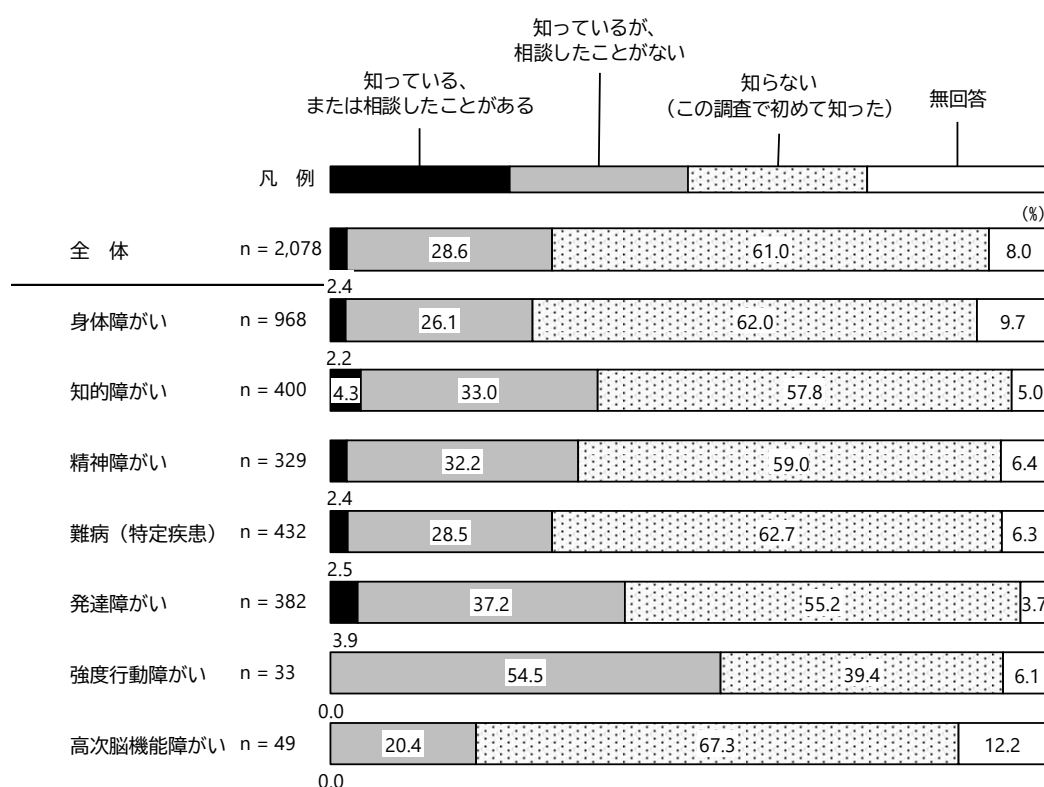
- ▶ 虐待を受けたときに、相談する機関があることの認知度について、「知らない（この調査で初めて知った）」が61.0%と最も高く、次いで「知っているが、相談したことがない」（28.6%）、「知っている、または相談したことがある」（2.4%）となっている。

問 48 あなたは、家族や介助者（福祉サービス事業所の職員を含む）、職場での上司や同僚からの虐待（暴力や介護の放棄）を受けたときに、相談する機関があるのを知っていますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／虐待を受けたときに、相談する機関があることの認知度】

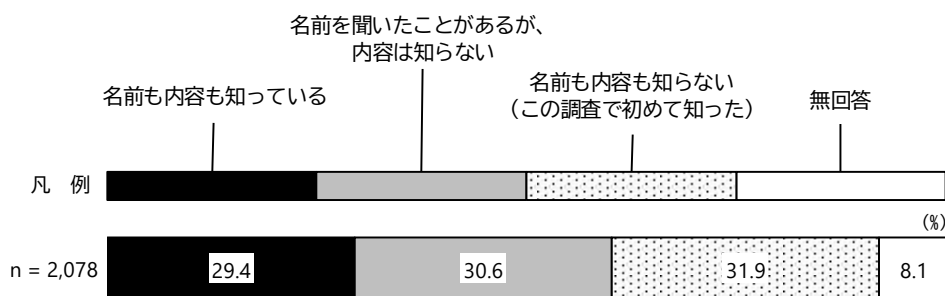
- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「知っているが、相談したことがない」が54.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、高次脳機能障がいでは「知らない（この調査で初めて知った）」が67.3%と他の障がい種に比べ高くなっている。



（７）「成年後見制度」の認知度

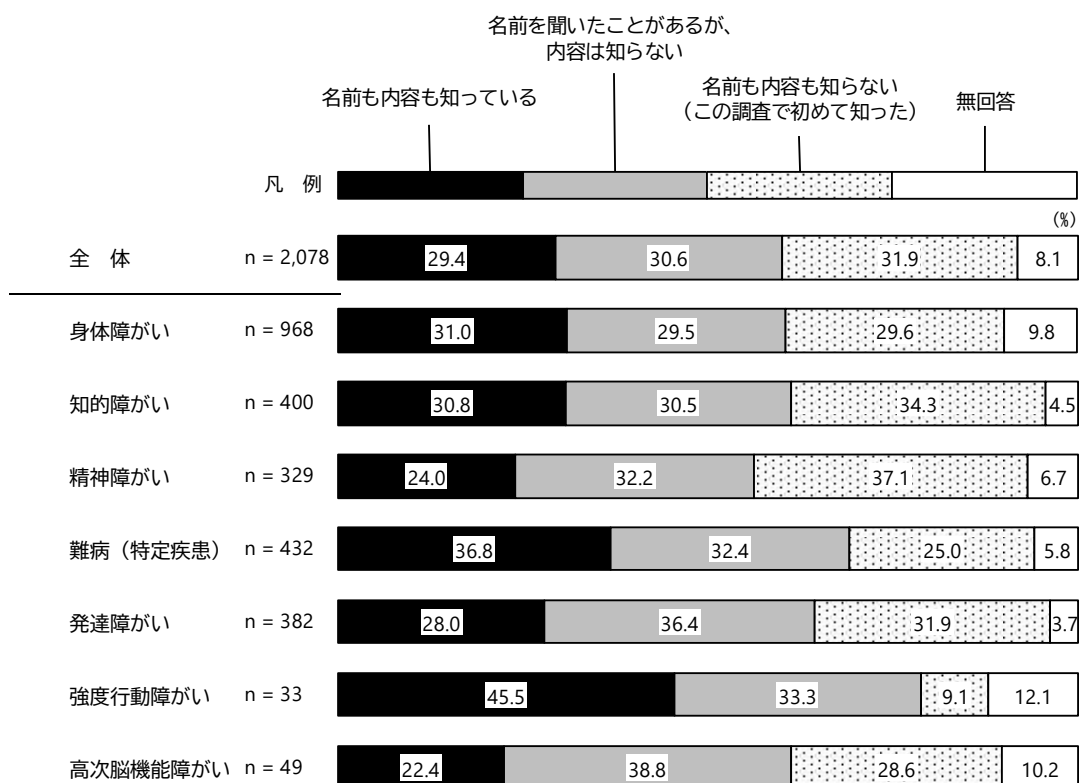
- ▶ 「成年後見制度」の認知度について、「名前も内容も知らない（この調査で初めて知った）」が 31.9% と最も高く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」（30.6%）、「名前も内容も知っている」（29.4%）となっている。

問 49 認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が十分でない人の権利を守る「成年後見制度」を知っていますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／「成年後見制度」の認知度】

- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「名前も内容も知っている」が 45.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。

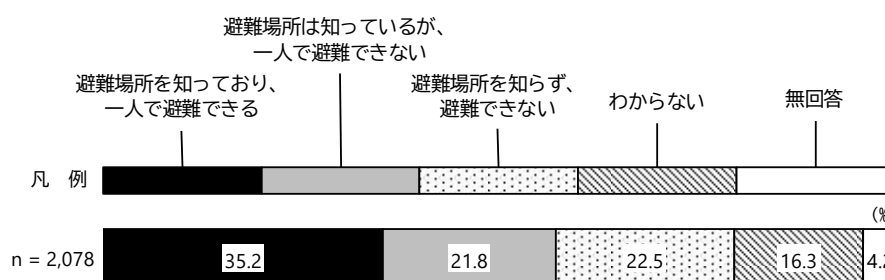


12 緊急時等について

（１）災害時に一人で避難できるか

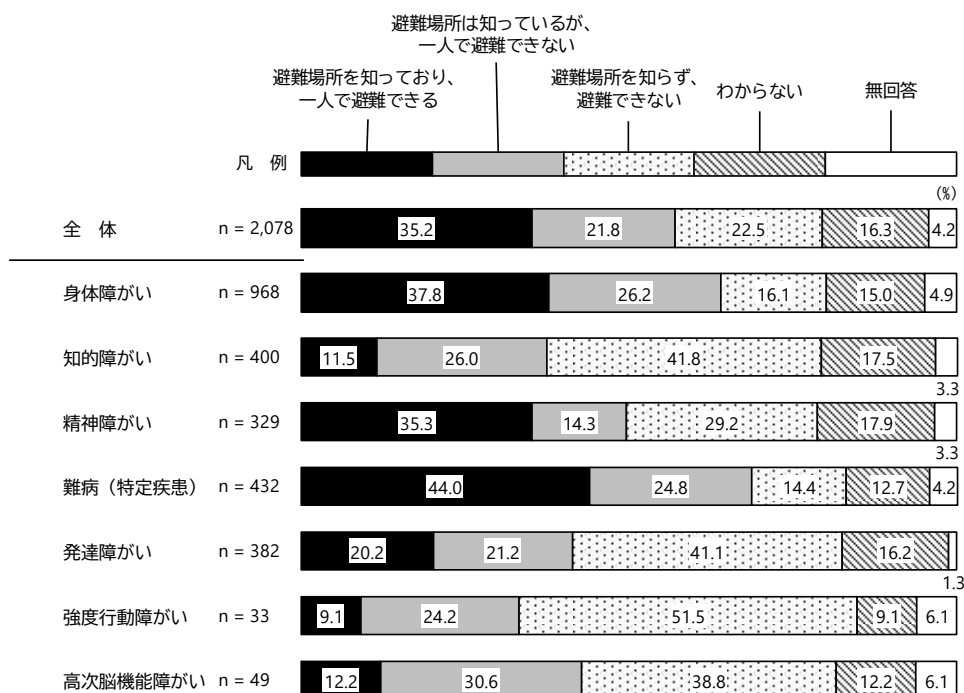
- ▶ 災害時に一人で避難できるかについて、「避難場所を知っており、一人で避難できる」が35.2%と最も高く、次いで「避難場所を知らず、避難できない」（22.5%）、「避難場所は知っているが、一人で避難できない」（21.8%）となっている。

問 50 あなたは、火事や水害、地震等の災害時に一人で避難できますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／災害時に一人で避難できるか】

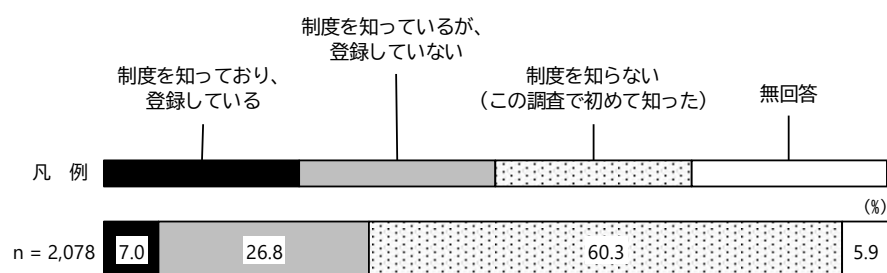
- ▶ 障がい種別にみると、身体障がい、精神障がい、難病（特定疾患）では「避難場所を知っており、一人で避難できる」が約4割と他の障がい種に比べ高くなっている。一方、強度行動障がいでは「避難場所を知らず、避難できない」が51.5%と5割以上を占めている。



（２）「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度

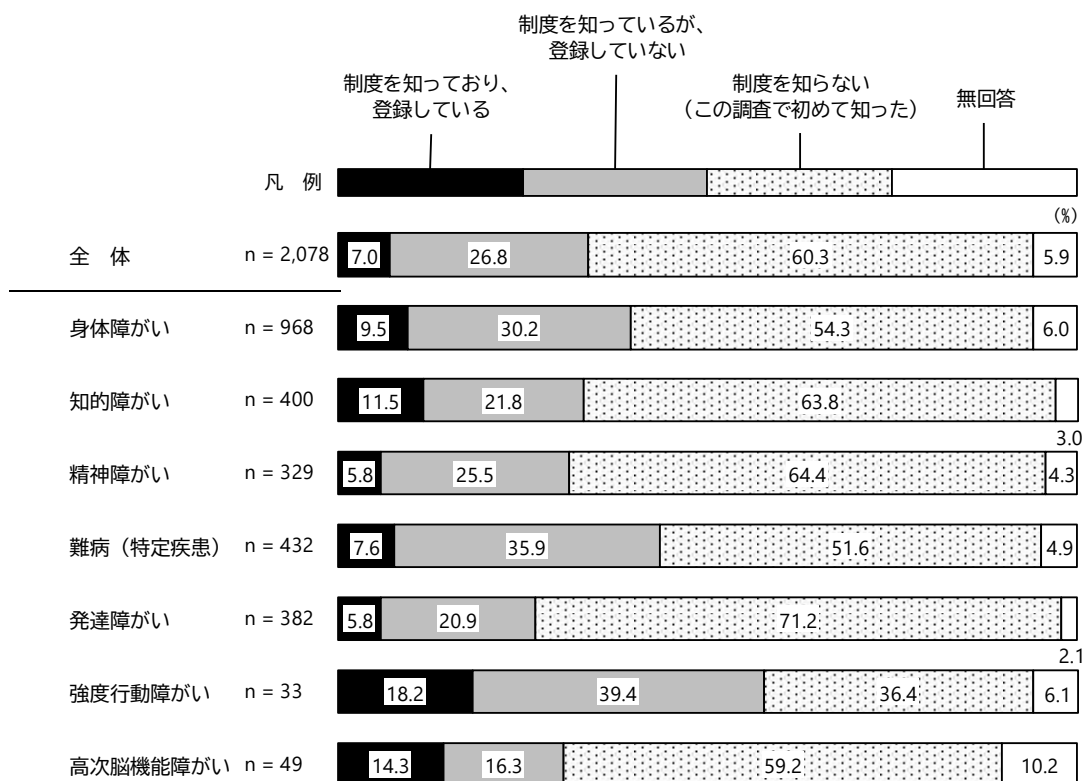
- ▶ 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度について、「制度を知らない（この調査で初めて知った）」が 60.3%と最も高く、次いで「制度を知っているが、登録していない」（26.8%）、「制度を知っており、登録している」（7.0%）となっている。

問 51 災害時に自力での避難が困難な方のうち、希望する場合は、事前に関係者に情報共有を行う制度「避難行動要支援者避難支援制度」を知っていますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度】

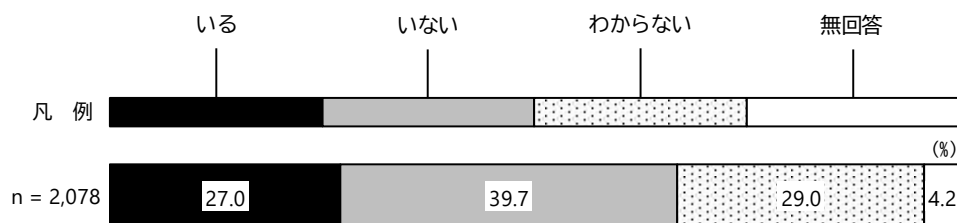
- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「制度を知っており、登録している」が 18.2%、「制度を知っているが、登録していない」が 39.4%と他の障がい種に比べ高くなっている。



（３）災害時に近所に助けてくれる人はいるか

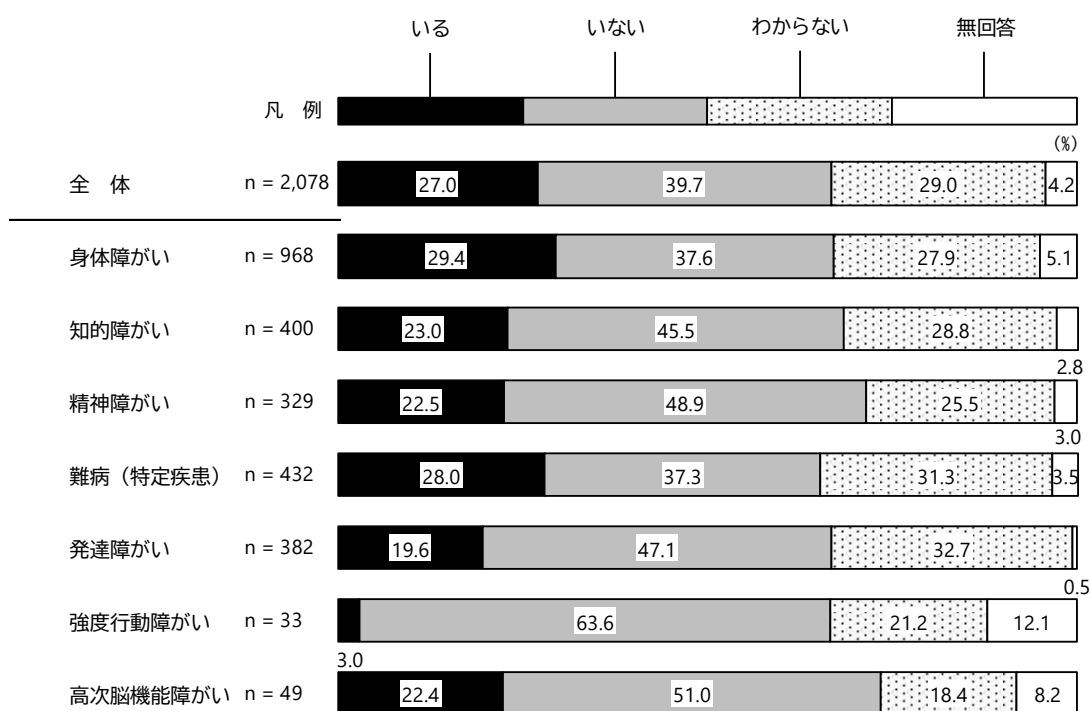
- ▶ 災害時に近所に助けてくれる人はいるかについて、「いる」は 27.0%、「いない」は 39.7%となっている。一方、「わからない」は 29.0%と約 3 割となっている。

問 52 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に近所にあなたを助けてくれる人はいますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



【障がい種別／災害時に助けてくれる人はいるか】

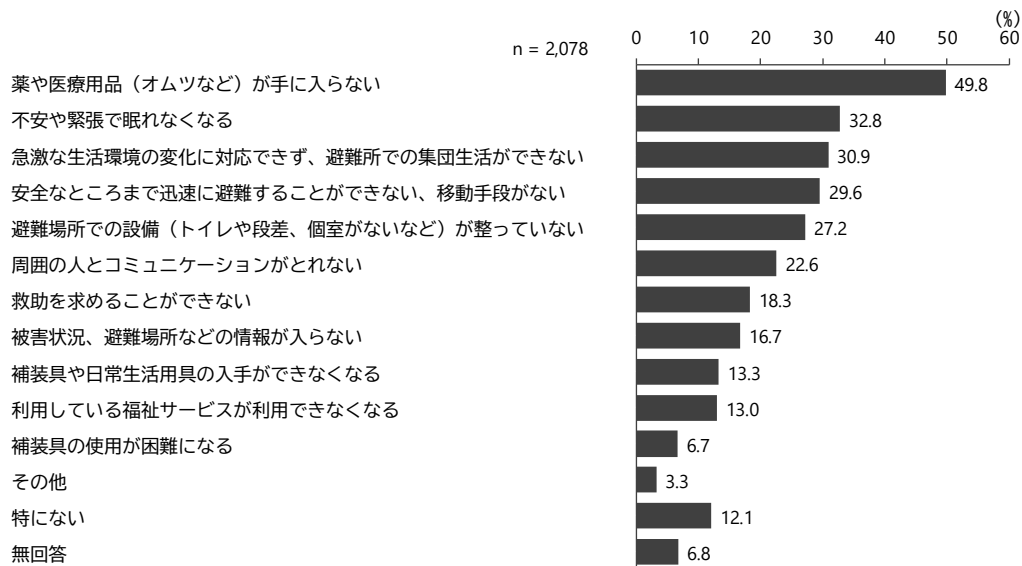
- ▶ 障がい種別にみると、強度行動障がいでは「いない」が 63.6%と他の障がい種に比べ高くなっている。



（４）災害時に困ること

- ▶ 災害時に困ることについて、「薬や医療用品（オムツなど）が手に入らない」が49.8%と最も高く、次いで「不安や緊張で眠れなくなる」（32.8%）、「急激な生活環境の変化に対応できず、避難所での集団生活ができない」（30.9%）となっている。

問 53 災害時に困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／災害時に困ること】

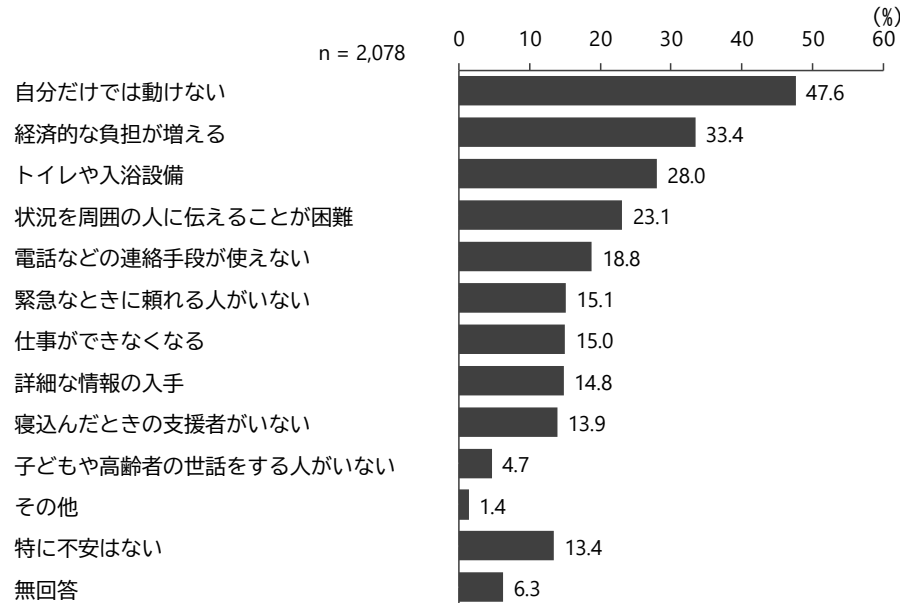
- ▶ 障がい種別にみると、精神障がいでは「不安や緊張で眠れなくなる」が56.5%、強度行動障がいでは「急激な生活環境の変化に対応できず、避難所での集団生活ができない」が69.7%、「救助を求めることができない」が60.6%、高次脳機能障がいでは「補装具の使用が困難になる」が26.5%と他の障がい種に比べ高くなっている。

	n	薬や医療用品（オムツなど）が手に入らない	不安や緊張で眠れなくなる	急激な生活環境の変化に対応できず、避難所での集団生活ができない	安全なところまで迅速に避難することができない、移動手段がない	避難場所での設備（トイレや段差、個室がないなど）が整っていない	周囲の人とコミュニケーションがとれない	救助を求めることができない	被害状況、避難場所などの情報が入らない	補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	利用している福祉サービスが利用できなくなる	補装具の使用が困難になる	その他	特にない	無回答
全 体	2,078	49.8	32.8	30.9	29.6	27.2	22.6	18.3	16.7	13.3	13.0	6.7	3.3	12.1	6.8
障がい種別															
身体障がい	968	51.5	25.7	21.3	32.1	32.4	12.4	15.0	15.2	18.3	13.2	11.4	3.5	14.0	8.1
知的障がい	400	45.3	40.0	52.3	42.3	23.5	52.5	41.0	26.0	8.3	23.0	2.8	3.3	7.5	3.0
精神障がい	329	60.5	56.5	48.6	29.5	21.9	34.7	21.0	20.4	13.7	14.6	4.9	4.6	7.3	4.9
難病（特定疾患）	432	65.3	29.6	26.2	29.9	37.7	13.2	14.8	14.1	15.7	10.6	8.6	3.9	9.3	6.3
発達障がい	382	43.5	46.6	60.7	33.8	23.3	48.4	35.3	25.1	9.4	19.1	2.1	4.7	6.8	1.3
強度行動障がい	33	57.6	33.3	69.7	45.5	36.4	57.6	60.6	27.3	6.1	33.3	3.0	3.0	3.0	6.1
高次脳機能障がい	49	57.1	34.7	36.7	61.2	40.8	28.6	34.7	30.6	30.6	24.5	26.5	2.0	8.2	10.2

（５）緊急な助けが必要になったと考えた時、不安に感じること

- ▶ 緊急な助けが必要になったと考えた時、不安に感じることについて、「自分だけでは動けない」が47.6%と最も高く、次いで「経済的な負担が増える」（33.4%）、「トイレや入浴設備」（28.0%）となっている。

問 54 もし、あなたが急な体調悪化などの緊急な助けが必要になったと考えた時、不安に感じることは何ですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



【障がい種別／緊急な助けが必要になったと考えた時、不安に感じること】

- ▶ 障がい種別にみると、精神障がいでは「経済的な負担が増える」が46.5%、強度行動障がいでは「自分だけでは動けない」が81.8%、「状況を周囲の人に伝えることが困難」が60.6%と他の障がい種に比べ高くなっている。

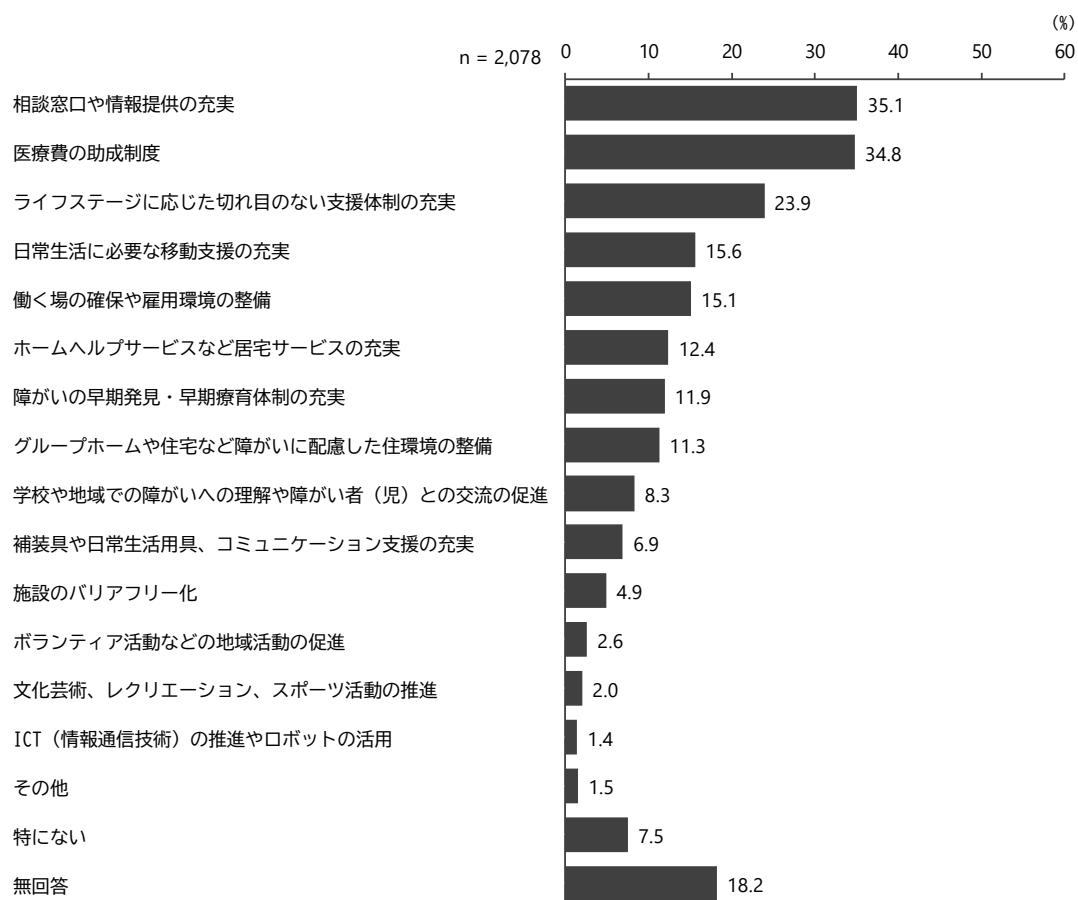
		n	自分だけでは動けない	経済的な負担が増える	トイレや入浴設備	状況を周囲の人に伝えることが困難	電話などの連絡手段が使えない	緊急なときに頼れる人がいない	仕事ができなくなる	詳細な情報の入手	寝込んだときの支援者がいない	子どもや高齢者の世話をする人がいない	その他	特に不安はない	無回答
全 体		2,078	47.6	33.4	28.0	23.1	18.8	15.1	15.0	14.8	13.9	4.7	1.4	13.4	6.3
障がい種別	身体障がい	968	49.0	34.5	35.5	16.1	15.2	12.5	11.2	14.4	13.5	3.8	1.5	13.5	6.7
	知的障がい	400	66.5	27.3	25.0	52.8	39.5	18.3	11.8	22.5	12.8	4.3	1.0	8.3	3.5
	精神障がい	329	46.8	46.5	23.7	28.6	20.4	27.1	19.8	18.5	22.2	7.6	2.1	9.1	6.7
	難病（特定疾患）	432	46.3	37.7	35.0	15.0	10.6	13.4	19.2	10.2	13.2	5.1	1.9	12.3	4.4
	発達障がい	382	53.9	31.4	19.1	46.6	34.0	18.3	16.2	22.0	9.9	5.2	1.6	11.8	2.9
	強度行動障がい	33	81.8	33.3	27.3	60.6	42.4	24.2	6.1	21.2	12.1	3.0	0.0	3.0	6.1
	高次脳機能障がい	49	67.3	34.7	40.8	30.6	28.6	8.2	20.4	10.2	6.1	6.1	0.0	6.1	12.2

13 障がい福祉施策について

（１）必要だと思う障がい福祉の取り組み

- ▶ 必要だと思う障がい福祉の取り組みについて、「相談窓口や情報提供の充実」が 35.1%と最も高く、次いで「医療費の助成制度」（34.8%）、「ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実」（23.9%）となっている。

問 55 あなたが必要だと思う障がい福祉の取り組みは何ですか。
（主なもの3つまで○をつけてください。）



【障がい種別／必要だと思う障がい福祉の取り組み】

- ▶ 障がい種別にみると、発達障がいでは「働く場の確保や雇用環境の整備」が 29.6%、強度行動障がいでは「ホームヘルプサービスなど居宅サービスの充実」が 33.3%、高次脳機能障がいでは「相談窓口や情報提供の充実」が 42.9%と他の障がい種に比べ高くなっている。

																				(%)
		n	相談窓口や情報提供の充実	医療費の助成制度	ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実	日常生活に必要な移動支援の充実	働く場の確保や雇用環境の整備	ホームヘルプサービスなど居宅サービスの充実	障がいの早期発見・早期療育体制の充実	グループホームや住宅などに障がいに配慮した住環境の整備	学校や地域での障がいへの理解や障がい者（児）との交流の促進	補装具や日常生活用具、コミュニケーション支援の充実	施設のバリアフリー化	ボランティア活動などの地域活動の促進	文化芸術、レクリエーション、スポーツ活動の推進	ICT（情報通信技術）の活用やロボットの活用	その他	特にない	無回答	
全 体		2,078	35.1	34.8	23.9	15.6	15.1	12.4	11.9	11.3	8.3	6.9	4.9	2.6	2.0	1.4	1.5	7.5	18.2	
障がい種別	身体障がい	968	35.8	37.1	19.8	19.1	8.4	15.7	7.0	9.9	4.2	11.2	6.9	3.1	1.7	1.8	1.4	8.7	17.8	
	知的障がい	400	33.8	22.8	36.8	13.5	20.5	8.5	17.0	17.0	13.5	3.0	2.8	0.8	2.0	1.3	1.3	5.3	19.8	
	精神障がい	329	34.3	35.3	21.3	13.4	26.1	9.7	11.2	11.6	5.8	3.3	2.7	1.8	4.0	1.8	3.0	7.6	18.5	
	難病（特定疾患）	432	34.0	44.7	25.5	18.1	12.3	14.6	12.3	11.3	4.2	5.6	9.3	2.3	1.2	1.6	1.4	3.9	17.6	
	発達障がい	382	31.9	23.8	38.5	10.5	29.6	6.3	23.3	12.8	23.8	2.4	1.6	1.6	1.8	0.5	1.3	2.9	20.9	
	強度行動障がい	33	30.3	24.2	30.3	15.2	3.0	33.3	12.1	21.2	12.1	6.1	9.1	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	24.2	
	高次脳機能障がい	49	42.9	42.9	18.4	16.3	12.2	12.2	6.1	4.1	0.0	6.1	6.1	2.0	0.0	4.1	2.0	2.0	26.5	

（２）自由意見

- ▶ 障がい福祉に関して日ごろ思うことや希望すること、将来の夢について、「制度・行政・情報提供に関すること」が 178 件と最も多く、次いで「生活支援・日常生活に関すること」（139 件）、「就労・社会参加に関すること」（51 件）となっている。

障がい福祉に関して日ごろ思うことや希望すること、その他将来の夢などがあれば、お聞かせください。

順位	内容	全体
1	制度・行政・情報提供に関すること	178 件
2	生活支援・日常生活に関すること	139 件
3	就労・社会参加に関すること	51 件
4	地域生活に関すること	42 件
4	相談・権利擁護に関すること	42 件
5	医療・健康に関すること	32 件
6	交通・移動支援に関すること	24 件
7	教育・学習支援に関すること	19 件
8	アンケートに関すること	10 件
9	災害時の対策に関すること	3 件

※ 1 人の回答内容が複数の項目に該当する場合は、それぞれの項目に分類している

【自由意見（一部抜粋）】

1. 制度・行政・情報提供に関すること

- 障がい福祉サービスが充実していると実感しているので不満に感じた事はないです。細やかなサービスをありがとうございます。
- 以前、このような調査があった時、要望として駐車場と施設の離れが気になり、活動できない主なことを書いたことがあり、それが改善したかのように今は快適に公民館活動をしています。ありがとうございます。
- 今通っている支援施設では、余暇活動の開催日が少なかったり、締め切りが早かったり、定員が少なかったり、そもそも教えてもらえなかったりする。支援施設以外でも障がい者が参加しやすいレクリエーション活動や友達づくりができるようなイベントを実施してほしい。
- 市役所の障がい福祉課についてですが、いつもすぐ対応していただいて助かっています。書類の記入方法、手続きについて丁寧に教えていただきいつもありがとうございます。子どもの障がいのことで悩むことも多いですが、いつ行ってもそれほど待たず、丁寧に接していただけることが救いになっています。
- 重度心身のピンクの紙を出さなくても、お金が戻って来るといいなと思ってます。マイナンバーの確認で、お金を病院等で払う手間がないと助かります。

2. 生活支援・日常生活に関すること

- いつも大変お世話になっております。よく電話で障がい福祉課へ相談して、その後窓口で手続きをすることもあり、とても助かります。ありがとうございます。私は在宅で息子を見守っている毎日なのですが、現在同居の家族が在宅時に外出できるということになり、時々不自由さを覚えます。息子はてんかんの発作が落ちつかず、“預ける”ことに慎重になっているのもあるのですが、すぐにはなくても、いつか自宅で数時間息子の見守りを頼むことができるサービスが始まらないだろうかと考えることもあります。彼は場所によってはかなり緊張してしまい、体調を崩すことにつながるため、最もリラックスできる自宅での見守りを望みます。また、通院時の待ち時間にパニックを起こしがちで、往診をお願いできる先生を自力で探しました。今後通院に同行していただけるサービスがあると心強いです。
- 健常者と障がい者、どちらにしても「出来ない事、出来る事が各々ある」という個性を持った存在といっただけ、そういった認識で生活してらっしゃる方の方が多い気がします。リアル、ネット含め、繋がる事、ヒアリングをし、システムに落とし込む事が一番大切な気がしますし、極端な分け込みの様なものも、過剰には不要な時代になっている気もします。
- 障がいを持つ人々が常に安心して暮らしていける様な社会であってほしい。生きている人々が楽しいと思える世の中である様に願うばかりです。施設入所を前提にその準備として取り組んでいる最中ですが、本人にとって一番あう所はどこなのかそこを探すことに不安がいっぱいでいるのが現状です。

3. 就労・社会参加に関すること

- リモートで訓練できるB型など新しい支援が増えて助かっています。外で働くのが難しいためリモートで就労できる場所（A型などは制度上難しそうですが）が増えれば嬉しいです。一方グループホームは渋滞が著しいため改善があると安心です。ASDは兄弟での遺伝率が高く、家事援助をお願いする際に、2人分同時に行っていただけるような柔軟なサービスが受けられると当事者として安心できます。何卒よろしくお願いいたします
- 何らかの障がいをお持ちの方でも、「フリーランスで働く」という働き方も選択肢に加えてくれると嬉しいです。私は、人と関わるのは好きですが、働いていた時のトラウマがあり、趣味から仕事にする考えの方と出逢えたお陰で、自立訓練終了後は、フリーランスで働く為に準備をすすめています。
- 特定疾患を小2で発病した為入退院をくり返し、現在は、病棟保育士を目指し勉強中です。入院中の子供の気持ちや不安など、自分が体験した事を生かしていけたらと考えています。

4. 地域生活に関すること

- 児童発達支援の施設から、年に数回ある障がい児が集まる「遊びの会」の情報を教えてもらい参加しています。息子はとても楽しそうで、親も周りの目を気にしなくていいので、こういうイベントがもっと増えるといいなと思います。（私が知らないだけかもしれませんが）
- 今のところ、仕事ができる事の幸せと健康である事の幸せを感じながら毎日過ごしており、令和7

年11月末で民生員活動が終わりましたが、これからも少しでも地域の皆さんの為になるような、ボランティア活動ができれば嬉しく思います。

○障がいのある人でも安心して生活できるようになってもらいたい。買い物に行った際も、障がい者駐車場に、普通の方が駐車しており車を止められずに困っています。普通の方には、障がい者駐車場を開けておいて欲しいと思います。

4. 相談・権利擁護に関すること

○日頃より持病のことで相談に乗っていただき、丁寧に対応してくださっていることに感謝しています。安心して相談できる支援があることを心強く感じています。いつもありがとうございます。

○子供に見てもらっていますが子供が結婚して自分一人になった時、介護施設に入るのがたいへんな世の中になってくると思います。すぐ入る事が出来るか心配になっています

○指定難病医療受給者証は持っておりますが、障がいはありませんので現在支障はありませんが、身体が自由に動かなくなった場合を考えると、希望を持って闘病生活を送れるか不安です。相談する窓口があって、在宅で過ごせるのが理想です。

5. 医療・健康に関すること

○現在、娘は障がい病棟へ長期入院しており、全介助での生活を送っています。手厚い看護、介護の中で笑顔を見せる事も多く、私の日々の生活の励みになっています。いつもわからない事は市役所へ連絡して教えて頂いています。最近、ようやく外泊の許可も出て、月に数日帰宅できるようになりました。専門の方の支援を頂ける事で親子共に落ち着いた生活が送れています。有難うございます。

○大変高価な薬を服用して、なんとか毎日暮らしています。その薬がないと寝たきりの生活になってしまうので、医療費を助成していただいているのはとてもありがたいと、日々思っております。

○医療ケア児支援法が出来て、注目もされ、体制も整ってきたのかと思います。しかし、18才になって医療ケア者になると、支援体制が整っていないことを実感します（法律には配慮して行わなければならないと明記してあるのに）。学校を卒業してしまうと行く所が少ないです。特に医療ケアが必要な場合看護師の確保が必要になりますが、民間事業者ではその確保が非常に不安定な状況です。その為行く事も叶わず、行けたとしても看護師が辞めたので…と突然行けなくなる事もあります。行政が介入して実態の把握と、改善をして頂けると大変有難いです。

6. 交通・移動支援に関すること

○現在、特別支援学校に通学していますが、学校までの交通手段を確保することに大きな困難を感じています。スクールバスは、送迎バスではなく、自立に向けた訓練の場という位置付けのため、落ちついて1人で大人しく、1時間ほどじっと座ってられる子供しか乗車させてもらえません。移動支援は通勤・通学には利用できないですし、親が仕事に行く前に早目に送り届けよう

としても、学校は8:30より前には子供を受け入れないため、やはり難しいということになります。これは、親に仕事を辞めろと言っているのと同じことだと思います。親が仕事を辞める（父母のど

ちらか一方だとしても）と、経済的なしわ寄せが、障がい児本人だけでなく、その兄弟姉妹など家族にも及びます（例えば、大学進学を経済的な理由で諦めねばならない等）。障がい者が中・重度の人でも、家族だけのサポートに頼らず、安心して、通勤・通学できるサービスを、整えてほしいです。

○バスの便が少なく、予約の2時間も前に病院に着くため疲れてしまう。主人が仕事の時は大変です。物価高で生活も大変。タクシー券を使っても一年間は持ちません。

○障がい者にとっても親切で優しい国だと思い感謝しています。例えば、障がい者が新幹線を使って旅行する時、本当に行き届いた介添えを行ってくれ、楽しい旅ができる。車イスで行く先々で駅の方が迎えてまた乗せて送ってくれる。私は何と優しい国だと思いました。感謝あるのみです。

7. 教育・学習支援に関すること

○国や市が一生懸命に取り組んでいても、理解しようとしらない人たちがいる為に、生きづらさは、消えないと思う。ただ、環境が整い、理解のある方達とつながっている事で、とても改善され、救われると思うので、つながりが途切れないように取り組んでほしいと願います。又、園や学校から支援の必要な子たちの壁をなくした関わり方をどんどん取り組んだ方が良いと思う。子供が理解しても、その保護者が理解できていないから難しいが、壁のないつながりのある時間を支援級の子も通常級の子も大切にしてほしいです。

○学校で障がい困まっている人達の事を子供達にも教えてほしい。色々な障がいがある事を知ってほしい。

○発達障がいの特性や学校の環境調整の限界で、不登校になってしまった際の福祉や支援が必要。子どもの不登校により、親が離職せざるを得ず、経済的支援も必要だと思う。また、子どもの学習の機会、居場所の提供なども必要だと思う。

8. アンケートに関すること

○障がい福祉についてこのようなアンケートを実施していただき、そしてこのことにより、充実を考えていただけていることに深く感謝しております。本人の将来を思うと、不安でいっぱいになります。現在に引き続き、同じ状態は年齢的に無理だと思うので、その変化して行く先の生活について、前もって知れる情報や窓口を紹介して頂くことが、今できれば幸いと思っています。（このアンケート用紙にも参考になる文面がありましたので、できれば頂きたいくらいでした）

○私自身が特別支援学校の教員なので障がい福祉に関する知識がありますが、実態調査に答えてみて、一般の方には複雑な制度で用語も難しいだろうなと改めて思いました。難病も「障害者総合支援法」における「障害者」にあたることを知っている人も、非常に少ないと思います。おそらく、難病当事者のほとんどがご存知ないのではないのでしょうか。発達障がいへの理解がなかなか進みません。特に、小、中、高の先生方から、「発達障がいの児童生徒は特別支援学校に行くべき」という言葉をよくいただきますが、特別支援学校の対象ではないことが法律で決まっていますので、啓発が進むといいなあと思います。

○アンケートの内容を、児・者で分けて行なった方がいいと思う。より当事者のことや本人を取り巻く環境で、困り感などもそれぞれ違った結果も出て良いと思う。

9. 災害時の対策に関すること

- 今の制度は年寄りに費用がかかりすぎではないかと常に思っています。年は自然にやって来るもの、今は自然に来るものにしたいと思っています。もし夜中に地震などがあると家族の者が安否を確かめに来てくれるので不安はありません。お気遣いどうもありがとうございました。
- 万が一、地震、その他の災害で透析場所が被害を受け受診出来なくなってしまう。その場合どうするかが不安です。ここに行って下さい等の情報がほしいです。

IV 調査結果【障がい福祉サービス事業所調査】

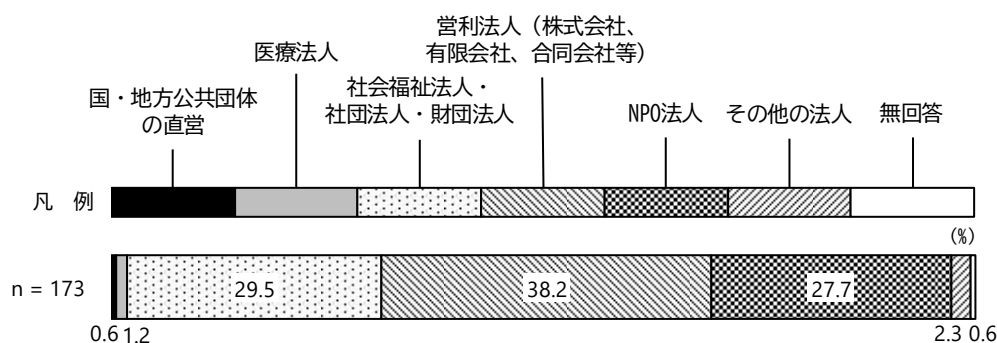
1 事業所の運営状況について

(1) 事業所の運営主体

- ▶ 事業所の運営主体について、「営利法人（株式会社、有限会社、合同会社等）」が 38.2%と最も高く、次いで「NPO 法人」（27.7%）、「社会福祉法人・社団法人・財団法人」（29.5%）となっている。

問1 貴事業所の運営主体は、次のうちどれですか。

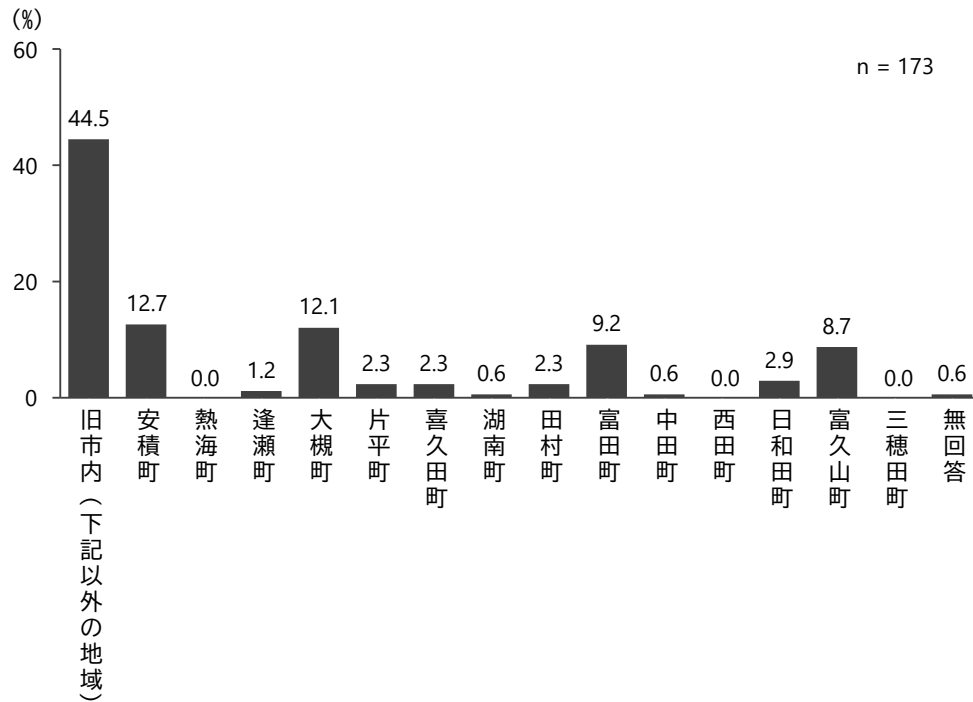
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



(2) 事業所の所在地

- ▶ 事業所の所在地について、「旧市内（下記以外の地域）」が44.5%と最も高く、次いで「安積町」（12.7%）、「大槻町」（12.1%）となっている。

問2 貴事業所の所在地はどこですか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

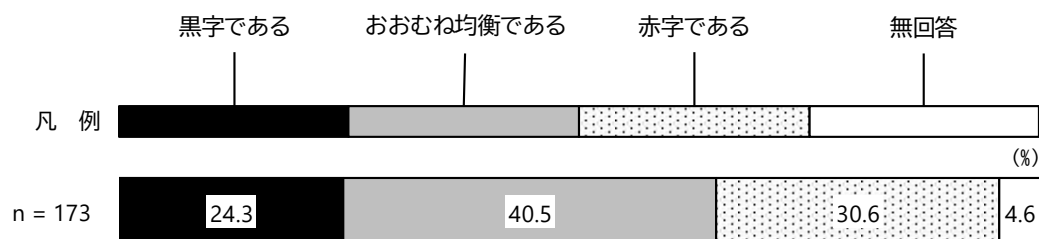


(3) 現在の事業所の年間収支状況

- ▶ 現在の事業所の年間収支状況について、「おおむね均衡である」が 40.5%と最も高く、次いで「赤字である」(30.6%)、「黒字である」(24.3%) となっている。

問3 現在の事業所の年間収支状況は、次のうちどれですか。

(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

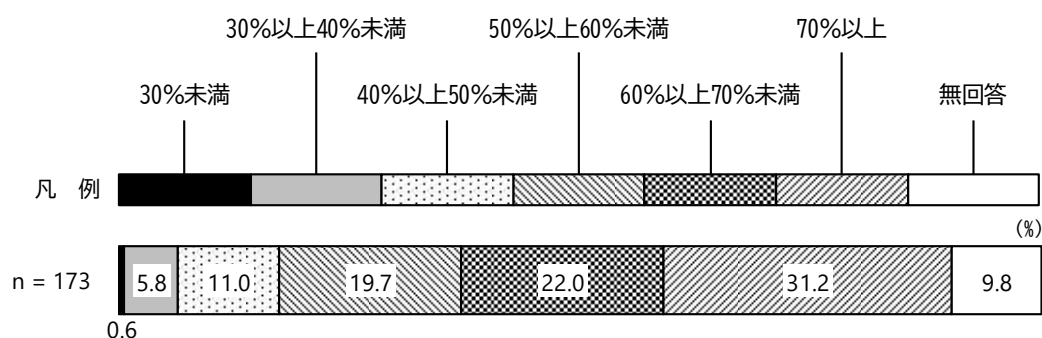


(4) 事業支出における人件費の割合

- ▶ 事業支出における人件費の割合について、「70%以上」が 31.2%と最も高く、次いで「60%以上 70%未満」(22.0%)、「50%以上 60%未満」(19.7%) となっている。

問4 事業支出における人件費の割合は、次のうちどれですか。

(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

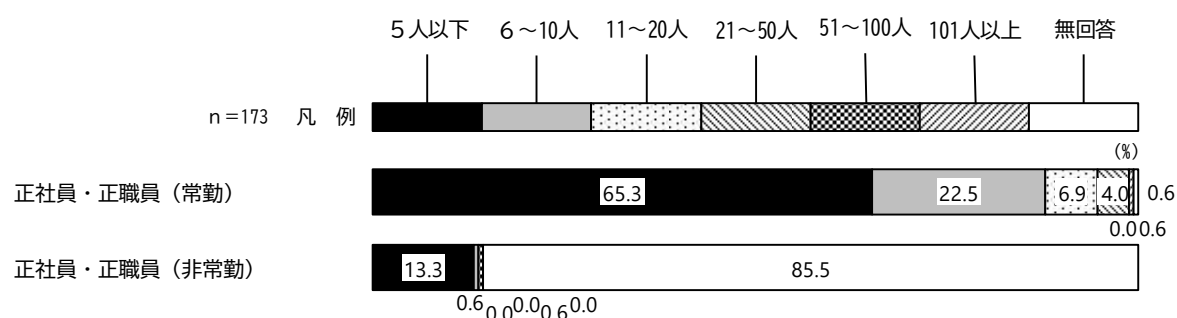


(5) 雇用形態別の職員数

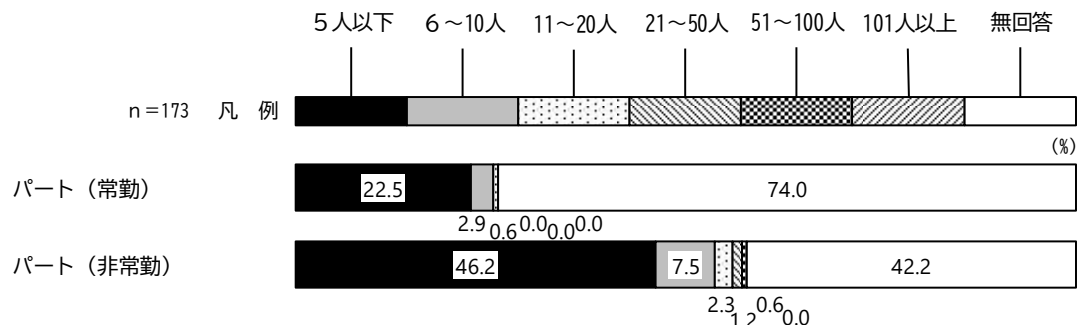
- ▶ 雇用形態別の職員数について、正社員・正職員、パートでは、いずれも「5人以下」が最も高く、正社員・正職員（常勤）が65.3%、正社員・正職員（非常勤）が13.3%、パート（常勤）が22.5%、パート（非常勤）が46.2%となっている。

問5 令和8年1月1日現在の、雇用形態別の職員数をご記入ください。

正社員・正職員



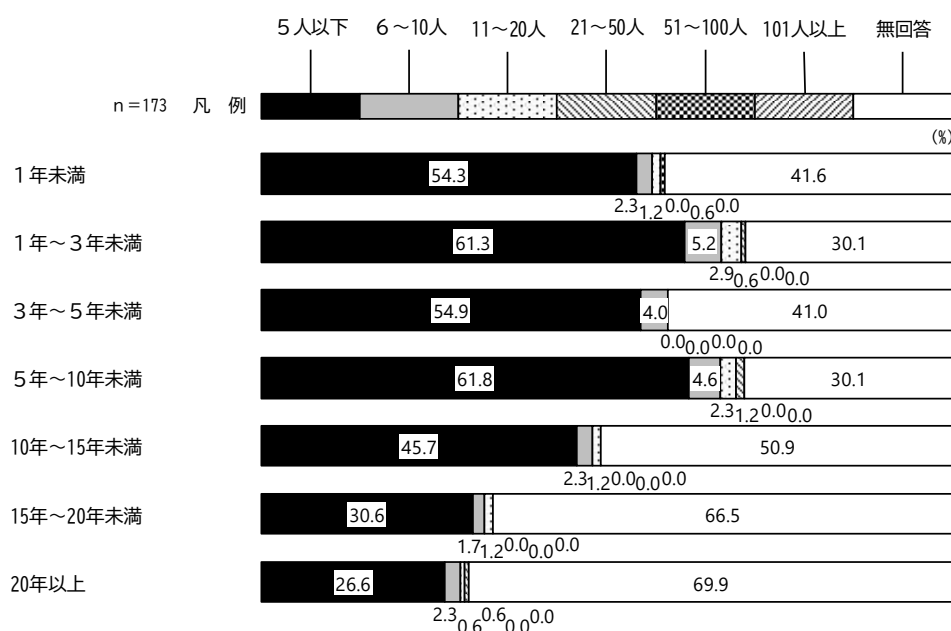
パート



(6) 経験年数別の職員数

- ▶ 経験年数別の職員数について、1年～3年未満、5年～10年未満では、「5人以下」が6割以上と他の経験年数に比べ高くなっている。

問6 令和8年1月1日現在の、経験年数別の職員数をご記入ください。

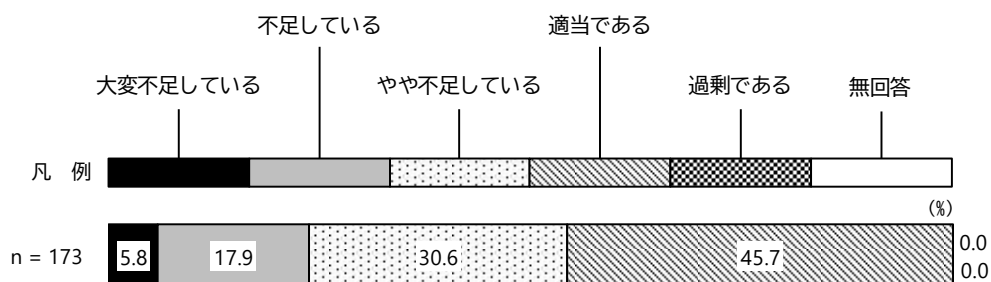


(7) 職員の過不足状況

- ▶ 職員の過不足状況について、「大変不足している」と「不足している」、「やや不足している」を合わせた《不足している》は54.3%と5割以上となっている。一方、「適当である」は45.7%となっている。

問7 現在の職員の過不足は、次のうちどれですか。

(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

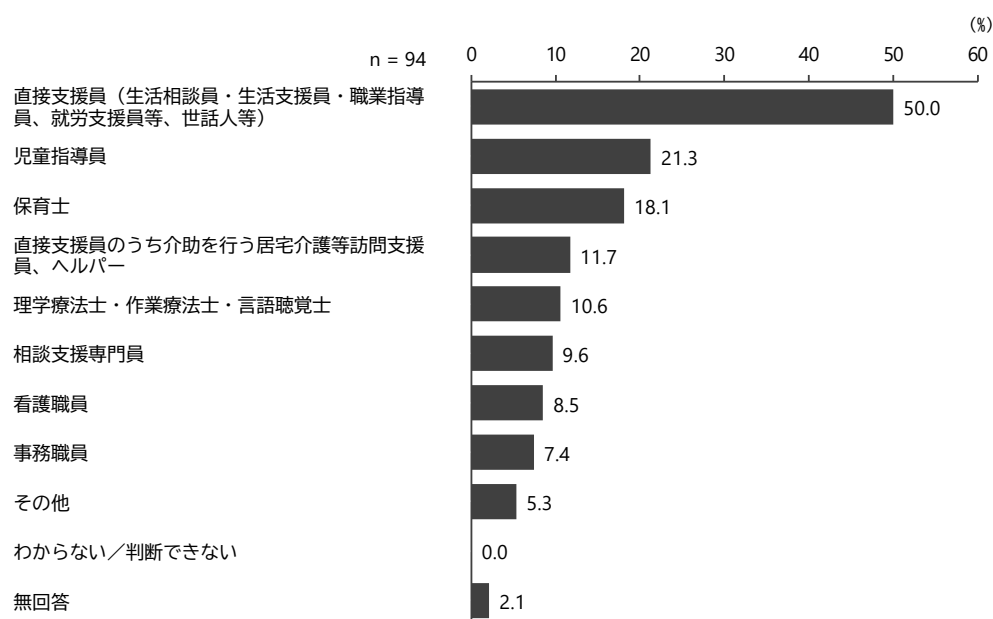


(8) 不足している職員の職種

- ▶ 不足している職員の職種について、「直接支援員（生活相談員・生活支援員・職業指導員、就労支援員等、世話人等）」が50.0%と最も高く、次いで「児童相談員」（21.3%）、「保育士」（18.1%）となっている。

【問7で「1」～「3」（不足している）と回答した事業所にお聞きします。】

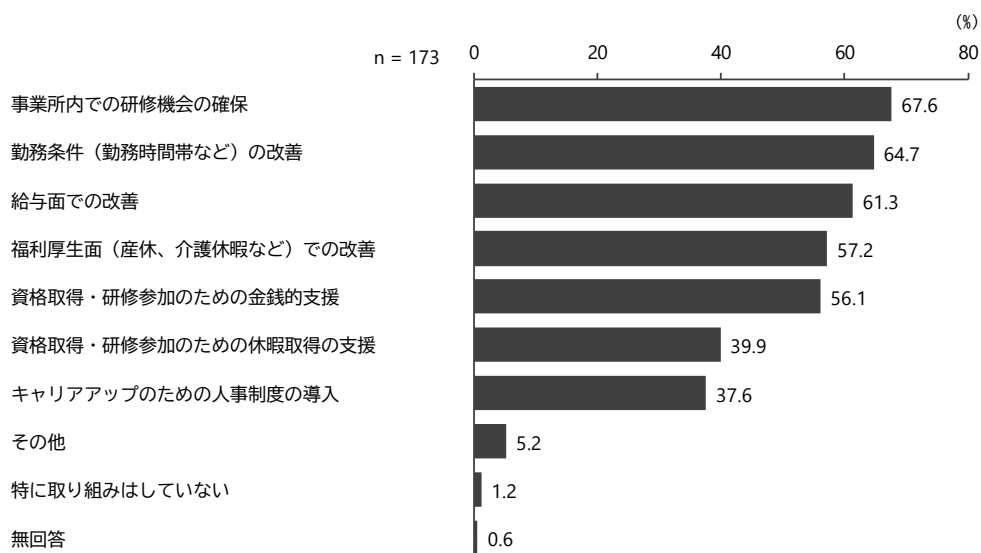
問8 不足している職員の職種を教えてください。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



（９）職員定着のために行っている取組

- ▶ 職員定着のために行っている取組について、「事業所内での研修機会の確保」が 67.6%と最も高く、次いで「勤務条件（勤務時間など）の改善」（64.7%）、「給与面での改善」（61.3%）となっている。

問９ 職員定着のために行っている取組は何ですか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

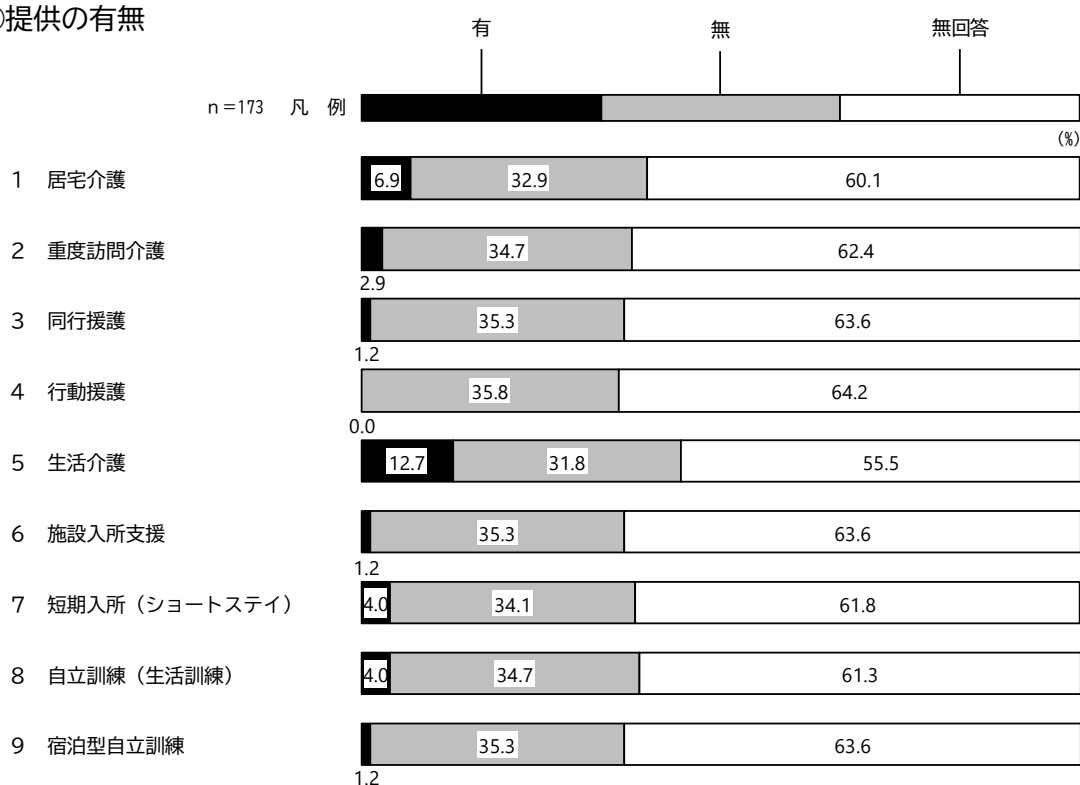


(10) サービスの状況

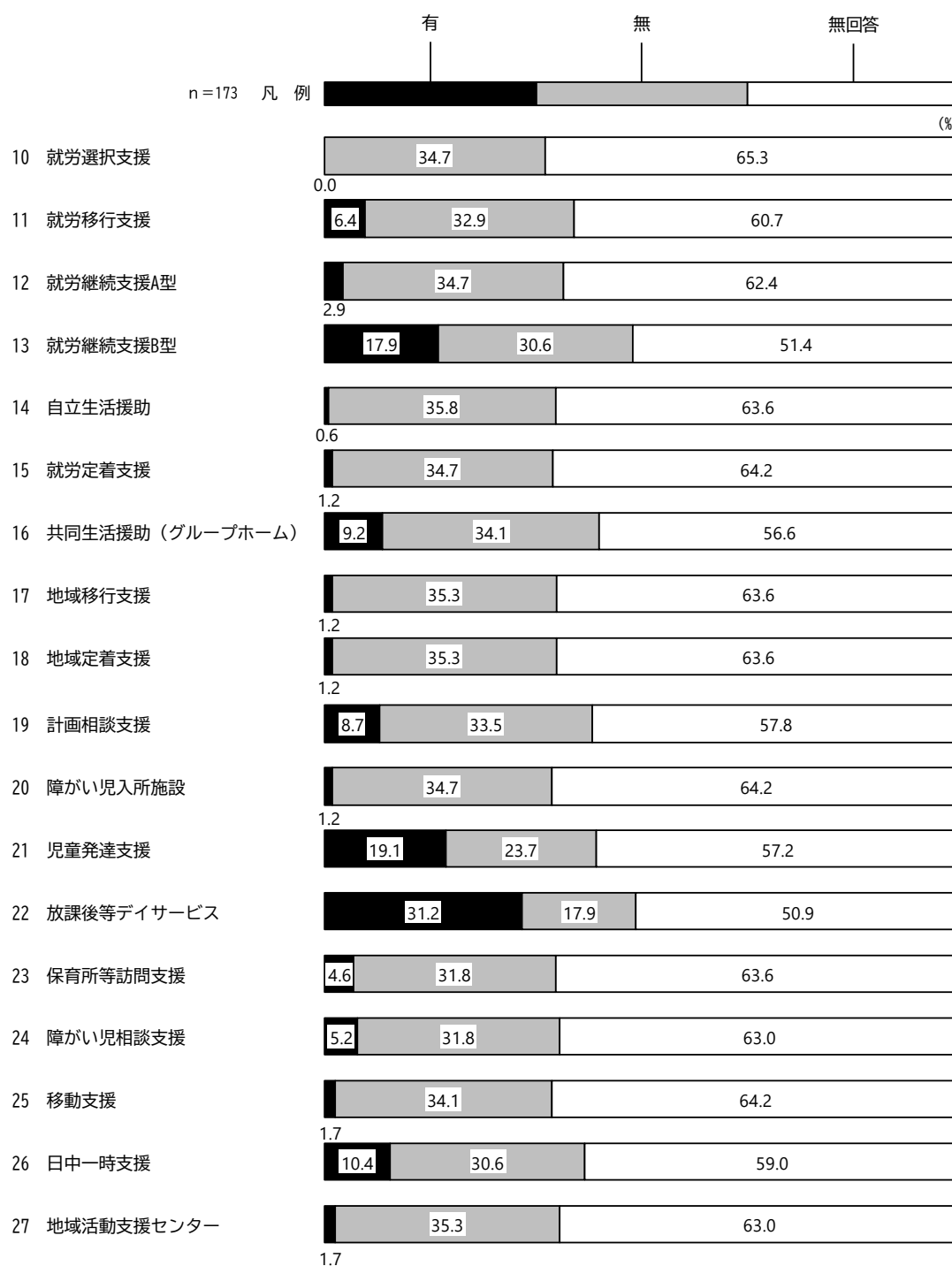
- ▶ サービスの状況について、①提供の有無では『22 放課後等デイサービス』で「有」が 31.2%と 3 割以上となっており、他の項目に比べ高くなっている。

問 10 次に掲げる 27 のサービスそれぞれについて、現在の①提供の有無、直近 1 年（令和 7 年 1 月から 12 月）の②実利用者数と③うち郡山市援護者数、④新規利用者の受入が可能であったかどうか、あてはまるものに○をつけてください。

①提供の有無

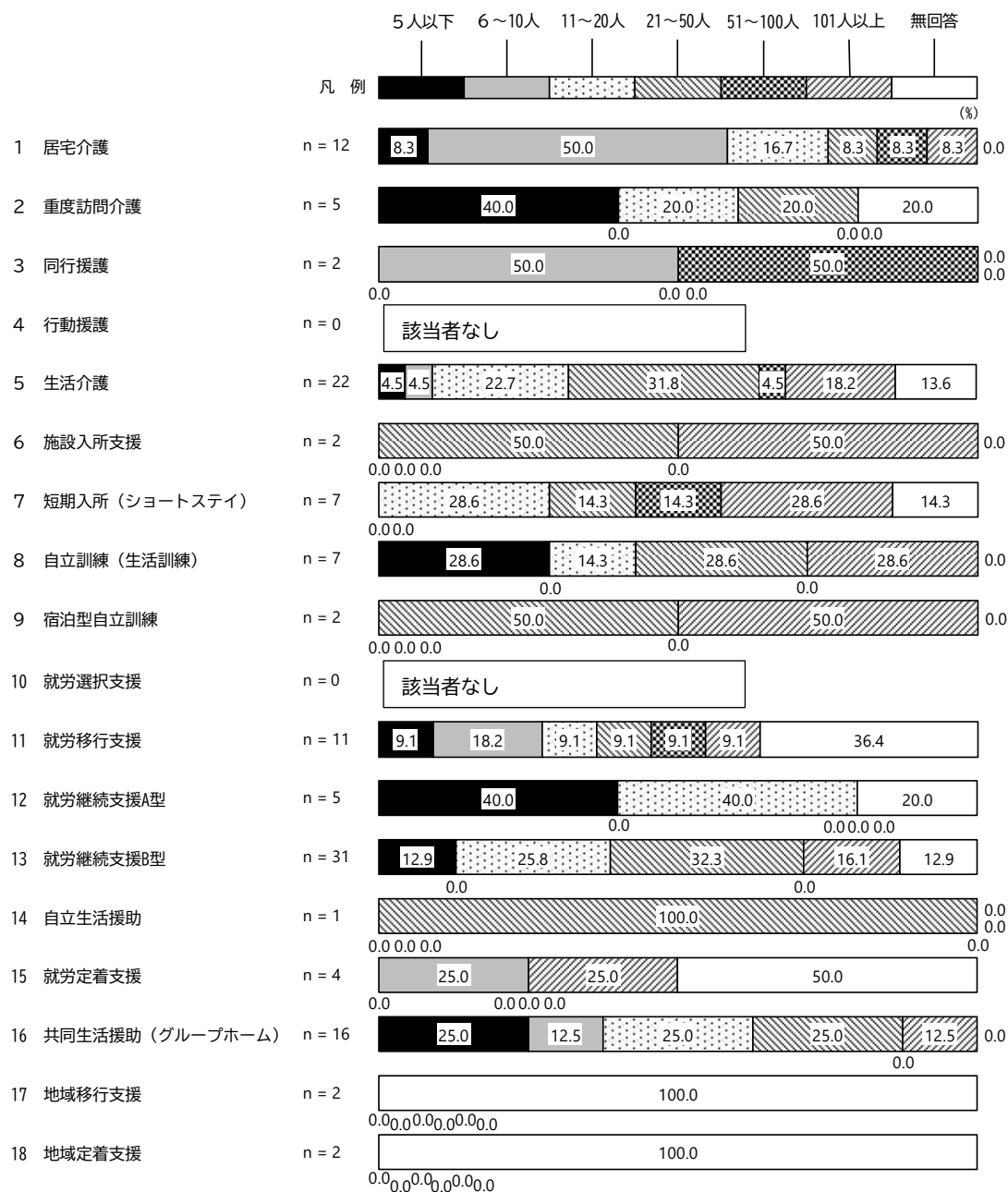


IV 調査結果【障がい福祉サービス事業所調査】

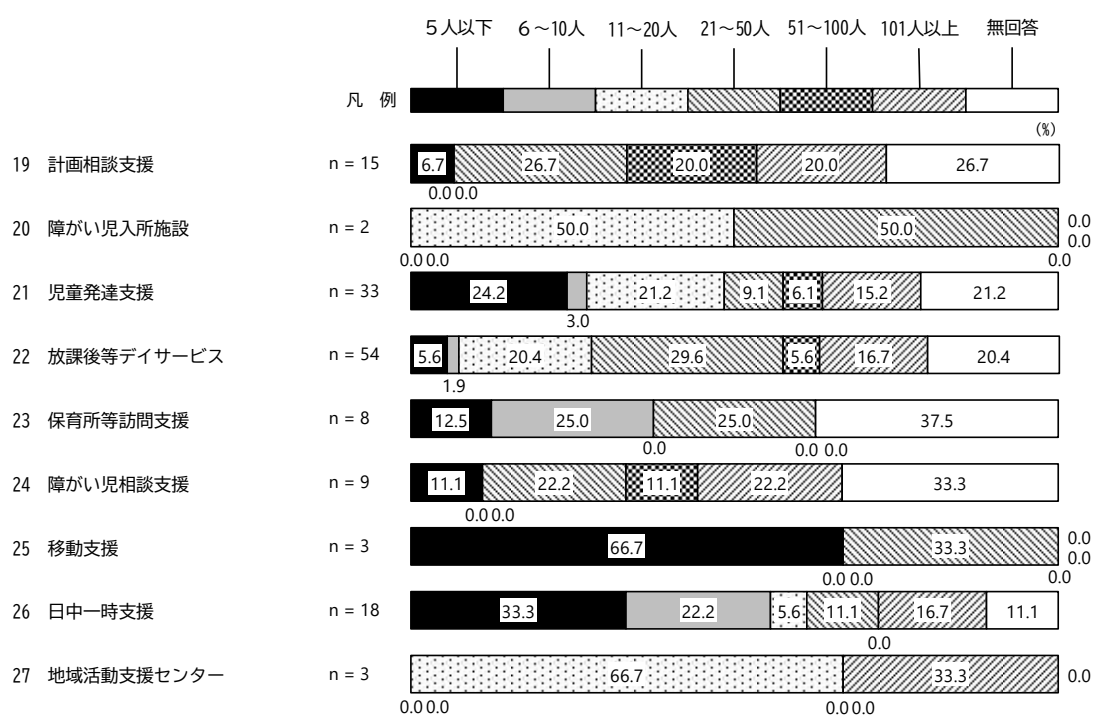


- ▶ ②直近1年の実利用者数では『5 生活介護』、『13 就労継続支援 B 型』、『19 計画相談支援』、『22 放課後等デイサービス』で「21～50 人」が約 3 割と他の項目に比べ高くなっている。

②直近1年の実利用者数

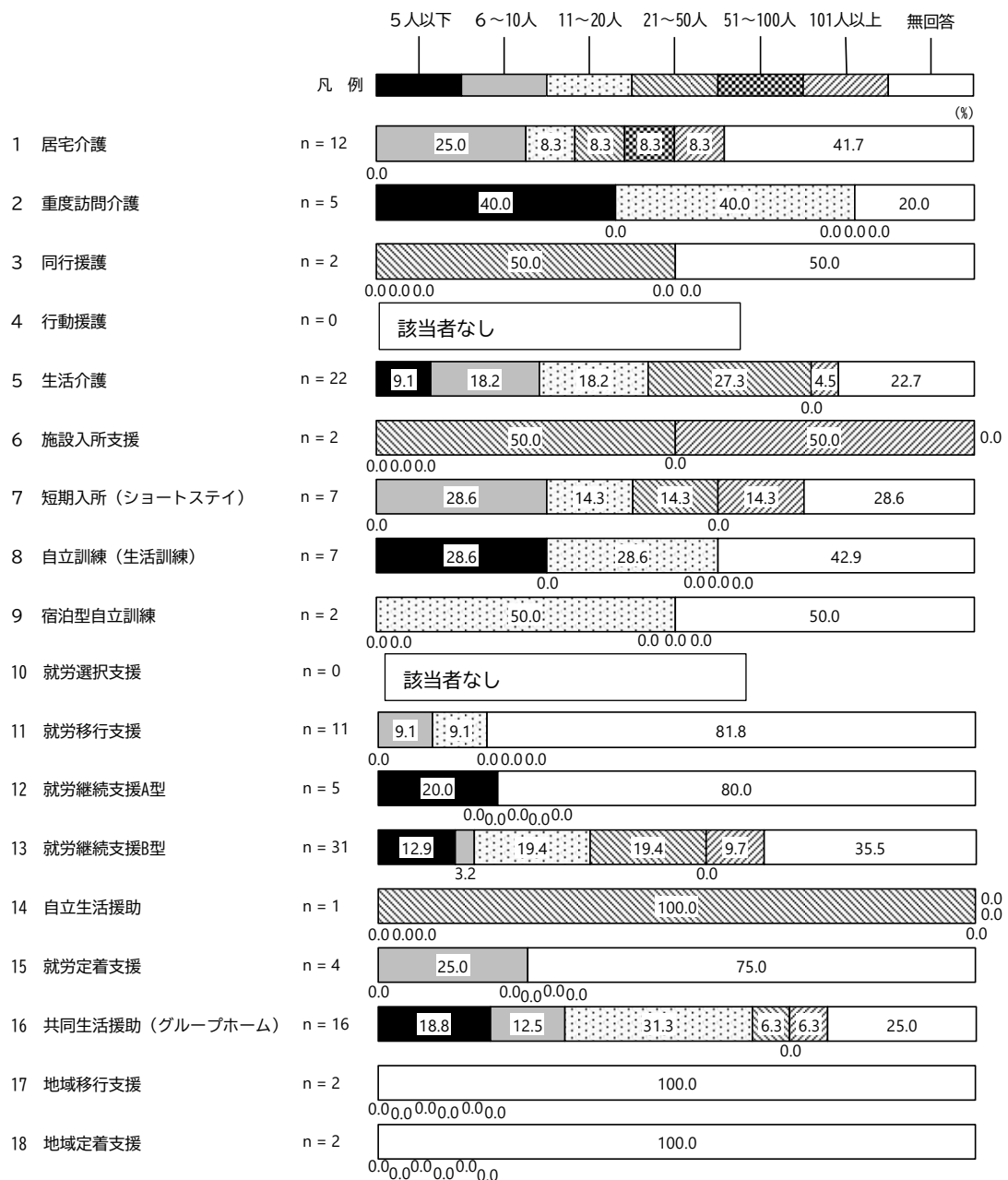


IV 調査結果【障がい福祉サービス事業所調査】

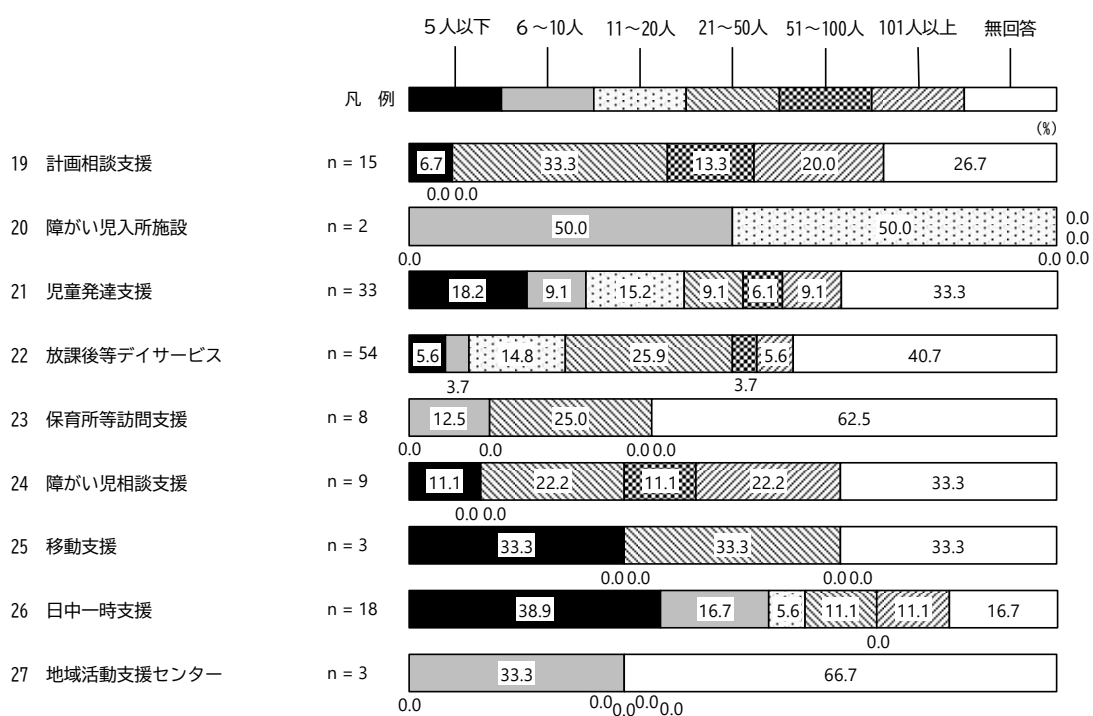


- ▶ ③うち郡山市援護者数では、『26 日中一時支援』で「5人以下」が38.9%、『5 生活介護』、『19 計画相談支援』、『22 放課後等デイサービス』で「21～50人」が約3割と他の項目に比べ高くなっている。

③うち郡山市援護者数

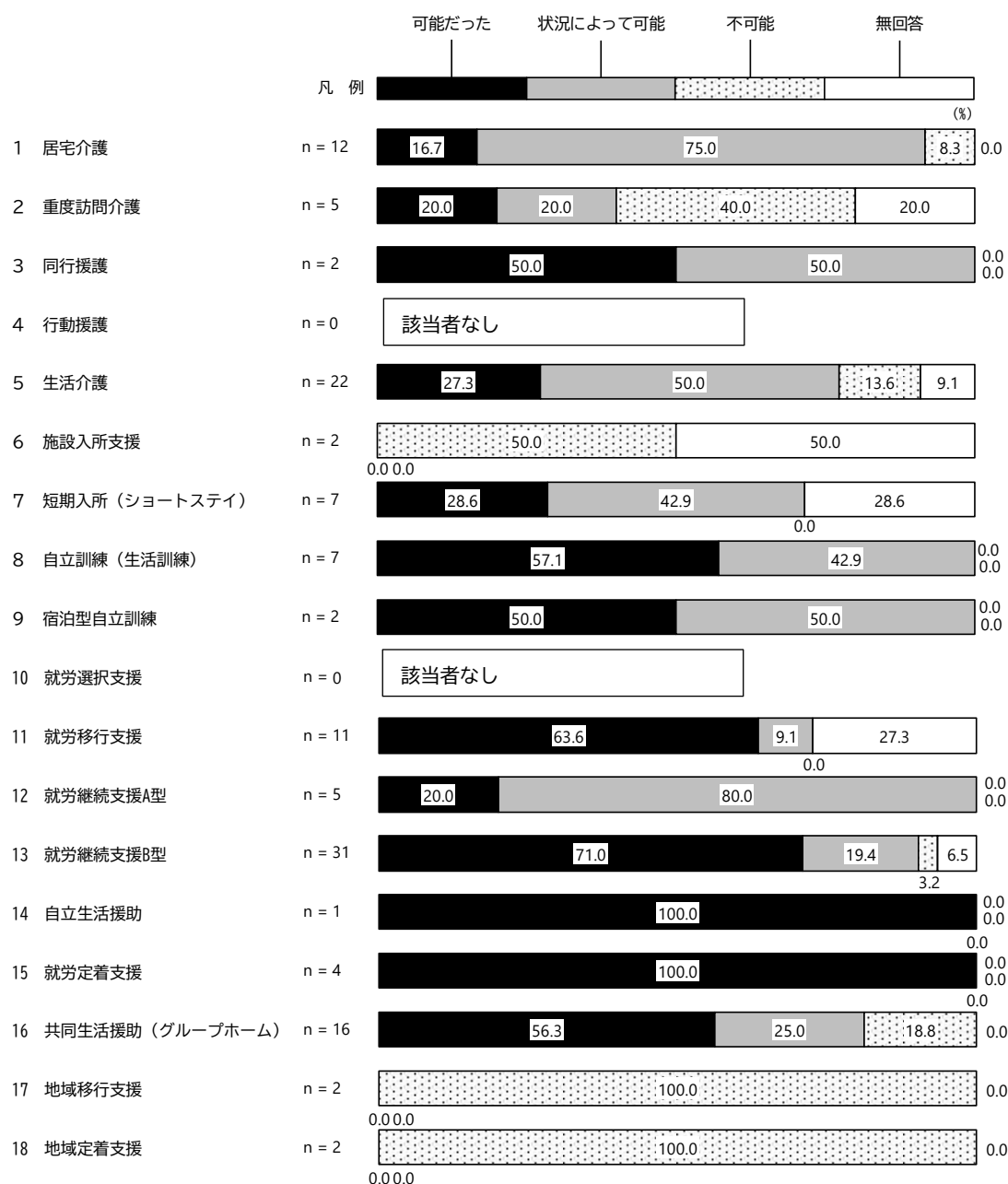


IV 調査結果【障がい福祉サービス事業所調査】

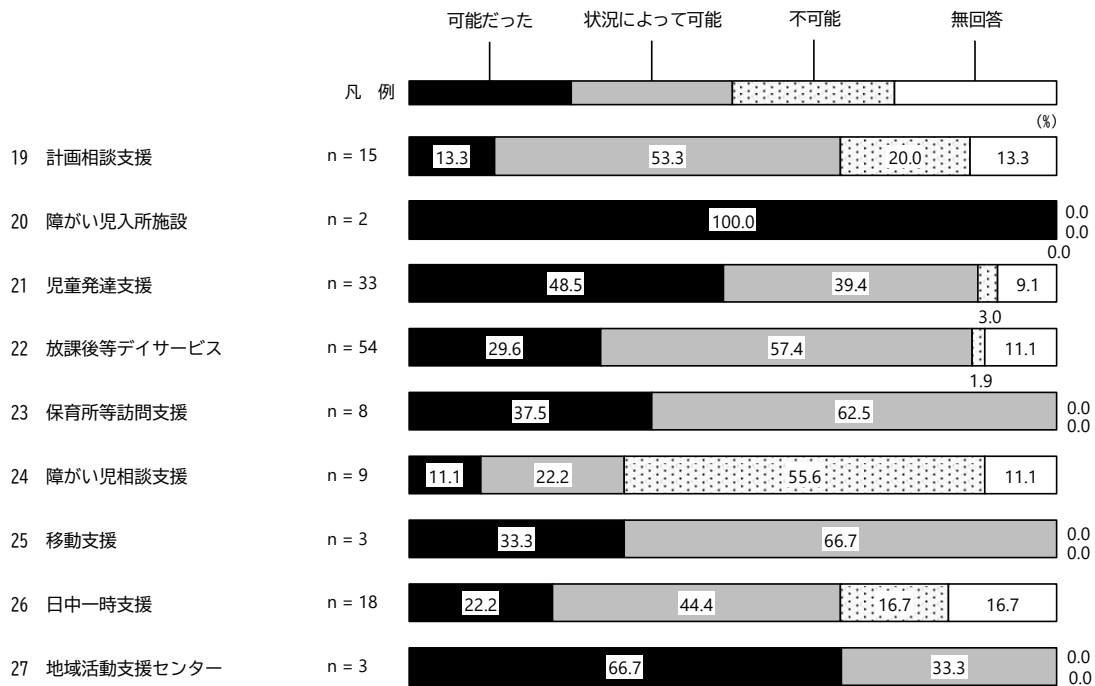


- ▶ ④新規利用者の受入では、『16 共同生活援助（グループホーム）』、『21 児童発達支援』で「可能だった」が約 5 割、『1 居宅介護』、『19 計画相談支援』、『22 放課後等デイサービス』で「状況によって可能」が 5 割以上と他の項目に比べ高くなっている。

④新規利用者の受入



IV 調査結果【障がい福祉サービス事業所調査】



【サービス提供の状況（事業所合計）、サービス利用人数（回答者合計）】

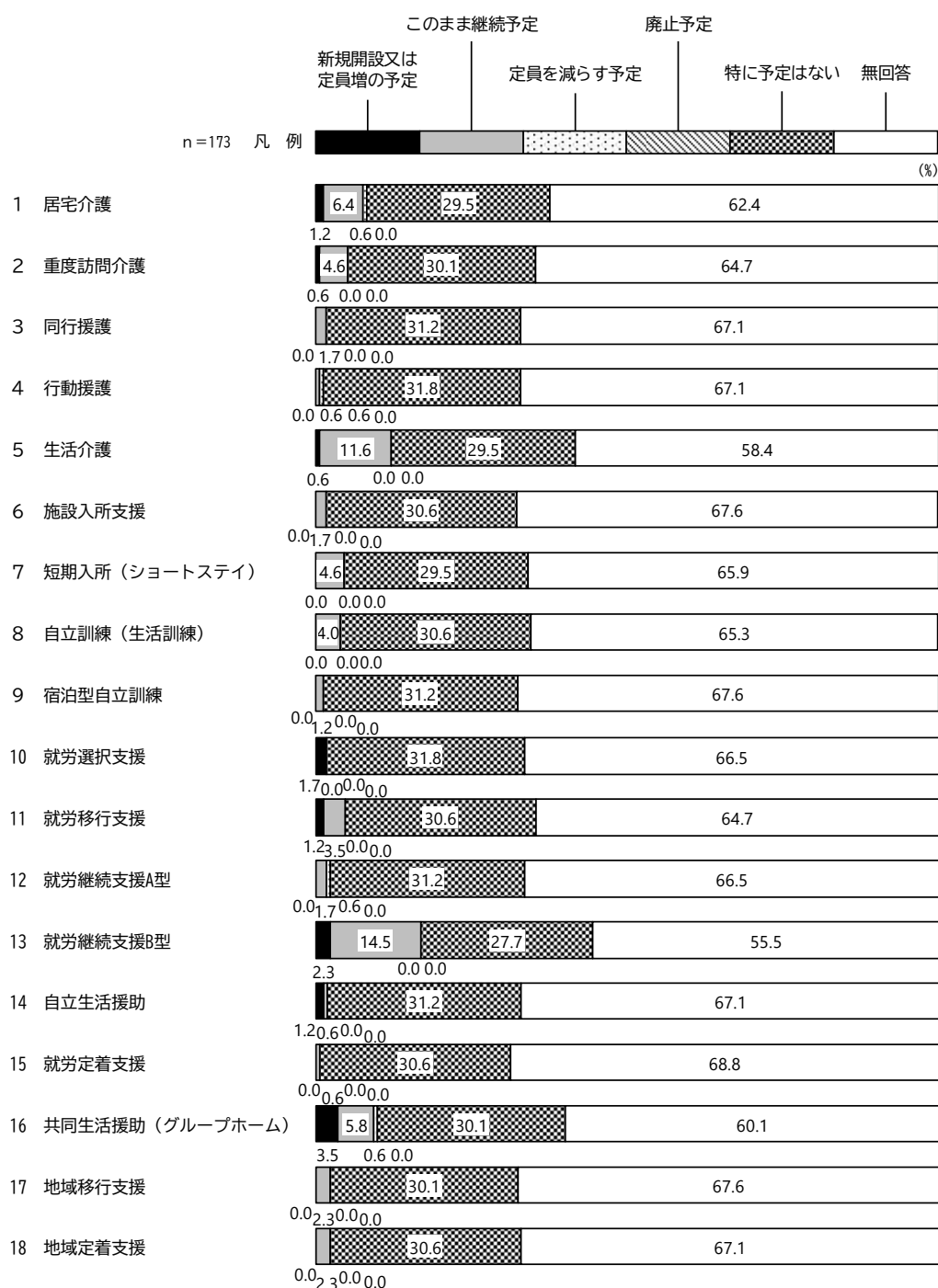
①④（事業所）、②③（人）

サービスの種類	①提供の有無	②直近1年の 実利用者数	③うち郡山市 援護者数	④新規利用者の受入		
	提供有			1 可能だった	2 状況によって 可能	3 不可能
1 居宅介護	12	776	682	2	9	7
2 重度訪問介護	5	57	32	1	1	8
3 同行援護	2	63	45	1	1	5
4 行動援護	—	—	—	—	—	6
5 生活介護	22	19,885	11,524	7	11	7
6 施設入所支援	2	25,110	15,540	—	—	6
7 短期入所（ショートステイ）	7	1,332	808	2	3	4
8 自立訓練（生活訓練）	7	355	30	4	3	5
9 宿泊型自立訓練	2	208	14	1	1	5
10 就労選択支援	—	—	—	—	—	5
11 就労移行支援	11	4,878	24	7	1	5
12 就労継続支援A型	5	35	4	2	4	5
13 就労継続支援B型	31	6,292	4,651	23	8	6
14 自立生活援助	1	25	25	1	—	5
15 就労定着支援	4	118	7	4	—	5
16 共同生活援助（グループホーム）	16	7,237	6,373	9	4	8
17 地域移行支援	2	—	—	—	—	8
18 地域定着支援	2	—	—	—	—	8
19 計画相談支援	15	818	750	2	8	8
20 障がい児入所施設	2	46	17	2	—	4
21 児童発達支援	33	10,682	5,333	18	13	3
22 放課後等デイサービス	54	11,264	2,494	16	32	3
23 保育所等訪問支援	8	95	83	3	5	3
24 障がい児相談支援	9	409	396	1	4	8
25 移動支援	3	29	23	1	2	5
26 日中一時支援	18	1,031	790	5	8	6
27 地域活動支援センター	3	3,621	10	2	2	5

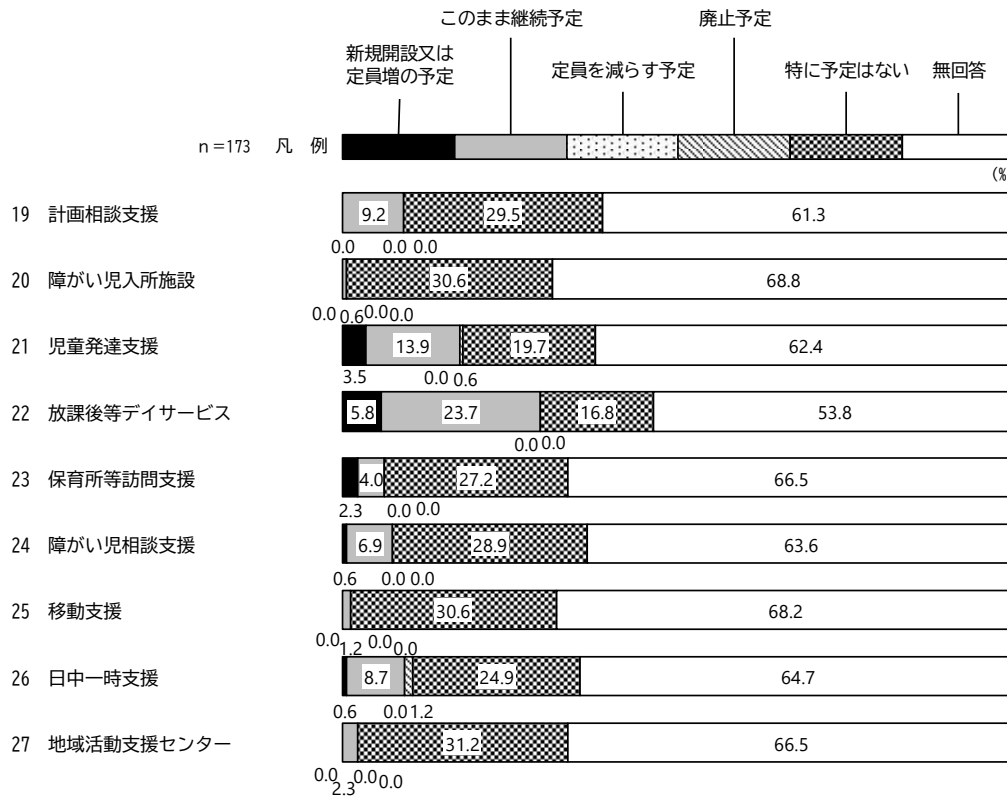
(11) 今後3年間のサービス提供予定

- ▶ 今後3年間のサービス提供予定について、いずれの項目も概ね同様の傾向となっているが『22 放課後等デイサービス』では「このまま継続予定」が23.7%と他の項目に比べ高くなっている。

問 11 次に掲げる27のサービスそれぞれについて、貴事業所における、今後3年間のサービス提供の予定について当てはまるもののひとつに○をつけてください。



IV 調査結果【障がい福祉サービス事業所調査】



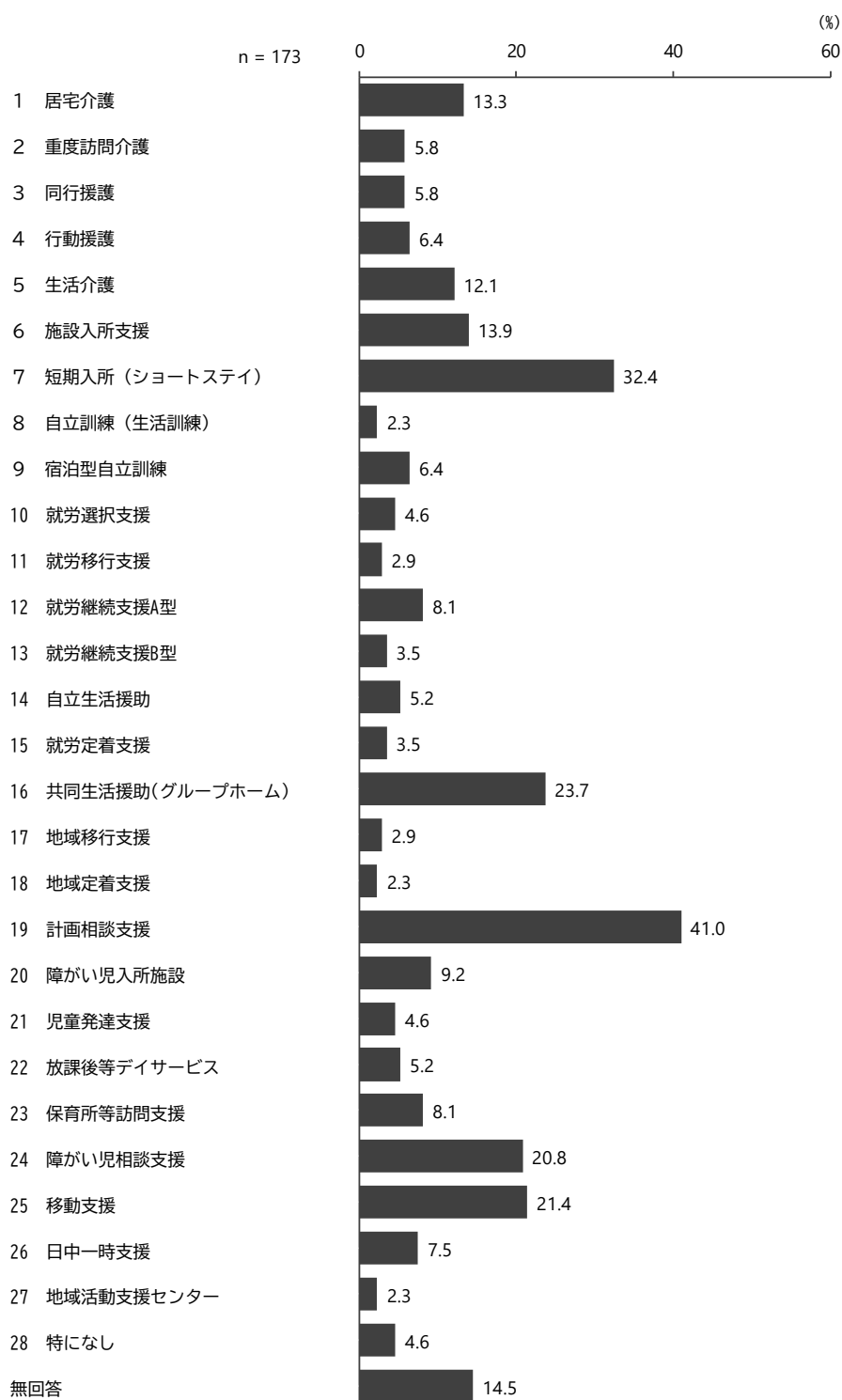
【サービスの新規開設又は定員増の予定の事業所数】

サービスの種類	(事業所)	
	新規開設又は定員増の予定	このまま継続予定
1 居宅介護	2	11
2 重度訪問介護	1	8
3 同行援護	—	3
4 行動援護	—	1
5 生活介護	1	20
6 施設入所支援	—	3
7 短期入所（ショートステイ）	—	8
8 自立訓練（生活訓練）	—	7
9 宿泊型自立訓練	—	2
10 就労選択支援	3	—
11 就労移行支援	2	6
12 就労継続支援A型	—	3
13 就労継続支援B型	4	25
14 自立生活援助	2	1
15 就労定着支援	4	3
16 共同生活援助（グループホーム）	6	10
17 地域移行支援	—	4
18 地域定着支援	—	4
19 計画相談支援	—	16
20 障がい児入所施設	—	1
21 児童発達支援	6	24
22 放課後等デイサービス	10	41
23 保育所等訪問支援	4	7
24 障がい児相談支援	1	12
25 移動支援	—	2
26 日中一時支援	1	15
27 地域活動支援センター	—	4

(12) 市内に不足していると感じているサービス

- ▶ 市内に不足していると感じているサービスについて、「計画相談支援」が41.0%と最も高く、次いで「短期入所（ショートステイ）」（32.4%）、「共同生活援助（グループホーム）」（23.7%）となっている。

問 12 事業所が市内に不足していると感じているサービスについて、お答えください。
（あてはまるもの5つまで○をつけてください。）



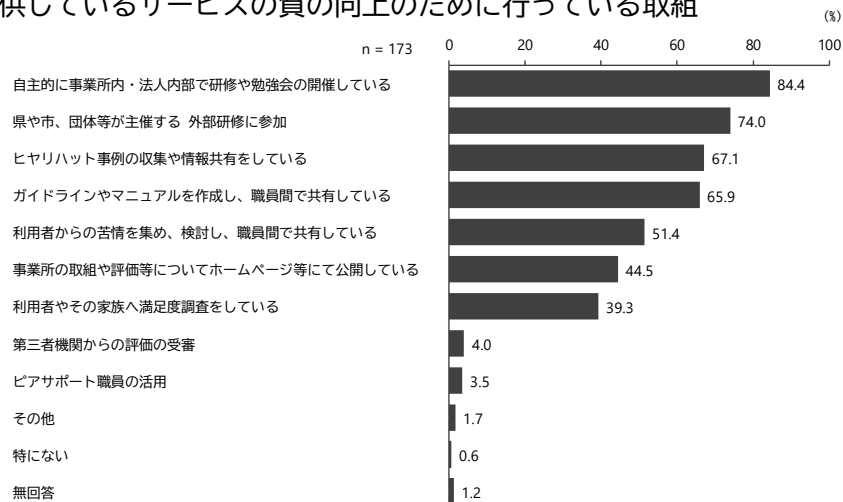
2 事業展開における現状と課題について

(1) サービスの質の向上のためにやっている、実施したい取組

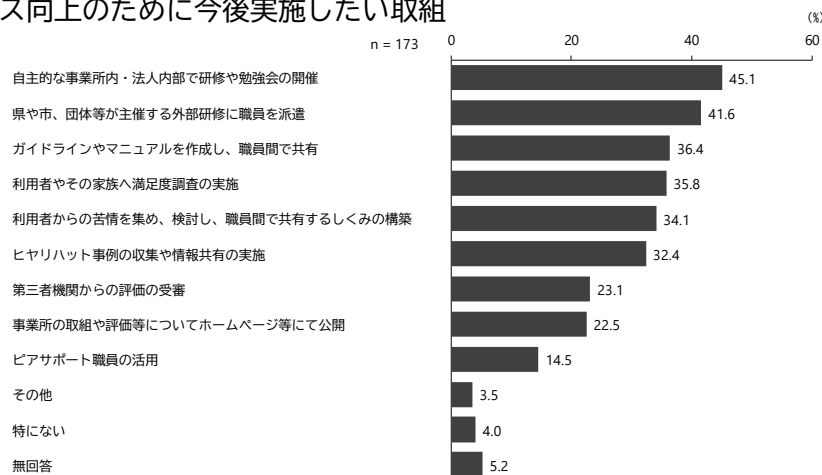
- ▶ サービスの質の向上のためにやっている、実施したい取組について、(1) 現在提供しているサービスの質の向上のためにやっている取組では「自主的に事業所内・法人内部で研修や勉強会の開催している」が84.4%と最も高く、次いで「県や市、団体等が主催する外部研修に参加」(74.0%)、「ヒヤリハット事例の収集や情報共有をしている」(67.1%)となっている。(2) サービス向上のために今後実施したい取組では「自主的な事業所内・法人内部で研修や勉強会の開催」が45.1%と最も高く、次いで「県や市、団体等が主催する外部研修に職員を派遣」(41.6%)、「ガイドラインやマニュアルを作成し、職員間で共有」(36.4%)となっている。

問 13 貴事業所では、(1) 現在提供しているサービスの質の向上のために、どのような取組を行っていますか。また、(2) 今後、サービスの質の向上に向けて、実施したい取組は何ですか。(1)(2)それぞれあてはまるものすべてに○をつけてください。

(1) 現在提供しているサービスの質の向上のためにやっている取組



(2) サービス向上のために今後実施したい取組

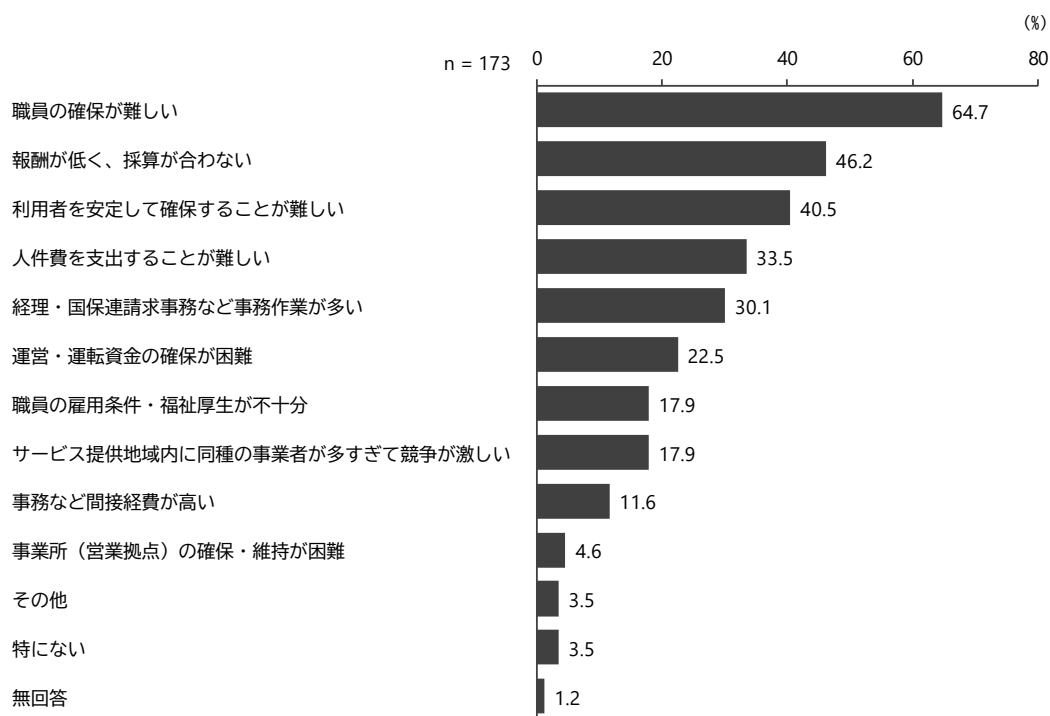


(2) 事業を展開する上での問題点・課題点

- ▶ 事業を展開するうえでの問題点・課題点について、「職員の確保が難しい」が64.7%と最も高く、次いで「報酬が低く、採算が合わない」(46.2%)、「利用者を安定して確保することが難しい」(40.5%)となっている。

問 14 貴事業所が事業を展開する上での問題点・課題点がありますか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

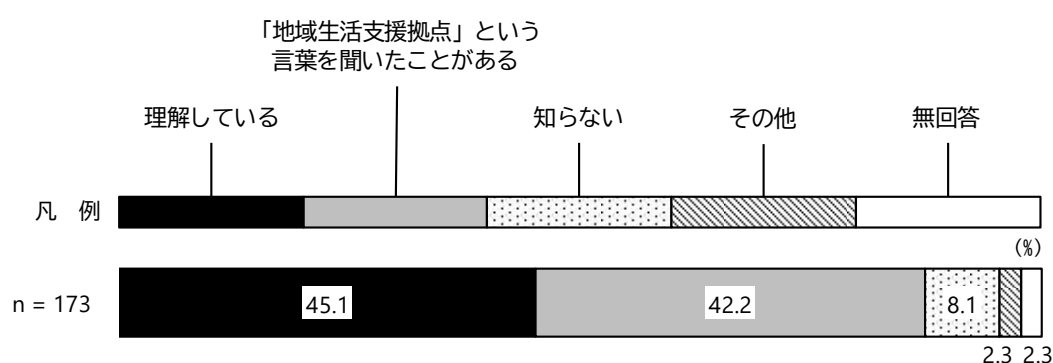


3 地域生活支援への取組について

(1) 「地域生活支援拠点事業」に関する理解度

- ▶ 「地域生活支援拠点事業」に関する理解度について、「理解している」が45.1%と最も高く、次いで「地域生活支援拠点」という言葉を聞いたことがある（42.2%）、「知らない」（8.1%）となっている。

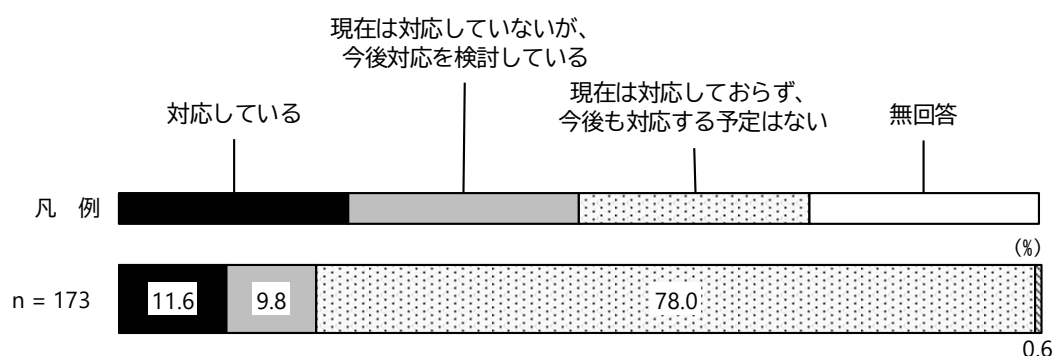
問 15 貴事業所において、「地域生活支援拠点事業」に関する理解度は、次のうちどれですか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



(2) 「医療的ケア児・者」への対応状況

- ▶ 「医療的ケア児・者」への対応状況について、「現在是对応しておらず、今後に対処する予定はない」が78.0%と最も高く、次いで「対応している」（11.6%）、「現在是对応していないが、今後対応を検討している」（9.8%）となっている。

問 16 貴事業所では、「医療的ケア児・者」に対応していますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

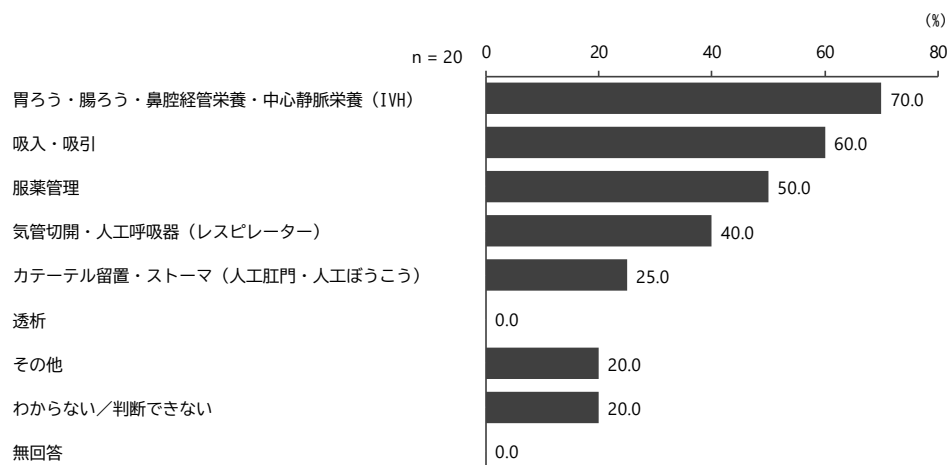


（３）対応している医療的ケア

- ▶ 対応している医療的ケアについて、「胃ろう・腸ろう・鼻腔経管栄養・中心性脈栄養（IVH）」が70.0%と最も高く、次いで「吸入・吸引」（60.0%）、「服薬管理」（50.0%）となっている。

【問 16 で「１ 対応している」と回答した事業所にお聞きします。】

問 17 それはどのような医療的ケアですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

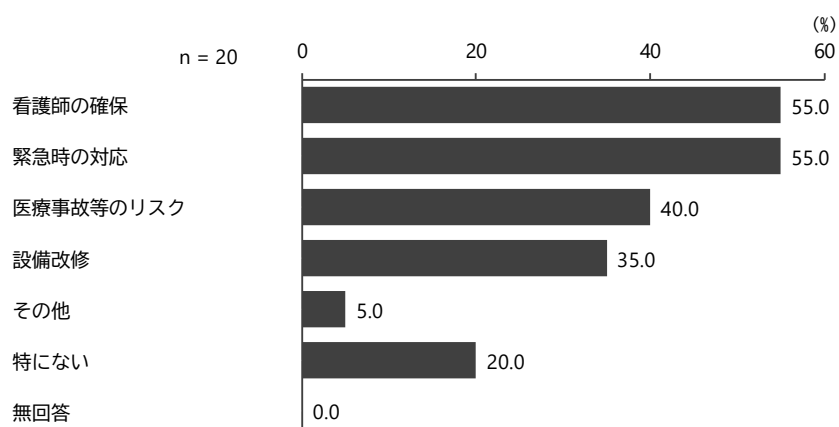


（４）実施にあたっての課題

- ▶ 実施にあたっての課題について、「看護師の確保」、「緊急時の対応」がともに 55.0%と最も高く、次いで「医療事故等のリスク」（40.0%）、「設備改修」（35.0%）となっている。

【問 16 で「１ 対応している」と回答した事業所にお聞きします。】

問 18 実施にあたって、課題はありますか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

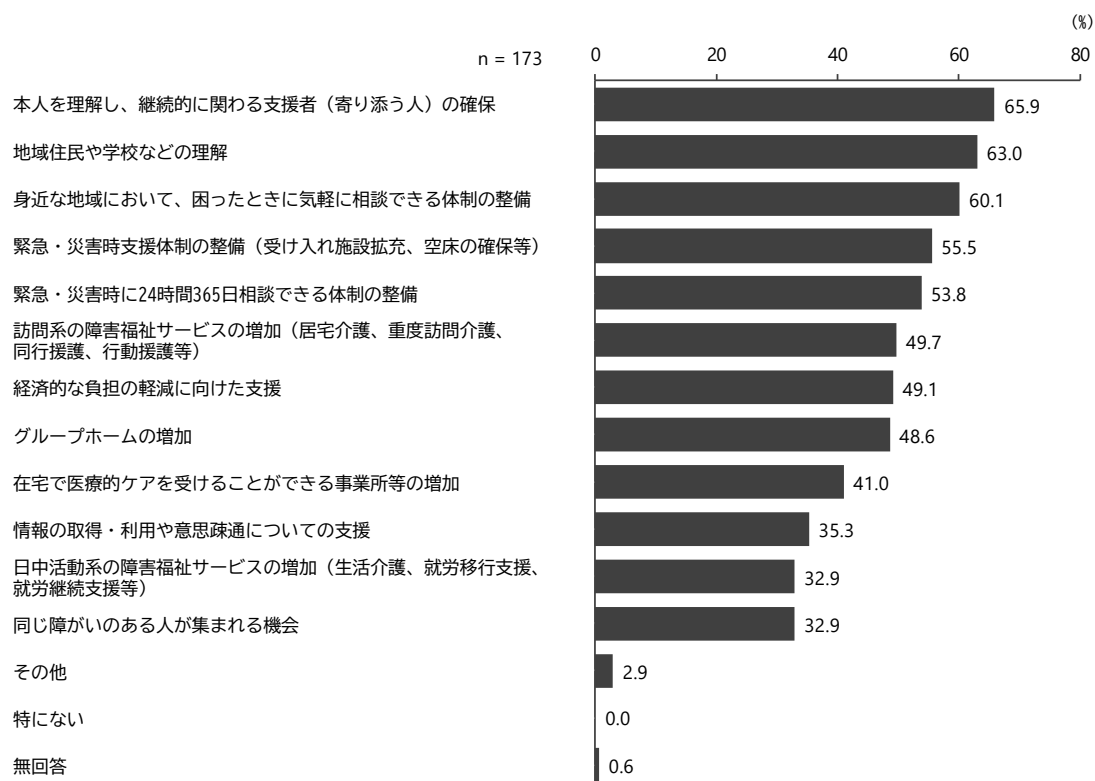


（５）障がい者が地域で安心して暮らすために必要なこと

- ▶ 障がい者が地域で安心して暮らすために必要なことについて、「本人を理解し、継続的に関わる支援者（寄り添う人）の確保」が 65.9%と最も高く、次いで「地域住民や学校などの理解」（63.0%）、「身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる体制の整備」（60.1%）となっている。

問 19 障がい者が地域で安心して暮らすために必要なことは何だと思いますか。

（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

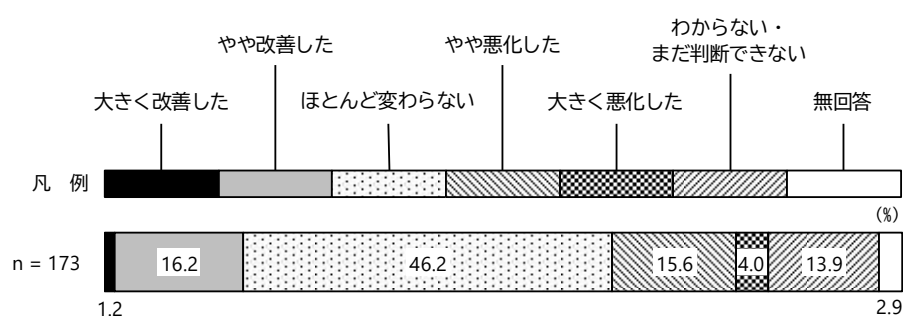


4 その他

(1) 障がい福祉サービス等報酬改定による経営状況

- ▶ 障がい福祉サービス等報酬改定による経営状況について、「大きく改善した」と「やや改善した」を合わせた《改善した》は 17.4%、「大きく悪化した」と「やや悪化した」を合わせた《悪化した》は 19.6%、「ほとんど変わらない」は 46.2%と 4 割以上となっている。

問 20 令和 6 年度の障がい福祉サービス等報酬改定により、貴事業所の経営状況としてはどうなりましたか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

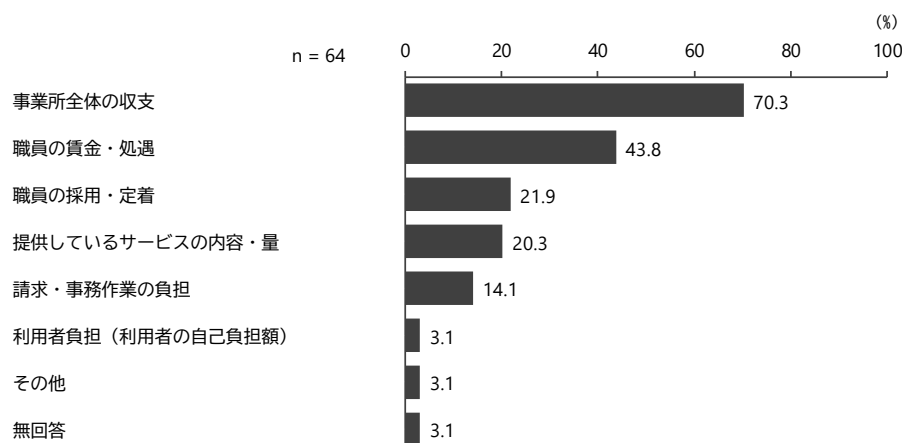


(2) 経営状況に影響があった点

- ▶ 経営状況に影響があった点について、「事業所全体の収支」が 70.3%と最も高く、次いで「職員の賃金・処遇」(43.8%)、「職員の採用・定着」(21.9%)となっている。

【問 20 で「1 大きく改善した」「2 やや改善した」「4 やや悪化した」「5 大きく悪化した」と回答した事業所にお聞きします。】

問 21 具体的にどのような点に影響がありましたか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

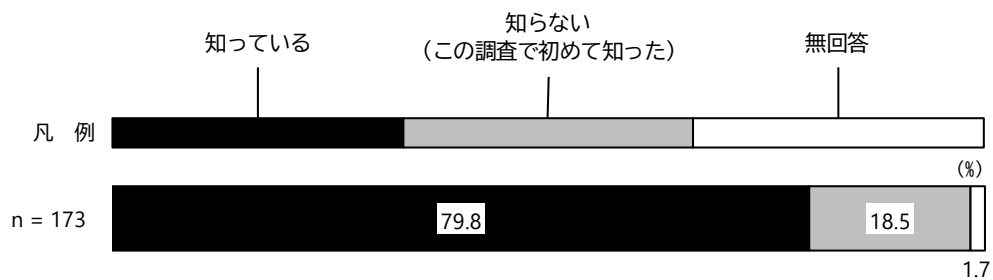


(3) 民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となったことの認知度

- ▶ 民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となったことの認知度について、「知っている」は 79.8%、「知らない（この調査で初めて知った）」は 18.5%となっている。

問 22 障害者差別解消法の改定によって、令和6年4月1日から、民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となりました。このことを知っていますか。

（あてはまるものひとつに○をつけてください。）



(4) 自由意見

- ▶ 障がい者施設や障がい福祉サービスに対しての意見について、「人材確保・育成・賃金等に関すること」が17件と最も多く、次いで「障がい福祉サービスに関すること」（12件）、「障がい者施策推進に関すること」（9件）となっている。

障がい者施設や障がい福祉サービス全般に対して、ご意見等あれば、ご自由にお書きください。

順位	内容	全体
1	人材確保・育成・賃金等に関すること	17件
2	障がい福祉サービスに関すること	12件
3	障がい者施策推進に関すること	9件
4	相談・情報提供に関すること	5件
5	障がい理解・福祉教育に関すること	3件
6	療育・教育に関すること	1件
6	生活環境に関すること	1件
6	外出に関すること	1件
6	窓口・手続きに関すること	1件

※1人の回答内容が複数の項目に該当する場合は、それぞれの項目に分類している

【自由意見（一部抜粋）】

1. 人材確保・育成・賃金等に関すること

- 地域移行、地域包括ケアなど在宅福祉の充実が固められている一方、行動障がいや、医療的ケアが必要な方等、より対応が難しく、専門性が求められるケースにおいては、受け入れ先も少なく、家族負担の軽減にはなっていない様に感じる。親亡き後を心配し、施設入所を希望されても、入所待ちが何十人、何百人待ちとなるため、レスパイト支援の充実に特に課題を感じる。事業者としては報酬が運営ギリギリの数字であるため、物価高騰もある中、職員の賃上げまでに至れない。結果職員が他産業へ離職していく為、人員確保に苦労している。
- 専門職の確保と育成が重要だが、人材確保が年々、困難になっている。サービスの質の向上については事業部に求められる努力だが、医療的ケアの必要な方や、障がいが重度の方を受入れる事業所が少ない。事業所が増えても利用児者を選別している状態がある。
- 報酬が高くないと職員も集らず転職も多いと思います。経営状況ついて、福祉事業は厳しいのが現状で、良き人材も集まりません。医療的ケアを受け入れるための人件費等を考えると、生活介護にも医療的ケア対応加算が付けば広まると思います。
- 相談支援事業所等を通して、利用者見学、体験等を行っておりますが、利用に至るまでは、なかなか困難さがあります。利用者の確保も、難しい状況にあります。引きこもりや入院中の方が、地域で自立した日常生活、社会生活を営む事ができるように、地域活動支援センターが、少しでも支援

に結び付いていけるように努力しております。きっかけがなかなかない状況であるため、行政機関等の配慮、病院等への声かけに期待しております。よろしくお願いいたします。職員の最低賃金が少しずつ上がって行くが、委託費が限られているので入件費についても悩むところです。

2. 障がい福祉サービスに関すること

- 新規参入する事業所が増えているが、サービスの選択肢が増える一方でサービスの継続性や専門性といった質の低下が目立っている。また、専門職配置を評価する報酬改定ではあるが、一方で、職員の流動化、採用人員不足、それに伴うサービスの質の低下を招いている。児童分野においては事業所が増えることで利用回数や時間が増え、保護者の養育能力の低下につながっている（散見されている）。対象者数や希望者数のみではなく、継続的にサービス展開が可能な障がい者福祉計画の策定をお願いしたい。
- 相談支援事業所です。常にフルパワーで余力はありません。それでも毎月新規の相談をいただきます。ありがたいと思いつつ、ご期待に添えないことが多いです。移行やA型など、ある程度自立度の高い方や相談員が付いていて安定している方などはセルフプランにすることができればいいと思うことも多いです。相談支援事業所や相談員が増えることがベストだと思いますが、現実には厳しいです。
- 郡山市の障がい分野のショートステイ先の絶対数が少なく感じる。

3. 障がい者施策推進に関すること

- 児童発達支援においては、3歳児健診で発達について「様子を見る」という結果が多くその後成長の段階で療育的支援が必要なお子さんがそのままになってしまうことがある。就学直前に支援級という検討になり、親御さんが慌ててしまうため、5歳児健診の必要性を感じる。
- 重症身心障がい児、強度行動障がい者など障がいの重度とされる方の利用できるサービスが不足しています。利益目的の事業所（軽度の方の実時間利用や、希望利用者のお断り等）と困っている方へ対応したいが枠がない事業所の温度差を感じます。“質の向上”や障がい福祉課をはじめとする公的機関の実態把握を実際に見て、すすめていただきたいです。
- 障がい福祉サービスも利用できない 65 才以上の方や、介護サービス非該当で利用できない人に対する居住支援施策がない。

4. 相談・情報提供に関すること

- 社内での研修、マニュアルはあり、日々のケアに生かされているが、実践的なところとなると専門的な部分のフォローがしっかりできていないところがある。外部研修への参加となると人員不足などから参加が難しいため、講師を事業所へ派遣してくれるような仕組みあれば活用してみたいと思う。
- 新しい施策ができた際の市のバックアップ説明を充分に行って頂きたい。どう取り組んだらいいのか手探りで不安である。
- 事業所見学等の希望が多くなり都度対応しています。委託をお願いすればいいと云われますが、利

利用者情報を伝える為のやり取りをするのは現実的に難かしく、時間がないです。なにより精神障がいの方などは、初対面の方に対して抵抗があります。見学対応は時間を要する事もあり、加算が算定できる様見直ししていただくか、何かよい方法はないでしょうか？

5. 障がい理解・福祉教育に関すること

- 障がいを、お持ちの方々に対しての、理解を広めたい。職員のスキルアップがもっと必要。もう少し職員の適応能力を知ってから、従事したほうがよいと思います。
- 保護者も障がいについて、学べる場があった方が、理解や向き合い方がわかると思う。支援任せになってしまっているご家庭が最近増え、情報の共有につながらない。
- 障がい者の立場に立って、支援を行うことのできている事業所が少ないように感じる。事業所の都合で支援する事業所が多く、特に重度の障がいのある人への支援が足りないので、職員の質を高める人材育成が必要と感じる。

6. 療育・教育に関すること

- 児童の事業所（放課後デイサービス）が増え、心強い反面、質が気になります。療育なのか、ただのお預りなのか。お互い高め合える関係を築きたいです。

6. 生活環境に関すること

- 障がいがあっても、社会参加しやすい環境整備。民間企業に対して、行政主導により「障がい」及び関連法の周知。

6. 外出に関すること

- 精神障がい者の外出支援や行動範囲の拡大を図ることができるサービスがあるとよい。例えば、買物の同行や美術館や図書館など趣味活動の同行、社会参加の拡大など。

6. 窓口・手続きに関すること

- 提出書類の記入が分かりづらい、もっと簡単に記入できれば事務作業時間も短縮できる。

V 資料編

(1) 郡山市 障がい者（児）当事者用調査票

令和7年度郡山市障がい者（児）実態調査（アンケート）
調査票

【基本事項】

（全員にお聞きします）

問1 お答えいただくのは、どなたですか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

※18歳未満の方については、保護者宛に送付しています。保護者の方が記入する場合は「本人の家族」を選んでください。

1 本人がご自身で記入（郵送された宛名の方）

2 本人の家族

3 家族以外の介助者（福祉サービス事業所などの施設職員やヘルパーなど）

4 その他（民生委員、ご近所の方、ボランティアの方など）

（全員にお聞きします）

※「あなた」とは「この調査票を郵送された対象者（障がいのある方）」とします。

問2 あなたの年齢をお答えください。（令和8年1月現在）

満 歳

（全員にお聞きします）

問3 あなたの性別をお答えください。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

1 男性 2 女性 3 その他 4 回答したくない

（全員にお聞きします）

問4 あなたがお住まいの地域はどこですか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

1 旧市内（下記以外の地域）

2 安積町 3 熱海町 4 逢坂町 5 大槻町

6 片平町 7 喜久田町 8 湖南町 9 田代町

10 富田町 11 中田町 12 西田町 13 日和町

14 喜久山町 15 三穂田町

（全員にお聞きします）

問5 あなたと一緒に暮らしている人は、どなたですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

1 父母 2 配偶者（夫または妻） 3 相父母 4 子 5 兄弟姉妹 6 その他（ ）

7 いなし（一人で暮らしている）

※グループホーム、福祉施設等に入居されている方は「7 いなし」としてください。

（全員にお聞きします）

問6 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。（①から⑥のそれぞれ項目について、1、2、3のうちひとつに○をつけてください。）

項目	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要
① 食事をする	1	2	3
② トイレ（排泄）	1	2	3
③ 入浴をする	1	2	3
④ 衣服の着脱	1	2	3
⑤ 身だしなみ（歯磨き、洗面など）	1	2	3
⑥ 家の中の家事（掃除、洗濯、調理等）	1	2	3
⑦ 家から出て行う家事（ごみ捨て等）	1	2	3
⑧ 家の中の移動	1	2	3
⑨ 医療機関への通院	1	2	3
⑩ 家族以外の人との意思疎通（コミュニケーション）	1	2	3
⑪ 買い物やお金の管理	1	2	3
⑫ 家の管理	1	2	3

すべて「1」に○をつけた方は、問8へ

どれかひとつでも「2」または「3」に○をつけた方は、問7へ

（次の問7は、問6の④から⑩までひとつでも「2 一部介助が必要」又は「3 全部介助が必要」を選んだ方にお聞きします。）

問7 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

- 1 父母
 - 2 配偶者（夫または妻）
 - 3 祖父母
 - 4 子ども
 - 5 兄弟姉妹
 - 6 ホームヘルパーや施設の職員
 - 7 手話通訳者や要約筆記者
 - 8 その他（ ）
- 問8へ
- 問9へ

（次の問8は、問6ですべて「1」と選んだ方と問7で1～5を選んだ方にお聞きします。）

問8 あなたを介助してくれる家族の中で、特に中心となっている方の年齢、性別、健康状態をお答えください。

① 年齢（令和8年1月1日現在）

満 歳

② 性別（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

- 1 男性
- 2 女性
- 3 その他
- 4 回答したくない

③ 健康状態（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

- 1 とても健康である
- 2 まあ健康である
- 3 あまり健康ではない
- 4 健康でない

【あなたの障がいの状況について】

（全員にお聞きします）

問9 あなたの障がいの種類を教えてください。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

- 1 身体障がい
- 2 知時障がい
- 3 精神障がい
- 4 難病（特定疾患）
- 5 発達障がい
- 6 強度行動障がい
- 7 高次脳機能障がい

※難病（特定疾患）とは、全身性エリテマトーデスやパーキンソン病などの治療法が確立していない疾病その他の特殊の疾病をいいます。

※発達障がいとは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい（自閉症スペクトラムともいいます。）、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどをいいます。発達障がいは発達遅れという意味ではなく、脳機能の発達が関係する障がいで、一人ひとりの症状の出方は異なります。

※強度行動障がいとは、自傷、他傷、ごだわり、もの喰い、睡眠の乱れ、暴食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことをいいます。障害福祉サービス等を利用している方で重度障害者支援加算の対象となっている場合や、外出支援で行動援護を利用している場合、医師や療育機関等から指摘されたことがある場合等は○をつけてください。

※高次脳機能障がいとは、一脳に外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受けその後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がいなどの認知障がい等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」等の症状があります。

（全員にお聞きします）

問10 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。

（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

- 1 1級
 - 2 2級
 - 3 3級
 - 4 4級
 - 5 5級
 - 6 6級
 - 7 持っていない
- 問12へ
- 「1」～「6」を選んだ方は問11へ

(次の問11は、問10で1～6を選んだ方にお聞きします。)

問11 身体障害者手帳をお持ちの場合、手帳に記載されている障がいをお答えください。
い。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 視覚
- 2 聴覚・平衡機能
- 3 盲ろう (視覚障害と聴覚障害の重複)
- 4 音声・言語・そしゃく機能
- 5 肢体不自由 (上肢)
- 6 肢体不自由 (下肢)
- 7 肢体不自由 (体幹)
- 8 内部障がい (心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓、免疫機能)

(全員にお聞きします)

問12 あなたは療育手帳をお持ちですか。

(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

※療育手帳とは、知的障がいのある方に交付される手帳です。

- 1 A
- 2 B
- 3 知的障がいはあるか手帳を持っていない
- 4 持っていない

(全員にお聞きします)

問13 あなたは精神保健福祉手帳をお持ちですか。

(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 1級
- 2 2級
- 3 3級
- 4 持っていない

(次の問14は、問9で「7 高次脳機能障がい」を選んだ方にお聞きします。)

問14 その関連障がいをお答えください。(あてはまるものすべてに○をつけてください)

- 1 視覚障がい
- 2 聴覚障がい
- 3 音声・言語・そしゃく機能障がい
- 4 肢体不自由 (上肢)
- 5 肢体不自由 (下肢)
- 6 肢体不自由 (体幹)
- 7 内部障がい
- 8 その他 ()

【医療について】

(全員にお聞きします)

問15 あなたは、現在通院していますか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 定期的に通院している
- 2 時々、通院している
- 3 行く必要がないので、通院していない
- 4 自宅で治療を受けている (往診・訪問看護等)
- 5 入院している

(全員にお聞きします)

問16 あなたは現在、医療的ケアを受けていますか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)(受けていない場合は8に○をつけてください。)

- 1 気管切開・人工呼吸器 (レスピレーター)
- 2 吸入・吸引
- 3 胃ろう・腸ろう・鼻腔経管栄養・中心静脈栄養 (IVH)
- 4 透析
- 5 カテーテル留置・ストーマ (人工肛門・人工ぼうこう)
- 6 服薬管理
- 7 その他 ()
- 8 医療的ケアは受けていない

【住まいや暮らしについて】

(全員にお聞きします)

問17 あなたは現在どのように暮らしていますか。

((1)と(2)のそれぞれについて、あてはまるものひとつに○をつけてください。)

(1) 現在、一緒に暮らしている人の有無

- 1 一人で暮らしている
- 2 配偶者またはパートナー（子ども）と一緒に暮らしている
- 3 父母、祖父母、兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしている
- 4 福祉施設やグループホームの利用者と一緒に暮らしている
- 5 その他（ ）

(2) 現在暮らしている場所

- 1 一般の住宅
- 2 グループホーム
- 3 福祉施設（障害者支援施設）
- 4 福祉施設（高齢者施設）
- 5 病院（入院中）
- 6 その他（ ）

(全員にお聞きします)

問18 あなたは今後3年以内にどのような暮らしをしたいと思いますか。

((1)と(2)のそれぞれについて、あてはまるものひとつに○をつけてください。)

(1) 一緒に暮らしたい人の有無

- 1 一人で暮らしたい
- 2 配偶者またはパートナー（子ども）と一緒に暮らしたい
- 3 父母、祖父母、兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしたい
- 4 福祉施設やグループホームの利用者と一緒に暮らしたい
- 5 その他（ ）

(2) 暮らしたい場所

- 1 一般の住宅
- 2 グループホーム
- 3 福祉施設（障害者支援施設）
- 4 福祉施設（高齢者施設）
- 5 病院
- 6 その他（ ）

7

(全員にお聞きします)

問19 地域で希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 グループホームの充実
- 2 訪問による障害福祉サービスの充実（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護等）
- 3 生活訓練等を行う障害福祉サービスの充実（生活介護、就労移行・就労継続支援等）
- 4 在宅で医療的ケアを受けられることができる福祉サービスの充実
- 5 経済的な負担の軽減
- 6 緊急・災害時に相談できるサービス（相談、緊急一時受入施設等）
- 7 同じ障がいのある人が集まれる機会があること
- 8 身近な地域において、困ったときに気軽に相談できる場所があること
- 9 地域住民や学校などの理解
- 10 情報の取得利用や意識啓発についての支援
- 11 その他（ ）
- 12 特になし

【外出や日中活動について】

(全員にお聞きします)

問20 あなたは、1週間にどの程度外出しますか

(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 毎日外出する
- 2 1週間に数回外出する → 問21へ
- 3 めったに外出しない
- 4 全く外出しない → 問25へ

(次の問21から問24は、問20で「1、2、3」を選んだ方にお聞きします。)

問21 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか

(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 父母・祖父母・兄弟姉妹
- 2 配偶者（または妻）
- 3 子ども
- 4 ホームヘルパーや施設の職員
- 5 その他の人（友人など）
- 6 一人で外出する

8

問22 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 通勤・通学・通園
- 2 福祉施設へ行く (生活介護、就労継続支援A型、B型など)
- 3 医療機関へ行く (通院)
- 4 訓練などのリハビリに行く
- 5 買い物や外食に行く
- 6 友人や知人に会う
- 7 趣味やスポーツをする (散歩、習い事、旅行、ドライブなどを含む)
- 8 地域の活動に参加する (町内会活動など)
- 9 散歩に行く
- 10 その他 ()

問23 あなたが外出する際に最もよく利用する交通手段をお答えください。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 自分が運転する自動車
- 2 家族が運転する自動車
- 3 バス
- 4 電車
- 5 タクシー
- 6 自転車
- 7 徒歩
- 8 車いす
- 9 その他 ()

問24 外出する時に困ったり、不便を感じたりすることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 公共交通機関(電車やバス、タクシー)が少なく、又は交通の便が悪い
- 2 電車やバス、タクシーの乗り降りが困難
- 3 歩道、道路や出入口に段差がある
- 4 切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい
- 5 外 出先の建物の設備が不便 (通路、トイレ、エレベーターなど)
- 6 外 出したいときに付き添ってくれる人(介助者)がいない
- 7 外 出にお金がかかる
- 8 周囲の人の目が気になる
- 9 外 出先でのコミュニケーションが困難
- 10 発作や突然の体調の変化が心配
- 11 その他 ()
- 12 特になし

9

(全員にお聞きします)

問25 あなたは、平日の日中を主にどのよう過ごしていますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている →問26へ
- 2 ホームケアなど収入を得ない仕事をしている
- 3 専業主婦(主夫)をしている
- 4 福祉施設(通所施設)に通っている
(生活介護、就労継続支援A型、B型など)
- 5 病院などのデイケアに通っている
- 6 リハビリテーションを受けている
- 7 自宅で過ごしている (グループホームを含む)
- 8 入所施設や病院などで過ごしている
- 9 大学、専門学校、職業訓練校などに通っている
- 10 幼稚園、保育所、認定こども園、障がい児の通所支援
(児童発達支援事業所など)に通っている
- 11 小学校(通常学級)に通っている
- 12 小学校(特別支援学級)に通っている
- 13 中学校(通常学級)に通っている
- 14 中学校(特別支援学級)に通っている
- 15 高等学校に通っている
- 16 特別支援学校に通っている (小・中・高等部)
- 17 その他 ()

→18歳～64歳の
は問28へ
→それ以外の方は
問29へ

【就労について】

(次の問26は、現在収入を得て仕事をしている方にお聞きします。)

問26 どのような勤務形態で働いていますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない
- 2 正職員で短時間勤務などの障がい者への配慮がある
- 3 パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員
- 4 自営業、農林水産業など
- 5 その他 ()

10

問27 次の問27は、現在収入を得て仕事をしている方にお聞きします。

問27 現在の仕事で困っていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 障がいの状態や体調の変化によって働くことが難しい
- 2 職場での人間関係がうまくいかない
- 3 自身のスキル、能力が不足していると感じる
- 4 障がいの理解や配慮が職場で十分に得られない
- 5 給与や待遇に不満がある
- 6 雇用形態に不満がある
- 7 仕事の内容が自分に合わない、満足できない
- 8 会社の将来性に不安がある
- 9 その他 ()
- 10 特 にない

問28 次の問28は、現在収入を得る仕事をしていない18歳から64歳の方にお聞きします。

問28 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いませんか。

(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 仕事をしたい
- 2 仕事はしたくない、できない

問29 あなたは、障がいの者の就業支援として、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 通勤手段の確保
- 2 障がいの特性に配慮した職場環境の整備 (施設のバリアフリーを含む)
- 3 短時間勤務や勤務日数など柔軟な勤務体制の配慮
- 4 在宅勤務の拡充 (自宅で作業すること)
- 5 職場の上司や同僚に障がいの理解があること
- 6 職場で助言や援助等が受けられること
- 7 就業に向けた面接、実習などの支援
- 8 就業初期段階での支援 (ジョブコーチ)
- 9 就業後のフォローなど職場と支援機関の連携 (定着支援)
- 10 企業ニーズに合った就業訓練
- 11 仕事についての職場外での相談対応、支援
- 12 その他 ()
- 13 特 にない

11

問30 あなたは、保育所・幼稚園・学校でどのような支援が必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 障がいの特性などに対応する教師の理解や配慮
- 2 児童・生徒の理解や配慮
- 3 送迎など、通園・通学のサポート
- 4 障がいのいる児童が利用できる放課後児童クラブなどの整備
- 5 放課後等デイサービスなど専門的な機関の整備
- 6 学習支援や介助など、園・学校生活のサポート
- 7 障がいの特性に合わせた施設環境の整備 (バリアフリー等)
- 8 福祉サービス事業所など、外部の支援機関との連携
- 9 生活訓練や職業訓練など専門的な指導
- 10 就業や喀痰吸引など医療的なケア
- 11 その他 ()
- 12 特 にない

問31 あなたは、普段、悩みや困ったときなど、どこ (誰) に相談しますか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 家族や親せき
- 2 友人や知人
- 3 近所の人、民生委員、児童委員
- 4 職場の上司や同僚
- 5 福祉サービスを提供している事業所や福祉施設
- 6 ホームヘルパーやガイドヘルパー、手話通訳者など身近な介助者
- 7 障がい者団体や家族会
- 8 医師や看護師、病院のソーシャルワーカー
- 9 障がい児通所支援事業所や保育所、幼稚園、学校
- 10 民間の相談支援機関 (相談支援事業所や地域包括支援センター等)
- 11 行政機関 (市役所や保健所、ハローワークなど)
- 12 その他 ()
- 13 相談する人がいない
- 14 悩みや困りごとはない

12

(全頁にお聞きします)

問32 あなたは「障がいのことや福祉サービスなどに関する情報」を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオ
- 2 市の刊行物 (広報こおりやまなど)
- 3 公的機関の窓口 (市役所、保健所、ハローワークなど)
- 4 インターネット (パソコン、スマートフォン、タブレット)
- 5 家族や友人・知人
- 6 「障がい福祉サービス事業所や入所施設の職員、家族以外の介助者 (ヘルパーなど)
- 7 「障がい者団体や患者会など
- 8 病院
- 9 近所の人、民生委員・児童委員
- 10 保育所、幼稚園、学校
- 11 民間の相談支援機関 (相談支援事業所や地域包括支援センターなど)
- 12 その他 ()

【障害福祉サービス等の利用について】

(次の問33は、18歳以上の方にお聞きします。)

問33 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 区分1 2 区分2 3 区分3
- 4 区分4 5 区分5 6 区分6
- 7 区分は受けていない 8 区分がわからない

(全頁にお聞きします)

問34 あなたは、次の「障害福祉サービス」を利用していますか。また、今後利用したいですか。1～16のサービスそれぞれについて、あてはまるものひとつに○をつけてください。

※サービスの内容の説明は、別紙で同封しています。

No.	サービス名称	1 現在利用している	2 3年以内に利用したい	3 将来的に利用したい	4 利用してはいない、予定なし
1	居宅介護	1	2	3	4
2	重度訪問介護	1	2	3	4
3	同行援護	1	2	3	4
4	行動援護	1	2	3	4
5	生活介護	1	2	3	4
6	自立訓練 (機能訓練・生活訓練)	1	2	3	4
7	就労選択支援	1	2	3	4
8	就労移行支援	1	2	3	4
9	就労継続支援 (A型・B型)	1	2	3	4
10	就労定着支援	1	2	3	4
11	自立生活援助	1	2	3	4
12	療養介護	1	2	3	4
13	短期入所 (ショートステイ)	1	2	3	4
14	共同生活援助 (グループホーム)	1	2	3	4
15	施設入所支援	1	2	3	4
16	相談支援	1	2	3	4

(18歳未満の方にお聞きします)

問35 あなたは、次の障がい児支援サービスを利用していますか。また、今後利用したいですか。1～8のサービスそれぞれについて、あてはまるものひとつに○をつけてください。

※サービスの内容の説明は、別紙で同封しています。

No.	サービス名称	1 現在利用している	2 3年以内に利用したい	3 将来的に利用したい	4 利用していない、予定なし
1	児童発達支援	1	2	3	4
2	医療型児童発達支援	1	2	3	4
3	放課後等デイサービス	1	2	3	4
4	障害児相談支援	1	2	3	4
5	居宅訪問型児童発達支援	1	2	3	4
6	保育所等訪問支援	1	2	3	4
7	福祉型児童入所支援	1	2	3	4
8	医療型児童入所支援	1	2	3	4

問36 (次の問36は、問34・35で、障がい福祉サービスをひとつでも利用していると考えた方にお聞きします。)

問36 あなたは、サービスの利用計画作成にあたって、相談支援事業所を利用していませんか。(あてはまるものうち、もっとも近いものひとつに○をつけてください)

- 相談支援事業所を利用している
- 相談支援事業所が見つからないためセルフプランでサービスを利用している
- 早く福祉サービスを利用したいためセルフプランでサービスを利用している
- 以前は相談支援事業所を利用していたが、時間がかかる、早くサービスを利用したいなどの理由で現在はセルフプランでサービスを利用している
- その他 ()

【地域生活支援事業について】

※ 地域生活支援事業とは、郡山市が地域特性や利用者の状況により実施している事業で、移動支援事業、日中一時支援事業、意識疎通支援事業、日常生活用具給付事業などがあります。

(全員にお聞きします)

問37 現在、地域生活支援事業のサービスを受けていますか。
現在利用している事業すべてに○をつけてください。

- 移動支援事業
 - 日中一時支援事業
 - 地域活動支援センターの利用
 - 訪問入浴サービス事業
 - 意識疎通支援事業 (手話通訳、要約筆記者派遣など)
 - 社会参加促進事業 (スポーツやレクリエーション活動)
 - 日常生活用具給付事業
 - 受けていない
 - 制度を知らない
- 問38へ
- 問40へ

(次の問38は、問37で「1～7」を選んだ方にお聞きします。)

問38 利用しているサービスの内容に満足していますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 満足している
 - 普通
 - 不満がある、満足していない
- 問40へ
- 問39へ

（次の問39は、問38で「3 不満がある、満足していない」を選んだ方にお聞きします。）

問39 満足していない理由は何か。（あてはまるもの2つまで○をつけてください。）

- 1 支給量が少ない（利用時間が短い）
- 2 サービスの質が低い
- 3 緊急時の体制が整っていない
- 4 利用料金が高い
- 5 利用できる事業所が少なく利用できない
- 6 申請の手続きが面倒
- 7 その他（ ）

（次の問40は、40歳以上の方にお聞きします。）

問40 あなたは、要介護・要支援認定を受けていますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

- 1 要支援1
- 2 要支援2
- 3 要介護1
- 4 要介護2
- 5 要介護3
- 6 要介護4
- 7 要介護5
- 8 わからない
- 9 受けていない

（全員にお聞きします）

問41 あなたは、介護保険によるサービスを利用していますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

- 1 利用している →問42へ
- 2 利用していない →問43へ

（次の問42は、問41で「1 利用している」を選んだ方にお聞きします。）

問42 利用している介護サービスはどれですか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）
※利用していない場合は「23 何も利用していない」を選んでください。

【居宅サービス】

1	居宅介護
2	訪問介護
3	訪問入浴介護
4	訪問リハビリテーション
5	訪問看護
6	通所介護（デイサービス）
7	通所リハビリテーション（デイケア）
8	短期入所生活介護
9	短期入所療養介護
10	福祉用具貸与・販売
11	特定施設入居者生活介護

【地域密着型サービス・その他】

16	定期巡回・臨時対応型訪問介護看護
17	地域密着型通所介護
18	認知症対応型通所介護
19	小規模多機能型居宅介護
20	認知症対応型共同生活介護
21	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
22	地域密着型特定施設入所者生活介護
23	何も利用していない

【権利擁護について】

（全員にお聞きします）

問43 障害差別解消法の改正によって、令和6年4月1日から、民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となりました。このことを知っていますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

※合理的配慮とは、障がいのある方から社会の中にあるバリアの除去を必要とする意思表明がされた場合に、負担が重すぎない範囲で対応することです。

- 1 知っている
- 2 知らない（この調査で初めて知った）

（全員にお聞きします）

問44 あなたは、いままで障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

- 1 ある } →問45へ
- 2 少しある }
- 3 ない →問47へ

（次の問45から問46は、問44で「1 ある」又は「2 少しある」を選んだ方にお聞きします。）

問45 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

- 1 幼稚園、保育所、学校、塾 など
- 2 勤め先（仕事場）
- 3 病院などの医療機関
- 4 住んでいる地域
- 5 市役所、保健所、ハローワークなどの公的施設
- 6 福祉施設（福祉サービス事業所や障がい児通所支援事業所など）
- 7 銀行、郵便局、スーパーやレジャー施設など不特定多数の人が利用する場所
- 8 バス、電車、タクシーなど公共交通機関を利用しているとき
- 9 その他（ ）

19

問46 どのようなことで嫌な思いをしましたか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

- 1 差別的な発言をされた
- 2 嫌な顔をされた
- 3 無視された
- 4 希望する仕事に就けなかった
- 5 職場での労働条件が他の人より低い
- 6 施設や飲食店、交通機関の利用を断られた
- 7 医療機関から受診や治療を断られた
- 8 希望した学校に入学できなかった
- 9 賃貸物件の入居を断られた
- 10 その他（ ）

（全員にお聞きします）

問47 障がいのある方への偏見や差別を解消するため、取り組んでほしいことは何ですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

- 1 障がいについての理解を深めるため、パンフレット等で周知啓発をする
- 2 障がいについての理解を深めるための研修会や講演会、イベントなどを行う
- 3 地域の学校において障がい児と障がいのない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する
- 4 地域において障がい者（児）と住民が交流できる機会を増やす
- 5 障がい者（児）の文化芸術、レクリエーション、スポーツ活動の推進を図る
- 6 その他（ ）
- 7 特になし

20

【全員にお聞きします】

問48 あなたは、家族や介護者（福祉サービス事業所の職員を含む）、職場での上司や同僚から虐待（暴力や介護の放棄）を受けたときに、相談する機関があるのを知っていますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

※虐待には以下のものがあります

○身体的虐待

（殴る、蹴る、体につける、部屋から締め出す、部屋に閉じ込める）

○性的虐待（性的な暴力や性的な行為を強要する）

○心理的虐待（いじめ、アホなどの言葉を浴びせる、怒鳴る、悪口をいう）

○放棄・放置（食事を出さない、衛生管理を怠る、学校に行かせないなど）

○経済的虐待（障がい年金を渡さない、本人の預貯金を勝手に使うなど）

※郡山市には、障がいのある方が虐待を受けたときに相談できる機関があります。

「郡山市障害者虐待防止センター（郡山市社会福祉協議会内）」
電話・FAX 024-921-8341 （24時間受付）

- 1 知っている、または相談したことがある
- 2 知っているが、相談したことがない
- 3 知らない（この調査で初めて知った）

【全員にお聞きします】

問49 認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が十分でない人の権利を守る「成年後見人制度」を知っていますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

※成年後見人制度とは、認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。成年後見人がこうした人の意思を尊重し、その人らしい生活を守るため、法律面や生活面を支援するしくみです。

具体的には、次のような支援があります。

- ・介護サービスや医療を受ける際の手続きの支援
- ・預貯金の引き出しなど日常生活における金銭管理等の支援
- ・財産管理の支援

- 1 名前も内容も知っている
- 2 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
- 3 名前も内容も知らない（この調査で初めて知った）

21

【緊急時等について】

【全員にお聞きします】

問50 あなたは、火事や水害、地震等の災害時に一人で避難できますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

- 1 避難場所を知っており、一人で避難できる
- 2 避難場所は知っているが、一人で避難できない
- 3 避難場所を知らず、避難できない
- 4 わからない

【全員にお聞きします】

問51 災害時に自力での避難が困難な方のうち、希望する場合は、事前に関係者へ情報共有を行う制度「避難行動要支援者避難支援制度」があるのを知っていますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

※「避難行動要支援者避難支援制度」とは災害時に自力で避難することが困難な方のうち、希望者に限り、避難支援に必要な個人情報・避難支援関係者（町内会、自主防災組織、民生委員、警察、消防機関、地域包括支援センター、社会福祉協議会）に提供し、安否確認や避難支援を行う制度になります。

- 1 制度を知っており、登録している
- 2 制度を知っているが、登録していない
- 3 制度を知らない（この調査で初めて知った）

【全員にお聞きします】

問52 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に近所にあなたを助けてくれる人はいませんか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

- 1 いる
- 2 いらない
- 3 わからない

22

【障がい福祉施設について】

(全員にお聞きします)

問55 あなたが必要だと思う障がい福祉の取り組みは何ですか。

(主なもの3つまで○をつけてください。)

- 1 相談窓口や情報提供の充実
- 2 障がいの早期発見・早期療育体制の充実
- 3 ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実
- 4 学校や地域での障がいへの理解や障がい者(児)との交流の促進
- 5 ホームヘルプサービスなど居宅サービスの充実
- 6 日常生活に必要な移動支援の充実
- 7 グループホームや住宅など障がいに配慮した住環境の整備
- 8 働く場の確保や雇用環境の整備
- 9 施設のバリアフリー化
- 10 補装具や日常生活用具、コミュニケーション支援の充実
- 11 ICT(情報通信技術)の推進やロボットの活用
- 12 ボランティア活動などの地域活動の促進
- 13 文化芸術、レクリエーション、スポーツ活動の推進
- 14 医療費の助成制度
- 15 その他()
- 16 特にない

【自由意見】

障がい福祉に関して日ごろ思うことや希望すること、その他将来の夢などあれば、お聞かせください。

(全員にお聞きします)

問53 災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 薬や医療用品(オムツなど)が手に入らない
- 2 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる
- 3 補装具の使用が困難になる
- 4 救助を求めることができない
- 5 安全なところまで迅速に避難することができない、移動手段がない
- 6 被害状況、避難場所などの情報が入らない
- 7 周囲の人とコミュニケーションがとれない
- 8 避難場所での設備(トイレや段差、個室がないなど)が整っていない
- 9 急激な生活環境の変化に対応できず、避難所での集団生活ができない
- 10 利用している福祉サービスが利用できなくなる
- 11 不安や緊張で眠れなくなる
- 12 その他()
- 13 特にない

(全員にお聞きします)

問54 もし、あなたが急な体調悪化などの緊急な助けが必要になったと考えた時、不安に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 自分だけでは動けない
- 2 トイレや入浴設備
- 3 経済的な負担が増える
- 4 状況を周囲の人に伝えることが困難
- 5 電話などの連絡手段が使えない
- 6 詳細な情報の入手
- 7 寝込んだときの支援者がいない
- 8 緊急なときに頼れる人がいない
- 9 仕事ができなくなる
- 10 子どもや高齢者の世話をする人がいない
- 11 その他()
- 12 特に不安はない

ご協力いただき、ありがとうございました。
記入漏れがないか、再度ご確認ください。この調査票を返信用封筒に入れて、
切手を貼らずにポストに投かんしてください。

調查

ご多用のところ恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力をくださいませう、よろしくお願い申し上げます。

質問によっては、一部の方のみに回答していただく場合があります。

回答は、当てはまる番号を○で囲んでください。

回答が「その他」とある場合は、()の中にその内容を書いてください。

答えたくない質問には、答えなくてもかまいません。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
令和8年2月13日（金）までにポストに投かんしてください。

切手は不要です。封筒の裏面にお名前を記入する必要ありません。

郡山市 保健福祉部 障がい福祉課

住所 〒963-8601 郡山市朝日一丁目2番7号
電話 024-924-2381 ファックス 024-933-2290
Eメール shougaifukushi@city.koriyama.lg.jp

貴事業所についてご記入ください。

問1 貴事業所の運営主体は、次のうちどれですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 国・地方公共団体の直営
- 2 医療法人
- 3 社会福祉法人・社団法人・財団法人
- 4 営利法人（株式会社、有限会社、合同会社等）
- 5 NPO 法人
- 6 その他の法人（

問2 貴事業所の所在地はどこですか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- | | |
|----|--------------|
| 1 | 旧市内（下記以外の地域） |
| 2 | 安積町 |
| 3 | 熱海町 |
| 4 | 逢瀬町 |
| 5 | 大槻町 |
| 6 | 平井町 |
| 7 | 喜久田町 |
| 8 | 湖南町 |
| 9 | 田村町 |
| 10 | 富田町 |
| 11 | 中田町 |
| 12 | 西田町 |
| 13 | 日和田町 |
| 14 | 簗久山町 |
| 15 | 三徳田町 |

問3 現在の事業所の年間収支状況は、次のうちどれですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

- 1 黒字である
2 おおむね均衡である
3 赤字である

問 4 事業支出における人件費の割合は、次のうちどれですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

1 30%未満

2 30%以上 40%未満

3 40%以上 50%未満

4 50%以上 60%未満

5 60%以上 70%未満

6 70%以上

問 5 令和8年1月1日現在の、雇用形態別の職員数をご記入ください。

	(常勤)	(非常勤)
正社員・正職員	人	人
パート	人	人

問 6 令和8年1月1日現在の、経験年数別の職員数をご記入ください。

1 年未満	人
1 年～3 年未満	人
3 年～5 年未満	人
5 年～10 年未満	人
10 年～15 年未満	人
15 年～20 年未満	人
20 年以上	人

問 7 現在の職員の過不足は、次のうちどれですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

1 大変不足している

2 不足している

3 やや不足している

4 適当である

5 過剰である

【問7で「1」～「3」(不足している)と回答した事業所にお聞きます。】

問 8 不足している職員の職種を教えてください。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

1 直接支援員 (生活相談員・生活支援員・職業指導員・就業指導員、就労支援員等、世話人等)

2 直接支援員のうち介助を行う居宅介護等訪問支援員、ヘルパー

3 看護職員

4 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

5 保育士

6 児童指導員

7 相談支援専門員

8 事務職員

9 その他 ()

10 わからない／判断できない

【すべての事業所にお聞きます。】

問 9 職員定着のために取組んでいる取組は何ですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

1 資格取得・研修参加のための金銭的支援

2 資格取得・研修参加のための休暇取得の支援

3 勤務条件 (勤務時間常など) の改善

4 給与面での改善

5 キャリアアップのための人事制度の導入

6 福利厚生面 (産休、介護休暇など) での改善

7 事業所内での研修機会の確保

8 その他 ()

9 特に取り組みはしていない

問 10 次に掲げる 27 のサービスそれぞれについて、現在の①提供の有無、直近 1 年（令和 7 年 1 月から 12 月）の②実利用者数と③うち郡山市支援者数、④新規利用者の受入が可能であったかどうか、当てはまるものに○をつけてください。

サービスの種類	① 提供の有無	② 直近 1 年 の実利用者 数	③ うち郡山市 支援者数	④ 新規利用者の受入 1 可能だった 2 状況によって可能 3 不可能
1 居宅介護	有・無	人	人	1・2・3
2 重度訪問介護	有・無	人	人	1・2・3
3 同行支援	有・無	人	人	1・2・3
4 行動支援	有・無	人	人	1・2・3
5 生活介護	有・無	人	人	1・2・3
6 施設入所支援	有・無	人	人	1・2・3
7 短期入所 (ショートステイ)	有・無	人	人	1・2・3
8 自立訓練（生活訓練）	有・無	人	人	1・2・3
9 宿泊型自立訓練	有・無	人	人	1・2・3
10 就労選択支援	有・無	人	人	1・2・3
11 就労移行支援	有・無	人	人	1・2・3
12 就労継続支援 A 型	有・無	人	人	1・2・3
13 就労継続支援 B 型	有・無	人	人	1・2・3
14 自立生活援助	有・無	人	人	1・2・3
15 就労定着支援	有・無	人	人	1・2・3
16 共同生活援助 (グループホーム)	有・無	人	人	1・2・3
17 地域移行支援	有・無	人	人	1・2・3
18 地域定着支援	有・無	人	人	1・2・3
19 計画相談支援	有・無	人	人	1・2・3
20 障がい児入所施設	有・無	人	人	1・2・3
21 児童発達支援	有・無	人	人	1・2・3
22 放課後等デイサービス	有・無	人	人	1・2・3
23 保育所等訪問支援	有・無	人	人	1・2・3

サービスの種類	① 提供の有無	② 直近 1 年 の実利用者 数	③ うち郡山市 支援者数	④ 新規利用者の受入 1 可能だった 2 状況によって可能 3 不可能
24 障がい児相談支援	有・無	人	人	1・2・3
25 移動支援	有・無	人	人	1・2・3
26 日中一時支援	有・無	人	人	1・2・3
27 地域活動支援センター	有・無	人	人	1・2・3

問 11 次に掲げる 27 のサービスそれぞれについて、貴事業所における、今後 3 年間のサービス提供の予定について当てはまるものひとつに○をつけてください。

サービスの種類	新規開設 又は定員 増の予定	このまま 継続予定	定員を減 らす予定	廃止予定	特に予定 はない
1 居宅介護	1	2	3	4	5
2 重度訪問介護	1	2	3	4	5
3 同行援護	1	2	3	4	5
4 行動援護	1	2	3	4	5
5 生活介護	1	2	3	4	5
6 施設入所支援	1	2	3	4	5
7 短期入所 (ショートステイ)	1	2	3	4	5
8 自立訓練（生活訓練）	1	2	3	4	5
9 宿泊型自立訓練	1	2	3	4	5
10 就労選択支援	1	2	3	4	5
11 就労移行支援	1	2	3	4	5
12 就労継続支援 A 型	1	2	3	4	5
13 就労継続支援 B 型	1	2	3	4	5
14 自立生活援助	1	2	3	4	5
15 就労定着支援	1	2	3	4	5
16 共同生活援助 (グループホーム)	1	2	3	4	5
17 地域移行支援	1	2	3	4	5
18 地域定着支援	1	2	3	4	5
19 計画相談支援	1	2	3	4	5
20 障がい児入所施設	1	2	3	4	5
21 児童発達支援	1	2	3	4	5
22 放課後等デイサービス	1	2	3	4	5
23 保育所等訪問支援	1	2	3	4	5
24 障がい児相談支援	1	2	3	4	5
25 移動支援	1	2	3	4	5
26 日中一時支援	1	2	3	4	5
27 地域活動支援センター	1	2	3	4	5

問 12 事業所が市内に不足していると感じているサービスについて、お答えください。
(あてはまるもの 5 つまで○をつけてください。)

1 居宅介護	2 重度訪問介護	3 同行援護
4 行動援護	5 生活介護	6 施設入所支援
7 短期入所 (ショートステイ)	8 自立訓練 (生活訓練)	9 宿泊型自立訓練
10 就労選択支援	11 就労移行支援	12 就労継続支援 A 型
13 就労継続支援 B 型	14 自立生活援助	15 就労定着支援
16 共同生活援助 (グループホーム)	17 地域移行支援	18 地域定着支援
19 計画相談支援	20 障がい児入所施設	21 児童発達支援
22 放課後等デイサービス	23 保育所等訪問支援	24 障がい児相談支援
25 移動支援	26 日中一時支援	27 地域活動支援センター
28 特になし		

【事業展開における現状と課題について】

問 13 貴事業所では、(1) 現在提供しているサービスの質の向上のために、どのような取組を行っていますか。また、(2) 今後、サービスの質の向上に向けて、実施したい取組は何ですか。((1) (2) それぞれあてはまるものすべてに○をつけてください。)

(1) 現在提供しているサービスの質の向上のために行っている取組

- 1 自主的に事業所内・法人内部で研修や勉強会の開催している
- 2 ガイドラインやマニュアルを作成し、職員間で共有している
- 3 ヒヤリハット事例の収集や 情報共有をしている
- 4 県や市、団体等が主催する 外部研修に参加
- 5 利用者からの苦情を集め、検討し、職員間で共有している
- 6 利用者やその家族へ満足度調査をしている
- 7 事業所の取組や評価等についてホームページ等にて公開している

8 第三者機関からの評価の受審

9 ピアサポート職員の活用

10 その他 ()

11 特にない

(2) サービスの質向上のために今後実施したい取組

- 1 自主的な事業所内・法人内部で研修や勉強会の開催
- 2 ガイドラインやマニュアルを作成し、職員間で共有
- 3 ヒヤリハット事例の収集や 情報共有の実施
- 4 県や市、団体等が主催する 外部研修に職員を派遣
- 5 利用者からの苦情を集め、検討し、職員間で共有するしくみの構築
- 6 利用者やその家族へ満足度調査の実施
- 7 事業所の取組や評価等についてホームページ等にて公開
- 8 第三者機関からの評価の受審
- 9 ピアサポート職員の活用
- 10 その他 ()
- 11 特にない

8

問 14 貴事業所が事業を展開する上での問題点・課題点がありますか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 利用者を安定して確保することが難しい
- 2 職員の確保が難しい
- 3 職員の雇用条件・福祉厚生が不十分
- 4 人件費を支出することが難しい
- 5 事務など間接経費が高い
- 6 経理・国保連請求事務など事務作業が多い
- 7 報酬が低く、採算が合わない
- 8 運営・運転資金の確保が困難
- 9 事業所 (営業拠点) の確保・維持が困難
- 10 サービス提供地域内に同種の事業者が多すぎて競争が激しい
- 11 その他 ()
- 12 特にない

9

【地域生活支援への取組について】

問 15 貴事業所において、「地域生活支援拠点事業」に関する理解度は、次のうちどれですか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

※地域生活支援拠点事業とは、障がい者等の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、地域移行を進めるため、重度障がいにも対応できる専門性を有し、地域生活において、障がい者等やその家族の緊急事態に対応を図るため、緊急時の迅速確実な相談支援の実施、短期入所等の活用や体験の機会の提供を通じて、施設や親元からグループホーム、一人暮らし等へ生活の場の移行をしやすくする支援を提供する体制を整備するもの。郡山市はこの事業を令和2年10月から始めています。

- 1 理解している
- 2 「地域生活支援拠点」という言葉を聞いたことがある
- 3 知らない
- 4 その他 ()

問 16 貴事業所では、「医療的ケア児・者」に対応していますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

※人工呼吸器や胃ろう等を使用し、痰の吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な児・者

- 1 対応している
- 2 現在は対応していないが、今後対応を検討している
- 3 現在は対応しておらず、今後も対応する予定はない

【問 16 で「1 対応している」と回答した事業所にお聞きします。】

問 17 それはどのような医療的ケアですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 気管切開・人工呼吸器 (レスピレーター)
- 2 吸入・吸引
- 3 胃ろう・腸ろう・鼻腔経管栄養・中心静脈栄養 (IVH)
- 4 透析
- 5 カテーテル留置・ストーマ (人工肛門・人工ぼうこう)
- 6 服薬管理
- 7 その他 ()
- 8 わからない／判断できない

【問 16 で「1 対応している」と回答した事業所にお聞きします。】

問 18 実施にあたって、課題はありますか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- 1 医療事故等のリスク
- 2 看護師の確保
- 3 緊急時の対応
- 4 設備改修
- 5 その他 ()
- 6 特にない

【その他】

問 20 令和6年度の障がい福祉サービス等報酬改定により、貴事業所の経営状況としてはどうなりましたか。(あてはまるものにつに○をつけてください。)

- 【問20で「1大きく改善した」「2やや改善した」「4やや悪化した」「5大きく悪化した」と回答した事業所にお聞きます。】

問 21 具体的にどのような点に影響がありましたか。(あてはまるものすべてに○をつけ
ください。)

- 1 事業所全体の収支
- 2 職員の賃金・処遇
- 3 職員の採用・定着
- 4 提供しているサービスの内容・量
- 5 利用者負担（利用者の自己負担額）
- 6 請求・事務作業の負担
- 7 その他（ ）

【すべての事業所にお聞きます。】

問 22 障害者差別解消法の改正によって、令和6年4月1日から、民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となりました。このことを知っていますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

※合理的配慮とは、障がいのある方から社会の中にあるバリアの除去を必要とする意思表明がされた場合に、負担が重すぎない範囲で対応することです。

- 1 知っている
- 2 知らない（この調査で初めて知った）

【自由意見】

障がい者施策や障がい福祉サービス全般に対して、ご意見等あれば、ご自由にお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございました。
記入漏れがないか再度ご確認ください、この調査票を返信用封筒に入れて、切手を貼らずにポストに投函してください。

令和7年度郡山市障がい者（児）実態調査

令和8年3月

郡山市 保健福祉部 障がい福祉課

〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号 本庁舎1階
TEL：024-924-2381 FAX：024-933-2290（代表）
